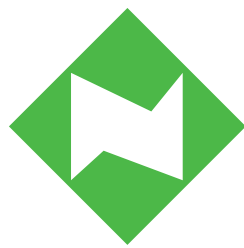


公第4卷 (通算第15卷)



公益財団法人 日本生命済生会付属

日生病院年報

平成27年4月～平成28年3月

vol.4

平成27年度 日生病院年報の発刊にあたって



院長 笠山 宗正

日生病院年報（公第4巻：平成27年4月～平成28年3月）をお届けいたします。どうぞ、ご高覧くださいますようお願い申し上げます。

当院では、平成26年度に「変革4ヶ年計画」を策定し、今後いっそう厳しさを増すことが予想される医療情勢の変化に適応し、また平成30年春に開院する予定の新病院の新設にも対応できるよう、業務変革のためのさまざまな取り組みを行っています。平成27年度は本計画の2年目として、『**変革が道を開く！新病院に向けて一人ひとりが変わり、みんなで夢を実現する**』を取り組み推進のテーマに掲げ、「病院業務改革推進本部」を中心に、診療、予防と治療の融合、効率化・標準化、医療連携、情報システム、アートと医療の融合、広報・情報発信の強化などの観点から検討を重ねこれらを実行してきました。

まず、平成27年4月に「**中央手術管理部**」を新設し、手術の予約管理の効率化と手術室予約状況の見える化を推進しました。この結果、麻酔・緩和医療科の常勤医師が減少するという状況ではありましたが、手術件数および全身麻酔手術件数ともに増加することができました。

また、毎朝の部長・師長連絡会で前日の時間外救急患者の受入状況を共有するとともに、「**救急診療センター**」を中心に「**断らない救急医療**」の取り組みを推進し、救急搬送件数は前年度を上回る結果となりました。

さらに、平成28年1月には「**呼吸器外科**」を新設し、肺癌、気胸、転移性肺腫瘍などに対する外科診療を再開したほか、消化器内科医師の増員にともない**内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）**と**超音波内視鏡検査（EUS）**を再開しました。また、産婦人科において**不妊治療の臨床研究に係る卵子ミトコンドリア抽出のための手術**の新たな診療も開始しました。

そのほか、9月と11月の2日間の祝日における**休日診療の試験実施**、**退院調整看護師の配置**、**中堅若手職員が生き生きと役割を発揮できることを目的とした部長補佐の任命**なども平成27年度に開始したものです。

また、4回目となる日本医療機能評価機構による審査（3rdG：Ver. 1.1）を受けるにあたり（訪問審査：平成28年2月）、診療機能、医療安全、職員の育成、業務の効率化と標準化、などの観点から多くの見直しを行い改善のための対策を実施しました。

これからの日本にふさわしい素晴らしい病院を作っていくために、変革の努力を積み重ねていくことは絶対に必要です。しかしその先にあるものは、日本生命済生会の基本理念である『**済生利民**』の精神（心ふれあう、あったかさサポート）を医療の現場で実現することと考えています。わたしたちは、予防から治療・在宅まで一貫した最優の医療サービスを提供し、地域と社会から愛され、そして信頼される病院をめざして努力していきます。これからも当院に対しましていっそうのご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

目 次

平成27年度日生病院年報の発刊にあたって 院長 笠山 宗正

第Ⅰ章 軌跡

1. 日生病院理念と基本方針	1
2. 患者様の権利について	1
3. 施設概要	3
4. 学会認定状況	4
5. 主要医療機器	5
6. 日本生命済生会組織図	6
7. 会議・委員会	7
8. 平成27年度業績概要	8
9. 日本生命済生会の沿革	9
10. 日本生命済生会歴代会長、歴代理事長、日生病院歴代院長	12

第Ⅱ章 病院統計

1. 全体統計	13
1) 一日平均外来患者数	13
2) 一日平均入院患者数	14
3) 患者年齢・診療圏構成	15
4) 病床稼働率	16
5) 救急患者数	17
6) 退院患者医療評価指標	18
①退院患者統計	18
②診療科別・月別・退院患者数、平均在院日数	19
③疾病統計	20
④悪性新生物統計	21
⑤診療科別・月別・死亡（剖検）患者数	22
7) 手術件数統計	23
①診療科別・月別手術件数（中央手術室実施）	23
②診療科別・年間手術件数（総件数の内、上位のみ）	24
2. 医事統計	26
1) 診療科別医療収入	26
2) 医療行為別医療収入	28
3. その他統計	30
1) 病院従業員数	30
2) セカンドオピニオン外来件数（年間計）	30

第Ⅲ章 部門別概要

1. 診療科・センター・部（室）別概要	31
循環器内科	31
消化器内科	33
総合内科	35
血液・化学療法内科	38
神経内科	40

神経科・精神科	41
小児科	44
消化器・一般外科	45
呼吸器外科	47
乳腺外科	48
整形外科	50
皮膚科	51
泌尿器科	54
産婦人科	56
眼科	59
耳鼻咽喉科	61
放射線科	63
麻酔・緩和医療科	64
病理診断科	66
がん治療センター	67
女性骨盤底センター	68
糖尿病・内分泌センター	70
消化器内視鏡センター	72
救急診療センター	73
臨床研修部	74
輸血管理室	75
化学療法室	76
リハビリテーション室	77
中央手術管理部	79
中央臨床検査部	80
中央放射線部	83
栄養管理室	84
薬剤部	87
治験管理室	89
医療安全対策室	90
感染対策室	92
あったかサポートセンター	93
日生訪問看護ステーション	100
日生ケアプランセンター	101
看護部	102
ニッセイ予防医学センター	109

第IV章 諸活動

1. 診療科別教育	111
2. 全体教育	112
3. 日生医学賞・日生医学奨励賞	122
4. 地域活動	123
5. ボランティアの活動	123
6. 広報関係（新聞、雑誌記事 他）	124

1. 日生病院理念と基本方針

理念

日生病院は（公財）日本生命済生会の基本理念である「済生利民」の精神にもとづき、地域に対し、予防・治療・在宅まで一貫した総合的な医療サービスを提供します。

基本方針

1. 患者様の立場に立った最良の医療サービスを提供します。
2. 常に安全な医療とまごころの看護を実践します。
3. 人権の尊重、プライバシーの保護、並びに法令等の遵守に努めます。
4. 日々研鑽に努め、より信頼される医療人を目指します。
5. 地域・社会のニーズに対応した変革を進め、地域医療と地域社会の健全な発展に貢献します。
6. 上記5項目を継続して実現するため、健全な経営を行います。

2. 患者様の権利と義務について

《患者様の権利》

医療は患者様と医療関係者とが相互の信頼関係に基づき、協力し合ってつくり上げていくものです。日生病院では、患者様中心の医療サービスの実践を常に心がけ、以下の患者さまの権利を大切にします。

1. 患者様は、良質な医療を平等に受けることができます。
2. 患者様は、自分が受ける治療や検査に関して、効果や危険性、他の治療方法の有無などにつき、わかりやすく説明を受けることができます。
3. 患者様は、十分な説明と情報提供を受けたうえで治療方針など自らの意思で選択することができます。また希望しない医療を拒むことや自分で医療機関を選択し、転院することもできます。
4. 患者様は、自分が受けている医療について知ることができます。
5. 患者様は、個人として常にその人格を尊重され、また個人情報も自分の承諾なくして第三者に開示されることはありません。

《患者様の義務》

日生病院では、ご来院・ご入院されるすべての患者様に対し、安全・安心な環境において、良質な医療サービスを提供致します。患者様におかれましても、病院の規則を守り、職員や他の人々に迷惑をかけない責務や自分自身の健康に関する情報を正確に提供する責務がありますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

1. 患者様には、自らの過去の病歴を含む健康に関する詳細な情報、診療中の変化を正確に伝える義務があります。
2. 患者様には、治療や検査などの治療方針について、医療者から説明があった場合は、できるだけ明確な意思表示をする義務があります。
3. 患者様には、医療が安全かつ効果的に実施されるよう、患者様のご本人確認を含めた診療行為に積極的に参加し、協力する義務があります。
4. 患者様には、病院内では、当院の規則および公共の場のルールを守って他の方の迷惑にならないように行動する義務があります。
5. 患者様には、医療費を支払う義務があります。
6. 患者様には、医療は医学、社会、経済、倫理等の様々な要因により限界があることを認識する義務があります。

平成28年 6 月 制定

3. 施設概要

1. 名称 公益財団法人日本生命済生会付属日生病院
2. 所在地 大阪市西区立売堀 6 - 3 - 8
3. 開設年月日 昭和57年 3 月11日
4. 構造 病院本館／鉄骨鉄筋コンクリート造 地下1階地上7階（搭屋1階）
病院別館／鉄筋コンクリート造 地下1階地上5階
予防医学センター・寮／地上5階
5. 設備 空調設備／セントラル空調方式一部個別方式
熱源設備／ガス吸収式冷温水発生機・空冷ヒートポンプチラー
電気設備／契約電力1500kw
6. 竣工年月日 昭和57年 2 月 1 日
工事期間／昭和54年12月 6 日～昭和57年 2 月 1 日
7. 許可病床数 350床

〈病院本館〉

7 F	ミニ・コンビニ、カフェ		555㎡
病棟等（主な入院診療科）			
6 F	消化器内科 神経科・精神科 小児科	産婦人科 (LDR、新生児室)	1,979㎡
5 F	血液・化学療法内科 総合内科	循環器内科 神経内科	1,979㎡
4 F	整形外科 眼科 皮膚科	耳鼻咽喉科 泌尿器科 内科	2,016㎡
3 F	消化器・一般外科 呼吸器外科 乳腺外科 婦人科 泌尿器科	手術室 人工透析室 結石破碎室	2,900㎡
外来			
2 F	眼科/泌尿器科/皮膚科/耳鼻咽喉科/神経科・精神科 麻酔・緩和医療科/糖尿病・内分泌センター/栄養指導室 中央検査部/生理検査室/中央採血室/MRI・RI検査室 医局/診療情報管理室/図書室/情報システム室		3,942㎡
1 F	内科（循環器内科、消化器内科、総合内科、血液・化学療法内科、神経内科、健診精査内科） 小児科/産婦人科/消化器・一般外科/呼吸器外科/乳腺外科/整形外科 リハビリテーション室/消化器内視鏡センター/放射線科 治験管理室/医事サービス部/あったかサポートセンター 女性骨盤底センター/がん治療センター/救急診療センター/時間外診療室		3,881㎡
B 1 F	リニアック治療室/薬剤部/栄養管理室		4,756㎡
計			22,011㎡

〈病院別館〉

5 F	別館病棟	409㎡
4 F	管理部門・会議室	499㎡
3 F	管理部門	499㎡
2 F	管理部門	777㎡
1 F	講堂・訪問看護・看護部管理室	929㎡
計		3,114㎡

〈予防医学センター〉

2 F	ドック・健診スペース	1,102㎡
1 F	受付・事務	847㎡
計		1,949㎡

4. 学会認定状況

- ・日本内科学会
- ・日本整形外科学会
- ・日本血液学会
- ・日本超音波医学会
- ・日本循環器学会
- ・日本皮膚科学会
- ・日本肝臓学会
- ・日本眼科学会
- ・日本病理学会
- ・日本消化器外科学会
- ・日本IVR学会
- ・日本高血圧学会
- ・日本呼吸器学会
- ・日本外科学会
- ・日本泌尿器科学会
- ・日本耳鼻咽喉科学会
- ・日本アレルギー学会
- ・日本産科婦人科学会
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・日本麻酔科学会
- ・日本小児科学会
- ・日本臨床腫瘍学会
- ・日本糖尿病学会
- ・日本心血管インターベンション治療学会
- ・日本静脈経腸栄養学会
- ・日本医学放射線学会
- ・日本リウマチ学会
- ・日本臨床細胞学会
- ・日本内分泌学会
- ・日本乳癌学会
- ・日本消化器病学会
- ・日本神経学会
- ・日本呼吸器内視鏡学会
- ・日本産科婦人科内視鏡学会
- ・日本消化器内視鏡学会

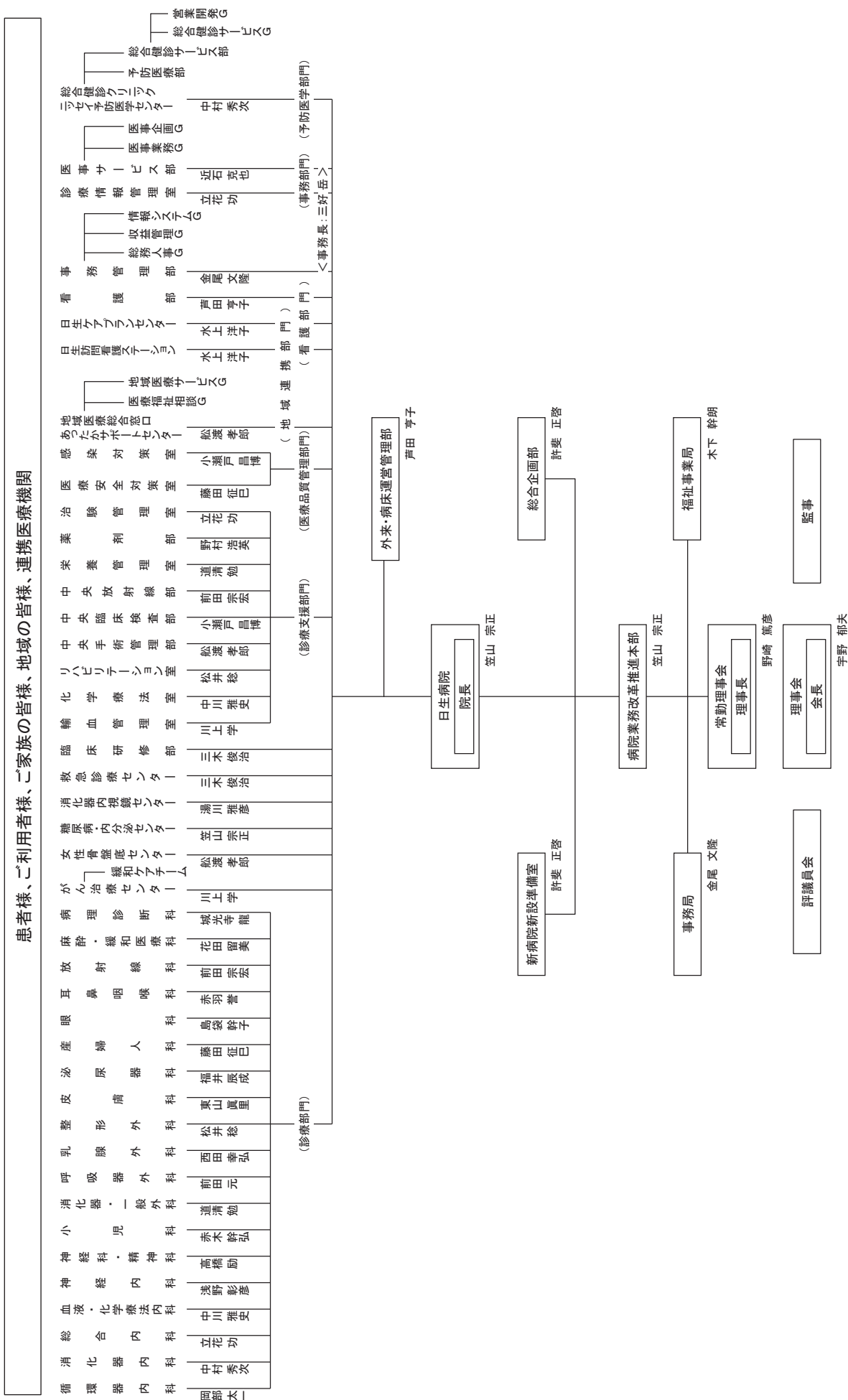
(平成28年3月31日現在)



5. 主要医療機器（取得金額1,000万円以上）

品 名	設置部署	数量
超音波内視鏡	内視鏡室	1
超音波内視鏡観測装置	内視鏡室	1
ステレオ定位乳腺バイオプシーシステム	乳腺外科	1
体外衝撃波結石破碎装置 Integra	泌尿器科	1
フリードメインOCT RS-3000	眼 科	1
前眼部OCT CASIA	眼 科	1
マルチカラーレーザー光凝固装置	眼 科	1
X線テレビ装置DBA-300A	放射線科	1
画像読取装置FCR 5000	放射線科	1
位置決めX線装置	放射線科	1
画像読取装置FCR5000 PLUS	放射線科	1
16列マルチスライスCT	放射線科	1
多目的血管連続撮影装置 INNOVA3100	放射線科	1
乳房X線撮影装置LORAND M-IV	放射線科	1
放射線治療システム (リニアアクセラレーター)	放射線科	1
IMRT対応部品	放射線科	1
心臓カテーテル検査装置 MCS-9000	放射線科	1
320列CT装置 Aquilion ONE	放射線科	1
大動脈内バルーンポンプ IABP	放射線科	1
X線テレビジョンシステム ZEXIRA	放射線科	1
経皮的心肺補助装置 PCPS	放射線科	1
ガンマカメラGCA-7200A	RI・MRI	1

品 名	設置部署	数量
全身用磁気共鳴装置 (MRI) MAGNETOM SYMPHONY	RI・MRI	1
デジタルガンマカメラGMS-7700B	RI・MRI	1
超音波診断装置SSA-370A	生理検査	1
超音波診断装置SONOS-7500システム	生理検査	1
超音波診断装置 VIVID E9 BASIC	生理検査	1
血液検査分析器 HSトランスポートーション	血液検査	1
実験台及び什器備品 一式5台	化学血清	1
手術顕微鏡OPMI-6S	手術室	1
ニューマック手術台システム	手術室	1
眼科用手術顕微鏡 OPMI CS-XY	手術室	1
高圧蒸気滅菌器	手術室	1
全身麻酔装置	手術室	1
麻酔ワークステーション (監視モニター)	手術室	1
蒸気滅菌器	手術室	1
全身麻酔器 エスティバ5/ST	手術室	1
トランスマックハッチウェイシステム	手術室	1
アルファマック分離手術台	手術室	1
ステラッド100S低温プラズマ滅菌器	手術室	1
S/5麻酔ワークステーション	手術室	1
形成外科用手術顕微鏡 M525 F40	手術室	1
手術顕微鏡 OPMI LUMERA	手術室	1



7. 会議・委員会

会 議

・常勤理事会

理事長所管の下、常勤の理事以上がメンバーとなり、原則として毎週開催し、済生会3部門（病院、予防医学センター、訪問看護ステーション・ケアプランセンター）の基本的運営方針を協議決定する。

この他、会長や外部の理事、監事を交えた定時理事会がある。

・予算理事会 → 3月

・決算理事会 → 事業年度終了後3ヵ月以内に開催される

また評議員会が6月に開催される。

・病院運営会議

理事長の委嘱により院長が主宰し、病院幹部をメンバーとして毎週開催され、日常的な病院運営のテーマについて討議・決定する。

ただし、予算・人員・規則の問題などに関しては、常勤理事会に付議する。

・病院管理診療会議

院長を中心に、病院各科・各部の部長・担当部長、病棟師長以上等をメンバーとし、診療や病院運営に関する事項について協議、意見交換、連絡を行う。

（運営会議、病院管理診療会議ともそれぞれが独立して存在するのではなく、所定の内規の下に、課題を共有し改善を分担してより良く病院機能が発揮されることを基本的精神としている。）

委員会

各種委員会は、理事長または理事長の委嘱を受けた院長の諮問機関として、検討結果を理事会・病院運営会議に答申している。

当年度の設置委員会は次の通り。

委員会名	委員長	開催回数
ACLS委員会	中川 厚	10
あったかサポートセンター運営委員会	船渡 孝郎	※
安全衛生委員会	立花 功	12
医療安全管理委員会	藤田 征巳	12
医療ガス安全管理委員会	住谷 哲	1
医療機器・ディスポ検討委員会	笠山 宗正	7
医療従事者業務見直しワーキング	笠山 宗正	1
院内感染対策委員会	小瀬戸 昌博	12
栄養・給食委員会	道清 勉	5
化学療法運営委員会	中川 雅史	1
教育委員会	立花 功	4
クリティカルパス委員会	西田 幸弘	4
研修推進委員会	三木 俊治	4
研修管理委員会	笠山 宗正	1
サービス・広報委員会	三好 岳	12
情報管理委員会	立花 功	3
褥瘡対策委員会	東山 真里	2

委員会名	委員長	開催回数
診療情報提供委員会	高橋 励	1
診療録管理委員会	浅野 彰彦	8
治験審査委員会	東山 真里	12
TQM推進委員会	松井 稔	3
DPC・質向上委員会	藤田 征巳	2
当直・救急検討委員会	三木 俊治	3
7：1看護体制発展推進委員会	芦田 亨子	1
日生医学賞顕彰委員会	浅野 彰彦	1
年報ワーキング	岡部 太一	2
病院機能向上委員会	藤田 征巳	21
防災管理委員会	立花 功	2
放射線安全委員会	前田 宗宏	1
訪問看護運営委員会	芦田 亨子	1
薬事管理委員会	笠山 宗正	4
輸血療法委員会	川上 学	8
臨床検査適正化委員会	箭野 文秀	4
臨床工学技士ワーキング	小瀬戸 昌博	1
倫理委員会	中村 秀次	11

※代替として、あったかサポート・ミーティング（座長：船渡運営委員長）を毎週実施

8. 平成27年度 業績概要

総収益	9,037百万円（8,116百万円）*	従業員数	665人
新入院患者数	8,254人	平均在院日数	11.5日
1日平均入院患者数	281人	入院単価	51,355円
病床稼働率	80.3%		
外来延患者数	222,468人	外来単価	12,485円
1日平均外来患者数	904人		
紹介率	50.4%	逆紹介率	57.6%

*（ ）病院単独

9. (公財)日本生命済生会(日生病院)の沿革

大正13年 7月	財団法人「日本生命済生会」設立	昭和46 4	給与体系、退職金規定改正、60才定年制施行
14 4	健康相談所（無料診療所）を開設 大地震に救護班派遣	47 4	臨床研修指定病院の認定受ける
昭和5 6	緒方病院の土地、建物を譲り受け （大阪市西区新町）	48 2	「日生病院医学雑誌」第一巻第1号を 刊行
6 6	日生病院（内科、外科、理学的診療科） 開院	48 3	紀要「地域福祉研究」第一集刊
7 4	看護婦養成所を設立	48 4	放射線学会「専門医修練機関」認定
7 7	産婦人科、小児科を新設	48 9	病歴図書部を新設
17 1	耳鼻咽喉科を新設	48 10	超音波検査部「超音波カラー診断装置」 開発で機械振興会賞を受賞
22 1	眼科新設（その後皮膚泌尿器科、歯科、 整形外科新設）	49 7	創立50周年記念式典、50年史の編纂 （54年発刊）
22 4	インターン制度の開始 （第一期生9名受入れ）	51 1	RI検査室を新設
23 9	健康保険、労災保険病院の指定受ける	53 3	「(新)病院建築基本構想委員会」設置
24 7	結核病棟を設置（昭和48年8月、閉鎖）	53 4	学校、高等看護学院から看護専門学校へ 昇格
30 12	第二種社会福祉事業（無料低額診療）を 開始	54 4	医療事務をコンピュータ化
31 1	日生病院、本館、別館につづき新館竣 工（350床へ）	57 4	新病院（現在地）の竣工、開院
31 6	健康精密検査室（人間ドック）を開設	58 3	日本生命と第一回特別委員会 （5カ年計画策定）
32 8	総合病院の認可受ける	59 3	全科で午後外来診療を開始
33 4	済生会組織、三部門体制へ （現行体制スタート）	59 4	社会事業局を福祉事業部に改組
33 10	甲表採用、三基準認可	60 4	病理部を再設置
34 10	神経科新設	62 12	HBS社（医療経営コンサルト）の診断を 受ける
35 4	学校、准看護学院から高等看護学院 （正看護婦養成）へ	63 10	横井先生、第5回世界超音波医学学術 連合会議からパイオニア賞を受賞
36 6	日本生命済生会労働組合の結成	平成元 2	夕食を午後6時配膳
40 8	各診療科に部長制採用	元 10	専門外来（10科）開始
42 10	中央検査室を「臨床検査センター」へ 拡大、充実	元 11	自動再診受付機を設置
43 8	第一回「社会福祉カウンセリング講座」 開講	2 10	学校、創立30周年記念式典
44 4	冲中重雄氏（虎の門病院長）を顧問委嘱	3 4	4週6休制試行開始
45 9	第一回「篤志解剖者慰霊祭」執行	3 10	地域の「健康講座」に講師派遣
		4 6	外科、世界内視鏡外科学会で受賞
		5 2	「病院運営会議」を再開

平成5	4	MRIの稼働開始	13	7	第一回日生病院病診連携フォーラム開催
5	6	全病棟「特Ⅲ類基準看護」の資格獲得	14	1	開放型病院資格取得
5	10	内科、産婦人科、人間ドックの外来領域 リフォーム工事完成	15	4	医療安全対策室設置
6	3	内科外来等で予約診療開始	15	4	予防医学センター設置
6	7	創立70周年記念式典、諸行事実施（7～ 11月）、70年史の編纂開始	16	2	内科二次救急指定病院取得
6	10	脳ドック検診開始	17	3	電子カルテシステム稼働
6	10	新看護体系「2：1（A）」の承認	18	4	血液・化学療法内科新設
6	11	無菌治療室設置、使用開始	18	7	DPC導入（入院医療費）
7	2	保温保冷配膳車導入	19	2	土曜日閉院 4週8休制開始
7	8	日生医学賞・医学奨励賞創設、第一回 表彰式実施	19	3	7対1入院基本料算定開始
7	8	山本前院長、和漢医薬学会から学会賞 受賞	19	3	日生看護専門学校閉校
8	5	総合案内・看護相談の試行実施	19	11	がん治療センター、 低侵襲医療センター開設
8	10	「歯科口腔外科」標榜	20	4	総合健診クリニックオープン
9	2	経営改善推進本部・部会の発足	20	7	生活習慣病センター開設
9	3	歯科臨床教育病院の新規指定	20	10	乳腺外科新設
9	3	疾病分類包括支払研究プロジェクト （医療経済研究機構）に選ばれ、参加 （全国17モデル病院）	21	3	第一回日生病院市民公開講座開催
10	2	「日生病院だより」創刊号発行	21	4	大阪府がん診療拠点病院に指定
10	5	総合診療科機能発足	22	8	無料乳がん検診開始
10	7・8	DRG／PPS分析結果報告会開催	23	4	消化器内視鏡センター開設
10	11	院外処方箋発行開始	24	1	厚生労働省より先進医療「腹腔鏡下子宮 体がん根治手術」（産婦人科）が承認さ れる
10	11	薬剤管理指導料全科算定認可	24	4	公益財団法人へ移行
11	3	医療材料院外SPD（物品管理システム） 始動	24	4	地域医療総合窓口 あったかサポートセンター創設
11	7	インフラ工事開始 （12年4月：3階新病棟オープン）	24	4	生活習慣病センターから糖尿病センター へ組織名称変更
12	3	日生訪問看護ステーションを開設	24	4	厚生労働省より先進医療「前眼部三次 元画像解析」（眼科）が承認される
12	4	日生ケアプランセンター設置	24	8	320列マルチスライスCT導入
13	4	病院機能評価認定証取得	25	4	新病院新設準備室の新設
13	4	「日生病院の理念」制定、 「患者様の権利」院内掲示	25	4	予防医学センターで「総合健診システム」 の稼働
平成13	6	公開学術講演会開催 （講師：北村国立循環器病センター総長）	25	5	厚生労働省より先進医療「腹腔鏡下仙骨 腫固定術」（産婦人科）が承認される
			25	12	ニッセイ緑の財団との共催イベント 「自然に学ぶ！自然に遊ぶ！健康キッズ」 開催

26 1	広報誌「日生病院あったかサポート通信『Saisei Rimin（済生利民）』」を発刊	26 4	日本産科婦人科内視鏡学会 施設認定
26 1	「金融コンシェルジュ」相談窓口開設	26 5	新電子カルテシステムが全面稼働
26 4	「変革4ヵ年計画」がスタート	26 7	日本生命済生会 創立90周年「90年小史」作成
26 4	病院業務改革推進本部、外来・病床運営管理部、女性骨盤底センター、救急診療センター、中央放射線部、事務管理部の新設	26 9	「ウィークエンド糖尿病精査入院」開始
		27 1	日本呼吸器内視鏡学会 施設認定

（平成27年度沿革）

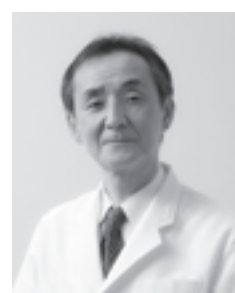
27年4月1日	中央手術管理部の新設
27年4月1日	日本精神神経学会 施設認定
27年5月	ホームページの全面改訂
27年5月13日	若手・中堅職員から具体的任命課題を付与した「部長補佐」を任命
27年6月	胃がんのESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）を再開
27年6月24日	がんセンターボードを定期的に開催
27年7月1日	あったかサポートセンターに退院調整看護師を配置
27年7月14日	新病院開設許可受ける
27年9月23日	休日診療の試験実施（11月23日）
27年9月28日	各部署の業績・取組内容を共有化する「病院管理者業績報告会」を開始（10月26日、11月30日）
27年10月1日	新病院着工
27年11月	食道がんのESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）を再開
28年1月1日	呼吸器外科新設
28年1月13日	MRIを最新機能へバージョンアップ
28年2月	「日生病院地域医療NETWORK」（連携先医療機関との電子カルテ・検査画像等の診療情報共有、オンライン診療予約）の本格的稼働
28年2月2日	内視鏡患者待合室を病院2階に新設
28年2月8日、9日	病院機能評価 訪問審査を受審
28年3月	日本産科婦人科学会の倫理委員会で承認された、不妊治療の臨床研究に係る卵巣ミトコンドリア採取手術を開始

10. 日本生命済生会歴代会長、歴代理事長、日生病院歴代院長

設立時の常任理事	小 河 滋 次 郎	大正13年～14年
日本生命済生会 会 長	弘 世 現	昭和35年～平成 3 年
	川 瀬 源 太 郎	平成 3 年～12年
	小 林 幹 司	平成12年～17年
	宇 野 郁 夫	平成17年～
日本生命済生会 理 事 長	手 塚 太 郎	大正14年～昭和 7 年
	弘 世 助 太 郎	昭和 7 年～11年
	成 瀬 達	昭和11年～26年
	弘 世 現	昭和26年～35年
	若 林 源 蔵	昭和35年～43年
	浜 田 勝 巳	昭和43年～55年
	浅 井 啓 三	昭和55年～61年
	鳥 井 静 夫	昭和61年～平成 4 年
	弟 子 丸 兆 生	平成 4 年～ 6 年
	平 島 一	平成 6 年～ 8 年
	沼 田 輝 夫	平成 8 年～14年
	小 林 三 紘	平成14年～20年
	野 崎 篤 彦	平成20年～
日 生 病 院 院 長	長 雄 勝 馬	昭和 6 年～12年
	清 水 寛 一	昭和12年～21年
	勝 部 育 郎	昭和21年～23年
	新 海 輝 一	昭和23年～46年
	諏 訪 信 吾	昭和46年～49年
	上 野 元 男	昭和49・51～52年
	乾 久 朗	昭和49年～51年
	中 井 俊 夫	昭和52年～平成 2 年
	山 本 昌 弘	平成 2 年～12年
	佐 藤 文 三	平成12年～16年
	宗 田 滋 夫	平成16年～20年
	寺 川 直 樹	平成20年～25年
	笠 山 宗 正	平成25年～



理事長 野崎 篤彦



院長 笠山 宗正

1. 全体統計

1 一日平均外来患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計平均
循環器内科	55人 (58)	60人 (53)	52人 (52)	52人 (51)	54人 (53)	54人 (52)	57人 (53)	56人 (57)	62人 (60)	56人 (58)	58人 (59)	55人 (52)	55人 (57)
消化器内科	55 (59)	59 (57)	56 (58)	60 (54)	55 (56)	61 (56)	64 (54)	61 (59)	64 (61)	65 (60)	65 (58)	63 (55)	61 (58)
総合内科	133 (126)	136 (125)	129 (120)	127 (127)	128 (120)	136 (125)	142 (131)	134 (133)	141 (142)	141 (136)	136 (136)	139 (125)	135 (123)
血液・化学療法内科	29 (28)	31 (26)	28 (25)	29 (27)	29 (27)	30 (30)	29 (27)	28 (29)	30 (29)	31 (30)	31 (28)	27 (29)	29 (26)
神経内科	26 (26)	27 (25)	23 (23)	27 (27)	25 (21)	30 (26)	27 (23)	28 (26)	28 (26)	27 (27)	28 (23)	28 (24)	27 (25)
救急診療センター	15 (14)	17 (13)	18 (12)	17 (15)	14 (15)	13 (15)	13 (15)	15 (20)	18 (20)	20 (27)	20 (17)	21 (19)	17 (14)
内 科 (計)	313 (311)	330 (299)	306 (290)	312 (301)	305 (292)	324 (304)	332 (303)	322 (324)	343 (338)	340 (338)	338 (321)	333 (304)	310 (303)
神経科・精神科	62 (63)	71 (65)	57 (58)	64 (61)	58 (54)	67 (65)	63 (58)	64 (63)	64 (64)	67 (65)	61 (61)	63 (60)	63 (64)
小児科	34 (36)	35 (36)	33 (33)	38 (33)	31 (23)	34 (31)	39 (36)	37 (37)	40 (35)	34 (33)	33 (31)	34 (30)	35 (36)
消化器・一般外科	17 (19)	16 (18)	15 (17)	14 (16)	15 (17)	15 (19)	14 (17)	18 (18)	17 (18)	14 (17)	14 (18)	15 (18)	15 (19)
呼吸器外科										0 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
乳腺外科	15 (17)	16 (17)	18 (14)	18 (17)	15 (15)	19 (17)	24 (20)	20 (17)	25 (18)	21 (20)	20 (18)	22 (18)	19 (20)
外 科 (計)	32 (36)	32 (35)	33 (31)	32 (33)	30 (32)	34 (36)	38 (37)	38 (35)	42 (36)	35 (37)	35 (36)	38 (36)	35 (39)
整形外科	56 (49)	59 (55)	52 (49)	52 (50)	49 (47)	47 (49)	53 (50)	48 (50)	52 (50)	48 (51)	50 (51)	47 (48)	51 (59)
皮膚科	106 (116)	109 (114)	102 (109)	107 (110)	103 (106)	110 (115)	108 (106)	99 (110)	109 (102)	106 (106)	104 (102)	106 (106)	106 (113)
泌尿器科	50 (50)	53 (47)	49 (47)	49 (48)	38 (43)	45 (57)	48 (51)	45 (49)	49 (51)	48 (48)	45 (54)	46 (50)	47 (50)
産婦人科	90 (88)	95 (105)	90 (105)	94 (114)	90 (109)	93 (115)	98 (89)	95 (97)	97 (93)	96 (95)	96 (90)	99 (90)	94 (87)
眼 科	55 (59)	59 (48)	58 (59)	58 (56)	58 (51)	58 (56)	59 (57)	54 (60)	61 (58)	56 (53)	56 (56)	57 (60)	57 (57)
耳鼻咽喉科	54 (60)	55 (59)	52 (51)	54 (54)	54 (54)	53 (52)	54 (50)	55 (55)	57 (55)	53 (53)	54 (58)	55 (55)	54 (57)
放射線科	21 (20)	20 (13)	19 (13)	18 (17)	13 (19)	16 (12)	23 (16)	22 (15)	16 (15)	17 (16)	18 (16)	21 (20)	19 (20)
麻酔・緩和医療	19 (20)	19 (19)	17 (22)	18 (22)	17 (23)	17 (22)	18 (24)	18 (24)	18 (24)	17 (22)	18 (21)	18 (19)	18 (23)
その他	1 (1)	1 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合 計	891 (908)	936 (893)	869 (868)	894 (901)	849 (856)	899 (913)	934 (878)	897 (918)	946 (923)	918 (918)	910 (899)	919 (878)	904 (885)

(注) 1. 数値は小数第1位四捨五入

2. () 内は前年同月

3. H27.1 呼吸器外科 開設

[医事サービス部]

2 一日平均入院患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計平均
循環器内科	33人 (29)	31人 (32)	39人 (30)	36人 (33)	35人 (29)	34人 (33)	32人 (32)	30人 (29)	29人 (31)	35人 (30)	48人 (36)	41人 (32)	35人 (31)
消化器内科	26 (23)	18 (23)	19 (26)	14 (34)	16 (25)	16 (26)	13 (31)	17 (29)	16 (28)	18 (30)	14 (30)	18 (28)	17 (28)
総合内科	43 (45)	43 (41)	42 (43)	46 (40)	46 (38)	39 (38)	45 (35)	37 (37)	41 (43)	37 (42)	48 (50)	49 (49)	43 (42)
血液・化学療法内科	27 (28)	28 (31)	27 (28)	26 (29)	27 (25)	27 (29)	30 (25)	25 (24)	27 (27)	23 (28)	27 (24)	30 (24)	27 (27)
神経内科	16 (18)	10 (17)	12 (15)	15 (18)	13 (18)	19 (18)	19 (13)	14 (13)	11 (12)	14 (18)	14 (17)	9 (18)	13 (16)
救急診療センター	8 (2)	10 (4)	8 (5)	10 (8)	10 (5)	11 (4)	10 (6)	13 (7)	13 (9)	11 (10)	9 (7)	11 (9)	10 (6)
内 科 (計)	153 (145)	140 (148)	147 (147)	147 (162)	147 (140)	146 (148)	149 (142)	136 (139)	137 (150)	138 (158)	160 (164)	158 (160)	146 (150)
神経科・精神科	8 (15)	10 (16)	14 (15)	14 (15)	9 (15)	7 (14)	14 (14)	12 (16)	10 (15)	11 (13)	16 (15)	10 (12)	11 (14)
小児科	6 (4)	7 (4)	9 (3)	7 (3)	9 (3)	12 (3)	8 (4)	13 (6)	11 (8)	7 (6)	8 (6)	8 (7)	8 (5)
消化器・一般外科	19 (15)	15 (17)	13 (19)	8 (19)	11 (20)	13 (13)	9 (14)	11 (16)	11 (15)	8 (12)	8 (13)	8 (13)	11 (15)
呼吸器外科										1 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)
乳腺外科	3 (3)	4 (6)	5 (6)	6 (5)	7 (5)	5 (7)	6 (5)	6 (5)	5 (4)	5 (4)	6 (4)	4 (5)	5 (5)
外 科 (計)	22 (18)	19 (23)	18 (25)	14 (24)	18 (25)	18 (20)	15 (19)	17 (21)	16 (19)	13 (16)	14 (17)	12 (18)	16 (20)
整形外科	33 (23)	28 (22)	34 (26)	26 (36)	28 (28)	26 (25)	26 (26)	24 (24)	22 (30)	20 (30)	20 (34)	21 (33)	25 (28)
皮膚科	7 (12)	9 (9)	7 (9)	11 (9)	14 (9)	14 (12)	10 (7)	9 (8)	10 (7)	11 (8)	13 (10)	10 (7)	10 (9)
泌尿器科	12 (7)	8 (9)	10 (7)	8 (13)	8 (12)	8 (12)	10 (13)	9 (10)	9 (9)	11 (8)	13 (11)	8 (13)	9 (10)
産婦人科	36 (32)	29 (33)	39 (31)	40 (31)	38 (36)	39 (34)	37 (34)	40 (37)	33 (39)	30 (33)	36 (36)	43 (38)	36 (34)
眼 科	6 (3)	3 (3)	3 (4)	2 (5)	2 (3)	3 (3)	5 (5)	4 (5)	4 (4)	3 (5)	2 (4)	2 (6)	3 (4)
耳鼻咽喉科	16 (11)	13 (11)	10 (15)	15 (14)	14 (19)	10 (15)	13 (12)	12 (17)	13 (15)	9 (14)	10 (16)	14 (21)	12 (15)
放射線科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
麻酔・緩和医療	0 (1)	0 (1)	0 (1)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (1)
合 計	299 (270)	265 (279)	291 (283)	285 (313)	287 (290)	283 (287)	286 (276)	274 (283)	266 (297)	254 (291)	294 (312)	289 (314)	281 (291)

(注) 1. () 内は前年同月

[医事サービス部]

2. H27.1 呼吸器外科 開設

3 患者年齢・診療圏構成

外来 年齢階級	年度	総数				大阪市内訳（主要区）							
			他府県	大阪府下	大阪市	西区	港区	大正区	住之江区	浪速区	中央区	福島区	その他の区
0～9	H24	2,455	85	69	2,301	1,554	367	59	79	59	18	52	113
	H25	2,255	85	47	2,123	1,456	310	58	68	63	23	43	102
	H26	2,161	61	51	2,049	1,397	278	62	62	72	22	46	110
	H27	2,092	75	48	1,969	1,293	293	52	82	76	30	42	101
10～19	H24	679	32	31	616	373	98	50	23	20	8	5	39
	H25	601	27	29	545	307	93	44	28	23	5	8	37
	H26	587	32	30	525	301	80	42	24	26	9	7	36
	H27	635	33	35	567	324	73	42	42	23	9	4	50
20～29	H24	2,457	274	331	1,852	962	215	105	79	99	76	51	265
	H25	2,280	264	302	1,714	838	207	91	65	113	82	58	260
	H26	2,235	270	303	1,662	818	207	89	61	108	85	47	247
	H27	2,254	255	303	1,696	791	222	88	61	112	105	44	273
30～39	H24	4,342	421	646	3,275	1,653	404	170	115	154	129	127	523
	H25	4,259	381	588	3,290	1,645	377	173	125	167	142	115	546
	H26	4,137	403	578	3,156	1,562	362	157	133	171	146	127	498
	H27	4,221	420	604	3,197	1,528	369	155	148	168	171	121	537
40～49	H24	4,853	628	946	3,279	1,279	512	294	124	140	109	99	722
	H25	4,997	612	1,020	3,365	1,233	544	276	155	135	126	126	770
	H26	5,077	653	1,000	3,424	1,229	549	269	134	133	139	137	834
	H27	5,541	718	1,152	3,671	1,340	561	328	153	162	161	123	843
50～59	H24	4,136	686	799	2,651	972	407	279	160	114	88	66	565
	H25	4,218	646	881	2,691	949	431	277	148	119	104	72	591
	H26	4,555	719	980	2,856	990	453	279	164	122	114	71	663
	H27	4,722	748	985	2,989	988	504	309	175	127	104	92	690
60～69	H24	5,801	773	1,125	3,903	1,551	585	489	230	206	94	79	669
	H25	5,769	816	1,090	3,863	1,482	556	500	263	201	102	75	684
	H26	5,725	798	1,068	3,859	1,451	589	495	278	207	105	69	665
	H27	5,789	784	1,061	3,944	1,441	600	511	308	196	113	71	704
70～79	H24	4,819	458	775	3,586	1,374	649	460	158	199	87	79	580
	H25	5,085	472	832	3,781	1,416	700	515	180	215	77	70	608
	H26	4,990	464	794	3,732	1,376	713	511	200	193	86	65	588
	H27	4,891	446	721	3,724	1,322	717	533	233	203	87	66	563
80～89	H24	2,395	168	299	1,928	794	275	249	66	116	81	40	307
	H25	2,539	171	309	2,059	801	356	265	82	121	74	32	328
	H26	2,574	179	280	2,115	798	388	276	86	120	66	43	338
	H27	2,718	184	275	2,259	852	414	275	96	130	73	50	369
90以上	H24	275	10	24	241	126	31	25	3	13	7	4	32
	H25	328	16	24	288	143	46	30	3	16	8	7	35
	H26	377	19	25	333	138	58	45	10	18	16	8	40
	H27	432	19	25	388	153	69	47	10	33	18	9	49
総計	H24	32,212	3,535	5,045	23,632	10,638	3,543	2,180	1,037	1,120	697	602	3,815
	H25	32,331	3,490	5,122	23,719	10,270	3,620	2,229	1,117	1,173	743	606	3,961
	H26	32,418	3,598	5,109	23,711	10,060	3,677	2,225	1,152	1,170	788	620	4,019
	H27	33,295	3,682	5,209	24,404	10,032	3,822	2,340	1,308	1,230	871	622	4,179

入院 年齢階級	年度	総数				大阪市内訳（主要区）							
			他府県	大阪府下	大阪市	西区	港区	大正区	住之江区	浪速区	中央区	福島区	その他の区
0～9	H24	298	14	8	276	171	59	8	11	5	2	3	17
	H25	168	9	1	158	101	27	4	10	5	3	4	4
	H26	319	16	9	294	165	70	12	10	9	5	6	17
	H27	481	21	17	443	285	84	9	16	14	7	7	21
10～19	H24	56	5	2	49	23	11	7	4	0	1	2	1
	H25	52	3	2	47	19	12	7	2	2	2	1	2
	H26	56	1	3	52	22	7	8	5	2	1	0	7
	H27	74	4	4	66	25	11	12	3	5	1	0	9
20～29	H24	423	30	44	349	157	57	19	16	28	16	9	47
	H25	367	38	39	290	114	51	22	14	16	15	16	42
	H26	433	48	50	335	135	50	23	18	28	13	16	52
	H27	410	49	44	317	109	54	23	10	30	20	11	60
30～39	H24	805	75	113	617	270	97	25	26	23	33	39	104
	H25	867	84	99	684	290	115	39	36	36	33	36	99
	H26	840	68	111	661	324	87	28	29	27	36	32	98
	H27	925	91	120	714	303	105	38	27	44	31	34	132
40～49	H24	751	79	166	506	163	81	53	14	29	17	18	131
	H25	785	78	162	545	164	96	52	23	23	23	28	136
	H26	903	113	180	610	195	92	63	27	24	25	23	161
	H27	907	104	191	612	191	87	77	28	29	38	27	135
50～59	H24	592	88	130	374	132	66	41	15	15	13	9	83
	H25	584	78	128	378	129	55	41	22	18	16	12	85
	H26	655	86	130	439	146	67	47	30	19	20	9	101
	H27	618	77	109	432	151	78	45	25	19	15	15	84
60～69	H24	1,055	128	210	717	239	114	113	55	43	17	14	122
	H25	1,050	118	223	709	229	104	106	60	40	18	11	141
	H26	1,037	139	167	731	257	129	87	49	46	25	11	127
	H27	967	97	152	718	223	127	110	62	41	19	10	126
70～79	H24	1,166	95	205	866	304	166	98	45	56	23	23	151
	H25	1,271	105	234	932	318	191	121	41	60	13	19	169
	H26	1,275	79	187	1,009	350	194	147	62	54	27	14	161
	H27	1,191	82	145	964	299	201	131	74	69	19	20	151
80～89	H24	779	40	103	636	266	81	73	24	43	26	17	106
	H25	790	47	103	640	230	106	84	34	42	24	9	111
	H26	845	38	84	723	243	125	102	36	52	22	15	128
	H27	857	41	79	737	255	129	110	31	55	24	14	119
90以上	H24	114	2	9	103	51	13	12	4	5	3	0	15
	H25	128	5	10	113	53	14	12	3	8	6	3	14
	H26	177	12	12	153	61	27	20	6	12	6	1	20
	H27	188	6	9	173	57	32	24	8	20	6	1	25
総計	H24	6,039	556	990	4,493	1,776	745	449	214	247	151	134	777
	H25	6,062	565	1,001	4,496	1,647	771	488	245	250	153	139	803
	H26	6,540	600	933	5,007	1,898	848	537	272	273	180	127	872
	H27	6,618	572	870	5,176	1,898	908	579	284	326	180	139	862

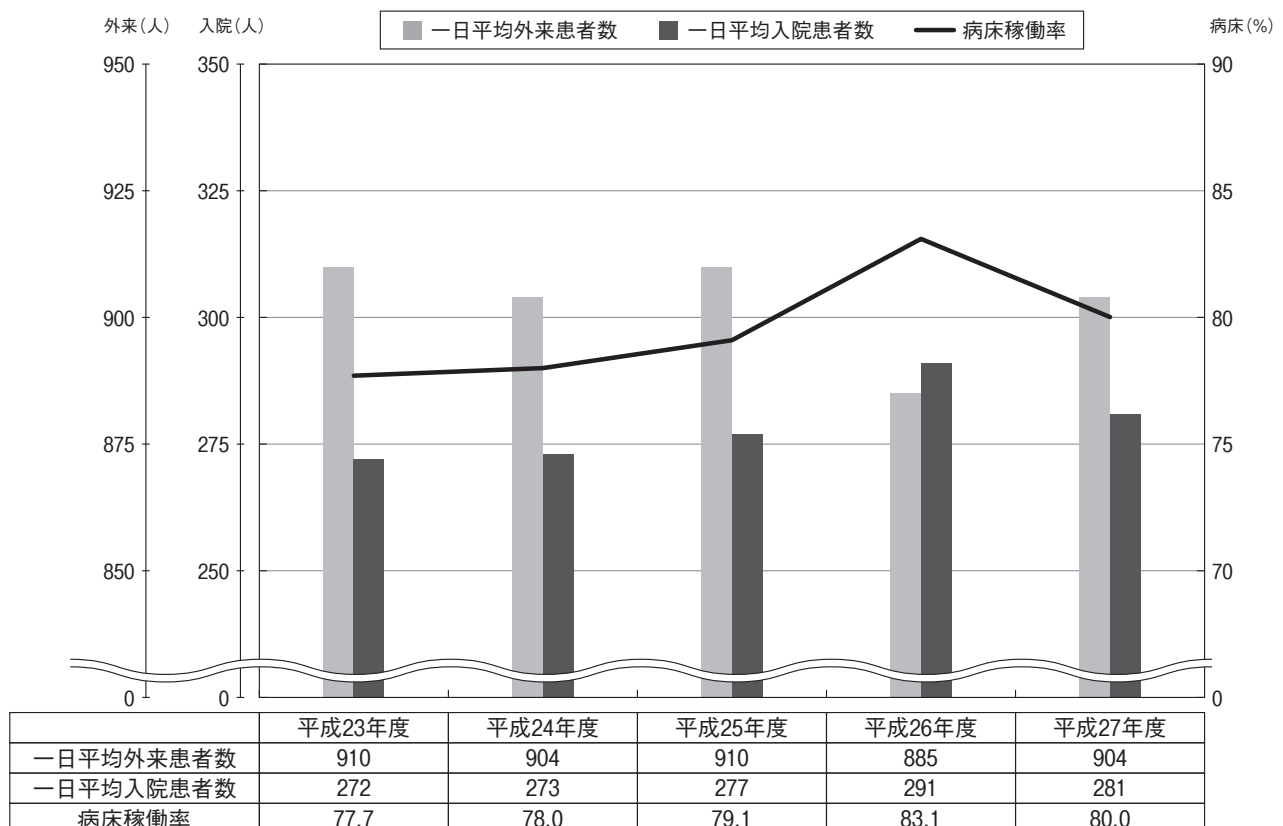
[診療情報管理室]

4 病床稼働率

	定床	定床	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計 平均	前年度 累計平均
3階	60床	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	51人 85.0%	40人 66.7%	44人 73.3%	42人 70.0%	47人 78.3%	44人 73.3%	47人 78.3%	43人 71.7%	42人 70.0%	41人 68.3%	49人 81.7%	48人 80.0%	45 74.7%	48人 79.9%
4階(西)	60	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	48 80.0	42 70.0	46 76.7	49 81.7	47 78.3	46 76.7	48 80.0	45 75.0	43 71.7	41 68.3	47 78.3	47 78.3	46 76.3	47 78.9
4階(東)	51	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	47 92.2	43 84.3	43 84.3	45 88.2	44 86.3	39 76.5	42 82.4	40 78.4	40 78.4	37 72.5	45 88.2	44 86.3	42 83.2	44 87.2
5階(西)	44	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	41 93.2	39 88.6	40 90.9	39 88.6	40 90.9	39 88.6	40 90.9	36 81.8	39 88.6	34 77.3	38 86.4	41 93.2	39 88.3	40 90.9
5階(東)	49	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	43 87.8	41 83.7	45 91.8	43 87.8	43 87.8	44 89.8	44 89.8	40 81.6	40 81.6	42 85.7	45 91.8	42 85.7	43 87.1	43 88.2
6階(西)	44	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	41 93.2	35 79.5	38 86.4	36 81.8	35 79.5	34 77.3	35 79.5	35 79.5	32 72.7	35 79.5	39 88.6	36 81.8	36 81.6	40 91.7
6階(東)	27	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	23 85.2	19 70.4	26 96.3	25 92.6	23 85.2	25 92.6	23 85.2	24 88.9	21 77.8	18 66.7	22 81.5	24 88.9	23 84.3	23 85.5
小計	335	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	294 88.3	259 77.8	282 84.7	278 83.5	278 83.5	271 81.4	278 83.5	263 79.0	256 76.9	247 74.2	286 85.9	282 84.7	273 81.9	286 86.0
小児	8	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	3 37.5	5 62.5	6 75.0	5 62.5	7 87.5	8 100.0	6 75.0	6 75.0	8 100.0	4 50.0	5 62.5	5 62.5	6 70.8	3 30.2
未熟児	7	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	2 28.6	2 28.6	3 42.9	2 28.6	2 28.6	4 57.1	2 28.6	5 71.4	2 28.6	3 42.9	3 42.9	2 28.6	3 38.1	2 30.6
計	350	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	299 85.4	265 75.7	291 83.1	285 81.4	287 82.0	283 80.9	286 81.7	274 78.3	266 76.0	254 72.6	294 84.0	289 82.6	281 80.3	291 83.1

* H26.2.3から 6 階(西) 42床→44床へ、小児 10床→8 床へ 病床数変更
稼働率＝1 日平均患者数／定床

[医事サービス部]



5 救急患者数

	人 数														(内、入 院 数)													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	入院計		
循環器内科	44 (15)	40 (11)	34 (11)	31 (11)	36 (15)	38 (12)	37 (12)	36 (10)	46 (15)	49 (19)	53 (18)	47 (12)	491 (161)	24 (10)	22 (7)	24 (9)	21 (4)	24 (12)	23 (10)	23 (10)	13 (4)	25 (7)	37 (14)	35 (15)	28 (9)	299 (111)		
消化器内科	17 (14)	17 (4)	21 (3)	23 (9)	22 (4)	19 (4)	18 (5)	15 (10)	29 (13)	23 (6)	32 (12)	20 (8)	256 (92)	13 (9)	5 (0)	14 (1)	14 (2)	18 (1)	14 (2)	12 (3)	9 (4)	19 (5)	14 (1)	19 (9)	12 (5)	163 (42)		
総合内科	49 (15)	48 (20)	42 (12)	59 (19)	48 (15)	47 (11)	68 (19)	43 (8)	62 (10)	63 (17)	56 (13)	76 (15)	661 (174)	27 (8)	22 (11)	23 (8)	36 (14)	27 (10)	31 (10)	41 (12)	22 (1)	43 (8)	33 (11)	38 (10)	51 (12)	394 (115)		
血液・化学療法内科	8 (1)	23 (10)	18 (6)	15 (1)	20 (6)	14 (3)	18 (4)	10 (4)	24 (5)	13 (2)	16 (2)	17 (3)	196 (47)	8 (1)	19 (9)	17 (6)	9 (1)	15 (6)	9 (3)	13 (2)	7 (2)	11 (3)	9 (2)	11 (2)	14 (3)	142 (40)		
神経内科	8 (4)	11 (2)	9 (4)	14 (5)	12 (2)	19 (5)	10 (5)	12 (5)	7 (2)	15 (3)	16 (2)	14 (1)	147 (40)	2 (1)	8 (1)	3 (2)	9 (3)	4 (0)	12 (5)	7 (4)	6 (4)	4 (2)	10 (2)	9 (1)	3 (1)	77 (26)		
救急診療センター	96 (41)	101 (58)	92 (58)	111 (67)	133 (86)	104 (66)	104 (71)	120 (80)	121 (72)	167 (106)	138 (86)	169 (89)	1,456 (880)	25 (13)	26 (16)	24 (15)	31 (21)	43 (31)	46 (29)	29 (18)	47 (28)	35 (23)	52 (38)	21 (17)	41 (27)	420 (276)		
内科（計）	222 (90)	240 (105)	216 (94)	253 (112)	271 (128)	241 (101)	255 (116)	236 (117)	289 (117)	330 (153)	311 (133)	343 (128)	3,207 (1,394)	99 (42)	102 (44)	105 (41)	120 (45)	131 (60)	135 (59)	125 (49)	104 (43)	137 (48)	155 (68)	133 (54)	149 (57)	1,495 (610)		
神経科・精神科	21 (1)	14 (0)	21 (1)	12 (1)	12 (0)	17 (1)	11 (1)	9 (0)	16 (3)	9 (1)	13 (1)	17 (0)	172 (10)	2 (0)	3 (0)	1 (0)	5 (1)	2 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (1)	1 (1)	4 (1)	1 (0)	24 (4)		
小児科	26 (2)	34 (1)	40 (0)	39 (0)	44 (0)	40 (1)	43 (0)	36 (0)	53 (0)	22 (0)	25 (1)	31 (2)	433 (7)	24 (1)	31 (0)	40 (0)	34 (0)	39 (0)	37 (1)	41 (0)	31 (0)	50 (0)	21 (0)	23 (1)	29 (1)	400 (4)		
消化器・一般外科	17 (6)	18 (4)	14 (2)	9 (1)	17 (2)	6 (0)	13 (3)	7 (1)	16 (4)	7 (1)	8 (3)	11 (4)	143 (31)	13 (6)	8 (3)	8 (2)	6 (1)	12 (1)	4 (0)	8 (3)	5 (1)	6 (2)	3 (0)	6 (3)	7 (3)	86 (25)		
乳腺外科	4 (0)	4 (0)	5 (1)	3 (0)	3 (0)	4 (1)	4 (0)	5 (0)	6 (1)	6 (0)	2 (0)	3 (0)	49 (3)	0 (0)	1 (0)	4 (1)	1 (0)	1 (0)	3 (1)	2 (0)	1 (0)	1 (1)	1 (0)	0 (0)	2 (0)	17 (3)		
外科（計）	21 (6)	22 (4)	19 (3)	12 (1)	20 (2)	10 (1)	17 (3)	12 (1)	22 (5)	13 (1)	10 (3)	14 (4)	192 (34)	13 (6)	9 (3)	12 (3)	7 (1)	13 (1)	7 (1)	10 (3)	6 (1)	7 (3)	4 (0)	6 (3)	9 (3)	103 (28)		
整形外科	44 (18)	43 (14)	25 (12)	29 (11)	34 (8)	21 (8)	20 (10)	24 (5)	25 (7)	26 (13)	30 (13)	14 (10)	335 (129)	18 (9)	18 (10)	12 (7)	11 (7)	11 (4)	11 (3)	12 (6)	14 (4)	9 (4)	12 (7)	10 (4)	7 (6)	145 (71)		
皮膚科	19 (2)	13 (0)	15 (2)	20 (1)	42 (1)	35 (1)	23 (1)	20 (0)	23 (0)	23 (0)	22 (0)	21 (0)	276 (8)	15 (1)	9 (0)	13 (1)	17 (1)	28 (1)	22 (1)	14 (1)	18 (0)	20 (0)	18 (0)	19 (0)	15 (0)	208 (6)		
泌尿器科	72 (1)	71 (0)	62 (2)	78 (0)	57 (2)	54 (2)	68 (3)	57 (4)	58 (0)	66 (0)	31 (3)	56 (1)	730 (18)	10 (1)	3 (0)	9 (2)	4 (0)	8 (2)	3 (1)	8 (2)	9 (2)	4 (0)	8 (0)	7 (3)	2 (0)	75 (13)		
産婦人科	205 (6)	143 (2)	198 (3)	223 (4)	207 (2)	202 (1)	161 (4)	201 (1)	157 (3)	177 (1)	176 (4)	174 (3)	2,224 (34)	54 (3)	35 (1)	62 (3)	47 (2)	56 (1)	59 (0)	45 (3)	63 (1)	41 (3)	36 (1)	39 (3)	42 (3)	579 (24)		
眼 科	2 (0)	2 (1)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	3 (0)	1 (0)	3 (0)	1 (0)	1 (1)	0 (0)	17 (2)	2 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	1 (0)	3 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	12 (1)		
耳鼻咽喉科	21 (0)	26 (0)	17 (0)	30 (3)	32 (2)	14 (2)	25 (1)	26 (3)	36 (2)	31 (4)	37 (5)	35 (4)	330 (26)	6 (0)	13 (0)	4 (0)	20 (1)	16 (2)	3 (1)	11 (1)	13 (3)	15 (1)	11 (1)	18 (4)	16 (2)	146 (16)		
放射線科	0 (0)	11 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	10 (0)	1 (0)	0 (0)	7 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	30 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)		
麻酔・緩和医療科	7 (0)	8 (0)	3 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	5 (0)	2 (0)	4 (0)	3 (0)	2 (0)	3 (0)	41 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
合 計	660 (126)	627 (127)	617 (117)	700 (133)	721 (145)	646 (118)	632 (139)	624 (131)	693 (137)	701 (173)	658 (164)	708 (152)	7,987 (1,662)	243 (63)	224 (59)	258 (57)	266 (58)	304 (71)	280 (67)	269 (65)	259 (54)	289 (60)	267 (78)	259 (73)	270 (72)	3,188 (777)		

(注) 各欄下段の () の数値は救急車で搬送された患者数

[医事サービス部、救急当直委員会]

6 退院患者医療評価指標

① 退院患者統計

注1) 疾病分類は厚生労働省大臣官房統計情報部編「疾病・傷害および分類提要ICD-10準拠」を使用した。

平成18年退院患者から厚生労働省大臣官房統計情報部編「疾病・傷害および分類提要ICD-10（2003年版）準拠」を使用した。

注2) 手術分類は（財）医療情報システム開発センター監修「手術及び処置の分類 ICD・9・CM」を使用した。

平成18年退院患者から日本病院会版2003「手術及び処置の分類ICD・9・CM」を使用した。

注3) データは診療録管理システムから集計をした。

注4) 実退院患者1入院、1主病名、1主手術で集計をした。

	算定式	平成18年 (2006)	平成19年 (2007)	平成20年 (2008)	平成21年 (2009)	平成22年 (2010)	平成23年 (2011)	平成24年 (2012)	平成24年度 (2012.4 -2013.3)	平成25年度 (2013.4 -2014.3)	平成26年度 (2014.4 -2015.3)	平成27年度 (2015.4 -2016.3)
病床数(床)		350	350	350	350	350	350	350	350	350	350	350
一日平均在院 患者数(人)	$\frac{\text{年間延入院患者数}}{365\text{日}}$	273	272	269	280	283	278	278	273	277	291	284
病床稼働率(%)	$\frac{\text{1日平均在院患者数}}{350\text{床}}$	78.0	77.7	76.9	80.0	80.9	79.4	79.4	78.0	79.1	83.1	81.1
平均在院日数(日)	$\frac{\text{年間延入院患者数}-\text{退院患者数}}{(\text{入院}+\text{退院患者数})\div 2}$	14.7	14.6	14.1	14.2	13.2	13.3	13.3	12.3	12.6	12.1	12.8
実退院患者数(人)		6,359	6,350	6,486	6,740	7,283	7,119	7,396	7,490	7,435	8,119	8,244
転科数		249	158	140	176	206	164	209	208	192	241	278
総退院患者数		6,608	6,508	6,626	6,916	7,489	7,283	7,605	7,698	7,627	8,360	8,522
実退院患者平均 在院日数(日)	$\frac{\text{実退院患者入院延日数}}{\text{実退院患者数}}$	15.7	15.6	15.0	15.5	14.1	14.6	13.4	13.2	13.5	13.2	12.3
院内粗死亡率(%)	$\frac{\text{死亡退院患者数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	2.9	2.7	2.4	2.5	2.2	2.1	2.1	2.3	2.8	2.8	2.4
院内精死亡率(%)	$\frac{\text{入院48時間超死亡数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	2.6	2.4	2.2	2.4	2.2	1.8	1.9	2.1	2.4	2.5	2.3
剖検率(%)	$\frac{\text{剖検患者数}}{\text{死亡患者数}} \times 100$	11.4	8.9	7.2	5.8	9.6	6.6	7.7	8.1	9.3	6.2	7.5
術後死亡率(%)	$\frac{\text{術後10日以内死亡患者数}}{\text{総手術数}} \times 100$	0.03	-	-	-	-	-	-	-	-	0.05	0.02
帝王切開率(%)	$\frac{\text{帝王切開数}}{\text{分娩数}} \times 100$	20.6	23.4	19.1	17.0	18.8	16.8	16.6	14.2	16.6	15.7	16.8
分娩死亡率(%)	$\frac{\text{分娩による妊産婦死亡数}}{\text{分娩数}} \times 100$	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新生児死亡率(%)	$\frac{\text{新生児死亡数}}{\text{出生数}} \times 100$	-	-	-	-	0.2	-	-	-	-	-	-
紹介入院率(%)	$\frac{\text{紹介入院患者数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	34.9	35.9	38.0	40.5	40.8	38.8	38.1	39.3	41.5	39.8	40.1
対診率(%)	$\frac{\text{対診数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	38.1	43.1	43.6	41.1	36.1	40.2	44.9	45.2	47.3	40.6	43.0

[診療情報管理室]

② 診療科別・月別・退院患者数、平均在院日数

診療科		平均在院 日数	総数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	死亡	剖検
総数	計	12.3	8,244	713	640	731	770	787	667	723	647	710	550	618	688	201	15
	男	12.7	3,466	305	273	318	329	349	298	292	254	269	230	280	269	113	10
	女	12.1	4,778	408	367	413	441	438	369	431	393	441	320	338	419	88	5
循環器内科	計	13.9	893	79	56	65	89	86	66	76	67	74	55	91	89	19	1
	男	12.8	544	52	35	37	46	60	37	48	41	42	30	62	54	8	1
	女	15.6	349	27	21	28	43	26	29	28	26	32	25	29	35	11	-
消化器内科	計	7.4	845	91	68	104	117	105	94	58	42	38	44	37	47	23	-
	男	7.0	514	51	42	64	74	70	58	32	27	20	30	21	25	14	-
	女	8.0	331	40	26	40	43	35	36	26	15	18	14	16	22	9	-
総合内科	計	17.5	894	75	54	72	69	85	59	95	61	96	59	78	91	63	2
	男	17.0	469	40	28	41	35	41	38	41	32	41	29	45	58	41	2
	女	18.0	425	35	26	31	34	44	21	54	29	55	30	33	33	22	-
血液・化学療法内科	計	33.5	292	15	31	30	18	33	21	31	25	23	18	22	25	40	9
	男	35.3	150	8	19	13	7	16	8	18	18	9	10	13	11	20	5
	女	31.6	142	7	12	17	11	17	13	13	7	14	8	9	14	20	4
神経内科	計	34.1	155	18	14	11	14	9	10	19	11	13	9	17	10	7	-
	男	28.4	82	9	7	7	8	5	6	11	5	5	6	9	4	5	-
	女	40.5	73	9	7	4	6	4	4	8	6	8	3	8	6	2	-
救急診療センター	計	12.3	288	16	14	17	27	36	26	24	25	20	34	18	31	18	2
	男	12.5	135	7	8	7	16	16	13	12	13	7	12	12	12	8	1
	女	12.1	153	9	6	10	11	20	13	12	12	13	22	6	19	10	1
神経科・精神科	計	47.5	83	6	2	11	12	7	3	5	8	8	3	10	8	-	-
	男	34.5	21	1	-	3	3	3	-	2	1	3	1	3	1	-	-
	女	51.9	62	5	2	8	9	4	3	3	7	5	2	7	7	-	-
小児科	計	5.8	556	27	45	56	49	51	56	47	56	61	37	37	34	-	-
	男	5.8	313	19	22	30	29	33	36	27	28	28	20	24	17	-	-
	女	5.8	243	8	23	26	20	18	20	20	28	33	17	13	17	-	-
消化器・一般外科	計	14.1	309	36	39	41	21	24	25	24	26	23	19	13	18	12	1
	男	13.2	192	18	22	24	14	13	15	14	16	18	14	11	13	9	1
	女	15.6	117	18	17	17	7	11	10	10	10	5	5	2	5	3	-
呼吸器外科	計	17.0	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	5	-	-
	男	17.5	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	4	-	-
	女	15.5	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
乳腺外科	計	8.1	226	16	11	19	22	19	15	22	22	23	15	21	21	3	-
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	8.1	226	16	11	19	22	19	15	22	22	23	15	21	21	3	-
整形外科	計	29.7	297	37	33	26	27	28	29	25	12	27	15	19	19	1	-
	男	22.0	98	18	7	10	9	8	9	4	6	7	6	8	6	-	-
	女	33.4	199	19	26	16	18	20	20	21	6	20	9	11	13	1	-
皮膚科	計	12.7	279	18	17	16	22	33	31	22	26	27	20	29	18	-	-
	男	13.7	143	10	10	10	12	15	12	13	12	12	11	17	9	-	-
	女	11.7	136	8	7	6	10	18	19	9	14	15	9	12	9	-	-
泌尿器科	計	9.4	356	43	28	35	28	26	25	29	27	36	34	24	21	10	-
	男	8.9	289	32	24	31	26	17	21	22	22	29	25	22	18	6	-
	女	11.9	67	11	4	4	2	9	4	7	5	7	9	2	3	4	-
産婦人科	計	7.3	1,823	146	140	157	173	155	144	153	161	157	128	136	173	2	-
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	7.3	1,823	146	140	157	173	155	144	153	161	157	128	136	173	2	-
眼科	計	2.7	469	57	46	44	36	34	33	52	38	41	31	23	34	-	-
	男	2.8	233	22	18	26	23	20	21	25	16	23	16	10	13	-	-
	女	2.6	236	35	28	18	13	14	12	27	22	18	15	13	21	-	-
耳鼻咽喉科	計	10.7	471	33	42	27	46	56	30	41	40	43	28	41	44	3	-
	男	13.0	277	18	31	15	27	32	24	23	17	25	19	22	24	2	-
	女	7.5	194	15	11	12	19	24	6	18	23	18	9	19	20	1	-
麻酔・緩和医療科	計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

[診療情報管理室]

③ 疾病統計

疾病別・診療科別・患者数

コード	国際分類大項目分類	総 数	循環器 内科	消化器 内科	総合 内科	血液化 療内 科	神経 内科	救急 診療セ ンター	神経科 精神科	小児 科	消化器 一般外科	呼吸器 外科	乳腺外 科	整形外科	皮膚科	泌尿器 科	産婦人 科	眼科	耳鼻咽 喉科	麻酔 緩和医療科
	総数	計 8,244 男 3,466 女 4,778	893 544 349	845 514 331	894 469 425	292 150 142	155 82 73	288 135 153	83 21 62	556 313 243	309 192 117	8 6 2	226 - 226	297 98 199	279 143 136	356 289 67	1,823 - 1,823	469 233 236	471 277 194	- - -
I	感染症及び 寄生虫症	計 379 男 192 女 187	10 3 7	31 14 17	43 19 24	6 2 4	4 2 2	39 17 22	- 67 -	107 67 40	2 1 1	- - -	1 - 1	3 - 3	127 65 62	- - -	4 - 4	- - -	2 2 -	- - -
II	新生物 (悪性新生物)	計 1,958 男 685 女 1,273	10 6 4	250 151 99	133 78 55	235 127 108	3 1 2	1 - 1	- - -	- - -	114 72 42	4 3 1	211 - 211	1 - 1	16 7 9	188 163 25	679 - 679	- - -	113 77 36	- - -
III	血液及び造血器の 疾患並びに免疫機 構の障害	計 79 男 47 女 32	3 1 2	2 1 1	23 16 7	24 9 15	- - -	2 - 2	- - -	16 7 9	- - -	- - -	- - -	- - -	- 3 -	3 - 5	5 - -	- - -	1 - 1	- - -
IV	内分泌、栄養及び 代謝疾患	計 310 男 160 女 150	19 12 7	2 1 1	255 137 118	1 - 1	2 - 2	11 4 7	- - -	10 4 6	1 - 1	- - -	- - -	- - -	- - -	1 1 -	2 - 2	- - -	6 1 5	- - -
V	精神及び行動の 障害	計 136 男 44 女 92	3 1 2	2 1 1	7 3 4	- - -	3 1 2	43 20 23	77 18 59	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	1 - 1	- - -	- - -	- - -
VI	神経系の疾患	計 144 男 86 女 58	21 13 8	2 1 1	7 4 3	- - -	54 27 27	8 6 2	3 2 1	1 1 -	1 1 -	- - -	- - -	- - -	1 1 -	- - -	- - -	- - -	46 30 16	- - -
VII	眼及び付属器の 疾患	計 467 男 232 女 235	- - -	- - -	1 - 1	- - -	1 - 1	- - -	- - -	1 1 -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	464 231 233	- - -	- - -
VIII	耳及び乳様突起の 疾患	計 108 男 51 女 57	4 2 2	1 - 1	2 1 1	- - -	3 - 3	3 1 2	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	95 47 48	- - -
IX	循環器系の疾患	計 761 男 462 女 299	645 401 244	12 6 6	23 13 10	- - -	41 25 16	21 9 12	- - -	- - -	9 6 3	- - -	- - -	1 - 1	- - -	1 1 -	4 - 4	- - -	4 1 3	- - -
X	呼吸器系の疾患	計 767 男 423 女 344	41 25 16	6 5 1	241 128 113	6 3 9	19 10 29	63 34 29	- - -	208 114 94	2 - 2	4 3 1	- - -	- - -	- - -	- - -	2 - 2	- - -	175 101 74	- - -
XI	消化器系の疾患	計 588 男 357 女 231	22 13 9	320 204 116	35 17 18	3 1 2	7 3 4	25 11 14	- - -	4 2 2	154 102 52	- - -	- - -	- - -	- - -	3 2 1	10 - 10	- - -	5 2 3	- - -
XII	皮膚及び 皮下組織の疾患	計 149 男 80 女 69	1 1 -	1 1 -	9 1 8	3 1 2	1 - 1	3 3 -	- 1 -	4 1 3	- - -	- - -	- - -	4 2 2	119 67 52	- - -	- - -	- - -	4 3 1	- - -
XIII	筋骨格系及び 結合組織の疾患	計 177 男 47 女 130	5 2 3	1 - 1	41 10 31	2 1 1	3 2 1	10 5 5	1 1 -	3 1 2	2 - 2	- - -	- - -	104 25 79	4 - 4	- - -	1 - 1	- - -	- - -	- - -
XIV	腎尿路生殖器系の 疾患	計 681 男 148 女 533	19 6 13	4 1 3	29 15 14	5 2 3	3 2 1	32 13 19	- - -	19 8 11	3 1 2	- - -	3 - 3	- - -	- - -	141 100 41	423 - 423	- - -	- - -	- - -
XV	妊娠、分娩及び 産じょく	計 666 男 - 女 666	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	666 - 666	- - -	- - -	- - -
XVI	周産期に発生した 病態	計 156 男 93 女 63	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	156 93 63	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -
XVII	先天奇形、変形 及び染色体異常	計 19 男 6 女 13	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	11 3 8	- - -	- - -	- - -	- - -	1 - 1	- - -	3 - 3	- - -	4 3 1	- - -
XVIII	症状、徴候及び異常臨床 所見・異常検査所見で 他に分類されないもの	計 119 男 58 女 61	19 8 11	9 7 2	24 12 12	2 2 1	8 7 5	9 4 2	2 1 5	16 11 5	3 - 3	- - -	11 - 11	1 - 1	1 - 1	2 2 -	2 - 2	- - -	10 5 5	- - -
XIX	損傷、中毒及び その他の外因の 影響	計 226 男 90 女 136	16 12 4	3 3 -	3 1 2	5 2 3	3 2 1	18 8 10	- - -	- - -	2 1 1	- - -	- - -	145 53 92	10 3 7	1 1 -	12 - 12	5 2 3	3 2 1	- - -
XXI	健康状態に影響を 及ぼす要因及び 保健サービスの利用	計 354 男 215 女 139	55 38 17	199 118 81	18 14 4	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	16 8 8	- - -	- - -	38 18 20	- - -	16 16 -	9 - 9	- - -	3 3 -	- - -
XXII	特殊目的用コード	計 - 男 - 女 -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -

[診療情報管理室]

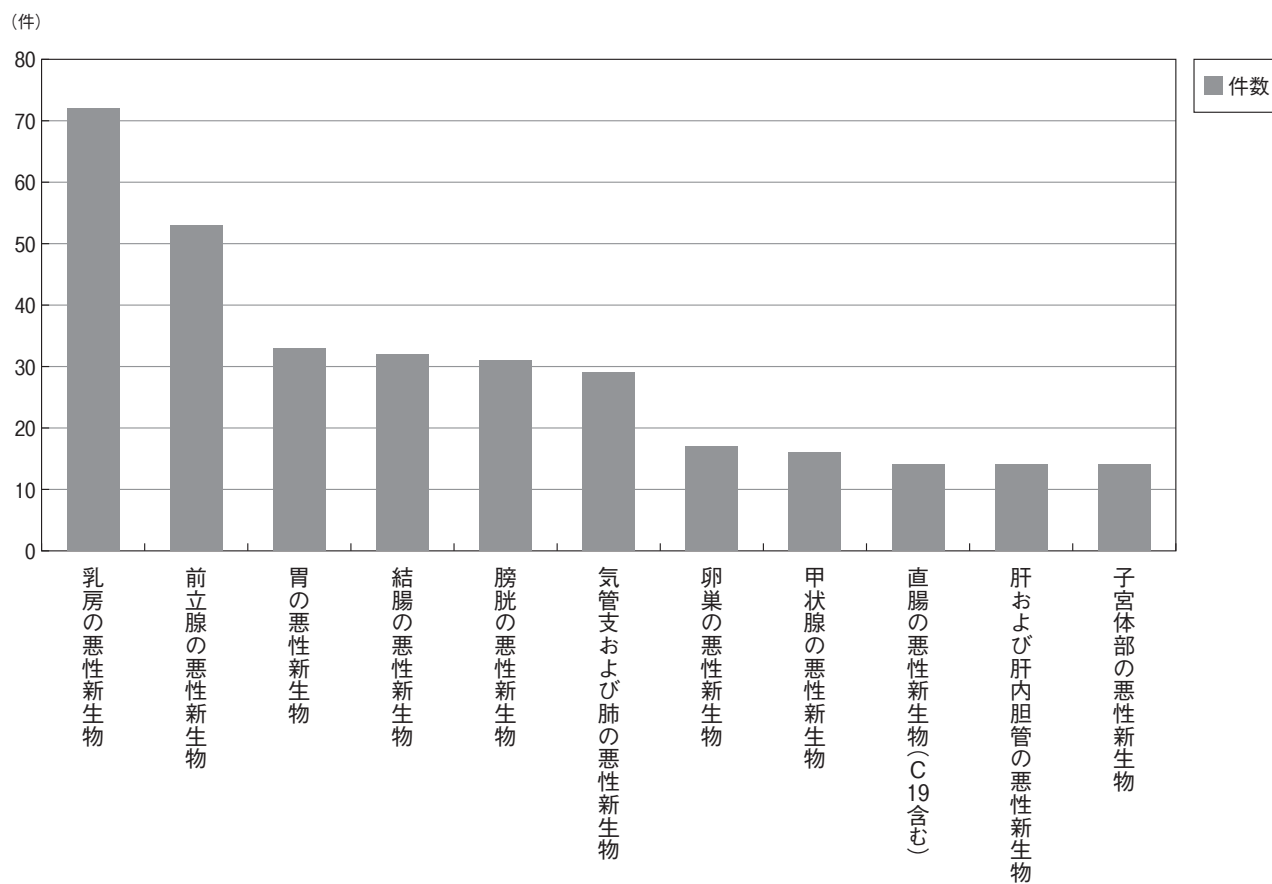
④ 悪性新生物統計

	算定式	平成19年 (2007)	平成20年 (2008)	平成21年 (2009)	平成22年 (2010)	平成23年 (2011)	平成24年 (2012)	平成24年度 (2012.4 -2013.3)	平成25年度 (2013.4 -2014.3)	平成26年度 (2014.4 -2015.3)	平成27年度 (2015.4 -2016.3)
悪性新生物： 比率（％）	$\frac{\text{悪性新生物患者数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	15.3	14.0	15.3	14.7	16.1	14.8	14.7	16.0	14.5	14.6
悪性新生物： 新発患者数		445	454	503	548	553	465	445	423	403	447

ー初発がん統計トップ10（件数・平均在院日数）

疾患名	件 数	平均在院日数
乳房の悪性新生物	72	13
前立腺の悪性新生物	53	5
胃の悪性新生物	33	20
結腸の悪性新生物	32	13
膀胱の悪性新生物	31	10
気管支および肺の悪性新生物	29	37
卵巣の悪性新生物	17	16
甲状腺の悪性新生物	16	12
直腸の悪性新生物（C19含む）	14	21
肝および肝内胆管の悪性新生物	14	14
子宮体部の悪性新生物	14	41

[診療情報管理室]



⑤ 診療科別・月別・死亡（剖検）患者数

診療科		総数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	兼 科 患者数	退 院 患者数	粗死亡率 (%)	精死亡率 (%)	剖検率 (%)
総数	死亡	201	19	20	22	12	13	16	14	15	18	19	15	18	24	8,244	201	186	15
	剖検	(15)	(2)	(1)	(2)	(2)	(1)	(1)	(1)	(-)	(1)	(-)	(3)	(1)	(2)	-	2.4	2.3	7.5
循環器内科	死亡	19	3	1	1	4	1	-	1	3	2	2	1	-	1	893	19	16	1
	剖検	(1)	(-)	(-)	(-)	(-)	(1)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	-	2.1	1.8	5.3
消化器内科	死亡	23	-	5	4	1	-	3	2	1	1	3	2	1	1	845	23	21	-
	剖検	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	-	2.7	2.5	-
総合内科	死亡	63	6	2	6	3	7	7	4	5	6	5	5	7	6	894	63	60	2
	剖検	(2)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(1)	(-)	(-)	(-)	(1)	(-)	(-)	-	7	6.7	3.2
血液・ 化学療法内科	死亡	40	3	6	7	1	3	2	3	3	2	1	3	6	5	292	40	39	9
	剖検	(9)	(1)	(1)	(2)	(1)	(-)	(-)	(-)	(-)	(1)	(-)	(2)	(1)	(2)	-	13.7	13.4	22.5
神経内科	死亡	7	-	-	1	-	-	1	1	1	2	-	1	-	2	155	7	7	-
	剖検	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	-	4.5	4.5	-
救急診療 センター	死亡	18	2	1	1	1	-	-	2	-	3	4	1	3	2	288	18	16	2
	剖検	(2)	(1)	(-)	(-)	(1)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	-	6.3	5.6	11.1
神経科・ 精神科	死亡	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	83	-	-	-
	剖検	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	-	-	-	-
小児科	死亡	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	556	-	-	-
	剖検	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	-	-	-	-
消化器・ 一般外科	死亡	12	2	4	1	-	1	1	-	-	-	1	2	-	3	309	12	10	1
	剖検	(1)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(1)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	-	3.9	3.2	8.3
呼吸器外科	死亡	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-
	剖検	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	-	-	-	-
乳腺外科	死亡	3	-	-	1	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	226	3	2	-
	剖検	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	-	1.3	0.9	-
整形外科	死亡	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	297	1	1	-
	剖検	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	-	0.3	0.3	-
皮膚科	死亡	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	279	-	-	-
	剖検	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	-	-	-	-
泌尿器科	死亡	10	2	-	-	2	-	1	-	2	-	2	-	1	2	356	10	9	-
	剖検	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	-	2.8	2.5	-
産婦人科	死亡	2	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	1	1,823	2	2	-
	剖検	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	-	0.1	0.1	-
眼科	死亡	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	469	-	-	-
	剖検	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	-	-	-	-
耳鼻咽喉科	死亡	3	1	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	471	3	3	-
	剖検	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	-	0.6	0.6	-
麻酔・ 緩和医療科	死亡	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	剖検	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	-	-	-	-

(注) 1. 粗死亡率 $\frac{\text{死亡患者数}}{\text{退院患者総数}} \times 100$

[診療情報管理室]

2. 精死亡率 $\frac{\text{入院48時間以後死亡数}}{\text{退院患者総数}} \times 100$

7 手術件数

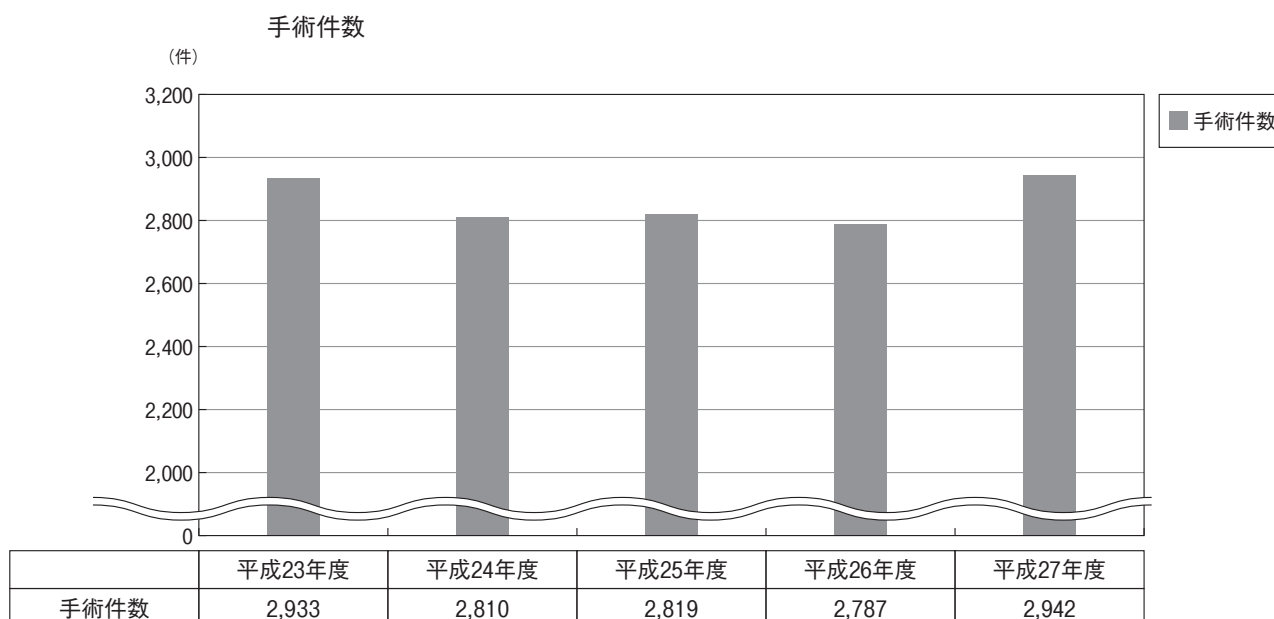
① 診療科別・月別手術件数（中央手術室実施）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	27年度 合計	26年度 合計
循環器内科	0 (0)	0 (0)	5 (0)	4 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (0)	6 (0)	0 (0)	2 (0)	1 (0)	2 (0)	23 (0)	-
消化器・一般外科	26 (20)	21 (15)	21 (10)	14 (9)	16 (12)	18 (17)	16 (15)	17 (13)	19 (19)	13 (6)	13 (11)	15 (10)	209 (157)	219 (145)
呼吸器外科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2 (2)	2 (2)	5 (5)	9 (9)	-
乳腺外科	5 (4)	7 (5)	9 (7)	8 (6)	12 (8)	11 (7)	10 (6)	10 (8)	12 (7)	9 (7)	9 (8)	6 (4)	108 (77)	76 (52)
整形外科	33 (7)	26 (5)	33 (5)	20 (2)	29 (5)	17 (3)	20 (4)	21 (3)	14 (4)	15 (2)	12 (3)	18 (2)	258 (45)	279 (73)
産婦人科	85 (64)	72 (49)	101 (74)	111 (80)	84 (69)	75 (57)	95 (73)	86 (69)	90 (73)	88 (66)	103 (72)	115 (88)	1,105 (834)	964 (729)
皮膚科	10 (0)	14 (0)	16 (0)	22 (0)	18 (0)	20 (0)	18 (0)	17 (0)	18 (0)	17 (0)	19 (0)	22 (0)	211 (0)	169 (1)
泌尿器科	27 (6)	25 (6)	21 (2)	21 (5)	19 (5)	16 (3)	18 (7)	18 (6)	19 (4)	26 (4)	15 (4)	16 (3)	241 (55)	283 (83)
眼科	62 (0)	43 (0)	47 (0)	36 (0)	35 (0)	34 (0)	52 (0)	39 (0)	41 (0)	36 (0)	23 (0)	34 (0)	482 (0)	491 (4)
耳鼻咽喉科	22 (17)	18 (11)	24 (18)	30 (20)	28 (17)	25 (17)	30 (22)	27 (15)	22 (15)	15 (10)	24 (16)	28 (21)	293 (199)	291 (189)
麻酔・緩和医療科	0 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (0)	15 (0)
合 計	270 (118)	226 (91)	278 (116)	268 (122)	241 (116)	216 (104)	262 (127)	241 (114)	235 (122)	223 (97)	221 (116)	261 (133)	2,942 (1,376)	2,787 (1,276)

1. 中央手術室以外での手術、麻酔は含まれない。

[手術室]

2. () 内は全身麻酔。



② 診療科別・年間手術件数（総件数の内、上位のみ）

循環器内科

総件数	231
経皮的冠動脈ステント留置術(その他のもの)	107
四肢の血管拡張術	25
ペースメーカー移植術(経静脈電極)	16
大動脈バルーンパンピング法(2日目以降)	14
経皮的冠動脈ステント留置術 (不安定狭心症に対するもの)	14
経皮的冠動脈形成術(その他のもの)	12
体外ペースメーカー移植術	11
ペースメーカー交換術	10
経皮的冠動脈ステント留置術 (急性心筋梗塞に対するもの)	7

消化器内科

総件数	296
内視鏡的結腸粘膜切除術(長径2cm未満)	114
血管塞栓術(腹腔内血管等) (選択的動脈化学塞栓術)	43
内視鏡的消化管止血術	28
内視鏡的乳頭切開術 (乳頭括約筋切開のみのもの)	20
内視鏡的食道異物摘出術	12
内視鏡的胃ポリープ・粘膜切除術 (早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術)	12
内視鏡的胆道ステント留置術	10

血液・化学療法内科

総件数	3
血管塞栓術(腹腔内血管等)(その他のもの)	2
血管塞栓術(腹腔内血管等)(止血術)	1

消化器・一般外科

総件数	277
腹腔鏡下胆嚢摘出術	40
ヘルニア手術(鼠径ヘルニア)	37
胃切除術(悪性腫瘍)	13
抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル設置(頭頸部その他)	10
内視鏡的結腸粘膜切除術(長径2cm未満)	10
経皮的腹腔膿瘍ドレナージ術	10
胆嚢摘出術	10
創傷処理 (長径5cm未満・筋肉、臓器に達しないもの)	9

呼吸器外科

総件数	9
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 (肺葉切除又は1肺葉を超えるもの)	3
胸腔鏡下肺切除術 (肺嚢胞手術(楔状部分切除によるもの))	2

乳腺外科

総件数	202
乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(一連につき)	68
乳腺悪性腫瘍手術(乳房部分切除術) (腋窩部郭清を伴わないもの)	33
創傷処理 (長径5cm未満・筋肉、臓器に達しないもの)	18
乳腺腫瘍摘出術(長径5cm未満)	18
乳腺悪性腫瘍手術(乳房部分切除術) (内視鏡下によるものを含む)	15
乳腺悪性腫瘍手術 (乳房切除術・腋窩部郭清を伴わないもの)	15
乳腺悪性腫瘍手術 (乳房切除術・胸筋切除併施しない)	9

整形外科

総件数	343
人工関節置換術(膝)	64
人工骨頭挿入術(股)	25
骨折観血の手術(大腿)	19
骨折観血の手術(前腕)	19
人工関節置換術(股)	13
骨折観血の手術(下腿)	12
骨折観血の手術(鎖骨)	12
骨内異物(挿入物)除去術(下腿)	11
創傷処理 (長径5cm未満・筋肉、臓器に達しないもの)	10

皮膚科

総件数	226
皮膚切開(長径10cm未満)	57
皮膚腫瘍摘出術(露出部)(長径2cm未満)	50
皮膚腫瘍摘出術(露出部以外)(長径3cm未満)	47
皮膚腫瘍摘出術(露出部) (長径2cm以上4cm未満)	11
皮膚腫瘍摘出術(露出部以外) (長径3cm以上6cm未満)	9
皮膚悪性腫瘍切除術(単純切除)	8

泌尿器科

総件数	355
経尿道的尿管ステント留置術	69
膀胱悪性腫瘍手術 (経尿道的手術・その他のもの)	50
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術(2日目以降)	36
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術(一連につき)	32
経尿道的尿管ステント抜去術	27
膀胱悪性腫瘍手術 (経尿道的手術・電解質溶液利用のもの)	26
経尿道的前立腺手術(電解質溶液利用のもの)	15

産婦人科

総件数	1,192
腹腔鏡下腔式子宮全摘術	211
子宮附属器腫瘍摘出術(両側, 腹腔鏡)	210
腹腔鏡下子宮筋腫摘出(核出)術	206
子宮頸部(腔部)切除術	73
流産手術(妊娠11週まで)	60
子宮内膜ポリープ切除術	52
帝王切開術(選択切開)	45
帝王切開術(緊急切開)	39
子宮鏡下子宮筋腫摘出術	38
子宮内膜搔爬術	37
膀胱脱手術(メッシュを使用するもの)	37
卵管全摘除術(両側, 腹腔鏡)	23

眼科

総件数	765
水晶体再建術 (眼内レンズを挿入する場合・その他のもの)	444
涙点プラグ挿入術、涙点閉鎖術	72
後発白内障手術	48
網膜光凝固術	48
顕微鏡下角膜抜糸術	20

耳鼻咽喉科

総件数	592
口蓋扁桃手術(摘出)	118
鼓膜切開術	64
鼓膜(排液, 換気)チューブ挿入術	35
下甲介粘膜レーザー焼灼術(両側)	25
内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅲ型 (選択的(複数洞)副鼻腔手術)	23
鼻腔粘膜焼灼術	21
喉頭・声帯ポリープ切除術(直達喉頭鏡)	21

[診療情報管理室]

2. 医事統計

1 診療科別医療収入

	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月		
	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計
循環器内科	13,945	51,378	65,323	13,333	48,502	61,835	13,992	65,689	79,680	14,889	63,706	78,595	13,945	56,130	70,075	13,431	50,392	63,823	15,015	49,094	64,109
消化器内科	12,126	33,960	46,086	10,347	22,145	32,493	13,352	24,735	38,087	13,525	21,494	35,019	11,764	24,820	36,585	13,211	20,205	33,416	14,086	19,092	33,178
総合内科	39,086	47,925	87,011	34,930	46,327	81,258	38,749	46,003	84,752	38,854	54,339	93,193	37,523	51,905	89,428	37,543	47,017	84,560	42,288	52,122	94,411
血液・ 化学療法内科	27,822	47,842	75,664	25,370	46,783	72,153	26,188	46,158	72,346	36,976	43,835	80,811	31,504	49,972	81,476	31,348	43,812	75,160	29,987	54,821	84,808
神経内科	4,545	15,105	19,651	3,392	12,102	15,494	3,535	12,609	16,144	4,238	14,666	18,903	3,807	12,351	16,157	4,444	18,181	22,626	4,706	18,276	22,983
救急診療 センター	3,419	10,777	14,196	3,295	11,751	15,046	4,192	9,607	13,799	4,288	13,070	17,358	3,274	12,082	15,356	2,439	12,364	14,804	3,123	11,778	14,901
内科(計)	100,943	206,987	307,930	90,668	187,610	278,279	100,008	204,801	304,809	112,768	211,110	323,879	101,817	207,260	309,077	102,418	191,971	294,389	109,205	205,184	314,389
神経科・ 精神科	7,023	5,977	13,000	6,834	7,386	14,220	6,627	10,955	17,581	7,211	11,446	18,657	6,299	7,416	13,716	6,727	5,243	11,971	6,911	10,380	17,290
小児科	6,643	7,231	13,874	6,017	9,725	15,742	6,730	11,657	18,387	6,106	9,844	15,951	5,376	13,364	18,740	5,945	16,344	22,289	6,701	11,982	18,683
消化器・ 一般外科	8,382	31,018	39,401	6,494	25,348	31,842	9,365	22,908	32,273	8,139	13,862	22,000	9,496	19,393	28,890	7,078	23,518	30,596	6,982	17,734	24,716
呼吸器外科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
乳腺外科	13,174	5,980	19,155	12,267	7,016	19,283	14,882	11,033	25,914	15,915	9,933	25,847	14,237	11,674	25,911	16,017	9,526	25,543	16,226	11,771	27,997
外科(計)	21,557	36,998	58,555	18,761	32,364	51,125	24,247	33,940	58,187	24,053	23,794	47,848	23,733	31,067	54,801	23,095	33,044	56,139	23,208	29,504	52,713
整形外科	6,812	53,710	60,523	6,179	38,946	45,125	6,805	49,852	56,657	6,389	36,604	42,994	6,018	41,798	47,817	5,242	35,430	40,672	6,405	36,412	42,817
皮膚科	28,244	7,232	35,477	20,045	8,854	28,900	23,988	7,658	31,646	23,251	13,037	36,289	21,026	14,959	35,985	24,655	14,931	39,585	22,986	10,689	33,675
泌尿器科	13,535	19,746	33,282	12,856	13,624	26,480	14,477	15,298	29,775	13,180	14,619	27,799	10,808	13,081	23,889	11,827	13,825	25,652	12,816	15,895	28,711
産婦人科	24,383	87,089	111,473	22,936	72,660	95,596	24,731	93,467	118,198	24,558	102,952	127,511	22,836	94,405	117,241	23,941	85,926	109,867	25,930	95,753	121,683
眼科	8,076	20,718	28,794	7,315	11,342	18,657	9,002	12,722	21,724	7,927	10,226	18,153	8,747	9,663	18,410	7,981	10,578	18,558	8,520	16,782	25,302
耳鼻咽喉科	7,084	21,782	28,866	6,399	18,012	24,410	8,528	17,190	25,718	8,049	22,835	30,883	7,709	19,351	27,060	7,667	17,395	25,062	8,046	23,189	31,234
放射線科	6,936	1,965	8,901	6,302	659	6,961	6,950	1,548	8,498	6,352	1,283	7,635	4,780	764	5,544	5,263	752	6,015	8,172	1,029	9,202
麻酔・ 緩和医療科	118	929	1,047	185	966	1,152	123	938	1,060	145	1,148	1,293	95	916	1,011	97	702	799	82	952	1,034
その他	45	0	45	39	0	39	29	0	29	32	0	32	32	0	32	16	0	16	22	0	22
計	231,401	470,367	701,768	204,536	402,149	606,685	232,243	460,024	692,268	240,023	458,900	698,923	219,275	454,047	673,323	224,875	426,141	651,016	239,003	457,751	696,754
百分率	33%	67%	100%	34%	66%	100%	34%	66%	100%	34%	66%	100%	33%	67%	100%	35%	65%	100%	34%	66%	100%

(注) H27.1 呼吸器外科 開設

[単位：千円]

11月			12月			1月			2月			3月			累計			前年度 累 計	対前年 差 額
外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計		
13,832	48,790	62,621	15,102	47,150	62,252	12,818	58,692	71,509	14,405	71,063	85,467	15,777	66,143	81,920	170,483	676,728	847,211	726,018	121,193
14,659	22,620	37,280	15,043	19,918	34,961	15,686	25,328	41,014	15,631	18,098	33,729	15,800	24,695	40,495	165,231	277,111	442,342	579,278	▲ 136,936
40,177	41,533	81,710	42,425	49,427	91,852	39,214	42,663	81,877	42,419	54,606	97,026	47,845	60,893	108,738	481,052	594,761	1,075,814	969,193	106,621
29,072	50,190	79,262	28,751	50,384	79,134	29,582	37,169	66,751	32,308	41,762	74,069	30,142	55,542	85,684	359,049	568,268	927,317	811,081	116,236
3,705	13,377	17,082	3,737	11,542	15,279	3,027	16,221	19,247	3,646	13,639	17,285	5,024	9,268	14,292	47,806	167,336	215,142	232,169	▲ 17,027
3,042	17,361	20,404	3,774	14,385	18,159	4,030	15,105	19,135	4,005	10,267	14,271	4,629	14,736	19,365	43,511	153,282	196,793	138,495	58,298
104,488	193,871	298,359	108,831	192,806	301,637	104,356	195,177	299,532	112,414	209,434	321,848	119,217	231,276	350,492	1,267,133	2,437,487	3,704,619	3,456,234	248,385
6,354	8,289	14,643	6,438	7,664	14,103	6,464	8,479	14,942	6,153	11,201	17,354	6,867	7,598	14,466	79,909	102,035	181,943	209,512	▲ 27,569
6,197	14,767	20,963	6,617	15,132	21,749	6,660	9,324	15,984	6,271	10,230	16,500	7,773	11,164	18,937	77,035	140,765	217,800	143,866	73,934
10,853	17,220	28,073	7,104	22,077	29,181	8,434	14,857	23,291	7,426	15,358	22,784	7,295	16,124	23,419	97,049	239,416	336,465	408,018	▲ 71,553
-	-	-	-	-	-	38	1,449	1,486	160	3,758	3,918	287	7,731	8,018	484	12,937	13,422	-	13,422
13,571	11,813	25,383	17,542	11,824	29,366	14,518	10,388	24,907	15,372	10,403	25,775	19,134	10,729	29,863	182,854	122,090	304,944	238,068	66,876
24,423	29,032	53,456	24,646	33,901	58,547	22,990	26,694	49,684	22,958	29,519	52,477	26,716	34,584	61,300	280,387	374,443	654,830	646,086	8,744
5,748	34,150	39,898	5,721	25,378	31,098	5,526	24,519	30,045	6,287	20,755	27,042	6,294	27,548	33,842	73,426	425,103	498,529	548,606	▲ 50,077
21,217	9,092	30,309	23,687	10,445	34,133	22,275	12,334	34,608	22,471	14,469	36,940	26,470	11,884	38,354	280,316	135,585	415,901	380,091	35,810
13,256	15,259	28,516	12,455	13,758	26,213	12,521	18,211	30,732	12,940	18,096	31,036	13,067	12,268	25,335	153,740	183,679	337,419	366,851	▲ 29,432
23,434	93,262	116,696	23,191	85,839	109,030	27,307	77,727	105,033	29,490	87,933	117,424	28,922	107,988	136,911	301,660	1,085,002	1,386,662	1,290,939	95,723
7,499	13,017	20,516	7,912	11,990	19,903	7,095	11,088	18,183	7,860	7,210	15,071	8,072	9,509	17,580	96,005	144,846	240,852	239,725	1,127
7,112	19,085	26,197	7,054	19,108	26,162	7,056	11,735	18,791	6,808	16,567	23,374	8,629	23,752	32,381	90,140	230,000	320,140	359,834	▲ 39,694
7,475	1,142	8,617	5,306	1,068	6,374	5,308	1,314	6,622	5,963	595	6,557	7,472	988	8,460	76,278	13,108	89,386	76,272	13,114
55	813	868	93	1,116	1,208	127	713	840	57	955	1,012	94	1,058	1,151	1,270	11,205	12,475	31,417	▲ 18,942
13	0	13	24	0	24	16	0	16	21	0	21	16	0	16	306	0	306	410	▲ 104
227,272	431,780	659,051	231,976	418,205	650,180	227,699	397,315	625,015	239,692	426,963	666,656	259,609	479,616	739,225	2,777,604	5,283,258	8,060,862	7,749,845	311,017
34%	66%	100%	36%	64%	100%	36%	64%	100%	36%	64%	100%	35%	65%	100%	34%	66%	100%		

[医事サービス部]

2 医療行為別医療収入(外来)

[単位：千円]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度 累計	対前年 差 額
初診料	5,721	4,987	6,492	6,245	5,271	5,049	5,872	5,223	5,147	5,203	5,858	6,145	67,214	65,144	2,070
再診料	10,702	9,750	10,765	11,241	10,196	10,343	11,245	10,266	10,947	10,028	10,335	11,496	127,315	123,700	3,615
指導料	23,328	19,673	21,792	21,426	20,194	19,829	21,350	19,252	22,576	19,411	21,372	22,322	252,526	229,081	23,445
処方料	5,281	4,490	5,527	8,524	8,010	8,459	7,627	9,053	6,918	5,270	6,178	5,895	81,234	40,059	41,175
注射料	52,513	44,899	50,173	56,686	49,177	53,648	50,708	52,533	53,861	56,346	59,072	62,261	641,880	581,315	60,565
処置料	3,516	3,329	3,762	3,524	3,187	3,273	3,378	3,243	3,406	3,336	3,114	3,426	40,494	42,318	▲ 1,824
手術料	6,504	4,911	5,124	5,661	5,939	5,609	5,679	5,408	4,877	4,567	4,566	5,657	64,501	54,105	10,396
検体検査料	74,309	67,609	77,899	76,164	71,481	71,803	78,907	72,705	75,435	73,566	74,942	83,730	898,550	822,231	76,319
画像検査料	27,284	23,644	28,774	29,134	26,332	25,974	29,847	26,726	26,315	24,535	27,399	31,394	327,359	292,176	35,183
リハビリ その他	15,493	14,461	15,225	14,873	12,943	14,087	16,924	15,070	14,646	13,906	14,609	16,638	178,876	161,442	17,434
自費	6,749	6,782	6,710	6,543	6,544	6,800	7,467	7,792	7,846	11,532	12,247	10,645	97,655	88,241	9,414
計	231,401	204,536	232,243	240,023	219,275	224,875	239,003	227,272	231,976	227,699	239,692	259,609	2,777,604	2,499,811	277,793

[医事サービス部]

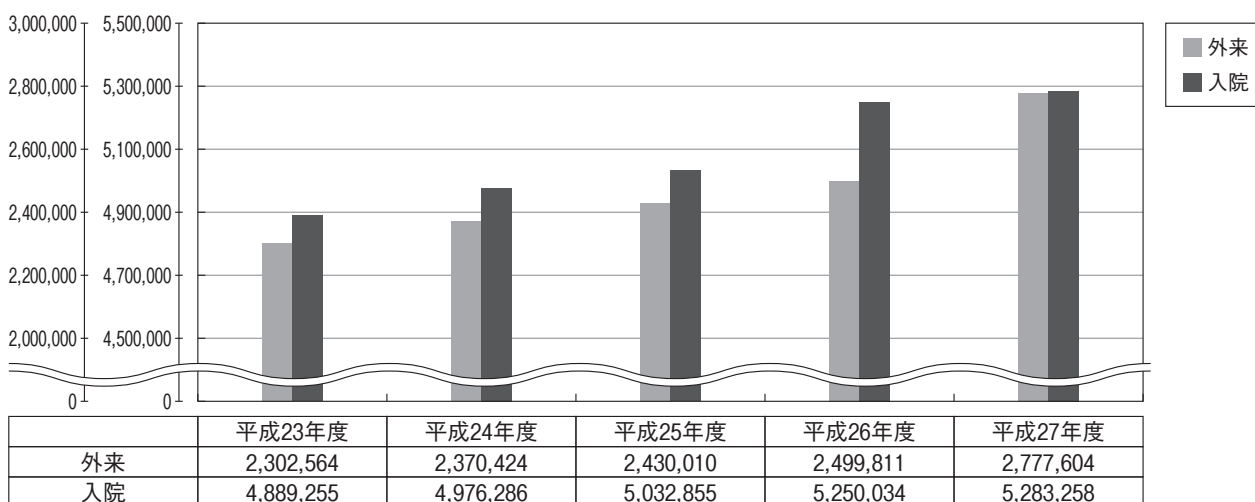
2 医療行為別医療収入(入院)

[単位：千円]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度 累計	対前年 差 額
診察料	286	289	315	381	392	369	403	397	419	459	326	412	4,448	3,574	874
指導料	4,697	3,685	4,526	4,854	4,512	3,176	4,549	3,950	4,109	4,168	4,792	5,167	52,185	50,974	1,211
処方料	5,177	5,106	7,107	6,261	5,520	4,960	6,195	5,212	5,597	4,529	5,004	7,409	68,076	63,274	4,802
注射料	4,941	4,387	9,549	5,610	7,210	5,135	7,539	7,407	7,420	6,236	8,241	12,122	85,797	71,929	13,868
処置料	1,394	1,454	1,923	1,435	1,642	1,643	1,171	2,241	1,485	1,903	1,509	1,517	19,318	18,158	1,160
手術料	107,215	82,200	111,150	107,029	94,969	88,226	96,582	97,446	87,797	86,573	89,197	108,800	1,157,184	1,092,765	64,419
検体検査料	7,845	6,992	9,961	10,119	9,922	8,579	8,258	7,704	7,245	7,243	9,019	9,461	102,347	91,744	10,603
画像診断料	856	816	1,292	1,086	1,325	1,227	1,225	1,053	1,041	1,177	1,372	1,243	13,712	12,974	738
リハビリ その他	10,218	7,811	10,533	9,926	8,688	8,251	9,142	8,729	8,420	8,744	8,084	9,122	107,668	104,305	3,363
入院料	67,407	62,351	68,931	68,406	69,946	67,783	70,377	61,071	64,843	60,332	59,597	65,550	786,594	796,392	▲ 9,798
DPC	217,576	190,593	194,698	201,467	208,370	194,496	207,973	194,361	191,669	181,094	198,270	214,235	2,394,801	2,423,141	▲ 28,340
食事療養費	14,175	13,110	14,058	14,384	14,097	13,536	14,329	13,292	12,990	12,541	14,031	14,481	165,024	165,878	▲ 854
自費	28,581	23,353	25,980	27,942	27,455	28,761	30,010	28,916	25,170	22,316	27,523	30,098	326,105	354,926	▲ 28,821
計	470,367	402,149	460,024	458,900	454,047	426,141	457,751	431,780	418,205	397,315	426,963	479,616	5,283,258	5,250,034	33,224

[医事サービス部]

外来(千円) 入院(千円)



3. その他統計

1 病院従業員数（平成27年4月1日時点）

		職員	性別		専攻医	研修医	常勤嘱託	非常勤・パート
			男	女				
医 師	27年度	63名	51名	12名	13名	10名	2名	43名
	26年度	60	45	15	11	11	4	41
薬 剤 師	27年度	12	5	7				3
	26年度	12	6	6				3
放射線技師	27年度	12	9	3				
	26年度	12	9	3				
臨床検査技師	27年度	22	10	12				3
	26年度	21	9	12				3
理学療法士	27年度	8	6	2				2
	26年度	8	6	2				
作業療法士	27年度	1		1				
	26年度	1		1				
管理栄養士	27年度	1		1				2
	26年度	1		1				2
ケースワーカー	27年度	3		3				1
	26年度	3		3				1
視能訓練士・眼鏡士	27年度	2		2				5
	26年度	2		2				6
臨床心理士	27年度	0						1
	26年度	0						1
臨床工学技士	27年度	3	1	2				
	26年度	3	1	2				
看護師	27年度	275	5	270				18
	26年度	277	5	272				15
准看護師	27年度	0						7
	26年度	0						9
看護助手	27年度	0						11
	26年度	0						15
事務員	27年度	41	25	16				13
	26年度	39	23	16				11
一般技能労務職	27年度	2	1	1			1	3
	26年度	2	1	1			1	4
小 計	27年度	445	113	332	13	10	3	112
	26年度	441	105	336	11	11	5	111
ニッセイ予防医学センター	医 師	27年度	5	3	2		1	1
		26年度	6	4	2		1	
	放射線技師	27年度	5	2	3			8
		26年度	5	2	3			9
	臨床検査技師	27年度	5		5			11
		26年度	3		3			11
	臨床心理士	27年度	0					1
		26年度	0					1
	看護 師	27年度	6		6			3
		26年度	6		6			4
	事 務 員	27年度	8	5	3			14
		26年度	9	5	4			16
	一般技能労務職	27年度	1	1				
		26年度	1	1				
小 計	27年度	30	11	19	0	0	1	38
	26年度	30	12	18	0	0	1	41
訪問看護	看護師	27年度	5		5			7
		26年度	5		5			8
小 計	27年度	5		5				7
	26年度	5		5				8
総 計	27年度	481	125	356	13	10	4	157
	26年度	477	118	359	11	11	6	160

[総務人事G]

2 セカンドオピニオン外来件数（年間計）

消化器内科 1 件、総合内科 1 件、血液・化学療法内科 1 件、消化器・一般外科 1 件、産婦人科 3 件

[あったかサポートセンター]

循環器内科

スタッフ 部 長：岡部太一
 担当部長：中川 厚
 医 長：徳岡孝仁、村西寛実
 専 攻 医：吉川秀人、不二樹五郎



1. 診療内容

循環器内科では虚血性心疾患、心不全、各種弁膜症、高血圧症、脂質異常症、各種不整脈、閉塞性動脈硬化症、肺血栓塞栓症、深部静脈血栓症等の診断・治療を行っている。

虚血性心疾患に対しては平成24年7月より冠動脈320列CTが導入され、被曝量の軽減や心房細動などの不整脈症例においても検査可能となり、冠動脈疾患の検出に役立っており、近隣施設よりの紹介も増加、導入当初の年約260件から420件と増加している。

冠動脈造影検査についても年間600件前後、経皮的冠動脈形成術（PCI）も日本心血管インターベンション治療学会専門医・指導医である中川医師の指導の下、180件前後の治療を行い、良好な成績を上げている。また急性心筋梗塞などの緊急カテーテル検査などの救急疾患についても積極的に対応、本年度は問い合わせや御紹介頂いたケース全例に対応、過去最高の35件の緊急CAG・PCI治療を行った。

また糖尿病患者や高齢患者の増加に伴い閉塞性動脈硬化症も増加、当院にても経皮的血管形成術（PTA）の件数は増加傾向にある。

不整脈治療について、頻脈性不整脈に対するカテーテル心筋症焼灼術については心房粗動や上室性頻拍症など心房細動以外の不整脈に対しては大阪医科大学循環器内科の協力のもと当院にてアブレーション治療を行った。徐脈性不整脈（洞不全症候群、房室ブロック）に対するペースメーカー治療（新規植込み・電池交換）についても村西医師の指導の下、平成27年6月よりより感染面を考慮しても手術に適した環境において手術室にて施行、実績を増やしている。

心不全や弁膜症に対しても平成24年12月より経食道心臓超音波検査を導入、これまでも感染性心内膜炎の診断や各種弁膜症の手術適応決定及び心原性脳塞栓症の原因となる左房内血栓の有無の評価に威力を発揮、当院では弁置換術は不可能であるが、手術症例の適切な診断に貢献している。

虚血性心疾患・心不全を中心に診療を行っているが、常勤の循環器専門医3名の指導のもと循環器一般診療・内科一般疾患に対しても幅広く診療を行っている。

2. 診療体制

- 1) 外来診察スケジュール（表1）
- 2) 病棟体制（表2）
- 3) 検査スケジュール（表3）

- ・心臓カテーテル検査・冠動脈形成術：放射線部（火曜日全日、水曜・木曜・金曜 午前、尚、緊急時には適時対応）
- ・薬剤負荷心筋シンチ（金曜 午前）
- ・トレッドミル負荷心電図検査（月曜・水曜・木曜 午後）
- ・経胸壁心臓超音波検査 頸動脈超音波検査（月～金曜 全日）
- ・経食道心臓超音波検査（適時）
- ・下肢静脈超音波検査（月～金曜 午後）
- ・ホルター心電図検査（月～木曜、午前）

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績（表4）
- 2) 入院診療実績（表4、5）
- 3) 検査実績
 - 心臓カテーテル検査件数：497件
 - PCI（冠動脈インターベンション治療）：177件（内、緊急32件）
 - PTA（経皮的動脈形成術）：18件
 - ペースメーカー治療（新規/交換）：10/13件
 - ABL（カテーテル電気焼灼術）/EPS：4件
 - 冠動脈CT：418件
 - 心臓超音波検査：2,514件
 - 経食道心臓超音波検査：9件
 - トレッドミル負荷心電図：115件
 - 負荷心筋シンチ：114件
 - 安静心筋シンチ：2件
 - ホルター心電図検査：195件

4. 認定医・専門医など

- | | |
|---------------------------|----|
| 日本内科学会認定内科医 | 5名 |
| 日本内科学会総合内科専門医 | 2名 |
| 循環器専門医 | 3名 |
| 日本心血管インターベンション治療学会専門医・指導医 | 1名 |

5. 業績

論文・著書

1. 中川 厚, 不二樹五郎, 吉川秀人, 村西寛実, 徳岡孝仁, 岡部太一：新しい予測因子としても脂肪酸バランス～冠動脈治療患者におけるEPA/AA比の検討～, 日生医誌, 43: 72-75, 2016.

学会発表

1. 石川那智, 不二樹五郎, 吉川秀人, 村西寛実, 徳岡孝仁, 中川厚, 岡部太一：稀な起因菌により発症した感染性大動脈瘤の一例, 第119回日本循環器学会 近畿地方会, 6月, 2015, 大阪.

- 小林 悠, 石川那智, 不二樹五郎, 吉川秀人, 村西寛実, 徳岡孝仁, 中川 厚, 岡部太一: 診断に苦慮した高齢肺高血圧症の一例. 第119回日本循環器学会 近畿地方会, 6月, 2015, 大阪.
- 中川 厚, 不二樹五郎, 吉川秀人, 村西寛実, 徳岡孝仁, 岡部太一: P2Y12 Reaction Units(PRU)測定による抗血小板薬選択の有用性. 第63回日本心臓病学会学術講演会, 9月, 2015, 横浜.
- 村西寛実他: Impact of patients' activity on clinical outcome after femoropopliteal intervention. ESC 2015, 9月, 2015, ロンドン.
- 不二樹五郎, 吉川秀人, 村西寛実, 徳岡孝仁, 中川 厚, 岡部太一: 冠動脈瘤を合併したLADの狭窄病変に対し段階的に治療し得た一例. 第120回日本循環器学会 近畿地方会, 11月, 2015, 大阪.

研究会発表

- 吉川秀人: Tourtousity and angulated lesion RCAに対するPCI(成功例と不成功例). 第2回JMN研究会, 5月, 2015, 大阪.
- 中川 厚: P2Y12 Reaction Units(PRU)測定による抗血小板薬選択の有用性. 第2回JMN研究会, 5月, 2015, 大阪.
- 中川 厚: P2Y12 Reaction Units(PRU)測定による抗血小板薬選択の有用性. 第2回JMN研究会, 5月, 2015, 大阪.
- 吉川秀人: Tourtousity and angulated lesion RCAに対するPCI(成功例と不成功例). 第2回JMN研究会, 5月, 2015, 大阪.
- 徳岡孝仁: 冠動脈瘤を伴うLADの狭窄病変に段階的に治療しえた一例. 第45回北摂臨床セミナー, 6月, 2015, 大阪.
- 徳岡孝仁: 冠動脈瘤を伴うLADの狭窄病変に段階的に治療しえた一例. 第45回北摂臨床セミナー, 6月, 2015, 大阪.
- 村西寛実: 糖尿病患者に対する虚血性心疾患について. あわぎクリニカルカンファレンス, 11月, 2015, 大阪.
- 不二樹五郎: 超高齢者の不明熱の一例. あわぎクリニカルカンファレンス, 11月, 2015, 大阪.
- 不二樹五郎: 冠動脈瘤を伴うLADの狭窄病変に段階的に治療しえた一例. 第2回西大阪心臓会議, 11月, 2015, 大阪.
- 中川 厚: JMN Study: PRU測定による抗血小板薬の選択(中間報告). 第3回JMN循環器懇話会, 11月, 2015, 大阪.
- 岡部太一: NOACによるPE+DVT治療症例の1例. 第3回JMN循環器懇話会, 11月, 2015, 大阪.
- 村西寛実: 糖尿病患者に対する虚血性心疾患について. あわぎクリニカルカンファレンス, 11月, 2015, 大阪.
- 不二樹五郎: 超高齢者の不明熱の一例. あわぎクリニカルカンファレンス, 11月, 2015, 大阪.
- 中川 厚: JMN Study: PRU測定による抗血小板薬の選択(中間報告). 第3回JMN循環器懇話会, 11月, 2015, 大阪.
- 岡部太一: NOACによるPE+DVT治療症例の1例. 第3回JMN循環器懇話会, 11月, 2015, 大阪.
- 不二樹五郎: 冠動脈瘤を伴うLADの狭窄病変に段階的に治療しえた一例. 第2回西大阪心臓会議, 11月, 2015, 大阪.
- 岡部太一: 3大疾病治療の現状(急性心筋梗塞・脳卒中). H27年度日本生命本店視察研修, 12月, 2015, 大阪.

研究助成・治験・臨床研究等(治験)

- バイエル薬品株式会社の依頼による冠動脈疾患を合併した慢性心不全患者において心不全の増悪による入院後に認められる全死亡, 心筋梗塞及び脳卒中発症の抑制に関して, プラセボを対照としたリバーロキサパンの有効性及び安全性を検討することを目的とした無作為化, 二重盲検, イベント主導型, 多施設共同試験

(臨床研究)

- ASUCA Trial(慢性腎臓病(CKD)を合併した脂質異常症患者を対象に, アトルバスタチンが推算糸球体濾過量を指標にした腎機能に及ぼす影響を検討する多施設共同研究)(中川 厚)
- PCI施行患者に対するクロピドグレル・プラスグレル投与による血小板凝集抑制効果検討試験(中川 厚)
- 冠動脈疾患患者に対するピタバスタチンによる積極的脂質

低下療法または通常脂質低下療法のランダム化比較試験(中川 厚)

- coronary intervention in Nissay Hospital-retrospective study(村西寛実)

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診										吉川
2診	岡部	村西	岡部		岡部 (予約)	岡部 (予約)	村西	交代 ※②	岡部	中川厚 (予約)
3診	中川厚	徳岡	浅野		長谷川 ※① ヘルスマーカー	吉川	濱田	中川厚	徳岡	不二樹

①2・4週のみ ②1・3週は不二樹、2・4週は徳岡

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前		心臓カテーテル	カンファレンス 心臓カテーテル	心臓カテーテル	心臓カテーテル
午後				部長回診 カンファレンス	

表3 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
心エコー		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予		● 紹・予
頸動脈エコー		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予
ホルター心電図	● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予			
末梢血管エコー		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		
トレッドミル		○ 診				○ 診		○ 診		
心臓カテーテル検査			○ 診	○ 診	○ 診		○ 診		○ 診	
負荷心筋シンチ									○ 診	

●: 紹介状・予約が必要 ○: 当院診察が必要

表4 年度別外来・入院延べ患者数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
外来	22,375	21,156	13,965 ※	13,433	13,744
入院	19,359	16,420	11,229 ※	11,420	12,924

※H25.4～循環器内科・神経内科から神経内科を分離新設

表5 H27.4～H28.3入院患者の疾患(上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
狭心症および慢性虚血性心疾患	366	6
心不全	94	31
心臓および血管の挿入物および移植片の存在	54	5
アテローム<じゅく><粥>状>硬化(症)	36	9
肺炎(誤嚥性肺炎を含む)	31	27
急性心筋梗塞	19	24
心房細動および粗動	17	15
睡眠障害	15	5
房室ブロックおよび左脚ブロック	15	19
本態性(原発性<一次性>)高血圧(症)	14	14

スタッフ 部長：中村秀次（ニッセイ予防医学センター長兼任）
 担当部長：湯川雅彦（消化器内視鏡センター長兼任）
 副 部 長：居平典久、村本 理、田中敏雄（1月～）
 河田奈都子（6月～）
 専 攻 医：影山美沙紀（～8月）



1. 診療内容

消化器癌の早期発見・適切な治療、患者さんにやさしい医療をモットーとして、外科・放射線科との連携のもと早期診断・早期治療に努めている。上部内視鏡検査では、NBI拡大内視鏡、色素内視鏡を積極的に用いて診断精度の向上をはかっている。超音波内視鏡検査を27年6月から開始し、膵腫瘍を中心として超音波内視鏡下穿刺吸引法（EUS-FNA）も導入し、診断能の向上を図っている。大腸内視鏡検査においては、軸保持短縮法による挿入法を用いて苦痛の軽減に努め、NBI拡大内視鏡、ピットパターン診断を取り入れて、高い診断精度を目指している。また、小腸病変に対してカプセル内視鏡も導入している。治療の手技としては、内視鏡的粘膜切除術、ポリペクトミー、内視鏡的食道静脈瘤結紮術に加えて、27年7月より胃・食道の内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を再開した。膵・胆管疾患に対しては、内視鏡的逆行性膵胆道造影・内視鏡的乳頭切開術、胆管ステント留置術等を行っている。膵癌、胆管癌に対しては、TS-1、Gemcitabine、nab-PTXを中心とした化学療法を行い、進行胃癌に対しても積極的に全身化学療法を行っている。肝疾患に対しては、病診連携を通じて慢性肝炎の抗ウイルス治療を積極的に行っている。B型慢性肝炎に対してエンテカビル、テノホビル投与を行い、C型慢性肝炎に対してIFN-free DAA経口療法を積極的に実施している。肝硬変に対しては、肝発癌抑制を目指したIFN治療、分枝鎖アミノ酸製剤等の栄養療法、難治性腹水に対するCART療法を行い、肝硬変患者のQOLおよび生存率の向上を目指している。肝細胞癌に対しては、放射線科医との緊密な連携の元、ラジオ波焼灼療法、肝動脈化学塞栓療法（TACE）等の局所療法を実施するとともに、肝動注療法も適宜併用し、また局所コントロール不能例、TACE無効例、血管侵襲例、転移例に対しては分子標的治療薬を積極的に導入し、局所療法、分子標的治療、全身化学療法、肝動注療法による集学的治療を行いQOLおよび生存率の向上を目指している。

2. 診療体制

- 1) 外来診療スケジュール（表1）
- 2) 病棟体制（表2）
- 3) 検査スケジュール（表3）

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績（表4）
- 2) 入院診療実績（表4、5）

4. 認定医・専門医など

日本内科学会認定医	3名
日本内科学会認定指導医	2名
日本消化器病学会認定専門医	5名
日本消化器病学会認定指導医	2名
日本消化器内視鏡学会認定専門医	3名
日本消化器内視鏡学会認定指導医	2名
日本内科学会総合内科専門医	2名
日本内科学会総合内科指導医	2名
日本肝臓学会認定肝臓専門医	4名
日本肝臓学会認定指導医	1名
日本臨床腫瘍学会暫定指導医	1名
日本超音波医学会専門医	1名
日本がん治療認定医	1名

5. 業績

論文・著書

1. Kawada N, Uehara H, Nagata S, et al: Mural nodule of 10mm or larger as predictor of malignancy for intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas: Pathological and radiological evaluations. *Pancreatol*, in press, 2015.
2. Kawada N, Uehara H, Nagata S, et al: Imaging morphological changes of intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas was associated with its malignant transformation but not with development of pancreatic ductal adenocarcinoma. *Pancreatol*, 15(6): 654-660, 2015.
3. Kawada N, Uehara H, Hosoki T et al: Usefulness of dual phase 18F-FDP-PET/CT for diagnosing small pancreatic tumors. *Pancreas*; 44(4): 655-659, 2015.
4. Enomoto H, Nakamura H, Liu W, Nishiguchi S: Hepatoma-Derived Growth Factor: Its Possible Involvement in the Progression of Hepatocellular Carcinoma. *Int. J. Mol. Sci.* 16, 14086-14097: doi: 10.3390/ijms160614086, 2015.
5. Enomoto H, Nakamura H, Liu W, Iwata Y, Nishikawa H, Takata R, Yoh K, Hasegawa K, Ishii A, Takashima T, Sakai Y, Aizawa N, Ikeda N, Iijima H, Nishiguchi S: Down-regulation of HDGF Inhibits the Growth of Hepatocellular Carcinoma Cells In Vitro and In Vivo. *Anticancer Res.* 35(12): 6475-6459, 2015.
6. Enomoto H, Aizawa N, Nakamura H, Takata R, Sakai Y, Iwata Y, Tanaka H, Ikeda N, Aoki T, Hasegawa K, Yoh K, Hashimoto K, Ishii A, Takashima T, Saito M, Imanishi H, Iijima H, Nishiguchi S: A new metabolism-related index correlates with the degree of liver fibrosis in hepatitis C virus-positive patients. *Gastroenterol Res Pract.* 2015: 926169. doi: 10.1155/2015/926169. (Epub 2015 Mar 11), 2015.
7. Enomoto H, Bando Y, Nakamura H, Nishiguchi S, Koga M: Liver fibrosis markers of nonalcoholic steatohepatitis. *World J Gastroenterol.* 21(24): 7427-35. doi: 10.3748/wjg.v21.i24.7427, 2015.
8. Kawada N, Tanaka S: Elastography for the pancreas: current status and future perspective. *World J*

Gastroenterol, 22(14):3712-3724, 2016.

- Nishikawa H, Enomoto H, Iwata Y, Kishino K, Shimono Y, Hasegawa K, Nakano C, Takata R, Yoh K, Nishimura T, Aizawa N, Sakai Y, Ikeda N, Takashima T, Ishii A, Iijima H, Nakamura H, Nishiguchi S: Clinical significance of serum wisteria floribunda agglutinin-positive Mac-2-binding protein level in non-alcoholic steatohepatitis. Hepatol Res. doi: 10.1111/hepr.12662. [Epub ahead of print], 2016.
- Yoh K, Nishikawa H, Enomoto H, Iwata Y, Kishino K, Shimono Y, Hasegawa K, Nakano C, Takata R, Nishimura T, Aizawa N, Sakai Y, Ikeda N, Takashima T, Ishii A, Iijima H, Matsunaga H, Nakamura H, Nishiguchi S: Comparison of sleep disorders in chronic hepatitis C patients treated with interferon-based therapy and direct acting antivirals using actigraphy. Hepatol Res. doi: 10.1111/hepr.12694. [Epub ahead of print], 2016.

学会発表

- 中村秀次, 居平典久, 村本 理, 伊藤翔, 田中 智: 肝硬変患者における成因別のGlycated albumin/ HbA1c ratio (GHR) およびChild-Pugh scoreとの関連性. 第51回日本肝臓学会総会, 5月, 2015, 熊本.
- 中村秀次, 村本 理, 伊藤翔, 稲次洋平, 田中 智, 居平典久: 当院におけるC型慢性肝炎に対するPegIFN α /Ribavirin/Protease inhibitor 3者併用療法の抗ウイルス効果. 第51回日本肝臓学会総会, 5月, 2015, 熊本.
- 中村秀次, 居平典久, 村本 理, 伊藤 翔: 肝硬変における成因別のGlycated albumin/ HbA1c ratio (GHR). 第19回日本肝臓学会大会(日本消化器病関連学会週間), 10月, 2015, 東京.
- 高島周志, 伊藤 翔, 村本 理, 居平典久, 湯川雅彦, 中村秀次: 健診における大腸癌スクリーニングとしての便Hb値の有用性. 第23回日本消化器病学会(日本消化器病関連学会週間), 10月, 2015, 東京.

研究会発表

- 中村秀次: C型慢性肝炎のインターフェロンフリーのDAA経口療法. あわぎ肝疾患病診連携懇話会, 10月, 2015, 大阪.
- 村本 理: 当院におけるB型慢性肝炎の治療の現況. あわぎ肝疾患病診連携会, 10月, 2015, 大阪.
- 河田奈都子: 肝臓一早期診断の秘策とは一. ニッセイUpDate, 10月, 2015, 大阪.
- 居平典久: 診断に苦慮した下腹部痛の1例. 内科病診連携クリニックカンファレンス, 11月, 2015, 大阪.
- 村本 理: 肝細胞がんの診断と治療. 西部大阪肝疾患病診連携会 市民公開講座, 11月, 2015, 大阪.
- 中村秀次: C型慢性肝炎の最新治療. ニッセイUpDate, 3月, 2016, 大阪.

研究助成・試験・臨床研究等

(臨床研究)

- 食道色素内視鏡検査におけるヨード染色液濃度の変更(河田奈都子)

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
6診	居平		村本	田中敏	河田	村本	中村	中村	村本	回診
7診	湯川	河田※③			中村		湯川		居平	

①・③・⑤週は初診

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前		胃カメラ	胃カメラ		胃カメラ
午後	肝生検 大腸ファイバー	大腸ファイバー	肝生検 造影超音波検査 大腸ファイバー	ERCP RFA 16:30 カンファレンス 抄読会	大腸ファイバー 13:30 回診

表3 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内視鏡 胃			●	紹・予	●	紹・予	●	紹・予	●	紹・予
内視鏡 大腸		○診		○診		○診				○診

●: 紹介状・予約が必要 ○: 当院診察が必要

表4 年度別外来・入院延べ患者数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
外来	13,752	14,297	14,165	14,044	14,908
入院	6,552	9,024	7,924	10,098	6,268

表5 H27.4~H28.3ー入院患者の疾患(上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
結腸、直腸、肛門および肛門管の良性新生物	95	2
腸の憩室性疾患	92	2
肝および肝内胆管の悪性新生物	61	16
腸のその他の疾患	51	1
胆石症	26	10
潰瘍性大腸炎	22	6
胃の悪性新生物	21	18
結腸の悪性新生物	21	5
脾の悪性新生物	14	15
腸の血行障害	14	6

表6 症例数(H27.4~H28.3)

(1) 肝がん治療

	件数
TACE	42
RFA	5
Sorafenib	5

(2) 慢性肝炎の抗ウイルス療法

	件数
HBV IFN治療	1
核酸アナログ治療	92
HCV IFN治療	3
IFN-Free DAA治療	78

(3) 内視鏡件数

	件数
上部消化管内視鏡	2,663
下部消化管内視鏡	1,245
超音波内視鏡(EUS)	65
EUS-FNA	10
内視鏡治療	
ESD	16
EMR、Polypectomy	129
止血術	29
EVL	8
ERCP(EST)	42
胃瘻増設術、その他	44

(胃12例、食道4例)
(胃1例)
(胃23例)

スタッフ 副院長兼部長：立花 功

担当部長：小瀬戸昌博（中央臨床検査部長兼任）

担当部長：住谷 哲（糖尿病・内分泌センター部長、ニッセイ予防医学センター
予防医療部担当部長兼任）

副部長：田村慶朗

医 長：宇都佳彦

専攻医：仁科周平、田中庸弘（10月～）、石井誠剛

〈兼任〉 佐藤文三（名誉院長）、笠山宗正（院長）、三木俊治（救急診療センター・臨床研修部）、
鈴木真優美（予防医学センター）、泉 由紀子（予防医学センター）



1. 診療内容

当科は内分泌・糖尿病、膠原病・リウマチ疾患・呼吸器疾患を対象に診療を行なっている。その内容は糖尿病の患者教育、経口薬やインスリンを初めとする注射薬による血糖コントロール、ケトアシドーシスや糖尿病合併症治療、クッシング症候群や甲状腺機能異常など内分泌疾患の診断・治療、SLE、強皮症、皮膚筋炎など膠原病の診断・治療、（生物学的製剤の使用を含む）慢性関節リウマチ治療、そして肺がんの診断・（分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬を含む）薬物療法・放射線治療・緩和治療、間質性肺炎、気管支喘息、COPDなどの診断・治療である。

平成26年9月より、ウィークエンド糖尿病精査入院を開始した。糖尿病合併症の早期診断と、生活習慣改善のきっかけを提供できるクリティカルパス3日間の短期プログラムであり、入院患者数の増加につながっている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

内科外来1、7、10～13診察室で外来診療を行った。

2) 病棟体制（表2）

病床数は43～44、病棟担当医は研修医1～2名、専攻医2～3名、常勤医2名で、研修医または専攻医が担当医、専攻医または常勤医が主治医となって診療を行った。

3) 検査スケジュール（表3）

X線透視下気管支鏡検査：放射線部（水曜日午後）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表4）

院外からの紹介患者数が平成26年度931人から平成27年度1,013人と82人増加し、外来延べ患者数は平成26年度に比べ1,880人増加した。

2) 入院診療実績（表4、5）

平成27年度は48人のウィークエンド糖尿病精査入院があり、全入院延べ患者数は平成26年度に比べ455人増加した。

3) 検査実績

気管支鏡検査は全例短期の検査入院で施行している。平成27年度検査数は平成26年度よりもさらに増加し、106件と呼吸器内視鏡学会認定施設の認定条件である100件を越えた。平成28年度は現在の関連認定施設から認定施設への格上げ申請を行う予定である。

4. 認定医・専門医など

日本内科学会認定内科医	9名
日本内科学会認定指導医	9名
日本内科学会総合内科専門医	5名
日本呼吸器学会専門医	3名
日本呼吸器学会指導医	1名
日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医	1名
日本内分泌学会専門医・指導医	2名
日本内分泌学会内分泌代謝専門医・指導医	1名
日本糖尿病学会専門医・指導医	2名
日本高血圧学会指導医	1名
日本化学療法学会抗菌化学療法指導医	1名
日本リウマチ学会専門医	1名
日本アレルギー学会専門医・認定医・指導医	1名
日本人間ドック学会専門医・認定医・指導医	1名

5. 業績

論文・著書

1. Koga M, Saito H, Kasayama S: Patients who showed paradoxical increase in HbA1c levels after intensification of diabetes treatment. Clin Biochem, 48: 459-462, 2015.
2. Koga M, Kanehara H, Bando Y, Morita S, Kasayama S: Is glycated albumin useful for differential diagnosis between fulminant type 1 diabetes mellitus and acute-onset autoimmune type 1 diabetes mellitus? Clin Chim Acta, 451: 297-300, 2015.
3. Sun J, Wang J, Pefanis E, Chao J, Rothschild G, Tachibana I, Chen JK, Ivanov II, Rabadan R, Takeda Y, Basu U: Transcriptomics identify CD9 as a marker of murine IL-10-competent regulatory B cells. Cell Rep 13: 1110-1117, 2015.
4. Takeda Y, Suzuki M, Jin Y, Tachibana I: Preventive role of tetraspanin CD9 in systemic inflammation of chronic obstructive pulmonary disease. Am J Respir Cell Mol Biol,

53:751-760, 2015.

5. 笠山宗正：副腎皮質ホルモンとその疾患～見落とさないために。守口市医師会会報第105：114-119, 2015.
6. Tabuchi Y, Otsuki M, Kasayama S, Kosugi K, Hashimoto K, Yamamoto T, Tsugawa M, Mineo I, Yamada Y, Kurebayashi S, Ohashi M, Umayahara Y, Kouhara H, Nakamura T, Matsuoka T, Imagawa A, Funahashi T, Shimomura I: Clinical and endocrinological characteristics of adrenal incidentaloma in Osaka region, Japan. Endocrine J, 63: 29-35, 2016.
7. Sumitani S, Utsu Y, Nishina S, Okuro K, Kogetsu A, Ishii S, Deguchi A, Sato B, Tachibana I, Kasayama S, Koga M: Carbohydrate intake is correlated with the glycated albumin to glycated hemoglobin ratio in drug-naïve patients with type 2 diabetes. J Diabetes Mellitus, 6: 10-15, 2016.
8. 仁科周平, 住谷 哲, 石井誠剛, 早川友朗, 宇都佳彦, 田村慶朗, 小瀬戸昌博, 立花 功, 笠山宗正, 福井辰成, 黒田昌男, 元村卓嗣: 小児期発症クッシング症候群を呈したBlack adrenal adenomaの1例. 日生医誌, 43: 93-98, 2016.
9. 小林 悠, 仁科周平, 早川友朗, 住谷 哲, 立花 功, 笠山宗正: 高CEA血症を示した2型糖尿病患者におけるCEA値と血糖コントロールとの関連についての検討. 日生医誌, 43: 103-106, 2016.

学会発表

1. 鈴木真優美, 澄川裕充, 田村慶朗, 中村秀次, 立花 功: 健診受診者に認めた間質性肺炎の検討. 第55回日本呼吸器学会学術講演会, 4月, 2015, 東京.
2. 仁科周平, 枝廣龍哉, 石井誠剛, 田中庸弘, 早川友朗, 宇都佳彦, 田村慶朗, 立花 功: Clinical characteristics of COPD patients complicated with diabetes mellitus. -糖尿病合併COPD患者における臨床的特徴について-. 第55回日本呼吸器学会学術講演会, 4月, 2015, 東京.
3. 大月道夫, 新谷光世, 石橋謙一, 北野昌彦, 大野恭裕, 加藤純子, 齋藤洋一, 笠山宗正, 大畑建治, 下村伊一郎: 下垂体疾患患者のQOL向上への試み: 市民講座『知りたい下垂体の病気のこと』の開催とその意義. 第88回日本内分泌学会学術総会, 4月, 2015, 東京.
4. 仁科周平, 早川友朗, 北井宏美, 宇都佳彦, 森田真也, 佐藤文三, 住谷 哲, 立花 功, 笠山宗正, 北村哲宏, 大月道夫, 齋藤洋一: 経蝶形骨洞手術施行22年後に急激な増悪を認めたクッシング病の1例. 第88回日本内分泌学会学術総会, 4月, 2015, 東京.
5. 早川友朗, 仁科周平, 宇都佳彦, 佐藤文三, 住谷 哲, 立花 功, 笠山宗正: 片側副腎摘出術後に7年間にわたりミトタン及びトリロスタンの治療経過を観察し得たACTH非依存性両側副腎皮質大結節性過形成(AIMAH)の1例. 第88回日本内分泌学会学術総会, 4月, 2015, 東京.
6. 仁科周平, 住谷 哲, 宇都佳彦, 早川友朗, 佐藤文三, 立花 功, 笠山宗正: メトホルミン単剤投与中の2型糖尿病患者に対する追加薬剤としてのDPP4阻害薬の有効性とこれに関連する因子. 第58回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2015, 下関.
7. 住谷 哲, 宇都佳彦, 早川友朗, 仁科周平, 佐藤文三, 立花 功, 笠山宗正: 初回治療薬としてのメトホルミンの長期有効性に関連する因子の検討. 第58回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2015, 下関.
8. 瀧川奈央, 住谷 哲, 乾 有希子, 野村浩英, 宇都佳彦, 早川友朗, 仁科周平, 三木俊治, 佐藤文三, 畑中勝義, 立花 功, 笠山宗正: インスリン治療中の高齢2型糖尿病患者におけるインスリン投与法と併用経口血糖降下薬の特徴について. 第58回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2015, 下関.
9. 小林 悠, 早川友朗, 仁科周平, 住谷 哲, 立花 功, 笠山宗正: 著明な高CEA血症を示した2型糖尿病患者におけるCEA値と血糖コントロールとの関連についての検討. 第58回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2015, 下関.

10. 枝廣龍哉, 仁科周平, 田村慶朗, 宇都佳彦, 石井誠剛, 古結敦士, 大畔健太, 鈴木真優美, 小瀬戸昌博, 住谷 哲, 佐藤文三, 笠山宗正, 立花 功: 2型糖尿病合併COPD患者の臨床的特徴. 第85回日本呼吸器学会近畿地方会, 7月, 2015, 奈良.
11. 仁科周平, 住谷 哲, 石井誠剛, 早川友朗, 宇都佳彦, 田村慶朗, 立花 功, 笠山宗正, 佐藤文三, 北野昌彦: 無月経と中枢性尿崩症を呈したラトケ嚢胞の1例. 第16回日本内分泌学会近畿支部学術集会, 10月, 2015, 奈良.
12. 大畔健太, 住谷 哲, 古結敦士, 石井誠剛, 仁科周平, 宇都佳彦, 三木俊治, 立花 功, 笠山宗正: 43歳時に骨粗鬆症を契機に診断されたKlinefelter症候群の1例. 第16回日本内分泌学会近畿支部学術集会, 10月, 2015, 奈良.
13. 仁科周平, 住谷 哲, 大畔健太, 古結敦士, 石井誠剛, 宇都佳彦, 田村慶朗, 立花 功, 佐藤文三, 笠山宗正: インスリンから持続型エキセナチドへの変更が有効であった認知症合併糖尿病の1例. 第52回日本糖尿病学会近畿地方会, 11月, 2015, 京都.
14. 大畔健太, 住谷 哲, 古結敦士, 石井誠剛, 仁科周平, 宇都佳彦, 三木俊治, 立花 功, 笠山宗正: メトホルミン投与後にインスリン離脱が可能であった双極性障害合併2型糖尿病患者の1例. 第52回日本糖尿病学会近畿地方会, 11月, 2015, 京都.
15. 北村哲宏, 大月道夫, 玉田大介, 田淵優季子, 向井康祐, 森田真也, 笠山宗正, 番度行弘, 下村伊一郎, 古賀正史: クッシング症候群患者においてアルブミン補正グリコアルブミンは血糖指標となり得る. 第52回日本糖尿病学会近畿地方会, 11月, 2015, 京都.
16. 石川那智, 古結敦士, 大畔健太, 石井誠剛, 仁科周平, 宇都佳彦, 田村慶朗, 住谷 哲, 笠山宗正, 立花 功: 嘔吐・下痢に伴う低K血症を契機に診断に至った原発性アルドステロン症の1例. 第210回日本内科学会近畿地方会, 11月, 2015, 神戸.
17. 石井誠剛, 大畔健太, 古結敦士, 田中庸弘, 仁科周平, 宇都佳彦, 田村慶朗, 小瀬戸昌博, 住谷 哲, 立花 功: 右肺上葉に空洞形成を認めた20代女性. 第86回日本呼吸器学会近畿地方会, 12月, 2015, 京都.

研究会発表

1. 笠山宗正: 内科疾患におけるステロイドホルモンの役割. 大阪大学内分泌・代謝内科同窓会総会講演会, 4月, 2015, 大阪.
2. 笠山宗正: 副腎皮質ホルモンとその疾患～見落とさないために. 守口市医師会学術講演会, 4月, 2015, 大阪.
3. 立花 功: 呼吸生理とCOPDの診断・治療について. 第4回北大阪呼吸リハビリテーション講習会, 4月, 2015, 大阪.
4. 佐藤文三: がん発生の仕組みと予防への応用. 大阪国際学園特別講義, 5月, 2015, 大阪.
5. 魚田晃史, 仁科周平, 早川友朗, 宇都佳彦, 田村慶朗, 立花功, 笠山宗正, 住谷 哲, 福井辰成, 黒田昌男, 元村卓嗣: 副腎Black adenomaを呈した小児期発症クッシング症候群の1例. 第9回大阪内分泌・代謝クリニカルカンファレンス(OEMCC), 6月, 2015, 大阪.
6. 笠山宗正: 知らないとしんする骨粗しょう症の基礎知識. 平成27年度第2回ニッセイ市民健康セミナー, 7月, 2015, 大阪.
7. 佐藤文三: 癌と向き合う. 大阪医専特別講義, 7月, 2015, 大阪.
8. 笠山宗正: 総合力のある医師をめざして～糖尿病・内分泌専門医の立場から～. 総合診療セミナー in 高野山, 8月, 2015, 高野山.
9. 大畔健太: 糖尿病ケトアシドーシスを発症した若年肥満糖尿病患者の1例. インスリン治療「ホップ・ステップ・ジャンプ」, 9月, 2015, 大阪.
10. 仁科周平, 住谷 哲, 石井誠剛, 早川友朗, 宇都佳彦, 田村慶朗, 立花 功, 笠山宗正, 佐藤文三, 北野昌彦: 中枢性尿崩症と無月経を契機に診断に至ったラトケ嚢胞の一例. 第5回Osaka Hypothalamo-Pituitary Academic Meeting (OHPAM), 9月, 2015, 大阪.
11. 立花 功: 呼吸生理とCOPDの診断・治療について. 第5回北大阪呼吸リハビリテーション講習会, 9月, 2015, 大阪.
12. 笠山宗正: 総合医療における糖尿病・内分泌疾患診療の役

割. 第30回西宮市医師会病診連携懇談会, 9月, 2015, 西宮.

13. 佐藤文三：がん医療の現状と課題. 日本生命役員研修会, 9月, 2015, 大阪.
14. 仁科周平, 大畔健太, 住谷 哲, 古結敦士, 石井誠剛, 早川友朗, 宇都佳彦, 田村慶朗, 立花 功, 笠山宗正, 佐藤文三：糖尿病ケトアシドーシスを発症した若年肥満糖尿病患者の1例. 大阪大学代謝内分沁学第4研究室2015年度つながる会, 10月, 2015, 大阪.
15. 仁科周平：糖尿病と体脂肪の気になる関係. ニッセイ糖尿病フェア, 11月, 2015, 大阪.
16. 石井誠剛：右上葉に空洞形成を認めた20代女性. あわざクリニカルカンファレンス, 11月, 2015, 大阪.
17. 立花 功：慢性咳嗽の鑑別診断. あわざクリニカルカンファレンス, 11月, 2015, 大阪.
18. 笠山宗正：ステロイドホルモンとその疾患. 第26回Senshu Lifestyle SP Seminar, 12月, 2015, 泉佐野.
19. 笠山宗正：糖尿病の基礎知識～ならないための工夫、なった人のための秘訣. 大阪市西区老人福祉センター健康講座講演会, 12月, 2015, 大阪.
20. 佐藤文三：各種血液検査の診方. 大阪ロータリークラブ, 12月, 2015, 大阪.
21. 仁科周平, 大畔健太, 住谷 哲, 古結敦士, 石井誠剛, 宇都佳彦, 立花 功, 笠山宗正, 佐藤文三, 北野昌彦：中等用量のステロイド薬の継続投与を必要としたリンパ球性汎下垂体炎に対するシクロスポリン併用療法の試み. 大阪下垂体アカデミー, 2月, 2016, 大阪.
22. 立花 功：肺の生活習慣病-COPDの診断と治療. 桃谷生活習慣病フォーラム2016, 2月, 2016, 大阪.
23. 佐藤文三：医師(医療従事者)に求められるもの. 花乃井中学校倫理授業, 2月, 2016, 大阪.
24. 押野悟, 後藤雄子, 仁科周平, 笠山宗正, 藤本康倫, 齋藤洋一, 吉峰俊樹：ランレオチド術前投与例の検討. 先端巨大症Update, 3月, 2016, 大阪.
25. 新宮良介, 大野マリ子, 日浦義和, 辻 晋吾, 佐々木敏作, 笠山宗正, 藤井繁樹, 佐藤利彦, 牧野晋也, 森 滋喜, 山北哲也, 生水 晃, 宮本雅史：2型糖尿病患者に対するダバグリフロジンの安全性と有効性についての検討(第二報). 第9回大阪ベイサイドケアセミナー, 3月, 2016, 大阪.

研究助成・治験・臨床研究等 (研究助成)

1. 2型糖尿病合併COPD患者の臨床的特徴. 平成27年度大阪府医師会医学研究費助成 10万円(立花 功, 小瀬戸昌博, 住谷 哲, 田村慶朗)

(治験)

1. 日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社の依頼による基礎インスリンによる治療では血糖コントロール不十分な高齢2型糖尿病患者を対象として, リナグリプチン(5mgを1日1回経口投与)併用時の有効性及び安全性を検討する24週間, ランダム化, 二重盲検, プラセボ対照, 並行群間試験(日本は52週間投与)
2. 第一三共株式会社の依頼によるDS-5565第Ⅲ相国際共同試験-アジアにおける糖尿病性末梢神経障害性疼痛(DPNP)患者を対象とした14週間のプラセボ対照無作為化二重盲検試験及び52週間の非盲検長期投与試験-
3. 第一三共株式会社の依頼によるDS-5565第Ⅲ相試験-日本における腎機能低下を伴う糖尿病性末梢神経障害性疼痛患者もしくは腎機能低下を伴う帯状疱疹後神経痛患者を対象とした14週間の非盲検試験-

(臨床研究)

1. プレオマイシンを使用した心膜癒着術(田村慶朗)
2. 再発性リンパ球性下垂体炎に対するステロイド減量を目的としたシクロスポリンA投与に関して(仁科周平)

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診					森田貴		立花			
7診			田村	田中庸						
10診	住谷	住谷※⑤			小瀬戸	小瀬戸	宇都	田村		泉
11診	宇都	末村	三木	仁科周(2・4週)	立花	立花	三木	石井	住谷	鈴木
12診	小瀬戸	小瀬戸	佐藤文	佐藤文	佐藤文	佐藤文	住谷	住谷	小瀬戸	
13診	立花	立花	笠山		笠山		笠山	笠山		佐藤文(予約)

⑤ 2・4週は初診

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前	早朝カンファレンス	早朝カンファレンス	早朝カンファレンス	早朝カンファレンス	早朝カンファレンス
午後		抄読会	気管支鏡検査	症例検討会	病棟回診

表3 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
気管支鏡						○診				

○：当院診察が必要

表4 年度別外来・入院延べ患者数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
外来	25,492	27,590	28,967	30,388	32,268
入院	11,329	12,352	15,203	15,224	15,679

表5 H27.4～H28.3入院患者の疾患(上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
2型糖尿病	161	12
肺炎(誤嚥性肺炎を含む)	111	18
気管支および肺の悪性新生物	110	21
その他の間質性肺疾患	28	23
全身性結合組織疾患	26	38
下垂体疾患(下垂体機能低下症、クッシング病、先端巨大症など)	24	7
1型糖尿病	18	11
疾病および病態の疑いに対する医学的観察および評価	18	4
その他の副腎障害	16	5
その他の体液、電解質および酸塩基平衡障害	12	19

スタッフ 部長：中川雅史
担当部長：川上 学
副 部 長：石河 純、加藤るり
専 攻 医：田中庸弘（4～9月）



1. 診療内容

急性白血病・慢性白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫・骨髄異形成症候群などの血液悪性疾患と、溶血性貧血・再生不良性貧血・特発性血小板減少性紫斑病などの良性疾患まで、血液疾患を全般的に診療している。特に、再発・難治性悪性リンパ腫や多発性骨髄腫に対する自己末梢血幹細胞移植は20年以上の実績、97例（のべ104回）の症例経験を有する。その他、悪性リンパ腫を疑われ、生検の結果上皮性と判明した原発不明癌などの悪性腫瘍に対しての化学療法も行い、腫瘍内科としての診療も並行して行っている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

主として内科外来8・10診で外来診療を行った。そのほか適宜必要に応じ、外来化学療法や骨髄穿刺・生検・輸血などの診療も外来化学療法室や内科処置室において行われた。

2) 病棟体制（表2）

部長含め4名の常勤医にて診療を行った。当科が開催および参加したカンファレンスのスケジュールを表2に示す。

3) 検査スケジュール

骨髄穿刺・骨髄生検は、内科外来処置室および入院病床で行われ、主治医が検鏡診断するとともに必要時検討会にて判定された。

4) 外来化学療法

多くの化学療法レジメンは、入院治療に引き続き外来通院でも継続され、外来化学療法室スタッフや薬剤師との協力のもと施行された。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

外来患者数はのべ7,239名（昨年比+409）、1日平均29名、紹介患者数は月平均20名とほぼ安定していた。また、外来化学療法数は993件（昨年比-213）、1日平均4.0件で、院内全外来化学療法数の42.6%を占めた。

2) 入院診療実績（表3、4）

入院延べ数9,931名（昨年比+140）、1日平均27名の実績で、月平均の新入院患者数は25名であった。疾患の内訳を表4に示す。また、自己末梢血幹細胞移植は1例に施行され、開設以来実績は97例に達した。

3) 検査実績

平成27年度中に、骨髄穿刺は入院外来併せて230件（昨年比-16）施行された。全例、当科医師によって検鏡による診断がなされた。

4. 認定医・専門医など

日本内科学会総合内科専門医 2名

日本内科学会認定内科医 2名

日本血液学会専門医 4名

5. 業績

論文・著書

1. Kato R, Tamaki H, Ikegame K, Yoshihara S, Kaida K, Taniguchi K, Inoue T, Ishii S, Nakata J, Fujioka T, Eguchi R, Soma T, Okada M, Ogawa H : Early detection of cytomegalovirus-specific cytotoxic T lymphocytes against cytomegalovirus antigenemia in human leukocyte antigen haploidentical hematopoietic stem cell transplantation. Ann Hematol, 94(10) : 1707-1715, 2015.

学会発表

1. 石河 純, 加藤るり, 川上 学, 中川雅史 : 非典型的な転座切断点を持つため、通常の白血病キメラ遺伝子スクリーニングでは早期発見に至らなかった、Ph陽性急性リンパ性白血病（ALL）の一例。第209回日本内科学会近畿地方会, 9月, 2015, 大阪.
2. 川上 学, 佐藤和明, 加藤るり, 石河 純, 中川雅史 : Clinical results of azacitidine therapy for patients with MDS and AML-MRC in a single institution. 第77回日本血液学会学術集会, 10月, 2015年, 金沢.
3. 田中庸弘, 川上 学, 石河 純, 加藤るり, 中川雅史, 城光寺龍 : 慢性関節リウマチの治療中に発症し、メソトレキセート中止後に異型リンパ球増多を認めた悪性リンパ腫の一例。第211回日本内科学会近畿地方会, 3月, 2016, 京都.

研究助成・治験・臨床研究等

（臨床研究）

1. 多発性骨髄腫（加藤るり）
2. WT1ペプチド免疫療法の臨床試験に付随して行う ①「抗腫瘍関連免疫担当細胞の動態解析」および ②「癌抗原WT1に関連した臨床試験の臨床検体バンク」での検体保存（川上 学）

表 1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
8診	加藤	川上	石河		中川	中川	川上		中川	中川 (予約)
10診			中川 (予約)	中川 (1・3・5週)					交代 ※④	

④ 1週は加藤、2週は石河、3週は川上、4週は中川

表 2 カンファレンススケジュール

・症例検討会	(週 1 回)
・抄読会	(月 2 回)
・血液標本検討会	(適 宜)
・内科合同カンファレンス	(月 1 回)
・内科・地域合同症例検討会	(年 1 回)

表 3 年度別外来・入院延べ患者数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
外来	6,772	6,365	6,355	6,830	7,239
入院	9,639	8,168	9,843	9,791	9,931

表 4 H27.4～H28.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件 数	平均在院日数
悪性リンパ腫	105	31
骨髄性白血病	34	35
骨髄異形成症候群	30	32
多発性骨髄腫および悪性形質細胞性新生物	27	43
リンパ性白血病	22	39
紫斑病およびその他の出血性病態	10	34
リンパ組織、造血組織および関連組織の性状不詳または不明のその他の新生物	6	20
その他の無形成性貧血	6	41
胃の悪性新生物	4	26
肺炎（誤嚥性肺炎を含む）	4	9

神 経 内 科

スタッフ 部 長：浅野彰彦
担当部長：仁科拓也
副 部 長：佐藤智彦



1. 診療内容

神経内科部門は平成25年4月より循環器・神経内科から分離独立し医師二名で発足したが、同年6月より佐藤智彦が加わり3名体制で運営している。

めまいや痺れといった身近な症状の相談から、脳梗塞をはじめとする脳血管障害やパーキンソン病等の変性疾患に至るまで、様々な疾患の診断と治療に対応してきたが、入院対象となったのは脳梗塞・一過性脳虚血発作といった脳血管障害が最も多く、三番目のパーキンソン病との間に各種神経疾患の合併症である肺炎が入るという順序となっている。

脳梗塞後遺症や難病疾患（パーキンソン病・脊髄小脳変性症・筋萎縮性側索硬化症など）の在宅療養においては、地域の先生による往診での訪問診療や訪問看護スタッフと連携を密にして、病状の変化に柔軟に対応してきたが、今後ともより一層努力していく所存である。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

日勤帯のどの時間帯も神経内科医師が対応できるように分担している。当科の佐藤医師は救急診療センターも兼務となっており、救急要請に対しても柔軟に対応している。

2) 病棟体制

特に曜日・時間帯による担当医は決めていないが、三名の医師が互いをカバーする仕組みと、治療方針などについては三名の合議によってチームとして対応している。

3) 検査スケジュール

神経内科医師が単独で担当する予約検査は特に決めていないが、神経伝導検査・針筋電図など必要な検査は中央臨床検査部と各病棟などと連携して、適宜施行している。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表2）

循環器・神経内科の一部門として計算した時期が長く、神経内科単独のデータはまだ三年目であるが、延べ外来患者数は順調に増加している。また診療内容も一般内科疾患の割合が減少し、より神経内科疾患に特化した状況に変化している。

2) 入院診療実績（表2、3）

順調に新規入院患者数は増加しているが、平均在院日数の短縮により延べ入院患者数は減少している。

3) 検査実績

CT・MRA・RIなど各種検査は部門別の統計となっており、当科単独の実績としては計算していない。

4. 認定医・専門医など

日本神経学会の教育機関としての認定を受けている。

日本内科学会認定医 1名
日本内科学会総合内科専門医 1名
日本神経学会専門医 1名
日本循環器学会専門医 1名

5. 業績

論文・著書

1. 佐藤智彦, 仁科拓也, 浅野彰彦, 中嶋秀人, 木村文治: 抗甲状腺抗体陽性であったGerstmann-Straussler-Scheinker病の一例. 内科, 117: 163-167, 2016.

研究会発表

1. 藤本 雷, 佐藤智彦, 仁科拓也, 浅野彰彦: 右半身感覚異常で発症した延髄外側症候群の一例. あわぎクリニカルカンファレンス, 11月, 2015, 大阪.

表1 外来診療スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
5診	佐藤	仁科拓	浅野	仁科拓	仁科拓	佐藤智	浅野	佐藤智	浅野	浅野

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
外来	(22,375)	(21,156)	6,180※	6,053	6,641
入院	(19,359)	(16,420)	5,010※	5,879	5,055

※H25.4～神経内科を循環器内科・神経内科から分離新設

表3 H27.4～H28.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
脳梗塞	24	31
肺炎（誤嚥性肺炎を含む）	17	43
パーキンソン病	12	52
一過性脳虚血発作および関連症候群	12	14
神経系のその他の変性疾患、他に分類されないもの	7	66
遺伝性運動失調（症）	4	22
心不全	4	76
脳血管疾患の続発・後遺症	4	71
その他および詳細不明の原因による髄膜炎	3	6
前庭機能障害	3	30
その他の脳血管疾患	3	13
全身性結合組織疾患	3	19

スタッフ 部長：高橋 励
医長：青木保典



1. 診療内容

平成27年度は、従来の主な機能たる外来診療、入院診療、院内他科との連携に加え、院外との連携に関連する業務が増えた。

一般外来診療では、(1) うつ病・パニック障害などうつ病圏、(2) 全般的不安障害など神経症圏、(3) 適応障害などストレス関連疾患の、院内他科・院外の診療所からの紹介例が多い。近年は社会背景を反映して(3)の割合が増大しているため、当科が伝統的に大切にしてきた人格特性の把握・適切な心理教育など個別的な対応スキルの意義が高まっている。

専門外来診療は一般診療の枠内で時間を確保して行っている。(4)「慢性疲労（症候群）」(高橋)では、慢性疲労・一部の慢性疼痛など心身症（身体表現性障害）の紹介を受けている。これらは身体症状のみを訴え明らかな精神症状を呈さぬため、精神科では対応が難しいとされがちである。この対応スキルを有する当科は数少ない紹介先として機能しており、総合病院・大学病院からの紹介例もある。

もう一つの専門外来診療(5)「認知症」は向後の当科の主要業務といえ、3名の常勤医・非常勤医(高橋・青木・木藤)と1名の心理士(丸山)が協力して診療にあたっている。

入院診療は一般医療法に基づき、他科との混合病棟にて行っている。このため受け入れ得る症例は、ADLが概ね自立し行動制限の必要が無いことが前提である。昨今は総合病院精神科の入院病床が減少し、精神科病院が主であるため、前者への入院が望ましい症例の紹介先として機能している。前述の(1)うつ病圏、(2)神経症圏、(3)適応障害、一部の(5)認知症の他、てんかん、軽症の統合失調症などの加療実績がある。

院内他科との連携には、まず前述の(4)心身症が疑われ、心身の問題を一元的に特定できない症例の併診がある。他科入院患者が従来合併する精神疾患・新たに発症するせん妄・適応障害などへの対応(すなわち、コンサルテーション・リエゾン＝サービス,CLS)、さらに緩和ケアでの相談(コンサルテーション)・直接診療(リエゾン)等の業務も多い。

院外との連携を生かした診療として、まず(5)認知

症に関して、平成27年4月、5日間にわたりラジオ番組(朝日放送)で一般向けの講義を行った。また認知症懇話会(年3回)・認知症市民セミナー(年1回)の開催・医師会セミナーでの講演が定着した。これらを通して大阪市西部地区を中心に日生病院を中心とする診療所とのネットワークづくりを進め、症例の活発な紹介・逆紹介につながっている。

次に(6)産業精神医学分野では、いわゆるストレスチェックが平成28年度から全国レベルで各企業に義務付けられる。この準備のため産業医・精神科医の連携が強化され、このことが診療・産業保健活動の活発化につながっている。

その他、各病院主催の緩和ケア研修会の精神・心理部門への協力を引き続き行っている。

2. 診療体制

平成27年4月から木藤友実子が常勤から非常勤となり当面外来診療のみを担当するため、常勤は3名から2名(高橋 励(部長)、青木保典)になった。

1) 外来診療スケジュール(表1)

2診(必要に応じて3診)での完全予約制で行っている。初診患者様の受け入れは、あったかサポートセンターを経由する紹介を前提にお願いしている。当科診察は過密化する一方であり、診療時間の効率的な運用がますます重要になりつつあるためである。さらに治療の質向上のため、心理士によるカウンセリング(丸山)を行う症例もある。

2) 検査体制(表2)

当科独自の検査としては心理検査、脳波検査などがある。

まず心理検査では、一般分野では重症度(うつ状態など)の半定量的評価、性格・人格特性の定性的評価を引き続き行っている。認知症分野では、スクリーニング(認知症が疑われる症例の発見)から病態の特定(例としてアルツハイマー病と脳血管認知症を鑑別するための診断補助)へと検査の意義が進化し、検査バッテリーも充実し業務が増大している。

次に脳波検査は、従来に引き続いてんかん診療、

他科連携における症候性・器質性病態の推定において有用である。さらに青木は独自に開発した脳波分析手法により、難しい認知症の初期診断に有力な一石を投じた。この手法は、今後ハードウェアの整備により実臨床でのルーティン利用も可能である。青木は本業績により、日本精神神経学会の学会賞を受賞することになった。

その他、認知症の病態検査法として、従来脳血流SPECTが頻用されている他、頭部MRIの定量的計算法の導入を準備している。またアルツハイマー病のリスクファクターが生活習慣病のそれと大きく重なることから、初期認知症や軽度認知障害(MCI)の認知機能マネージメントのために生活習慣病モニタリング検査も活用している。また別に、当科では以前より認知機能低下の生理学的評価を積極的に行っている(例として、鑑別診断としてのパルスオキシメトリーの採用、注意機能を測定するソフトウェアの開発など)。

このように、多重的・総合的に認知症の診断精度を高める体制づくりを進めている。

3) 病棟体制

非常勤医を除き、外来診療担当医が入院加療をも受け持つ。2名の入院担当医が概ね10人前後の入院加療を行っている。

4) CLSおよび緩和ケア業務

現在は青木が中心になり、緩和ケア業務はCLS中に含めて行っている。心理士による「無菌室化学療法カウンセリング」も続けている。

5) 心理士業務体制

一般カウンセリング、一般検査、緩和ケア業務に加えて、認知症病態検査、認知症介護者に対するカウンセリングの準備など、質・量両面にわたり業務が著明で増大しており、まもなく増員の必要性が見込まれる。

6) 教育体制の診療体制への包含

①本年度より大阪大学医学部学生の実習を委嘱され開始している。これは実際の業務(外来診療・専門外来診療・入院診療・院内他科連携・心理検査・脳波検査)について、常勤医・非常勤医・心理士が各自の専門分野を分担して解説・講義を行った。

②当院における精神科前期研修には、従来最終レポート作成の過程にかかわり、やや手薄ともいえるが、本来この過程は研修協力病院(水間病院・藍野病院)で行われるのが建前であるためである。

さらに、新専門医制度の整備に際し、学会による以下の施設認定を取得見込みである。

③精神科を専門とする医師のための、日本精神神経学会専門医研修認定施設(協力型)。

④神経精神医学(精神医学のうち身体的問題が大きく関与する分野)のサブスペシャリティを目指す、さらに上級の精神科医師のための、日本総合病院精神医学会特定研修施設。

①～④の全てが有効に機能する可能性は早くとも2017年度以後と考えられるが、もしそうなれば精神科専門医を志す者が最大11年間にわたり断続的に当科診療にかかわりを持ちうるため、教育・診療間の有効なフィードバック、人材確保のありかたを展望しているところである。

3. 診療実績

1) 外来診療実績(表3)

平成26年7月の部員変更に伴い外来患者が一旦減少した後、患者数は反跳している。

2) 入院診療実績(表3、4)

入院数は外来数に対して維持程度に留まっている。総合病院精神科入院病床が減少し貴重である昨今、診療所とのさらなる連携強化が望ましいと考えている。

4. 認定医・専門医など

精神神経学会専門医(かつ指導医) 1名

精神保健指定医 1名

日本医師会認定産業医 1名

5. 業績

論文・著書

1. Aoki Y, Ishii R, Pascual-Marqui RD, Canuet L, Ikeda S, Hata M, Imajo K, Matsuzaki H, Musha T, Asada T, Iwase M, Takeda M: Detection of EEG-resting state independent networks by eLORETA-ICA method. Front Hum Neurosci. 10:9:31, 2015.
2. Aoki Y, Kazui H, Tanaka T, Ishii R, Wada T, Ikeda S, Hata M, Canuet L, Katsimichas T, Musha T, Matsuzaki H, Imajo K, Kanemoto H, Yoshida T, Nomura K, Yoshiyama K, Iwase M, Takeda M: Noninvasive prediction of shunt operation outcome in idiopathic normal pressure hydrocephalus. Sci Rep. 14:5:7775, 2015.

学会発表

1. 青木保典, 数井裕光, 田中稔久, 石井良平, 武者利光, 松崎晴康, 今城 郁, 池田俊一郎, 畑 真弘, 鐘本英輝, 吉山顕次, 岩瀬真生: 脳波NAT解析を用いた特発性正常圧水頭症における髄液シャント手術の効果予測. 第18回日本薬物脳波学会, 6月, 2015, 白浜.
2. Aoki Y, Roberto D, Pascual-Marqui, Ishii R, Kazui H, Iwase M, Yoshiyama K, Hata M, Imajo K, Matsuzaki H, Musha T: eLORETA-ICA resting state network activities of Dementia with Lewy bodies and their association with symptoms. Annual Conference on Clinical Neurophysiology and NeuroImaging, Munich, 9月, 2015, ミュンヘン.

3. 青木保典, 数井裕光, Roberto D. Pascual-Marqui, 石井良平, 岩瀬真生, 吉山顕次, 畑 真弘, 今城 郁, 松崎晴康, 武者利光: レビー小体型認知症におけるeLORETA-ICAによる安静時皮質回路活動量の検出とその脳機能との関連. 第45回日本臨床神経生理学会, 11月, 2015, 大阪.

研究会発表

1. 高橋 励: 講義と演習「精神症状」「コミュニケーション」. 多根総合病院緩和ケア研修会, 6月, 2015, 大阪.
2. 木藤友実子: 薬理作用から見たアルツハイマー治療薬の使い分け. 大阪認知症ネットワークミーティング, 6月, 2015, 大阪.
3. 高橋 励: 講義と演習「精神症状」「コミュニケーション」. 大阪府立急性期・総合医療センター緩和ケア研修会, 7月, 2015, 大阪.
4. 高橋 励: 新規睡眠薬スボレキサントの適応症例とは. 精神生理研究会, 8月, 2015, 大阪.
5. 高橋 励: 認知症の診断をめぐる諸問題. 公益財団法人大阪ガスグループ福祉財団 主催市民セミナー, 9月, 2015, 大阪.
6. 高橋 励: 産業場面における精神医療の現代的実例- 現代うつ病を中心に. ニッセイ=ニュー=クリエーション安全衛生委員会主催セミナー, 10月, 2015, 大阪.
7. 高橋 励: 講義と演習「精神症状」「コミュニケーション」. 大阪赤十字病院緩和ケア研修会, 10月, 2015, 大阪.
8. 高橋 励: 現代うつ病をどう分類し, 対応するか- 予後につながる特徴を探る. 病院精神科医・産業医メンタルケア研究会, 12月, 2015, 大阪.
9. 高橋 励: 認知症とはどんな病気か- 特に自動車運転について. 公益財団法人日本生命済生会主催ニッセイ認知症医療介護セミナー, 2月, 2016, 大阪.
10. 木藤友実子: 認知症を理解する. 西区認知症高齢者支援地域連携事業, 3月, 2016, 大阪.

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	高橋		木藤		高橋		江川	江川	高橋	高橋
2診	青木		青木	青木	木藤	木藤	木藤		青木	

表2 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
脳波	○ 診			○ 診	○ 診	○ 診	○ 診	○ 診		
心理テスト	○ 診	○ 診			○ 診	○ 診	○ 診	○ 診	○ 診	○ 診

○: 当院診察が必要

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
外来	15,808	15,708	15,618	15,008	15,568
入院	5,306	5,049	6,661	5,267	4,072

表4 H27.4~H28.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
うつ病エピソード	47	40
双極性感情障害<躁うつ病>	8	55
その他の不安障害	7	60
詳細不明の認知症	6	63
身体表現性障害	4	63
アルツハイマー<Alzheimer>病	3	29
統合失調症	2	21
重度ストレスへの反応および適応障害	2	105
アルツハイマー<Alzheimer>病の認知症(G30-+)	1	14
その他の軟部組織障害、他に分類されないもの	1	65
悪心および嘔吐	1	8
傾眠、昏迷および昏睡	1	42

小 児 科

スタッフ 部 長：赤木幹弘
 部長代行：中西康詞（～4月）
 副 部 長：石川依子（12月～）
 医 員：石川依子（～11月）、田窪翔子（～9月）



1. 診療内容

当科では感染症を中心とした一般小児科診療と院内出生児の診療を行っている。各医師の専門性から、小児神経・代謝疾患、小児内分泌疾患、アレルギー疾患を中心に診療してきた。

平成27年度は赤木部長、中西部長代行、石川医員と田窪医員の体制で始まったが、4月に中西部長代行、9月に田窪医員が退職し12月に石川医員が副部長に昇格した。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

平成27年10月以降の外来診療スケジュールを表1に示した。

2) 病棟体制

病床数は一般病棟9床、新生児病棟7床である。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表2）

外来患者数は8,656人と前年度から648人増となった。

2) 入院診療実績（表3、4）

入院患者数は3,261人と前年度から1,474人増となった。過去5年間では最高である。表にはでていないが、川崎病、ネフローゼ症候群、シェーンライン・ヘノッホ紫斑病、ムンプス髄膜炎、自己免疫性好中球減少症、自己免疫性肝炎等の診療実績がある。

4. 認定医・専門医など

日本小児科学会専門医 1名
 日本小児神経学会専門医 1名
 日本感染症学会専門医・指導医 1名
 ICD 1名

5. 業績

研究会発表

1. 赤木幹弘：小児科の日常外来で経験する入院を必要とする疾患、ニッセイ医学セミナーUpDate, 6月, 2015. 大阪.

表1 外来診療スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	赤木	石川 (予約 乳幼児 健診)	赤木	池原 (予約 予防 注射)	池原		赤木	池原 (予約 アレルギー)	赤木	交代 (予約 1ヶ月 健診)
2診	石川		石川		赤木		石川	赤木 (予約 神経・ 代謝 内分泌)	石川	

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
外来	11,067	10,092	8,902	8,008	8,656
入院	2,204	1,762	780	1,787	3,261

表3 H27.4～H28.3 小児科入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件 数	平均在院日数
肺炎	92	6
急性気管支炎	34	5
部位不明のウイルス感染症	25	5
喘息	22	5
ウイルス性およびその他の明示された腸管感染症	21	4
皮膚および粘膜病変を特徴とするその他のウイルス感染症、他に分類されないもの	21	5
尿路系のその他の障害	16	6
急性鼻咽頭炎	15	5
部位不明の細菌感染症	12	5
その他の細菌性腸管感染症	11	5

表4 H27.4～H28.3 新生児入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件 数	平均在院日数
その他および詳細不明の原因による新生児黄疸	27	4
新生児の呼吸窮<促>迫	21	7
妊娠期間短縮および低出生体重に関連する障害、他に分類されないもの	14	12
周産期に特異的なその他の感染症	14	5
周産期に発生したその他の呼吸器疾患	12	7
現在の妊娠とは無関係の場合もありうる母体の病態により影響を受けた胎児および新生児	10	7
周産期に発生したその他の病態	5	11
出産時仮死	4	1
新生児吸引症候群	4	3
周産期に発生した間質性気腫および関連病態	4	1
新生児の細菌性敗血症	4	4
胎児および新生児に特異的な一過性糖質代謝障害	4	7

スタッフ 部長：道清 勉
担当部長：藤井 眞（～12月）
副 部 長：森田哲史（～9月）
医 長：原 譲次、山下晋也（10月～）



1. 診療内容

当科は、消化器外科ならびに一般外科の手術治療を中心に診療を行っている。頻度の多い疾患としては、胃癌、大腸癌などの悪性疾患、胆のう炎、虫垂炎、イレウスなどの急性腹症、胆石症や単径ヘルニアなどの良性疾患などである。その術式は、低侵襲治療として、腹腔鏡手術を積極的に導入しており、平成25年4月からは、早期胃癌には完全鏡視下の腹腔鏡下幽門側胃切除術を行っている。また、大腸癌に対しては、周囲への浸潤のない進行度であれば、原則として、腹腔鏡補助手術を行っている。虫垂炎や胆石症に対しても、腹腔鏡手術を第一選択として行っている。

手術以外には、緩和治療、消化管癌化学療法にも積極的に取り組んでいる。

緩和診療科と協力して、大量胸水、腹水に対して、CART治療も行っている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

外科外来1～3診で、表のような予定で外来診療を行っている。院内／院外からの時間内の緊急診療の依頼には原則、断らない対応をしている。

2) 病棟体制（表2）

表2の通りである。

研修医1名と常勤医3名が病棟診療を担当している。緊急の業務は、外来診察、検査、手術などの担当でない者が病棟代理として対応している。

3) 検査スケジュール（表3）

上部内視鏡検査：毎週月曜日、木曜日の午前

下部内視鏡検査：毎週月曜日、水曜日の午後

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表4）

外来患者数は表4の通りである。

2) 入院診療実績（表4、5）

入院患者数は表4の通りである。

手術症例の内訳は、全身麻酔161例、腰椎麻酔28例、局所麻酔22例であった。

主な悪性腫瘍手術は、胃癌18例、結腸癌22例（内10例が腹腔鏡手術）、直腸癌10例（内6例が腹腔鏡手術）であった。

主な良性疾患手術は、胆石症、胆嚢炎、胆嚢ポ

リープ、胆嚢腺筋症が45例（内40例が腹腔鏡手術）、ヘルニア（単径、大腿、腹壁癒痕、閉鎖孔）37例、虫垂炎17例（内12例が腹腔鏡手術）、痔核11例であった。胆嚢の手術では、クリップなどの異物を遺残させない上質の腹腔鏡下胆嚢摘出術も行っている。急性虫垂炎に対しても腹腔鏡手術の適応を増やし、低侵襲手術を一層充実させている。

3) 検査実績

上部消化管内視鏡検査、下部消化管内視鏡検査を行っている。

4. 専門医・指導医など

日本外科学会専門医	4名
日本外科学会指導医	1名
日本消化器外科学会専門医	2名
日本消化器外科学会指導医	2名
日本消化器病学会専門医	1名
日本大腸肛門病学会専門医	1名

5. 業績

学会発表

1. 道清 勉, 山下晋也, 原 譲次, 藤井 眞：腸切除の有無からみた絞扼性イレウスの検討. 第77回日本臨床外科学会総会, 11月, 2015, 福岡.

研究会発表

1. 青山礼華, 道清 勉, 原 譲次, 森田哲司, 藤井 眞：S状結腸憩室穿孔の1例. 第605回大阪外科集談会, 5月, 2015, 大阪.
2. 藤井裕美, 道清 勉, 原 譲次, 森田哲司, 藤井 眞：急性胆嚢炎を併発した陶器様胆嚢の1例. 第606回大阪外科集談会, 7月, 2015, 大阪.
3. 佐竹祐人, 道清 勉, 原 譲次, 森田哲司, 藤井 眞：回腸に炎症が波及したS状結腸憩室炎の1例. 第607回大阪外科集談会, 9月, 2015, 大阪.
4. 竹本有花, 原 譲次, 山下晋也, 藤井 眞, 道清 勉：小腸穿孔を契機に発見された悪性リンパ腫の1例. 第608回大阪外科集談会, 11月, 2015, 大阪.
5. 平社亜沙子, 山下晋也, 原 譲次, 道清 勉：術中透視下に出血部位を同定した特発性小腸出血の1例. 第609回大阪外科集談会, 1月, 2016, 大阪.

研究助成・治験・臨床研究等

（臨床研究）

1. 腹部外科手術におけるアスピリン継続投与研究（道清 勉）
2. 胃切除患者に対する積極的な栄養介入効果に関するランダム化比較試験（道清 勉）
3. 胃癌術後炎症反応に関する多施設共同後ろ向き調査研究（道清 勉）

4. 再発危険因子を有するStageⅡ大腸癌に対するUFT/LV療法の臨床的有用性に関する研究（森田哲史）
5. 胃切除症例におけるピロリ菌感染率及び自然除菌率の前向き研究（道清 勉）

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	道清	道清 (予約)					道清 (2・4週)			
2診			手術	手術		検査 南 (1・3・5週)	回診	手術	手術	
3診			交代	交代	山下	交代	原	交代	交代	交代

表2 診療体制

	月	火	水	木	金
午前	早朝術後回診	早朝術後回診	早朝術後回診		早朝術後回診
午後				部長回診、 術前術後症例検討	

表3 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
上部内視鏡	○ 紹・予						○ 紹・予			
下部内視鏡		○ 紹・予				○ 紹・予				

○：当院診察が必要

表4 外来・入院延べ患者数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
外来	5,763	5,088	4,729	4,327	3,776
入院	7,162	7,578	5,869	5,639	4,106

表5 H27.4～H28.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
胆石症	36	13
結腸の悪性新生物	34	15
そけいく巣径ヘルニア	31	9
胃の悪性新生物	24	19
急性虫垂炎	23	11
直腸の悪性新生物	21	19
悪性新生物治療後の経過観察検査	13	1
結腸、直腸、肛門および肛門管の良性新生物	10	2
消化器系のその他 および部位不明確の良性新生物	9	9
麻痺性イレウスおよび腸閉塞、 ヘルニアを伴わないもの	9	18
消化器系の処置後障害、他に分類されないもの	9	12

結腸の悪性新生物

疾患名	件数	平均在院日数
下行結腸の悪性新生物	14	15
横行結腸の悪性新生物	7	13
虫垂の悪性新生物	4	25
S状結腸の悪性新生物	3	19
盲腸の悪性新生物	2	8
上行結腸の悪性新生物	2	14
上行－横行結腸の悪性新生物	2	6

直腸の悪性新生物

疾患名	件数	平均在院日数
直腸S状結腸移行部の悪性新生物	15	17
直腸の悪性新生物	6	26

呼 吸 器 外 科

スタッフ 特任副院長兼部長：前田 元（1月～）



1. 診療内容

平成28年1月より診療を開始した。現在1名体制であり、手術時には大阪大学呼吸器外科教室より応援医師の派遣を依頼している。

対象疾患としては肺癌が最も多く、総合内科で診断および病期判定を行った後に紹介されるケースがほとんどである。その他の疾患としては、自然気胸、転移性肺腫瘍、肺真菌症、縦隔腫瘍、膿胸などである。胸腔鏡下手術を主体に行っている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

2) 病棟体制（表2）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

2) 入院診療実績（表3、4）

4. 認定医・専門医など

日本外科学会指導医・専門医 1名

日本胸部外科学会指導医 1名

日本呼吸器外科学会指導医・専門医 1名

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
2診	前田	前田					前田 (1・3週)			

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前			手術		
午後			手術	病棟回診 カンファレンス	

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	平成27年度
外来	45
入院	133

※H28.1～呼吸器外科を新設

表4 H28.1～H28.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
気管支炎および肺の悪性新生物	2	15
気胸	2	11
呼吸器および消化器の続発性悪性新生物	1	22
悪性リンパ腫	1	15
膿胸（症）	1	17
他に分類される疾患における呼吸器障害	1	20

乳 腺 外 科

スタッフ 部 長：西田幸弘
嘱 託：中内千暁
専攻医：重里昌子



1. 診療内容

1) 紹介

平成20年10月より開設致した。平成22年4月より
大阪大学乳腺内分泌外科より医局員の派遣を得て、
2名体制となる。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

3. 診療実績

乳癌検診に関しては、マンモグラフィーと超音波検査を初診当日に施行し即日結果を出すことで、正常の方は1日で診察終了となる。腫瘍のある方は当日中に細胞診等を施行し1週間後には結果を出すシステムである。治療に関しては、専任のがん化学療法看護認定看護師常駐の外来化学療法センターにて、術前・術後ともに通院での外来化学療法を行う。専任医師による放射線療法は、温存療法後、再発、転移すべてに対応する。手術に関しては術前化学療法が必要かの判断後、乳房温存術、全摘術を施行し、必要に応じて再建術にも対応する。再建術は大阪大学形成外科医局の協力のもと医員を得て一期的同时再建を施行している。RI+色素法によるセンチネルリンパ節生検でより確実な診断を目指す。診断部門では微細な石灰化に対する診断としてマンモトーム生検も実施している。乳癌看護認定看護師も在籍している。

1) 外来診療実績（表3）

2) 入院診療実績（表3、4）

3) 統計

2015年の外来化学・分子標的療法は80～100例／月、超音波・マンモグラフィーは約160例／月、手術数は103例（うち二期的再建8例）、ステレオガイド下マンモトーム生検は14例／年。

4. 認定医・専門医など

日本乳癌学会認定医 2名
がん治療認定医 1名
日本消化器外科学会認定医 1名
マンモグラフィ検診精度管理中央委員会
マンモグラフィ読影認定医 3名
日本外科学会専門医 2名

5. 業績

学会発表

1. Nakauchi C: Development of a prediction model for lymph node metastasis in each subtype breast cancer. 4th Okayama Translational Research Summit, 4月, 2015, 岡山.
2. 西田幸弘, 橘高信義, 中内千暁, 園延昌子, 畠山明子, 大島千春, 水越 梓: 当院での妊娠・授乳期乳癌の検討. 第23回日本乳癌学会学術総会, 7月, 2015, 東京.
3. 西田幸弘, 橘高信義, 中内千暁, 園延昌子, 畠山明子, 大島千春, 水越 梓: 妊娠期乳癌の1例. 第13回臨床腫瘍学会, 7月, 2015, 札幌.
4. 園延昌子, 西田幸弘, 中内千暁, 畠山明子, 大島千春, 水越 梓: Paclitaxel, Bevacizumab併用療法によるlong SDを継続している一例. 第77回臨床外科学会, 11月, 2015, 福岡.

研究会発表

1. 西田幸弘: 乳がん検診と最新の話題. ニッセイ市民健康セミナー, 5月, 2015, 大阪.
2. 園延昌子, 西田幸弘, 中内千暁: 当院におけるBEV+PTX療法による長期SDの経験. CBCS, 5月, 2015, 大阪.
3. 西田幸弘: 遺伝性乳癌を疑われる児希望の若年乳癌の経過. EKB2, 8月, 2015, 大阪.
4. 西田幸弘: 乳がんの現状・予防法・検診について. ニッセイ乳癌セミナー, 日本生命保険相互会社 京阪支社, 11月, 2015, 枚方.

研究助成・治験・臨床研究等

（臨床研究）

1. 新規乳癌症例を対象にした再発予後予測法「Curebest 95GC Breast」による治療方針決定に関わる検査の導入（中内千暁）

表1 外来診療スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	手術	手術	西田	西田	中内	中内 (検査・手術)	中内	中内	西田	西田
2診			重里	重里					重里	重里

表 2 外来・病棟体制

	月	火	水	木	金
午前	手術				
午後	手術		検査 超音波・ステオ ガイド下吸引生検	回診 検討会 抄読会	

表 3 外来・入院延べ患者数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
外来	4,333	4,573	4,766	4,222	4,737
入院	1,267	1,587	2,094	1,781	1,834

表 4 H27.4～H28.3－入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件 数	平均在院日数
乳房の悪性新生物	188	9
乳房の良性新生物	13	2
乳房の画像診断における異常所見	11	2
悪性リンパ腫	3	2
その他の部位の続発性悪性新生物	2	3
乳房の上皮内癌	2	9
乳房の炎症性障害	2	3
感染症と推定される下痢および胃腸炎	1	5
甲状腺の悪性新生物	1	2
皮膚のその他の良性新生物	1	2
その他の部位および部位不明の良性新生物	1	2
乳房のその他の障害	1	2

整 形 外 科

スタッフ 部 長：松井 稔（リハビリテーション室長兼務）
副部長：友永真人、緒方正明
医 長：秋本泰芳（～8月）



1. 診療内容

当科は、関節外科・骨折外傷を2本柱として診療を行ってきた。

関節外科では膝および股関節の関節症や関節リウマチに対して人工関節手術や外来での保存療法をおこなってきた。特に人工関節の進歩はめざましく、耐用性にすぐれたセラミックやクロスリンクポリエチレンなど最小侵襲手術などをとりいれ患者様の負担を最低限にしている。

外傷では高齢者の骨折がいぜんとして増加しており、手術だけでなく圧迫骨折の入院加療にも対応してきた。ロコモティブシンドロームが世間に徐々に認知されつつあり、この領域の診療は今後必要不可欠で力を入れていくべき分野だと考えられる。

また、当科はリハビリテーション室と密接に連携して早期退院・早期社会復帰を目標に治療に当たっている。そのため、手術患者に対しては手術前からリハビリテーションをおこなうだけでなく、術後もできるかぎり早期から集中して運動療法をおこなってきた。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

整形外科1、2診で外科治療を行った。

2) 病棟体制（表2）

病床数は30、常勤医3名（10月より4名）が担当し診療を行った。

3) 検査スケジュール（表3）

脊髄造影（金曜日午後）

関節造影（木曜日午後）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表4）

スタッフのがんばりもあり、外来患者数は微増した。

2) 入院診療実績（表4、5）

スタッフがいちどに入れ替わり、その影響で入院患者数は減少した。

4. 認定医・専門医など

日本整形外科学会認定リウマチ医 1名
日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション認定医 1名
日本整形外科学会認定整形外科専門医 1名

5. 業績

研究会発表

1. 松井 稔：一生自分の足で歩くために～整形外科のロコモ対策～. 日生病院市民講座, 9月, 2015, 大阪.

研究助成・治験・臨床研究等（治験）

1. 塩野義製薬株式会社の依頼による慢性疼痛患者を対象としたS-8117のオープンラベル試験

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	友永 (再診)		松井 (初診)	特 診 関節外来 松井 (予約)	手術		友永 (初診)		松井 (再診)	松井 (予約)
2診	緒方 (初診)	手術			交代 (初診)	手術	緒方 (再診) ※①		緒方 (初診)	特 診 股関節 外来 手術
リハ診	交代		交代		交代		交代		交代	
他			辻※②							回診

① 2・4週のみ ② 乾癬関節外来 場所は皮膚科2診

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前					抄読会
午後				部長回診	術前カンファ

表3 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
脊髄造影										○
関節造影								○		

表4 年度別外来・入院延べ患者数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
外来	17,803	17,031	14,359	12,257	12,548
入院	9,502	10,041	9,009	10,255	9,379

表5 H27.4～H28.3入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件 数	平均在院日数
膝関節症	61	41
大腿骨骨折	40	47
整形外科的経過観察ケア	38	5
肩および上腕の骨折	22	18
腰椎および骨盤の骨折	21	30
前腕の骨折	19	22
脊柱障害	18	19
下腿の骨折、足首を含む	16	37
股関節症	10	42
その他の関節リウマチ	5	38
肋骨、胸骨および胸椎骨折	5	18

スタッフ 部長：東山眞里
医 員：西本知子
専攻医：伊賀佐紀
専攻医：横井一範



1. 診療活動

西区では数少ない重症皮膚疾患の入院治療が可能な施設である。乾癬やアトピー性皮膚炎、結節性痒疹、円形脱毛症、尋常性白斑、強皮症などの難治性疾患、皮膚外科、小児皮膚疾患、高齢者皮膚疾患、分子標的抗ガン剤による皮膚障害及び皮膚疾患全般について質の高い医療の提供を目指す。大阪大学皮膚科学教室や、その関連病院と密な連携をとり病院間及び病診連携を重視している。皮膚疾患患者のQOLを尊重し病気の悪化や再発の防止を目標にきめ細かい生活指導に力を入れている。11月11日に「皮膚の日の催し」として患者対象の学習会を皮膚科医師と看護師で開催。スキンケア・足の皮膚疾患などにつき講演した。

医療設備：薬浴室（外来、病棟とも）、全身型紫外線照射装置（UVA、UVB、ナローバンドUVB）、エキシマライト、凍結療法（スプレー式）、表在超音波装置

2. 診療内容

専門外来：【乾癬外来】月平均新患者数は10名で再診は延べ300名余り。(1) 1.外用療法 2.光線療法（入浴PUVA療法またはナローバンドUVB照射-全身型、エキシマライト）3.内服療法（レチノイド、シクロスポリンA）4.生物学的製剤も導入。これらより個々の患者に最適な治療を選択(2) 扁桃炎・高脂血症・糖尿病など乾癬を悪化要因や心血管系イベントを含む併存症につき精査。(3) 重症、難治例にはアダリムマブ、インフリキシマブ、ウスチキヌマブ、セクキヌマブなどの生物学的製剤を積極的に導入し特に乾癬性関節炎にも奏効。入院、外来とも可能。乾癬に関する臨床治験や臨床研究も行っている。(4) 乾癬性関節炎は整形外科医と診断・治療につき連携。2013年より関節エコーを用い早期診断の向上をはかっている。(5) 療養を支援する場として大阪大学皮膚科学教室と協力して大阪乾癬患者友の会の事務局も務める。定期的に学習会も開催。【アトピー外来】重症例では光線療法やシクロスポリン療法も併用。悪化原因の精査、スキンケア指導、関連科との連絡を密に総合的

に診療を行う。QOLを尊重し病気の悪化や再発の防止を目標にきめ細かい生活指導に力を入れている。【エキシマ】308nmのエキシマライトを用いて難治な爪乾癬・尋常性乾癬・アトピー性皮膚炎・尋常性白斑・環状肉芽腫などの治療を行い良好な結果を得ている。

【皮膚外科外来】良性悪性腫瘍、ケロイド、褥瘡、糖尿病性壊疽などは形成外科医と協力し治療。

3. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

外来診療 主治医制で再診は予約制。

原則3診体制で診療。初診外来あり（月、水曜は東山担当）。再診外来は月～金（午前）。専門外来：乾癬外来は火（午前・午後）、木（午後）、全予約制（初診原則として不可）。アトピー外来は木・金（午前）。

手術：水曜午前は局所麻酔、金曜午後は形成外科医の協力のもと全麻・腰麻を含む手術

2) 病棟体制

病棟担当医は常勤医3名で、主治医となって診療を行った。新入院患者数は24名/月、入院のべ患者数は3,821名、1日平均10名で、帯状疱疹、重症乾癬、アトピー性皮膚炎、蜂窩織炎、薬疹、多型紅斑、丹毒、皮膚良性腫瘍、自己免疫性水疱症など

3) 検査スケジュール（表2）

月曜・水曜の午後にパッチテスト・光線テスト・皮膚生検などを行っている。

表在エコー検査は随時。

4. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

平成27年度の外来延べ患者数26,005、1日平均106名。紹介患者数 47名/月。

年間手術件数211件（全身、腰椎、麻酔手術含む）

2) 入院診療実績（表3、4）

3) 検査実績

皮膚生検数 300件/年

5. 認定医・専門医など

日本皮膚科学会認定皮膚科専門医：1名

6. 業績

論文：4編（英文1）、単行書：1、雑文：1

学会発表：12演題（日本皮膚科学会総会・日本皮膚科学会・大阪地方会、日本乾癬学会などに発表。）

研究会と講演会：18演題

論文・著書

1. J Rheumatol : 42 (8) : 1439-1442, 2015.
Prevalence and clinical characteristics of psoriatic arthritis in Japan Short title : Psoriatic arthritis in Japan
Authors : Ohara Y^{1*}, Kishimoto M^{1*}, Takizawa N², Yoshida K³, Okada M¹, Eto H⁴, Gautam Deshpande¹, Christopher Ritchlin⁵, Tanaka A⁶, Higashiyama M⁷, Matsui K², and Tsuji S⁸.
2. 横井一範, 大川たをり, 吉岡(伊賀)佐紀, 高橋玲子, 東山眞里, 小瀬戸昌博, 笠山宗正: 顎跛行を呈した側頭動脈炎の1例. 日生病院医学雑誌, 第43巻 第1号, p27-31, 2015.
3. 東山眞里: 小児によく見る皮膚疾患—尋常性白斑. 小児科診療, 第78巻 11号, p1485-1488, 2015.
4. 東山眞里: プラタナス巻頭言: かけはし. 日本医事新報, NO4756, p3, 6月, 2015.
5. 伊藤寿啓, 安部正敏, 島田辰彦, 菅井順一, 東山眞里, 根本治: 尋常性乾癬治療の対する患者自覚症状・外用療法の治療実態調査. 臨床医薬, 第31巻 11号, 1029-1039.

単行書

1. 幼小児によくみられる皮膚疾患アトラス 鑑別と治療のポイント 外用薬の種類と使い方: 4. ビタミンD3の使い方: 東山眞里: 横関博雄, 片山一朗編, 大阪・東京, 医薬ジャーナル社, 2015年2月出版, p195-200.

学会発表

1. 伊賀佐紀, 横井一範, 西本知子, 大川たをり, 東山眞里, 川上學, 中川雅史(同・血液内科): 多発性骨髄腫に伴う全身性アミロイドーシスの1例. 第449回大阪地方会, 5月, 大阪市.
2. 東山眞里, 大川たをり, 溝口奈穂, 高橋玲子: シクロスポリンによりB型肝炎の再活性化をきたした膿疱性乾癬. 第114回日本皮膚科学会総会, 5月, 2015, 横浜市.
3. 東山眞里: 乾癬治療新時代QOLの向上をめざして—病診連携の重要性. 第31回日本臨床皮膚科医会ジョイントシンポジウム, 6月, 2015, 網走市.
4. 横井一範, 伊賀佐紀, 西本知子, 東山眞里(日生病院), 小瀬戸正博(同・総合内科): 当院で経験した側頭動脈炎の4例. 第108回近畿皮膚科集談会, 7月, 2015, 京都.
5. 伊賀佐紀, 横井一範, 西本知子, 東山眞里: 低用量シクロスポリン投与中にHBVの再活性化による肝炎を発症した膿疱性乾癬の1例. 第30回日本乾癬学会, 9月, 2015, 名古屋市.
6. 東山眞里¹⁾, 川田 暁²⁾, 片山一朗³⁾, 松田洋昌²⁾, 谷 守³⁾, 室田浩之³⁾, 岡本祐之⁴⁾, 山崎文和⁴⁾, 鶴田大輔⁵⁾, 森脇真一⁶⁾, 戸田憲一⁷⁾, 庄田裕紀子⁸⁾, 辻 成佳⁹⁾, 樽谷勝仁¹⁰⁾, 日生病院¹⁾, 近畿大学²⁾, 大阪大学³⁾, 関西医科大学⁴⁾, 大阪市立大学⁵⁾, 大阪医科大学⁶⁾, 北野病院⁷⁾, 住友病院⁸⁾, 大阪南医療センター⁹⁾, 近畿中央病院¹⁰⁾: アダリムマブ投与下における乾癬患者のメタボリック症候群関連危険因子の変動評価—大阪地区における多施設共同研究(中間報告). 第30回日本乾癬学会, 9月, 2015, 名古屋市.
7. 西本知子, 横井一範, 伊賀佐紀, 西本知子, 東山眞里: 栄養障害型紅斑症. 第66回日本皮膚科学会大中部支部総会, 10月, 2015, 神戸市.
8. 横井一範, 伊賀佐紀, 西本知子, 東山眞里(日生), 細野研二,

赤羽 誉(同・耳鼻咽喉科): 当院における掌跖膿疱症82例の検討. 第451回大阪地方会, 10月, 2015, 大阪市.

9. 横井一範, 平野亜由子, 伊賀佐紀, 西本知子, 東山眞里: レボフロキサシンによる固定薬疹の2症例. 第45回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会, 11月, 2015, 松江市.
10. 伊賀佐紀, 横井一範, 西本知子, 東山眞里(日生), 仁科周平(同・総合内科): 消化管穿孔を合併したIgA血管炎の1例. 第453回大阪地方会, 2月, 2016, 高槻市.
11. 横井一範, 平野亜由子, 伊賀佐紀, 西本知子, 東山眞里, (総合内科)古結敦士, 小瀬戸昌博: 「顔面に紫斑を呈した血管炎の1例」. 第79回日本皮膚科学会東京, 東部支部合同学術大会 2月, 2016, 新宿区.

講演会

1. 東山眞里: EGFR-TKIの皮膚障害対策—症例を中心に Bridge Conference for Dermatologists and Oncologists, 4月, 2015, 大阪市.
2. 東山眞里: 乾癬の病態と治療: 乾癬: 疾患と治療に関する市民公開講座. 4月, 2015, 大阪市.
3. 東山眞里: 乾癬治療up to date—乾癬患者のQOL向上をめざして. ドボベツト学術講演会, 6月, 2015, 倉敷市.
4. 東山眞里: 乾癬はどんな病気? 病態と治療. 大阪乾癬患者友の会第33回学習懇談会, 6月, 2015, 大阪市.
5. 東山眞里: 乾癬治療up to date—乾癬患者のQOL向上をめざして. 山口エリア乾癬ワークショップ, 6月, 2015, 山口市.
6. 東山眞里: EGFR-TKIのRash Managemtとチーム医療—皮膚科医の立場より. 第8回大牟田肺病セミナー, 7月, 2015, 大牟田市.
7. 東山眞里: 乾癬治療の新展開—QOL向上をめざして. 第178回福山皮膚科医会学術講演会, 9月, 2015, 福山市.
8. 東山眞里: 乾癬治療の新展開—QOL向上をめざして. 第331回呉皮膚科医会, 10月, 2015, 呉市.
9. 東山眞里: EGFR-TKIの皮膚障害対策. 第2回Bridge Conference for Dermatologists and Oncologists, 11月, 2015, 大阪市.
10. 東山眞里: 乾癬治療—ちょっといい話—. 大阪乾癬患者友の会第34回学習懇談会, 11月, 2015, 京都市.
11. 東山眞里: 当科におけるアダリムマブ投与中の患者における結核に関連の症例3例. 乾癬薬物治療勉強会, 11月, 2015, 大阪市.
12. 東山眞里: 乾癬患者のQOL向上をめざして—患者さんが何を望み, どう接するのか?. Face to Face Meeting, 11月, 2015, 大阪市.
13. 東山眞里: 乾癬治療の新展開QOLの向上をめざしたチーム医療と病診連携. 第5回二上山難治性皮膚疾患研究会, 2月, 2016, 大阪市.
14. 東山眞里: 感染症対策—乾癬の生物学的製剤治療における感染対策. Psoriasis safety management workshop—肝炎・乾癬エキスポから学ぶ, 2月, 2016, 大阪市.
15. 東山眞里: シクロスポリン投与中におけるHBVの再活性化—投与前と投与中に留意すること. 第2回ネオオールの適正使用と副作用マネジメントを考える会, 3月, 2016, 大阪市.
16. 東山眞里: QOLの向上をめざした乾癬治療—外用療法から生物学的製剤まで. 八幡皮膚科泌尿器科医会学術講演会, 3月, 2016, 北九州市.
17. 東山眞里: 皮膚は内臓の鏡. 平野区医師会学術講演会, 3月, 2016, 大阪市.
18. 東山眞里: 長期ネオオールの投与中の尋常性乾癬患者におけるセキヌマブへの切り替えについて. Expert Roundtable Meeting in Osaka, 3月, 2016, 大阪市.

研究助成・治療・臨床研究等

(研究助成)

1. 東山眞里^{1,2)}, 河合修三³⁾, 山田秀和²⁾, 磯ノ上正明²⁾, 寺尾祐一²⁾, 平山公三²⁾(¹⁾日本生命済生会付属日生病院, ²⁾大阪皮膚科医会):

QOL向上をめざした乾癬治療～病診連携の必要性・重要性～、平成27年度（第39回）大阪府医師会医学会総会、11月、2015、平成25年度大阪府医師会医学会医学研究奨励費助成研究、大阪市。

（治験）

1. 日本イーライリリー株式会社の依頼による中等症から重症の日本人乾癬患者を対象としたLY2439821の有効性及び安全性を評価する多施設共同非盲検長期投与試験
2. ノバルティスファーマ株式会社の依頼によるSecukinumabの固定間隔投与または再発開始時投与を受けた中等症又は重症の局面型皮疹を有する乾癬患者を対象に、プレフィルドシリンジを用いたsecukinumab皮下投与の長期安全性、忍容性及び有効性を評価する二重盲検グループ及びオープンラベルグループから構成される、2年間の多施設共同継続投与試験
3. 協和発酵キリン株式会社の依頼による局面型皮疹を有する乾癬（尋常性乾癬、関節症性乾癬）患者、膿疱性乾癬（汎発型）患者及び乾癬性紅皮症患者を対象とした継続長期投与試験
4. マルホ株式会社の依頼によるM518101の尋常性乾癬に対する第Ⅲ相試験－二重盲検群間比較試験－
5. ノバルティスファーマ株式会社の依頼によるシクロスボリンAで効果不十分であった局面型皮疹を有する乾癬患者を対象にセクキヌマブ皮下投与の有効性及び安全性を16週間にわたり評価する多施設共同、オープンラベル試験 AIN457A JP01
6. 第一三共株式会社の依頼によるDS-5565第Ⅲ相国際共同試験－アジアにおける帯状疱疹後神経痛を有する患者を対象にした14週間のプラセボ対照無作為化二重盲検試験及び52週間の非盲検長期投与試験－

（臨床研究）

1. ヒュミラ皮下注40mgシリンジ0.8ml特定使用成績調査－賃金労働就労に従事する関節症性乾癬患者を対象としたWPAI（仕事の生産性及び活動障害）調査（東山眞里）
2. 酒皸と酒皸様皮膚炎の患者に対するメトロニダゾール軟膏の使用（東山眞里）
3. 実地医療での尋常性乾癬、関節症乾癬におけるアグリマブのメタボリック症候群関連疾患への効果に関する検討（東山眞里）

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	甲斐		伊賀		西本		溝口※②		伊賀（初診）1・3週	手術（形成外科DR）
2診	東山（初診）	検査 パッチテスト 生検等 （回診）		乾癬外来 西本	東山（初診）	検査 光線 テスト 生検	横井/ 伊賀（隔週）	乾癬外来 東山	7・10・外来 東山	藤山/ 横井
3診	西本		辻真紀（初診）	褥瘡 回診	林		アレルギー 外来 西本	乾癬外来 横井/ 伊賀	横井（初診）2・4週	（1・3週） 石瀬/ 伊賀
外来 処置	伊賀/ 溝口※①		乾癬外来 東山		局麻手術 平野/ 横井/ 伊賀		横井		西本	（2・4週） 西本

①～9:30：伊賀、9:30～：溝口 ②9:30から開始

表2 検査スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
パッチテスト 皮内テスト 光線テスト 皮膚生検		○診								

○：当院診察が必要

表3 外来・入院延べ患者数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
外来	27,681	27,556	27,548	26,570	26,005
入院	3,365	3,593	3,576	3,226	3,821

表4 H27.4～H28.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
帯状疱疹[帯状ヘルペス]	106	8
蜂巣炎<蜂窩織炎>	35	12
乾せん<癬>	22	22
摂取物質による皮膚炎	20	19
丹毒	15	11
皮膚のその他の悪性新生物	6	12
皮膚および皮下組織の毛包のうく<囊>胞	6	7
下肢の潰瘍、他に分類されないもの	6	37
良性脂肪腫性新生物（脂肪腫を含む）	5	3
アトピー性皮膚炎	5	26

スタッフ 副院長兼部長：黒田昌男（～6月）
部長：福井辰成（7月～）
医長：福本 亮、金光俊行



1. 診療内容

当科は泌尿器疾患および男性生殖器疾患を対象に診療を行なった。

泌尿生殖器悪性腫瘍に対する外科的治療、抗がん化学療法、放射線治療、前立腺肥大症に対する外科的治療、薬物療法、過活動膀胱、神経因性膀胱に対する薬物療法、運動療法、生活指導、尿路結石に対する薬物療法、低侵襲手術などを行った。

近年は、人口の高齢化とともに前立腺癌患者が増えており、当科でも、前立腺癌の診断および治療に診療全体に占める割合が高くなっている。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

泌尿器科外来1～2診で外来診療を行った。

2) 病棟体制

病床数は10～20、病棟担当医は、常勤医が主治医となって診療を行った。

3) 検査スケジュール（表2）

膀胱鏡検査：泌尿器科膀胱鏡検査室（月～金曜日）

尿流検査：泌尿器科検査室（月～金曜日）

膀胱内圧測定、尿道抵抗測定：泌尿器科検査室（火・木曜日）

逆行性尿路造影、尿道膀胱造影、排尿時膀胱造影（火曜日）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

外来患者数は延べ11,518人であった。

2) 入院診療実績（表3、4）

入院患者は延べ3,462人であった。

3) 治療実績

膀胱癌に対する外科的治療は、経尿道的電気切除術83例、根治的膀胱全摘除術2例（自排尿型代用膀胱形成術1例・回腸導管造設術1例）に対して行った。5例の尿路上皮癌に多剤併用全身化学療法を施行した。膀胱癌の治療あるいは膀胱内再発予防として、再発しやすい癌に対してBCG膀胱内

注入療法を施行した。膀胱固有筋層に浸潤する膀胱癌に対しては、再発した場合致命的となる実験的な膀胱温存療法ではなく、標準的治療である根治的膀胱全摘除術を行い、尿路変向としてQOLの良い自排尿式代用膀胱形成術を多く行うようにしている。

前立腺肥大症に対する外科的治療として、経尿道的前立腺切除術（経尿道的核出術を含む）15例、前立腺被膜下摘除術3例を行った。腫大が高度な場合には、バイポーラ電気メスを用いた経尿道的核出術（TUEB）を主に行っている

去勢抵抗性前立腺癌に対しては昨年度より認可されたエンザルタミドやアピラテロンを使用することで治療の幅を広げ良好な治療成績を納め、また患者数も着実に増加している。

腹腔鏡下手術は腎、副腎、腎盂尿管疾患、その他14例に行った。根治的腎全摘除術4例、腎部分切除術1例、副腎摘除術2例、腎尿管全摘除術3例、その他2例、また腹腔鏡補助下手術2例である。手術時間はやや延長するが、開腹手術に比べて術後の鎮痛剤の投与量が著しく減量でき、患者様のQOLが良好で、術後の回復期間が短く、在院日数も短縮できる。

尿路結石（腎結石、尿管結石）に対して、入院して体外衝撃波碎石術（ESWL）を行ったのが26例、うち初回23例、外来通院で83例に行っている。経尿道的膀胱碎石術を8例に、経尿道的尿管碎石術を7例に行った。

慢性腎不全症例に対して血液透析を行った。7例に内シャントを造設し、血液透析療法の導入を行った。また経皮的血管形成術も1名行った。

4. 認定医・専門医など

日本泌尿器科学会専門医	3名
日本泌尿器科学会指導医	2名
日本がん治療認定医機構認定医	3名
日本医師会認定産業医	2名

5. 業績

論文・著書

1. 黒田昌男, 福本 亮, 福井辰成: リンパ浮腫. 臨床泌尿器科, 69: 204-206, 2015.
2. 黒田昌男, 福本 亮, 福井辰成: 癌性疼痛. 臨床泌尿器科, 69: 207-210, 2015.
3. 黒田昌男, 福本 亮, 福井辰成: BCG 維持療法の経験. 泌尿器外科, 28: 334-335, 2015.

学会発表

1. 福本 亮, 福井辰成, 黒田昌男: IAD療法においてLH-RH agonistからテガレリクスへ変更した時のテストステロン値の推移の比較. 第103回日本泌尿器科学会総会, 4月, 2015, 金沢.
2. 黒田昌男, 福本 亮, 福井辰成: BCG膀胱内注入療法の治療成績. 第103回日本泌尿器科学会総会, 4月, 2015, 金沢.

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	福井	福井	黒田	回診	交代	手術	福井	特殊検査	福井	福井
2診	福本	特殊検査	金光	特殊検査			福本	福本	金光	手術

表2 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
膀胱内圧測定 尿流検査 前立腺エコー 逆行性腎盂造影		○診		○診				○診		

○: 当院診察が必要

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
外来	12,596	12,535	12,201	12,114	11,518
入院	4,461	4,574	3,759	3,751	3,462

表4 H27.4～H28.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
膀胱の悪性新生物	85	13
前立腺の悪性新生物	68	7
前立腺肥大(症)	30	13
腎結石および尿管結石	26	4
閉塞性尿路疾患および逆流性尿路疾患	24	4
疾病および病態の疑いに対する 医学的観察および評価	16	2
腎盂の悪性新生物	9	15
その他の部位の続発性悪性新生物	8	18
慢性腎不全	8	9
下部尿路結石	8	6
前立腺の炎症性疾患	8	9

スタッフ 副院長兼部長：藤田征巳

担当部長：佐伯典厚

副 部 長：大塚博文、橋本奈美子

医 長：吉見佳奈、高山敬範、八田幸治（5月～）

副 医 長：矢野悠子、尾上昌世、増田公美

専 攻 医：田中雄介

兼 任：船渡孝郎（中央手術管理部長、女性骨盤底センター長、
地域医療総合窓口あったかセンター長、ニッセイ予防医学センター顧問）



1. 診療内容

婦人科は、良性腫瘍に対する内視鏡手術（腹腔鏡下手術・子宮鏡手術）を主として行っており、婦人科手術の5割を占めている。

婦人科悪性腫瘍についても、後腹膜リンパ節郭清を含む根治手術、化学療法、術後放射線治療を行っている。

先進医療については平成23年1月：腹腔鏡下子宮体がん根治術、平成25年5月1日：腹腔鏡下仙骨腫固定術（骨盤臓器脱）の認可を近畿厚生局から受け、最先端の医療を提供している。

周産期においては、自然分娩を基本としている。また助産師外来・母乳育児相談・マタニティビクス・ヨガなどを取り入れている。また妊婦の方に安心して出産していただけるように産科医療補償制度に加入している。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

2) 病棟体制（表2）

当科は主治医（受け持ち医）制を引いている。

3) 検査スケジュール（表3）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表4）

2) 入院診療実績（表4、5）

H27年度

・分娩数：465件

・総手術総数：1,192件

腹腔鏡下手術

子宮附属器腫瘍摘出術（両側）（腹腔鏡）210件

腹腔鏡下腔式子宮全摘術 211件

腹腔鏡下子宮筋腫摘出（核出）術 206件

腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がん）4件

子宮鏡下手術

子宮鏡下子宮筋腫摘出術 38件

子宮内膜ポリープ切除術 52件

開腹手術

子宮附属器悪性腫瘍手術（両側）14件

子宮悪性腫瘍手術 6件

帝王切開術：84件

骨盤臓器脱

膀胱脱手術（メッシュ使用）37件

子宮脱手術

（陰壁形成手術及び子宮位置矯正術）3件

4. 認定医・専門医など

日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医 4名

日本内視鏡外科学会技術認定医 2名

日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医 1名

日本産科婦人科学会専門医 11名

日本性感染症学会専門医 1名

母体保護法指定医 6名

日本がん治療認定医機構 日本がん治療認定医 1名

麻酔標榜医 1名

5. 業績

論文・著書

- Otake A, Yoshino K, Ueda Y, Sawada K, Mabuchi S, Kimura Toshihiro, Kobayashi E, Isobe A, Egawa-Takata T, Matsuzaki S, Fujita M, Kimura T : Usefulness of duloxetine for Paclitaxel-induced peripheral neuropathy treatment in gynecological cancer patients. Anticancer Res, 35 : 359-363, 2015.
- Hiramatsu K, Kobayashi E, Ueda Y, Egawa-Takata T, Matsuzaki S, Kimura Toshihiro, Sawada K, Yoshino K, Fujita M, Kimura T : Optimal timing for drainage of infected lymphocysts after lymphadenectomy for gynecologic cancer. Int J Gynecol Cancer, 25 : 337-341, 2015.
- 尾上昌世, 田中雄介, 増田公美, 矢野悠子, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳 : 当院産婦人科における緊急腹腔鏡手術の現状. 日生病院医学雑誌, 43 : 7-10, 2015.
- 高山敬範, 橋本奈美子, 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 吉見佳奈, 大塚博文, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳 : 内視鏡手術にて子宮を温存し得た帝王切開癒痕部妊娠の1例. 日生病院医学雑誌, 43 : 32-38, 2015.
- 田中雄介, 高山敬範, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 吉見佳奈, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳

已：既往帝王切開創部子宮筋層癒合不全 (Caesarian Scar Defect : CSD) に対し、全腹腔鏡下に子宮形成術を実施した1例。日生病院医学雑誌, 43 : 32-38, 2015.

6. 橋本(矢田)奈美子, 田中雄介, 尾上昌世, 矢野悠子, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 佐伯典厚, 藤田征巳, 船渡孝郎：子宮内膜症性嚢胞の術後再発予防に関する前方視的ランダム化比較試験(中間報告)～再手術を避けるために～. 日本エンドメトリオーシス学会, 36 : 54-58, 2015.
7. 藤田征巳：広汎子宮頸部全摘術(初期子宮頸部浸潤癌に対する妊孕性温存手術). 日生病院医学雑誌, 43 : 67-71, 2015.

学会発表

1. 橋本(矢田)奈美子, 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 佐伯典厚, 藤田征巳, 船渡孝郎：子宮内膜症性嚢胞の術後再発予防に関する前方視的ランダム化比較試験. 第36回日本エンドメトリオーシス学会, 1月, 2015, 東京.
2. 橋本(矢田)奈美子, 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 佐伯典厚, 藤田征巳, 船渡孝郎：高齢女性のtotal supportをめざして～女性骨盤底センターの果たす役割. 第9回日本骨盤臓器脱手術学会, 3月, 2015, 東京.
3. 矢野悠子, 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 藤田征巳, 船渡孝郎：当院での高齢者(75歳以上)に対する腹腔鏡下手術. 第67回日本産婦人科学会, 4月, 2015, 横浜.
4. 増田公美, 田中雄介, 尾上昌世, 矢野悠子, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳：良性腫瘍の診断で腹腔鏡下手術を施行するも術後に悪性と診断された症例の検討. 第67回日本産婦人科学会, 4月, 2015, 横浜.
5. 高山敬範, 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 吉見佳奈, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳：高度肥満症例に対する腹腔鏡手術の検討. 第67回日本産婦人科学会, 4月, 2015, 横浜.
6. 吉見佳奈, 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 高山敬範, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳：緊急加療を要した卵巣子宮内膜症性嚢胞の感染および破裂. 第67回日本産婦人科学会, 4月, 2015, 横浜.
7. 尾上昌世, 田中雄介, 増田公美, 矢野悠子, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳：突出不良の粘膜下筋腫に対する子宮鏡下手術 支持鉤つきレゼクトスコープの使用経験. 第132回近畿産科婦人科学会, 6月, 2015, 神戸.
8. 増田公美, 田中雄介, 尾上昌世, 矢野悠子, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳：婦人科受診を契機に診断された家族性地中海熱の一例. 第132回近畿産科婦人科学会, 6月, 2015, 神戸.
9. 橋本(矢田)奈美子, 河野まひる, 清水彰子, 甲村弘子, 光田信明：知的障害を伴う女兒の成人後の婦人科的問題. 第34回日本思春期学会, 8月, 2015, 大津.
10. 尾上昌世, 田中雄介, 増田公美, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 藤田征巳, 船渡孝郎：当院における腹腔鏡下仙骨脛固定術の手術成績. 第17回日本女性骨盤底医学会, 8月, 2015, 東京.
11. 橋本(矢田)奈美子, 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 佐伯典厚, 藤田征巳, 船渡孝郎：腹腔鏡下に行う骨盤再建手術 - Uterosacral Ligament Suspension - 仙骨子宮靱帯隆挙手術. 第17回日本女性骨盤底医学会, 8月, 2015, 東京.
12. 尾上昌世, 田中雄介, 増田公美, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳：腹腔鏡下子宮筋腫核出後の妊娠症例に関する検討. 第55回日本産科婦人科内視鏡学会, 9月, 2015, 横浜.
13. 増田公美, 田中雄介, 尾上昌世, 矢野悠子, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳：

腹腔鏡下手術後に初めて悪性と診断された症例の検討. 第55回日本産科婦人科内視鏡学会, 9月, 2015, 横浜.

14. 増田公美, 田中雄介, 尾上昌世, 矢野悠子, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳：腹腔鏡下子宮全摘術(TLH)における子宮重量別の検討. 第55回日本産科婦人科内視鏡学会, 9月, 2015, 横浜.
15. 矢野悠子, 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 八田幸治, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 藤田征巳, 船渡孝郎：当院での高齢者(65歳以上)に対する腹腔鏡下附属器手術症例の検討. 第55回日本産科婦人科内視鏡学会, 9月, 2015, 横浜.
16. 高山敬範, 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 吉見佳奈, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳：TLH施行中に膣パイプを直腸に誤挿入し予期せぬ直腸損傷を起こした一例. 第55回日本産科婦人科内視鏡学会, 9月, 2015, 横浜.
17. 高山敬範, 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 吉見佳奈, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳：腹腔鏡下手術を行った陳旧性異所性妊娠の一例. 第55回日本産科婦人科内視鏡学会, 9月, 2015, 横浜.
18. 吉見佳奈, 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳：卵巣子宮内膜症性嚢胞の感染に対する治療. 第55回日本産科婦人科内視鏡学会, 9月, 2015, 横浜.
19. 橋本(矢田)奈美子, 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 佐伯典厚, 藤田征巳, 船渡孝郎：腹腔鏡下に行う骨盤再建手術Uterosacral Ligament Suspension 仙骨子宮靱帯隆挙手術. 第55回日本産科婦人科内視鏡学会, 9月, 2015, 横浜.
20. 大塚博文, 田中雄介, 増田公美, 八田幸治, 尾上昌世, 矢野悠子, 高山敬範, 吉見佳奈, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 藤田征巳, 船渡孝郎：LSCのコツ、合併症、術式によるメリット・デメリット. 第55回日本産科婦人科内視鏡学会, 9月, 2015, 横浜.
21. 高山敬範, 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 八田幸治, 吉見佳奈, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳：手術操作中に下大静脈フィルターが血管表面を貫き露出した卵巣癌の一例. 第38回日本産婦人科手術学会, 11月, 2015, 東京.

研究会発表

1. 橋本奈美子：女性ホルモンと上手に付き合おう！. 東大阪市立男女共同参画センター イコラーム こころとからだ講座, 3月, 2015, 東大阪.
2. 藤田征巳：子宮頸がんに関する最近の知見. あわぎフォーラム, 6月, 2015, 大阪.
3. 藤田征巳：子宮頸がん検診とHPV. 第4回あわぎ産婦人科病診連携懇話会, 6月, 2015, 大阪.
4. 橋本奈美子：輝くシニア・エイジは骨盤から作る！. 日生病院市民公開セミナー, 9月, 2015, 大阪.
5. 船渡孝郎：女性の健康. 西区医師会主催 健康長寿セミナー, 10月, 2015, 大阪.
6. 橋本奈美子：産婦人科救急他科の先生に知ってほしいこと. ニッセイ・ベーシック実践医療セミナー, 10月, 2015, 大阪.
7. 尾上昌世：ジェノゲスト長期投与の継続か？終了か？. 第9回子宮内膜症セミナー, 12月, 2015, 大阪.

研究助成・治験・臨床研究等

(臨床研究)

1. ヒト卵巣生検(ヒトMII期卵子への卵母細胞前駆細胞由来ミトコンドリア注入に際して)(藤田征巳)
2. 子宮体癌肺転移に対する、気管支動脈内抗がん剤注入療法および気管支動脈閉塞術(吉見佳奈)
3. 尿失禁患者のリハビリテーション評価(吉見佳奈)

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	藤田	藤田	佐伯	佐伯	藤田	藤田	船渡	船渡	佐伯	佐伯
2診	尾上	尾上	高山	高山	吉見	吉見			増田	増田
3診	八田	八田	橋本	橋本	大塚	大塚	元林		矢野	矢野
4診	田中	田中								
	手術	手術	手術	手術	手術		手術	手術	手術	回診

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前	抄読会		周産期 カンファレンス		
午後				術前 カンファレンス	部長回診 画像カンファ

表3 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
子宮鏡検査		○ 紹・予		○ 紹・予		○ 紹・予				○ 紹・予

○：当院診察が必要

表4 年度別外来・入院延べ患者数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
外来	17,012	17,371	21,069	21,883	23,187
入院	12,406	12,201	11,909	12,532	13,381

表5 H27.4～H28.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
子宮平滑筋腫	427	8
単胎自然分娩	325	7
卵巣の良性新生物	142	7
子宮内膜症	101	7
女性性器脱	85	11
子宮頸（部）の異形成	72	3
女性性器のポリープ	67	3
受胎のその他の異常生成物	60	2
偽陣痛	40	9
卵巣の悪性新生物	36	14

スタッフ 部長代行：島袋幹子
専 攻 医：横山洵子（～6月）
小林礼子（7月～）



1. 診療内容

当科は日本眼科学会の研修指定病院で、常勤医2名、非常勤医5名によって、大阪大学眼科学教室と連携し、白内障・緑内障・角結膜疾患・糖尿病網膜症を中心に、地域の基幹病院としての立場から眼科疾患全般に対応できるよう努めている。デジタル画像ファイリングシステム、眼底造影検査機器、各種レーザー機器、OCT（前眼部・後眼部）、視野計などの最新の設備を誇り、質の高い医療の提供と患者様に満足していただける説明・啓蒙を診療指針に掲げている。また病診連携を積極的に進めており、患者様の眼科かかりつけ医との連絡を密に取っており、かかりつけ医よりの紹介→当科での手術等の急性期治療→かかりつけ医への逆紹介という基本方針で、診療を行っている。

a. 全般

一般的な眼科疾患の診断・治療、特に白内障手術、緑内障手術、網膜硝子体手術、角膜移植手術など幅広く行っている。平成27年度は、白内障手術：381件、角膜移植手術：5件、網膜・硝子体手術：3件、翼状片手術：5件、緑内障手術：1件、眼瞼形成術：9件、その他：3件であった。（レーザー手術を除く）

b. 白内障手術は主として一泊入院体制を中心に行っている。術式は、ほとんどが小切開超音波白内障手術+foldable眼内レンズ挿入術（切開創2.8mm）で、重篤な術後合併症も認めなかった。角膜形状解析装置によるデータを元にLASIK術後の方の白内障手術も可能である。

c. 角膜移植術については、米国アイバンクから角膜を輸入するシステムを採用し、ある程度ご希望に合わせた日程での手術が可能である。角膜白斑、水疱性角膜症、角膜変性症などを主な適応とし、一般的には2週間程度の入院で、全層角膜移植、表層角膜移植、上皮形成術、内皮移植などのパーツ移植を症例に応じて施行している。

d. 緑内障では、眼圧日内変動測定入院を適宜施行し、眼圧日内変動パターンに応じて個々の患者様に最適な24時間単位の眼圧コントロールを心がけている。手術治療が必要な症例には主にトラベクレクトミーを選択し、術後合併症も重篤なものを認めていない。

e. 網膜・硝子体疾患については、硝子体網膜症疾患に対して硝子体手術を行っている。黄斑浮腫症例に対しては、ケナコルトテノン嚢下注射・抗VEGF抗体硝子体注射など適宜薬剤治療を行っている。

f. 眼瞼痙攣症例にボトックス注射を、加齢性眼瞼下垂症例に手術加療を行っている。

2. 診療体制

- 1) 外来診察スケジュール（表1）
- 2) 検査スケジュール（表2）

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績（表3）
- 2) 入院診療実績（表3、4）

4. 認定医・専門医など

日本眼科学会専門医 1名

5. 業績

学会発表

1. 横山洵子（日生病院）、三木篤也、白井審一、松下賢治、西田幸二：Sensitivity by retinal nerve fiber layer thickness values measured with spectral-domain optical coherence tomography in glaucoma. 世界緑内障学会, 6月, 2015, 香港.
2. 小林礼子（日生病院）、不二門 尚、森本 壮、広田雅和、神田寛行、西田幸二（大阪大）：両眼波面センサーを用いた間欠性外斜視の近見反応における眼位の動的変化の測定. 第71回日本弱視斜視学会, 7月, 2015, 神戸.
3. 小林礼子（日生病院）、橋田徳康、高 静花、相馬剛至、前田直之、西田幸二（大阪大）：サイトメガロウイルス角膜内皮炎におけるRTVue-100角膜モジュールの診断的有用性についての検討. 第71回日本弱視斜視学会フォーサム2015大阪, 7月, 2015, 大阪.
4. 島袋幹子、小林礼子（日生病院）：眼内レンズ選択における

角膜前後面乱視測定の有効性. 第40回日本角膜学会総会・第32回日本角膜移植学会, 2月, 2016, 軽井沢.

研究会発表

- 1. 島袋幹子, 横山洵子(日生病院): 眼内レンズ選択における角膜前後面乱視測定の有効性について. 第4回大阪西部眼科病診連携の会, 6月, 2015, 大阪.
- 2. 小林礼子, 島袋幹子(日生病院): Vogt-小柳-原田病の既往のある急性緑内障発作の1例. 第408回大阪眼科集談会プログラム, 10月, 2015, 大阪.
- 3. 小林礼子(日生病院): サイトメガロウイルス角膜内皮炎におけるRTVue-100角膜モジュールの診断的有用性についての検討. 第2回あわぎ眼科病診連携懇話会, 11月, 2015, 大阪.
- 4. 島袋幹子(日生病院): 膠様滴状角膜変性症の1症例; 前眼部光干渉断層計(OCT)の有効性. 第2回あわぎ眼科病診連携懇話会, 11月, 2015, 大阪.
- 5. 小林礼子(日生病院), 橋田徳康, 高 静花, 相馬剛至, 前田直之, 西田幸二(大阪大): サイトメガロウイルス角膜内皮炎におけるRTVue-100の診断的有用性についての検討. 第239回O.C.C., 11月, 2015, 大阪.
- 6. 島袋幹子(日生病院): 白内障ってどんな病気?. 第4回日本生命済生会(日生病院)ニッセイ市民健康セミナー, 12月, 2015, 大阪.

研究助成・治験・臨床研究等
(臨床研究)

- 1. 自己血清点眼を用いた角膜上皮障害に対する治療(島袋幹子)
- 2. 眼内レンズ選択における角膜前後面乱視測定の有効性について(島袋幹子)

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	島袋	島袋 (予約)	田村		島袋	島袋	岡崎		島袋	
2診	大井		横山 (H27年 6月まで) 小林 (7月から)		横山 (H27年 6月まで) 小林 (7月から)	横山 (H27年 6月まで) 小林 (7月から)	手術		横山 (H27年 6月まで) 小林 (7月から)	手術
3診	瀬口 (H27年 12月まで) (1・3週)		岡崎 (1・3週)		大井	長谷川 (4週)			田村	

表2 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
光凝固 YAG 蛍光造影	○ 紹介予	○ 紹介予	○ 紹介予	○ 紹介予	○ 紹介予	○ 紹介予	○ 紹介予		○ 紹介予	

○: 当院診察が必要

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
外来	14,484	14,381	13,947	13,766	14,122
入院	2,297	2,074	2,416	1,513	1,213

表4 H27.4~H28.3入院患者の疾患(上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
白内障	441	2
角膜の障害	18	20
移植臓器および組織の不全 および拒絶反応	3	7
他に分類される疾患における 白内障および水晶体のその他の障害	2	2
水晶体のその他の障害	1	3
緑内障	1	13
視神経炎	1	3
眼球および眼窩の損傷	1	16
体内プロステシス, 挿入物 および移植片の合併症	1	4

スタッフ 部長代行：赤羽 誉
医 長：細野研二、岡安 唯
医 員：大山寛毅



1. 診療内容

急性炎症疾患（咽喉頭炎、扁桃炎、中耳炎など）、慢性疾患（副鼻腔炎、めまい、難聴など）、頭頸部腫瘍に対する集学的治療（手術、放射線治療、抗がん剤治療）を行い、最近では耳科領域の手術では、従来からの慢性中耳炎に対する手術に加え、メニエル病に対する内リンパ嚢開放術にも取り組んでいる。頭頸部がん診療では、抗EGFRモノクローナル抗体（セツキシマブ）を放射線治療や抗がん剤治療に併用することで、従来では積極的な治療が困難な高齢者や骨髄機能低下や腎機能低下例に対しても根治治療に取り組んでいる。また、アレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法も開始した。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

一般診療：月～金曜日am

（火：手術日のため初診のみ）

専門診療：頭頸部腫瘍外来（木pm：赤羽）

補聴器外来（第1・3木pm、金pm：細野）

めまい外来（水pm：岡安）

各医師の専門性も重視し、初診の段階から疾患群に応じて、より適した医師が診療担当する方針としている。

2) 病棟体制

病床数15（4東主病棟、3西副病棟）を基本に入院診療を行った。

外来診療担当医が、引き続き入院診療も主治医として、診療開始から治療終了までの病状を詳細に把握しながら診療を行っている。重症例については、複数の医師で、または上級医の指導の下、診療を行っている。

日々の病棟処置担当医については、外来診療3診（月・水～金）、また院外診療活動（月・水～金：各1名）のため配置できず、外来診療の合間、または終了後に各主治医が入院診療を行わざるを得ない状況が続いている。

3) 検査スケジュール

・めまい・平衡機能検査、ABR検査：適宜

・補聴器適合検査：

木・金曜日午後（補聴器外来）

・超音波検査、鼻咽喉頭内視鏡検査：

外来診療の一貫で施行

・嚥下造影検査：放射線科との調整で適宜施行

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

診療体制が変わったH21年4月からの数年間は耳鼻咽喉科一般診療が主体であった旧体制と比べると外来患者数の減少傾向を認めたが、その後、数年間が横ばいとなっている。一般診療が減少している中で、めまい診療、頭頸部癌（口腔癌、咽喉頭癌、甲状腺癌など）診療、補聴器相談、その他の重症疾患の対応が増えた結果、実質的には外来診療に要する時間も大幅に増加している。積極的に診療所からの紹介患者の受入、また逆紹介も行うことで病診連携の観点からも西区基幹病院としての役割を十二分に果たしていると思われる。

2) 入院診療実績（表3、4）

手術例を主に、急性炎症疾患（扁桃炎、急性喉頭蓋炎など）、鼻出血、めまい、急性感音難聴、顔面麻痺、頭頸部癌の放射線治療や抗がん剤治療などを行った。

手術については、近年では年間300件（人）近い症例に対応している。

入院人数については、年間延べ5,000人前後で推移しているが、その内訳は、軽症例の入院に比べ、中～重症例の比率が増加している。

平成27年度（手術室施行）

手術件数293件（全麻205件、局麻88件）

主な手術症例

・口蓋扁桃摘出術	59例
・アデノイド切除術	13例
・鼻内内視鏡手術	34例 56側
・喉頭微細手術	32例
・鼻中隔矯正術	9例
・鼓膜・鼓室形成術	12例 12側
・甲状腺・副甲状腺腫瘍手術	28例
・唾液腺腫瘍手術	13例
・頸部郭清術（単独）	3例 3側
・頭頸部再建手術	5例
（咽頭2例、口腔3例）	
・頭頸部癌摘出術	5例
（喉頭部切3例、上顎1例、中咽頭1例）	

- ・頸のう胞摘出術 2例
- ・鼻粘膜レーザー焼灼術 26例
- ・頸部リンパ節生検術 19例
- ・唾石摘出術 4例
- ・内リンパ嚢開放術 2例

3) 検査実績

めまい検査

頸部超音波検査

鼻咽喉頭内視鏡検査

嚥下造影検査

4. 認定医・専門医など

日本耳鼻咽喉科学会専門医 3名

日耳鼻認定補聴器相談医 2名

補聴器適合検査認定医 1名

頭頸部がん暫定指導医 1名

日本東洋医学会漢方認定医 1名

身体障害者福祉法指定医 2名

(聴覚・平衡・音声・言語・そしゃく機能障害)

5. 業績

論文・著書

1. 細野研二, 赤羽 誉, 岡安 唯, 大山寛毅:「耳下腺筋上皮癌例」. 耳鼻臨床, 108(5): 389-395, 2015.
2. Hosono K, Akahane H, Okayasu T, Ohyama H, Department of Otolaryngology, Nissay Hospital: A Case of Myoepithelial Carcinoma of the Parotid Gland. Pract Otol(Kyoto) Suppl, 144: 106-107, 2015.

学会発表

1. 大山寛毅, 成尾一彦, 森本千裕, 山下哲範, 太田一郎, 山中敏彰, 細井裕司, 北原 紘: 小児滲出性中耳炎に対する鼓膜チューブ挿入術の検討. 第10回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 5月, 2015, 軽井沢.
2. 岡安 唯, 赤羽 誉, 細野研二, 大山寛毅, 北原 紘, 仙頭正四郎: 体質判別チャートによるBPPV患者の東洋医学的な体質について. 第333回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会, 6月, 2015, 大阪.
3. 岡安 唯, 赤羽 誉, 細野研二, 大山寛毅, 仙頭正四郎: 良性発作性頭位めまい症患者における体質判別チャートを用いた東洋医学的な体質分析. 第66回日本東洋医学会学術総会, 6月, 2015, 富山.
4. 大山寛毅, 赤羽 誉, 細野研二, 岡安 唯, 北原 紘: 当科における突発性難聴の検討. 第334回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会, 9月, 2015, 大阪.
5. 岡安 唯, 西村忠己, 齋藤 修, 下倉良太, 山下哲範, 細井裕司, 北原 紘: 骨導超音波語音の知覚メカニズムに関する検討 ―スピーチノイズの影響―. 第60回日本聴覚医学会総会・学術講演会, 10月, 2015, 東京.
6. 横井一範, 伊賀佐紀, 西本知子, 東山真里, 細野研二, 赤羽 誉: 当院における掌蹠膿疱症82例の検討. 第451回日本皮膚科学会大阪地方会, 10月, 2015, 大阪.
7. 千原亜紀子, 池田久雄, 平田貴宏, 野村浩英, 岡安 唯: MRSAが検出された患者へ薬学的介入を行った一症例. 第25回日本医療薬学会年会, 11月, 2015, 横浜.
8. 細野研二, 赤羽 誉, 岡安 唯, 大山寛毅, 横井一範, 東山真里: 当科における扁桃病巣皮膚疾患の検討. 第335回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会, 12月, 2015, 大阪.

研究助成・治験・臨床研究等

(臨床研究)

1. 当院での皮膚科疾患における扁桃病巣感染症の検討(細野研二)
2. 内耳浮腫を伴うメニエール病の間欠期における柴苓湯の聴力改善効果の検討(岡安 唯)

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	赤羽 (初診・再診) (2・3・4週)		交代 (初診)		赤羽 (再診)	赤羽 (再診)	細野 (再診)	赤羽 (腫痛) (再診)	岡安 (再診)	
2診	岡安 (初診・再診) (1・2・4週)	手術		手術	岡安 (初診・再診)	岡安 (めまい)	大山 (初診・再診)	細野 (再診)	大山 (初診・再診)	細野 (補聴器)
3診	細野 (初診・再診) (1・2・3週)				大山 (初診・再診)		赤羽 (初診・再診)	補聴器 外来 (1・3・5週)	細野 (初診・再診)	手術

表2 検査スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
顔面機能検査 聴力検査 平衡機能検査 味覚検査、嗅覚検査 鼻腔通気検査	○診		○診		○診		○診		○診	
聴性脳幹反応				○診						○診

○: 当院診察が必要

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
外来	15,082	15,076	13,924	13,417	13,327
入院	4,366	4,845	4,835	5,533	4,603

表4 H27.4~H28.3入院患者の疾患(上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
扁桃およびアデノイドの慢性疾患	50	7
その他の難聴	41	4
急性扁桃炎	33	6
慢性副鼻腔炎	28	8
前庭機能障害	27	6
扁桃周囲膿瘍	23	6
顔面神経障害	22	5
喉頭の悪性新生物	20	22
声帯および喉頭の疾患、他に分類されないもの	19	7
甲状腺の悪性新生物	16	14

放 射 線 科

スタッフ 部 長：前田宗宏
副 部 長：牧 大介
診療放射線技師：12名（技師長：在津裕明）



1. 診療内容

各種画像診断（CT、MRI、単純X線、マンモグラフィ、消化管造影、排泄性尿路造影、血管造影など）、各種IVR（肝細胞癌に対する塞栓・動注、消化管出血や産科出血などの止血、B-RTO、胆道穿刺・ドレナージ、膿瘍穿刺・ドレナージ、ラジオ波焼灼術、生検など）、核医学診断（骨、脳血流、心筋、甲状腺、副腎、換気・血流、腎など）、放射線治療（リニアック照射）を行っている。平成27年4月から常勤の放射線科医が2名となり、大阪大学ならびに大阪市立大学の放射線科とその関連施設の専門医（非常勤医）の支援を得て、質の高い画像診断が迅速に行える体制となった。

2. 診療実績（H27.4～H28.3）

- 画像診断CT 10,707例、MRI 4,753例、単純X線 22,748例、マンモグラフィ 1,501例、消化管造影（DICを含む）78例、排泄性尿路造影 164例
- 血管系IVR 71例
肝動注・塞栓術（肝腫瘍）47例、子宮動脈塞栓術（筋腫、胎盤ポリープ、他）6例、気管支動脈塞栓術（肺腫瘍）4例、止血術（内臓動脈瘤、脾破裂、腎破裂、回腸出血、膀胱出血）6例、その他（副腎静脈採血、上大静脈ステント留置、動静脈瘻の閉鎖、上腸間膜動脈の血栓吸引・溶解、他）8例
- 非血管系IVR 43例
経皮経肝胆道ドレナージ 7例、嚢胞・膿瘍穿刺・ドレナージ 25例、生検 8例、ラジオ波焼灼術 3例
- RI検査 677例
- 放射線治療 130例（内訳：頭頸部 12例、乳癌 61例、肺・縦隔 9例、胃 1例、肝・胆道系 2例、前立腺癌 15例、悪性リンパ腫・血液悪性疾患 7例、子宮・卵巣 1例、膀胱 1例、転移性腫瘍 21例）

3. 認定医・専門医など

日本医学放射線学会放射線診断専門医 2名
日本IVR学会専門医 1名

4. 業績

学会・研究会発表

- Maeda M, Tanaka K, Gouda S, Kimura Y, Kisimoto H, Mitani T and Harumasa Y: Gastric varices without outflow to the left renal vein: anatomical considerations in three cases. 第44回日本IVR学会総会（JSIR）、第12回国際

IVRシンポジウム（ISIR）、第4回アジア太平洋インターベンショナルオンコロジー学会（APCI）、5月、2015、宮崎。

- 前田宗宏、牧 大介、大畔健太、住谷 哲、立花 功、合田晴一、佐藤幸彦：嚢状拡張部を直接穿刺して内部から流出路をバルーン閉塞しながらアルコール固定した骨盤動脈奇形の1例。第59回中部IVR研究会・第60回関西Interventional Radiology研究会、2月、2016、大阪。

表1 外来診療スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
放射線治療						香川 (初診)				和田 (初診)

放射線科（診断）は毎日、IVRは月・木・金の午後に前田、牧が実施

表2 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
単純撮影	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹
CT（単・造）	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予
MRI（単・造）	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予
骨塩定量	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予
乳房撮影	● 紹・予		● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予		● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予
リニアック						○ 診				
バリウム検査（胃透視）	● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予	
バリウム検査（注腸）					● 紹・予					

●：紹介状・予約が必要 ★：紹介状のみにて検査可 ○：当院診察が必要

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
外来	3,672	3,892	4,902	3,922	4,586
入院	0	0	0	0	0

スタッフ 部長代行：花田留美
副 部 長：玉井 裕
副 医 長：井上ももこ（9月～）



1. 診療内容

a. 当科の特徴

手術時の麻酔を担当している。全身麻酔はもちろん脊髄くも膜下麻酔・硬膜外麻酔・ブロック等も行い、重症患者の場合局所麻酔でも全身管理に携わることもある。術中管理を行うにあたり、予定手術においては、術前診察・術後診察を麻酔科外来で行っている。術前診察では手術前に問診・検査結果の評価、診察を行って患者さんの全身状態の評価を行い、手術に適した麻酔法を選択する。また、麻酔法およびその合併症について患者さんに説明・承諾していただくためにも術前診察は非常に重要であり、時間をかけている。

術前に問題点をしっかり把握することで、できる限りのリスク軽減を目指し、できるだけベストな状態で手術に臨めるように他部門とも連携している。術後の肺合併症などのリスクを減らすための呼吸器リハビリ、栄養科への術前体重コントロールのための栄養指導、薬剤部へは入院前の内服薬の把握などを依頼し、周術期合併症のリスク軽減につとめている。

術後疼痛管理も積極的に行っており、PCA（Patient Controlled Analgesia）装置を用いて鎮痛薬を持続投与の上、疼痛時に患者さんがボタンを押して鎮痛薬を追加投与する方法を使用している。術後診察を麻酔科外来で行い鎮痛効果を評価し、硬膜外チューブ抜去まで行う。

ペインクリニックも行っている。ペインクリニック外来は週2日おこなっているが、本年は麻酔科スタッフ減に伴い、新規患者は院内紹介患者のみの対応となった。

癌性疼痛管理にも携わり、緩和医療にも積極的に取り組んでいる。外来通院での麻薬の処方も行っており、痛みを和らげ日常生活に返すことに力を入れている。痛みを取るだけでなく一歩踏み込んで患者さんが生活をエンジョイすることを積極的にサポートすることを目標としている。平成20年2月より緩

和ケアチームが発足し、回診とカンファレンスを開始した。緩和ケアの確立にも麻酔科は積極的に関わっており、副主治医として緩和ケアチーム依頼患者に対応し、主に身体症状の軽減に携わっている。

教育の面では、平成16年より研修医制度がスタートしているが、当院のプログラムでは初期研修中の1年目の1～2ヶ月は麻酔科を研修する。そこで私たちが麻酔業務の傍ら、研修医を教育している。常に1人から2人の研修医を預かるのはなかなか大変であるが、彼らの初期研修中に到達すべき行動目標としての「医療人として必要な基本姿勢や態度」を指導することはもとより、経験目標としての基本的手技のうち、気道確保、静脈ルート確保、腰椎穿刺、気管挿管の技術に関しては、当科にて確実に身につけさせるように指導している。ICLS講習会にも参加してもらっている。一般病院で育つ医師像を模索しつつ、研修終了時に目標に到達できているように教育活動を続けていきたいと考えている。

b. 平成27年の診療実績

手術件数はここ数年増加傾向で平成27年度は総手術件数2,765件、うち麻酔科管理手術件数1,611件となった。また、平成28年1月より呼吸器外科開設に伴い、分離肺換気などの特殊な麻酔も始まり、全身麻酔症例数の割合も増加している。この手術件数を維持するだけでも麻酔科医の負担は顕著だが、全身麻酔のみならず重症例の全身管理など麻酔科医のニーズが高まっているのは全国的で、マンパワーが不足している。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

2) 病棟体制

麻酔科は手術室業務が主なため病棟体制はとっていない。外来日以外は手術室にて麻酔業務に従事している。

3. 診療実績

1) 外来診療実績 (表2)

2) 入院診療実績 (表2)

麻酔業務の傍ら緩和ケアチームの診療に従事している。

4. 専門医・指導医など

日本麻酔科学会指導医 1人

日本麻酔科学会専門医 2人

麻酔科標榜医 3人

5. 業績

学会発表

- 川原玲子, 佐藤八重, 玉井 裕, 山崎恭子, 奥野聡子, 花田留美: 腹腔鏡下卵巣腫瘍摘出術の術後回復力強化における超音波ガイド下ブロックの効果の検討. 第62回日本麻酔科学会学会集, 5月, 2015, 神戸.
- 川原玲子, 花田留美, 奥野聡子, 玉井 裕, 三木和美, 加藤千尋, 小山佐知子: 腹水濾過濃縮再静注法 (CART) の適応の検討—CARTができなかった症例の分析—. 第20回日本緩和医療学会学術大会, 6月, 2015, 横浜.
- 小山佐知子, 玉井 裕, 川原玲子: 周期的に訴える激痛に対してくも膜下鎮痛を施行した一例. 第20回日本緩和医療学会学術大会, 6月, 2015, 横浜.
- 川原玲子, 玉井 裕, 奥野聡子, 花田留美: 抑肝散投与後の含有成分の血中濃度の推移—経直腸投与と経口投与の比較—. 第49回日本ペインクリニック学会学術集, 7月, 2015, 大阪.

研究助成・治験・臨床研究等

(治験)

- 塩野義製薬株式会社の依頼による慢性疼痛患者を対象としたS-8117のオープンラベル試験
- 第一三共株式会社の依頼によるがん疼痛患者を対象としたDS-7113b効力比較試験
- 塩野義製薬株式会社の依頼によるオピオイド誘発性の便秘症を有する非がん性の慢性疼痛患者を対象としたnaldemedineの第Ⅲ相臨床試験
- 日本臓器製薬株式会社の依頼によるがん疼痛患者を対象としたオピオイド鎮痛薬からNZL-228への治療切替試験
- 第一三共株式会社の依頼によるDS-5565第Ⅲ相国際共同試験—アジアにおける帯状疱疹後神経痛を有する患者を対象にした14週間のプラセボ対照無作為化二重盲検試験及び52週間の非盲検長期投与試験—

(臨床研究)

- CART治療の効果の検討 (花田留美)
- 日本麻酔学会への麻酔関連偶発症例調査並びに麻酔症例の基本情報提供への協力 (花田留美)

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	戸崎 (術前 診察)	戸崎 (術前 診察)	玉井 (ペイン 術前)	玉井 (術前 診察)	戸崎/ 井上 (隔週 術前)	戸崎/ 井上 (隔週 術前)	井上/ 玉井 (隔週 術前)	井上/ 玉井 (隔週 術前)	花田 (ペイン 術前)	花田 (術前 診察)

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
外来	6,073	5,777	5,640	5,342	4,393
入院	31	200	224	241	0

スタッフ 部長代行：城光寺 龍



1. 診療内容

組織診断・細胞診断・病理解剖が当科の主な業務である。

日本病理学会認定登録病院、日本臨床細胞学会認定病院を取得している。病理学的診断を正確に行うために、臨床各科との密な情報交換を行い、臨床医が正確な診断と最適な治療法の選択ができるようにしている。またCPCを開催し、臨床医だけでなく研修医の教育・研修の質の向上にも取り組んでいる。

診断および検査精度の向上を図るために、日本臨床細胞学会及び日本臨床衛生検査技師会の外部精度管理に参加、更に免疫組織学および遺伝子検査手法を積極的に取り入れて、病理学的診断を正確に行うように努めている。

診療体制としては、病理診断管理加算Ⅰの算定をおこなっているほか、病理部門システム（松波ガラスPathwindow）にて、標本作製過程へのバーコード導入により検体取り違い防止のための機構を導入しているほか、デジタル画像の報告書への添付もおこなっている。

新規診療内容としては、液状化細胞診（Thinprep）を非婦人科以外の材料へ広げ、標本作製の標準化および省力化をおこなっている。

一部医療機関との間で検査（免疫染色）の受託をおこなっている。

また診療上必要と思われる検査に関しても順次導入を行っている。

2. 診療体制

部長代行：城光寺 龍

（病理専門医、細胞診専門医、臨床研修指導医）

非常勤医師：2名（大阪大学より）

臨床検査技師（中央検査部兼任）：4名（細胞検査士3名）

検査助手：1名

事務職員（中央検査部兼任）：1名

3. 診療実績

検査実績（表1）

組織診断：4,067件

細胞診断：10,795件（予防医学センター 3,490件）

術中迅速診断：127件

病理解剖：16件（内科系15件、剖検率7.5%）

表1 検査実績

	組織診件数	細胞診件数（うち予防医学センター）	術中迅速	剖検
H23	3,608	9,190（2,232）	111	11
H24	3,580	9,705（2,496）	121	12
H25	3,806	9,618（2,688）	123	19
H26	3,986	10,245（2,929）	90	14
H27	4,067	10,795（3,490）	127	16

4. その他

平成27年度はCPCの開催は17回行われ、内容は下記の如くであった。

- 第243回 6月11日：脾臓癌（消化器内科）
- 第244回 6月12日：末梢性T細胞リンパ腫（血液内科）
- 第245回 7月28日：成人T細胞性白血病（血液内科）
- 第246回 7月28日：成人T細胞性白血病（血液内科）
- 第247回 8月25日：再生不良性貧血（血液内科）
- 第248回 8月25日：びまん性大細胞性リンパ腫（血液内科）
- 第249回 9月29日：多発性骨髄腫（血液内科）
- 第250回 9月29日：びまん性大細胞性リンパ腫（血液内科）
- 第251回 10月30日：多発性骨髄腫（血液内科）
- 第252回 10月30日：急性骨髄性白血病（血液内科）
- 第253回 11月26日：直腸癌術後（消化器外科）
- 第254回 12月18日：肺血栓塞栓症（救急診療科）
- 第255回 12月21日：再生不良性貧血（血液内科）
- 第256回 1月26日：ホジキンリンパ腫（血液内科）
- 第257回 1月26日：濾胞性リンパ腫（血液内科）
- 第258回 2月12日：食道神経内分泌癌（総合内科）
- 第259回 3月15日：致死性不整脈（循環器内科）

5. 業績

論文・著書

1. Jokoji R, Ikeda J, Tsujimoto M, Morii E: Epithelioid Rhabdomyosarcoma: a case report with immunohistochemical and molecular study. Diagn Pathol, 10: 124, 2015.

学会発表

1. 城光寺 龍, 池田純一郎, 辻本正彦, 森井英一: Epithelioid Rhabdomyosarcomaの一例. 第104回日本病理学会学術集会, 5月, 2015, 名古屋.
2. 城光寺 龍, 池田純一郎, 辻本正彦, 森井英一: 鼻腔腫瘍の一例. 第70回日本病理学会近畿支部学術集会, 9月, 2015, 大阪.
3. 城光寺 龍: 肺腫瘍性病変の診断. -生検検体での免疫染色を中心に- 第72回日本病理学会近畿支部学術集会, 2月, 2016, 大阪.

研究会発表

1. 城光寺 龍: 肺癌診療における病理診断. 第10回 日常診断に役立つ呼吸器セミナー, 4月, 2015, 大阪.

がん治療センター

スタッフ センター長：黒田昌男（～6月）、川上 学（7月～）
 花田留美、玉井 裕（以上麻酔・緩和医療科）、居平典久（消化器内科）、
 立花 功、田村慶朗（以上総合内科）、中川雅史（血液・化学療法内科）、
 高橋 励（神経科・精神科）、道清 勉（消化器・一般外科）、
 西田幸弘（乳腺外科）、赤羽 誉（耳鼻咽喉科）、前田宗宏（放射線科）、
 小山佐知子、畠山明子（以上看護部）、
 宮 麻紀子（薬剤部）、大西 龍（中央臨床検査部）、新谷泰正（中央放射線部）、
 田中 孝（リハビリテーション室）、本家裕子（あったかサポートセンター）、
 丸山加奈（神経科・精神科）、出口暁子（栄養管理室）、
 許斐正啓（総合企画部）、佐藤綾子（医事サービス部）



1. 診療内容

「大阪府がん診療拠点病院」として、引き続き各領域で内容の充実に取り組んだ。

日生病院では開催しなかったが、他施設で開催された研修会への参加を推進し、2名が参加した。

④がん疼痛緩和コントロールマニュアルを改定し、電子カルテ初画面に掲載した。

【主たる業務】

- 1) がんに関する集学的治療の充実
- 2) 緩和ケアチームの運営、緩和ケアに関する教育研修
- 3) がん治療に関する相談対応、情報提供
- 4) がん登録の推進

3) 相談支援

①がん看護相談

57件に対して行った。

②がん患者指導管理料1の算定

がんの診断を受けた患者に対して、PEACE研修会を受講した医師と有資格看護師（がん看護専門看護師、がん性疼痛看護認定看護師）とが共同して指導した場合に算定できるものであるが、80件に対して行った。

【具体的内容】

1) 集学的治療

①多診療科・多職種が参加するがんセンター・ボードを月1回の頻度で開催した。当番診療科（表参照）の経験症例を中心に、それ以外の診療科における症例や緩和ケアチームが介入した症例に関する診断・治療方針の検討を行った。また、抗がん剤の曝露予防などに関して情報共有を行った。

②レジメン登録

化学療法運営委員会と連携し、レジメンの審査を行い、化学療法の安全確実な実施体制を構築した。

4) がん登録

がん登録を行い、大阪府がん登録事業に参加した。

表

開催月	当番診療科
平成27年	
4月	泌尿器科
5月	放射線科
6月	耳鼻咽喉科
7月	消化器内科
8月	消化器・一般外科
10月	麻酔・緩和医療科
11月	血液・化学療法内科
12月	総合内科
平成28年	
1月	産婦人科
2月	乳腺外科

2) 緩和ケア

①緩和ケアチームによる介入、週1回の回診とカンファレンスの開催、月2回の各職種による定例勉強会・症例検討会の開催を行なった。

②全職員及び近隣医療機関職員を対象とした、緩和ケア講演会を開催し、88名が参加した。

開催日：平成28年2月19日

講師：堺市立総合医療センター 池田 先生

演題：骨転移の放射線治療－外照射と内用療法－

③がん対策推進基本計画に定められているPEACEに基づく「日生病院緩和ケア研修会」については、

女性骨盤底センター

スタッフ センター長：船渡孝郎

橋本奈美子、大塚博文、吉見佳奈、高山敬範、矢野悠子、尾上昌世、増田公美、田中雄介（以上産婦人科）、
福井辰成、福本 亮（泌尿器科）、南 有紀子（消化器・一般外科、非常勤医師）、横田ひろみ、松葉久美、川瀬俊子、西川由佳子、常松恵子（以上看護部）、
乾 有希子（薬剤部）、藤田育子（中央臨床検査部）、山田純子（中央放射線部）、藤岡栄悟、安達幸恵（以上リハビリテーション室）、出口暁子（栄養管理室）、久保郁美（診療情報管理室）



1. 診療内容

今般日本の高齢化はますます増加傾向にあり、女性の平均寿命は86歳と先進諸国の中でも上位に位置している。それに伴い様々な疾患も増加しつつある。婦人科疾患領域では骨盤内臓器脱がその最たる疾患で、軽症まで含めると50歳以上の女性の約半数が罹患すると言われ、米国では女性の11%が手術を受けている。

骨盤内臓器脱は直接的死因にはならないが、QOL（生活の質）をひどく低下させる疾患である。罹患の特徴として、婦人科または泌尿器科のどちらを受診するかを迷い、治療が遅れるという現状がある。また、腹圧性尿失禁も、比較的侵襲の低い手術によって著明に改善するものの、受診をためらう女性が多いとされている。

当センターは、その疾患を治療しより良い社会生活を再び過ごすことができるよう、サポートするために設立された。

1) 治療部門

<外科的治療>

- ・骨盤内臓器脱（膀胱瘤・子宮脱・直腸瘤・小腸瘤・肛門脱）：腹腔鏡下仙骨脛固定術（LSC手術）、TVM手術、腔式子宮全摘術、マッコール術（腔式または腹腔鏡下）、脛壁形成術、会陰形成術、マンチェスター術、ル・フォー脛閉鎖術 等
- ・腹圧性尿失禁：中部尿道スリング手術（TOT手術、TVT手術）

●TVM手術について

現在、日本ではTVMが適性かつ安全に施行されるために「骨盤臓器脱に対する経脛メッシュ手術施行に関する指針」が定められており、この中では学会の主催する講習会の受講が必須条件とされている。当院では4名がすでに受講済み。

●LSC手術について

平成28年度診療報酬改定により、4月よりLSC手術が保険診療可能となった。当院は平成25年5月に全国

で2番目にLSCの先進医療を取得し、現在は施設基準を満たしているため、保険診療で手術を行っている。

【平成27年度 入院手術件数】

LSC	9件
TOT	6件
TVM	43件
VT	10件
その他	13件
脛閉鎖術	8件
合計	89件

<保存的治療>

- ・リハビリ指導（骨盤底筋体操）
- ・栄養指導（肥満等食事指導）
- ・切迫性尿失禁、過活動性膀胱（OAB）に対する薬物治療
- ・産褥尿漏れ（助産師外来）
- ・ペッサリー修復・指導

【平成27年度 栄養指導件数】

合計56件

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
件数	4	4	8	3	7	5
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	3	5	6	3	2	6

【平成27年度 リハビリ：骨盤底筋運動指導人数】 合計117件

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
件数	14	5	13	17	7	11
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	14	10	5	5	6	9

2) 広報（サービス）部門

平成27年8月 女性骨盤底センターパネル展示
当院玄関ロビーにて

平成27年9月 ニッセイ市民健康セミナー

「輝くシニアライフは骨盤から作る」
橋本奈美子
当院別館講堂にて

2. 業績

論文・著書

1. 尾上昌世, 田中雄介, 増田公美, 矢野悠子, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 当院産婦人科における緊急腹腔鏡手術の現状. 日生病院医学雑誌, 43: 7-10, 2015.
2. 高山敬範, 橋本奈美子, 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 吉見佳奈, 大塚博文, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 内視鏡手術にて子宮を温存し得た帝王切開癒合部妊娠の1例. 日生病院医学雑誌, 43: 32-38, 2015.
3. 田中雄介, 高山敬範, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 吉見佳奈, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 既往帝王切開創部子宮筋層癒合不全(Caesarian Scar Defect; CSD)に対し, 全腹腔鏡下に子宮形成術を実施した1例. 日生病院医学雑誌, 43: 32-38, 2015.
4. 橋本(矢田)奈美子, 田中雄介, 尾上昌世, 矢野悠子, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 佐伯典厚, 藤田征巳, 船渡孝郎: 子宮内膜症性嚢胞の術後再発予防に関する前方視的ランダム化比較試験(中間報告)～再手術を避けるために～. 日本エンドメトリオシス学会, 36: 54-58, 2015.

学会発表

1. 橋本(矢田)奈美子, 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 佐伯典厚, 藤田征巳, 船渡孝郎: 子宮内膜症性嚢胞の術後再発予防に関する前方視的ランダム化比較試験. 第36回日本エンドメトリオシス学会, 1月, 2015, 東京.
2. 橋本(矢田)奈美子, 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 佐伯典厚, 藤田征巳, 船渡孝郎: 高齢女性のtotal supportをめざして～女性骨盤底センターの果たす役割. 第9回日本骨盤臓器脱手術学会, 3月, 2015, 東京.
3. 矢野悠子, 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 藤田征巳, 船渡孝郎: 当院での高齢者(75歳以上)に対する腹腔鏡下手術. 第67回日本産婦人科学会, 4月, 2015, 横浜.
4. 増田公美, 田中雄介, 尾上昌世, 矢野悠子, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 良性腫瘍の診断で腹腔鏡下手術を施行するも術後に悪性と診断された症例の検討. 第67回日本産婦人科学会, 4月, 2015, 横浜.
5. 高山敬範, 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 吉見佳奈, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 高度肥満症例に対する腹腔鏡手術の検討. 第67回日本産婦人科学会, 4月, 2015, 横浜.
6. 吉見佳奈, 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 高山敬範, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 緊急加療を要した卵巣子宮内膜症性嚢胞の感染および破裂. 第67回日本産婦人科学会, 4月, 2015, 横浜.
7. 尾上昌世, 田中雄介, 増田公美, 矢野悠子, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 突出不良の粘膜下筋腫に対する子宮鏡下手術 支持鉤つきレゼクトスコープの使用経験. 第132回近畿産科婦人科学会, 6月, 2015, 神戸.
8. 増田公美, 田中雄介, 尾上昌世, 矢野悠子, 高山敬範, 吉見佳

- 奈, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 婦人科受診を契機に診断された家族性地中海熱の一例. 第132回近畿産科婦人科学会, 6月, 2015, 神戸.
9. 尾上昌世, 田中雄介, 増田公美, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 藤田征巳, 船渡孝郎: 当院における腹腔鏡下仙骨陰固定術の手術成績. 第17回日本女性骨盤底医学会, 8月, 2015, 東京.
 10. 橋本(矢田)奈美子, 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 佐伯典厚, 藤田征巳, 船渡孝郎: 腹腔鏡下に行う骨盤再建手術-Uterosacral Ligament Suspension-仙骨子宮靱帯陰挙上術. 第17回日本女性骨盤底医学会, 8月, 2015, 東京.
 11. 尾上昌世, 田中雄介, 増田公美, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 腹腔鏡下子宮筋腫核出後の妊娠症例に関する検討. 第55回日本産科婦人科内視鏡学会, 9月, 2015, 横浜.
 12. 増田公美, 田中雄介, 尾上昌世, 矢野悠子, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 腹腔鏡下手術後に初めて悪性と診断された症例の検討. 第55回日本産科婦人科内視鏡学会, 9月, 2015, 横浜.
 13. 増田公美, 田中雄介, 尾上昌世, 矢野悠子, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 腹腔鏡下子宮全摘術(TLH)における子宮重量別の検討. 第55回日本産科婦人科内視鏡学会, 9月, 2015, 横浜.
 14. 矢野悠子, 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 八田幸治, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 藤田征巳, 船渡孝郎: 当院での高齢者(65歳以上)に対する腹腔鏡下附属器手術症例の検討. 第55回日本産科婦人科内視鏡学会, 9月, 2015, 横浜.
 15. 高山敬範, 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 吉見佳奈, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: TLH施行中に陰パイプを直腸に誤挿入し予期せぬ直腸損傷を起こした一例. 第55回日本産科婦人科内視鏡学会, 9月, 2015, 横浜.
 16. 高山敬範, 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 吉見佳奈, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 腹腔鏡下手術を行った陳旧性異所性妊娠の一例. 第55回日本産科婦人科内視鏡学会, 9月, 2015, 横浜.
 17. 吉見佳奈, 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 卵巣子宮内膜症性嚢胞の感染に対する治療. 第55回日本産科婦人科内視鏡学会, 9月, 2015, 横浜.
 18. 橋本(矢田)奈美子, 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 佐伯典厚, 藤田征巳, 船渡孝郎: 腹腔鏡下に行う骨盤再建手術Uterosacral Ligament Suspension 仙骨子宮靱帯陰挙上術. 第55回日本産科婦人科内視鏡学会, 9月, 2015, 横浜.
 19. 大塚博文, 田中雄介, 増田公美, 八田幸治, 尾上昌世, 矢野悠子, 高山敬範, 吉見佳奈, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 藤田征巳, 船渡孝郎: LSCのコツ、合併症、術式によるメリット・デメリット. 第55回日本産科婦人科内視鏡学会, 9月, 2015, 横浜.
 20. 高山敬範, 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 八田幸治, 吉見佳奈, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 手術操作中に下大静脈フィルターが血管表面を貫き露出した卵巣癌の一例. 第38回日本産婦人科手術学会, 11月, 2015, 東京.

研究助成・治験・臨床研究等

(臨床研究)

1. 尿失禁患者のリハビリテーション評価 (吉見佳奈)

糖 尿 病 ・ 内 分 泌 セ ン タ ー

スタッフ センター長：笠山宗正

部長：住谷 哲

宇都佳彦（総合内科）、仁科周平（総合内科）、大畔健太（総合内科兼任）、

中川 厚（循環器内科）、福井辰成（泌尿器科）、西本知子（皮膚科）、

島袋幹子（眼科）、細野研二（耳鼻咽喉科）、小豆澤深雪（予防医学センター）、

角南ちえ子、高山由美子、川瀬俊子、西井順子、中村綾乃、中島麻帆、片岡郁子、濱野沙穂、

片岡愛子、清山深雪（以上看護部）、

野村浩英（薬剤部）、倉本訓子（中央臨床検査部）、

在津裕明（中央放射線部）、麦田盛穂（リハビリテーション室）、出口暁子（栄養管理室）、

朝倉祐紀（総合企画部）、木下奈美（医事サービス部）



1. 診療内容

平成26年度より引き続き院内の各診療科医師および各部署のスタッフからなる糖尿病・内分泌センターのもとで活動を継続している。

2. 診療体制

糖尿病・内分泌センターでは、糖尿病患者および過食・運動不足などの生活習慣が関与する肥満・脂質異常症・高尿酸血症・高血圧症などの患者を中心に多職種スタッフによる診療を行っている。患者の日常の代謝動態や生活習慣上の問題点を把握し、疾病の進行や合併症の発症・進行を抑制することを目的としている。

1) 外来診察スケジュール

毎週月～木曜日の4日間、糖尿病看護認定看護師や管理栄養士を含む糖尿病療養指導士の資格を持つスタッフが中心となり、病態の評価および指導を行った。

2) 病棟体制

入院中の糖尿病患者を対象に、総合内科・看護部・栄養管理室・リハビリテーション室・中央臨床検査部・薬剤部の協力を得て、糖尿病に関する集団指導（糖尿病ふれあい教室）を週4日実施した。またDMT（Diabetes Management Team）回診を毎週水曜午後に行った。

3. 診療実績

1) 外来診療実績

①オーダーメイド糖尿病診療

30分枠の完全予約制で、患者の安静時代謝量・摂取エネルギー量・運動エネルギー量・身体能力を測定・評価し、患者毎の病態と生活習慣に応じた個別の栄養指導・運動指導・生活習慣指導を実施した。これらの指導は患者の病態や治療効果を考慮し複数回実施している。平成27年度に当センターを受診した患者数は延べ1,261名（平成26年度は1,218名）であった。

②糖尿病合併症の管理

糖尿病足病変のハイリスク患者を対象として糖尿病神経障害の評価と診断、足ケア、潰瘍・壊疽防止のための指導を実施した（糖尿病合併症管理）。平成27年度における実施件数は97件（平成26年度は85件）であった。

また、糖尿病腎症患者を対象に、医師・看護師・管理栄養士による透析予防のための指導も実施した（糖尿病透析予防指導管理）。平成27年度における実施件数は239件（平成26年度は159件）であった。

2) 入院患者の診療

①糖尿病集団指導

＜糖尿病ふれあい教室講師＞

宇都佳彦（総合内科）、大畔健太（総合内科兼任）、角南ちえ子、川瀬俊子、高山由美子（看護部）、野村浩英、乾 有希子、瀧川奈央（薬剤部）、片岡宏一郎、廣田将史（リハビリテーション室）、水口洋一、倉本訓子（中央臨床検査部）、出口暁子、松村寿美、大平百合子（栄養管理室）

糖尿病ふれあい教室の参加患者数は延べ642名（平成26年度は674名）であった。

3) 活動

①日生病院糖尿病フェアの開催

糖尿病の発症と進行抑止のために有益な情報提供を行うため、世界糖尿病デーにあわせて糖尿病に関する正しい理解のための啓発活動を実施した。当センターのスタッフを中心に、パネル展示、血糖測定、HbA1c測定、頸動脈エコー、医療相談などを実施した。

＜日時＞平成27年11月13日（金）

11：30～13：30

＜場所＞日生病院外来玄関ホール

＜内容＞

- ・糖尿病啓発のためのパネル展示
- ・血糖測定・HbA1c測定

- ・フットケア
- ・頸動脈エコー
- ・お薬相談
- ・栄養相談
- ・医療相談
- ・運動指導、筋肉量測定 など

②公開セミナーの開催

患者および一般市民を対象に公開セミナーを開催した。

『平成27年度第2回ニッセイ市民健康セミナー』

＜日時＞平成27年7月11日(土) 14:00～16:00

＜場所＞日生病院 別館講堂

＜内容＞

第1部

講演1:

「知らないとソンする!骨粗しょう症の基礎知識」
(院長 糖尿病センター長 笠山宗正)

講演2:

「知らないとソンする!骨を強くする運動効果」
(糖尿病・内分泌センター部長補佐 麦田盛穂)

講演3:

「毎日コツ(骨)コツ(骨)簡単らくらく体操」
(リハビリテーション室:理学療法士)

第2部『アマチュア落語』3席

桂文喬主宰落語研究会

『ニッセイ糖尿病ランチ&セミナー』

＜日時＞平成28年1月29日(金) 12:00～14:00

＜場所＞日生病院別館講堂

＜内容＞

第1部

ヘルシー弁当の試食会「ヘルシー地中海料理」

第2部

講演1

「糖尿病の薬物療法における最近の話題」
(糖尿病・内分泌センター部長 住谷 哲)

講演2

「知って得する糖尿病の運動効果!毎日継続!」
5分でできる簡単エクササイズ」
(糖尿病・内分泌センター部長補佐

リハビリテーション室理学療法士 麦田盛穂)

講演3

「腸内細菌について-加齢・免疫力・感染予防・花粉症-」

(株式会社クリニコ 藤本管理栄養士)

③糖尿病患者友の会「錦会」に対する支援活動

糖尿病患者会の関連行事に対して支援活動を行った。

①『第42回錦会総会』

＜日時＞平成27年11月20日(金) 12:00～15:00

＜場所＞日生病院別館講堂

＜内容＞

第1部

糖尿病宅配食の試食会『和風季節弁当の試食』

第2部

講演:糖尿病・内分泌センター 部長 住谷 哲

②糖尿病ウォークラリー

＜日時＞平成27年11月1日(日)

＜場所＞鶴見緑地公園 5キロコース 優勝

4. 業績

論文・著書

1. Sumitani S, Utsu Y, Nishina S, Okuro K, Kogetsu A, Ishii S, Deguchi A, Sato B, Tachibana I, Kasayama S, Koga M: Carbohydrate Intake is Correlated with the Glycated Albumin to Glycated Hemoglobin Ratio in Drug-naïve Patients with Type 2 Diabetes. Journal of Diabetes Mellitus DOI: 10.4236/jdm.2016.61002, 2016.
2. 仁科周平, 住谷 哲, 石井誠剛, 早川友朗, 宇都佳彦, 田村慶朗, 小瀬戸昌博, 立花 功, 笠山宗正, 福井辰成, 黒田昌男, 元村卓嗣: 小児期発症クッシング症候群を呈したBlack adrenal adenomaの1例. 日生医誌, 43: 93-98, 2016.

学会発表

1. 住谷 哲, 宇都佳彦, 早川友朗, 仁科周平, 佐藤文三, 立花 功, 笠山宗正: 初回治療薬としてのメトホルミンの長期有効性に関連する因子の検討. 第58回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2015, 下関.
2. 麦田盛穂, 足立幸恵, 廣田将史, 田中 孝, 杉本扶美, 藤岡栄悟, 白川 桂, 向井 葵, 片岡宏一郎, 角南ちえ子, 松井 稔, 住谷 哲, 笠山宗正: 当院での週末短期糖尿病精査・教育入院における個別運動療法の成績について. 第58回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2015, 下関.
3. 仁科周平, 住谷 哲, 早川友朗, 宇都佳彦, 佐藤文三, 立花 功, 笠山宗正: メトホルミン単剤投与中の2型糖尿病患者に対する追加薬剤としてのDPP4阻害薬の有効性とこれに関連する因子. 第58回日本糖尿病学会学術総会, 5月, 2015, 下関.

研究助成・治験・臨床研究等

(治験)

1. 日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社の依頼による基礎インスリンによる治療では血糖コントロール不十分な高齢2型糖尿病患者を対象として, リナグリプチン(5mgを1日1回経口投与)併用時の有効性及び安全性を検討する24週間, ランダム化, 二重盲検, プラセボ対照, 並行群間試験(日本は52週間投与)
2. 第一三共株式会社の依頼によるDS-5565第Ⅲ相国際共同試験-アジアにおける糖尿病性末梢神経障害性疼痛(DPNP)患者を対象にした14週間のプラセボ対照無作為化二重盲検試験及び52週間の非盲検長期投与試験-
3. 第一三共株式会社の依頼によるDS-5565第Ⅲ相試験-日本における腎機能低下を伴う糖尿病性末梢神経障害性疼痛患者もしくは腎機能低下を伴う帯状疱疹後神経痛患者を対象とした14週間の非盲検試験-

(臨床研究)

1. 特発性低ゴナドトロピン性性腺機能低下症の遺伝子診断(住谷 哲)
2. トホグリフロジンによる糖尿病大血管症の進展抑制効果の検討(住谷 哲)

消化器内視鏡センター

スタッフ センター長：湯川雅彦

中村秀次、居平典久、村本 理、田中敏雄（1月～）、河田奈都子（6月～）、
影山美沙紀（～8月）（以上消化器内科）、
道清 勉、藤井 眞（～12月）、森田哲史（～9月）、原 譲次、山下晋也（10月～）
（以上消化器・一般外科）
芳賀宣子、榎本知奈美（以上看護部）、
加藤千尋（中央臨床検査部）、
森本洋子（あったかサポートセンター）



1. 診療内容

消化器内視鏡センターは、日生病院内視鏡室、ニッセイ予防医学センター内視鏡室、消化器内科、消化器外科を有機的に連携することにより消化器内視鏡関連業務の質の向上を目指している。消化器内科、消化器外科の連携により消化器癌の早期発見、早期治療をめざしている。予防医学センターでの人間ドック、企業健診で要検査となられた方を対象に、日生病院での検査、加療を行っている。また、安全、安心な苦痛の少ない内視鏡検査を心がけ、内視鏡検査のトレーニングを希望する医師を指導している。地域医療連携室経由で、上部内視鏡検査を直接予約いただける便宜をはかり、日本消化器内視鏡指導施設の役割を果たしていく。

a. 検査・治療部門

上部消化管内視鏡

通常内視鏡検査
内視鏡的粘膜切除術（EMR）
内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）
内視鏡的静脈瘤結紮術（EVL）
内視鏡的胃瘻造設術（PEG）
超音波内視鏡（EUS）

胆道系内視鏡

内視鏡的逆行性胆道膵管造影（ERCP）
内視鏡的乳頭括約筋切開術（EST）
内視鏡的採石・碎石術
内視鏡的ステント挿入術（ENBD・ERBD tube）
超音波内視鏡（EUS）

下部消化管内視鏡

軸保持短縮挿入法・診断・治療
超音波内視鏡（EUS）

上部胃内視鏡検査：2,663件（2015年4月～2016年3月）

下部内視鏡検査：1,245件

予防医学センター内視鏡室 上部内視鏡検査：3,400件
下部内視鏡検査：89件

b. 学術部門

研修医・コメディカル対象：
内視鏡室の通年での研修医への開放

c. 広報（サービス）部門

地域医療連携室経由での内視鏡業務開放

救 急 診 療 セ ン タ ー

スタッフ センター長：三木俊治
部長代理：中川 厚
専 攻 医：古結敦士、大畔健太



村西寛実(循環器内科)、宇都佳彦(総合内科)、佐藤智彦(神経内科)、
藤井 眞(～12月 消化器・一般外科)、友永真人(整形外科)
専 攻 医：吉川秀人(循環器内科)、影山美沙紀(～8月 消化器内科)、
仁科周平、石井誠剛(以上総合内科)、田中庸弘(～9月 血液・化学療法内科、10月～総合内科)、
重里昌子(乳腺外科)、横井一範、伊賀佐紀(以上皮膚科)、田中雄介(産婦人科)、
横山洵子(～6月 眼科)

安藤圭子、新部里美、梶谷久美子、岡部彩子、松本愛美、濱野真由子、二宮ルミ、
姉川友里恵、川上奈緒美、佐々木理恵(以上看護部)、
吉岡 亮(薬剤部)、吉田隆則(中央臨床検査部)、長澤浩造(中央放射線部)、出口暁子(栄養管理室)、
宮本浩樹(診療情報管理室)

●青山礼華 ●竹本有花 ●藤井裕美 ●藤本 雷 ●佐竹祐人 ●平社亜沙子(●初期研修医1年目)

1. 診療内容

内科初診患者の診察に加え、救急車にて来院された患者の初期対応を行い、必要に応じて各専門分野診療科や他院への紹介を行う。内科専攻医および、初期研修医のプライマリケア、内科2次救急に対する診療能力の向上を目指した研修プログラムの一環となっている。

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
田中(庸)	三木	佐藤(和)	田中(庸)	三木	三木	田中(智)	石井	石井	三木

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール(表1)

3. 診療実績

1) 外来診療実績(表2)

2) 入院診療実績(表2)

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
外来	—	2,309	2,274	3,525	4,139
入院	—	186	58	946	2,331

※H23.4 救急診療科 新設

※H26.4 救急診療科から救急診療センターへ

4. 認定医・専門医など

日本内科学会総合内科専門医 1名
日本循環器学会専門医 1名
日本心血管インターベンション治療学会専門医 1名
日本内科学会認定内科医 2名
日本化学療法学会抗菌化学療法指導医 1名

臨床研修部

スタッフ 部長：三木俊治
部長代理：中川 厚



初期研修医：2年目 石川那智、魚田晃史、枝廣龍哉、小林 悠
1年目 青山礼華、竹本有花、藤井裕美、藤本 雷、佐竹祐人、
平社亜沙子

平成16年度から開始された新研修制度が始まり、初期研修2年間は各診療科に所属することなく各診療科を異動し、診療にあたることとなり、研修内容などを病院として一括して行う必要が生じたため、平成17年度より臨床研修部ができた。各年度当院単独型での定員5名に加え、大阪大学、神戸大学からの1年目たすき掛け研修医にて構成される。

研修：月1回 EBMに関する抄読会

1. 実績

A. 病院見学学生

男性31名、女性21名：計52名

B. マッチング試験受験

男性11名 女性8名：計19名

C. 病院説明会への参加

平成27年6月21日

：レジフェア ATCホール

ブース訪問学生：6年生：0名、5年生：24名、
4年生以下：32名 合計56名

平成28年2月22日

：近畿厚生局主催近畿地区臨床研修病院説明会
ホテル大阪ベイタワー

ブース訪問学生：5年生7名、4年生以下3名
合計10名

平成28年3月5日

：大阪大学医学部講義棟

ブース訪問学生：5年生10名 合計10名

2. 業績

研究助成・治験・臨床研究等
(臨床研究)

1. 慢性閉塞性肺疾患の胸部X線所見と併存疾患との関係性
(枝廣龍哉)

スタッフ 輸血管理室長：川上 学
中央臨床検査部：内野高裕



1. 診療内容

輸血管理室では、病院内で行われる輸血業務の全般を行い、管理している。業務は、厚生労働省が策定した「輸血療法の実施に関する指針」（改訂版）及び「血液製剤の使用指針」（改訂版）に基づいて行っている。

2. 診療体制

1) 輸血の管理体制

i) 担当技師

認定輸血検査技師である内野が担当技師として輸血検査業務の指導を行っている。時間外・休日は、検査技師が24時間体制で輸血検査を行っているが、必要に応じて担当技師がバックアップをしている。

ii) 責任医師

川上が責任医師として、輸血副作用や輸血業務に関するコンサルテーションに応じている。

iii) 輸血療法委員会

院内の各職種（医師、看護師、薬剤師、検査技師、医事担当）からなる委員会を2ヶ月に1回開催し、血液の使用状況調査、輸血療法に伴う事故・副作用・合併症の把握を含め、輸血業務の効率化・安全性向上のための対策などについて検討している。

3. 診療実績

1) 血液製剤の使用状況

①赤血球液（RBC）	2,546単位
自己血	48単位
②新鮮凍結血漿（FFP）	188単位
③血漿交換療法におけるFFP	0単位
④アルブミン	1,492.5単位
濃厚血小板	9,135単位

*FFPおよびアルブミンの使用量は、適正とされる基準

$$\text{FFP/RBC比} = (② - ③ / 2) / ① = 0.07 < 0.54$$

$$\text{アルブミン/RCC比} = ④ / ① = 0.58 < 2$$

を満たしていた。

2) 血液製剤の廃棄状況

RBC 36単位、FFP 26単位、PC 0単位

3) 平成27年度における変更点

i) 説明および同意書の改訂

「輸血に関する説明および同意書」を改訂し、その中で輸血後感染症の血液検査の概略を記載した。同時に「血漿分画製剤使用に関する説明および同意書」、「輸血後感染症の血液検査 説明同意文書」を作成した。

ii) 輸血後感染症の血液検査

輸血後感染症検査の実施時期を担当医に周知する目的で、「〇月〇日（輸血施行3ヶ月後の日付）を目処に輸血後感染症検査を行ってください」とのメッセージを輸血管理室が電子カルテ内の患者掲示板に入力（メッセージの有効期限は指定しない）する運用を開始した。

4) 今後の予定

i) アルブミン製剤の在庫管理及び出庫を、従来の薬剤部に代わって、輸血管理室で行う。

ii) 末梢血幹細胞の保存・出庫を、電子カルテのオーダーリングシステムを用いて管理する。

4. その他

i) 輸血教育講演会（年1回）

平成28年1月22日（金）に、「日生病院・輸血療法マニュアルの改訂について－より安全な輸血療法を目指して－」との演題で、血液・化学療法内科 川上 学による輸血療法講演会を開催した。

化 学 療 法 室

スタッフ 室 長：中川雅史

看護師：畠山明子（がん化学療法看護認定看護師）



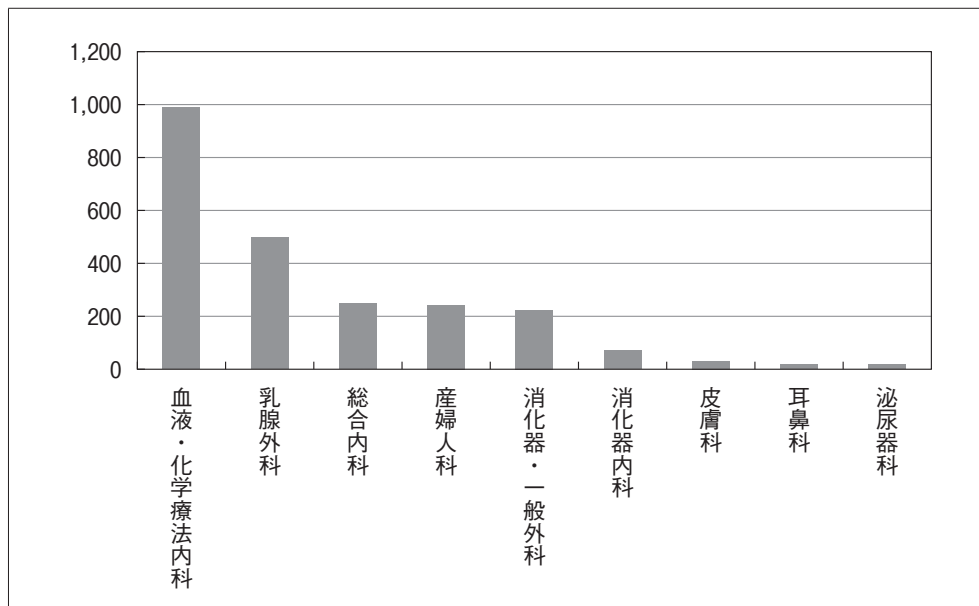
1. 診療内容

外来通院での抗がん剤治療、抗がん作用を期待してのホルモン剤投与、骨転移に対するビスフォスホネート投与、関節リウマチなどの膠原病や乾癬などの自己免疫疾患に対する生物学的製剤投与などの専用治療室として運用、外来化学療法加算を算定している。特に、消化器・一般外科、乳腺外科、産婦人科の症例は、がん化学療法看護認定看護師が化学療法開始前にカウンセリングを主体とする面談を行い、患者及び家族の治療に関する疑問や不安の軽減に努めている。また、入院から外来移行時にオリエンテーションを行い、滞りない外来治療への移行をサポートしている。治療中は自宅で起こった副作用の対処に随時電話相談を受け、速やかに対応をしている。

2. 診療実績（図1）

化学療法室利用者件数は総数で3,185件（前年比－189）で、その内化学療法加算の算定（点滴抗がん剤の投与）件数は2,333件（前年比－216）で、診療科別の内訳は図1の通りであった。尚、総合内科、皮膚科の集計には、関節リウマチや乾癬に対する生物学的製剤の投与が含まれている。また、ホルモン剤の投与は852件（前年比＋3）であった。

図1 H27年度 診療科別化学療法加算算定件数



リハビリテーション室

スタッフ リハビリテーション室長：松井 稔

理学療法士：片岡宏一郎、麦田盛穂、廣田将史、田中孝、藤岡栄悟、

向井 葵、白川 桂、安達幸恵、岸本 大、泉本亮二

作業療法士：杉本扶美



1. 診療内容

各診療科からのリハビリ依頼、身体機能の向上を目標に、理学療法士と作業療法士が連携し合いながら最良のリハビリテーション医療を提供してきた。リハビリテーションの内容は、急性期の運動器疾患・脳血管疾患・呼吸器疾患・がん患者さんを中心に実施し、それぞれの疾患に対応した個別のプログラムを実践してきた。運動器疾患は関節の変性や炎症疾患、体幹・上・下肢の外傷や骨折、熱傷瘢痕による関節拘縮、運動器の悪性腫瘍、運動器不安定症などの患者さんが対象となり、平成27年度の年間実績は22,385件あった。脳血管疾患は脳梗塞、脳出血、多発性神経炎（ギランバレー症候群等）、多発性硬化症、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、運動ニューロン疾患（筋萎縮性側索硬化症）、末梢神経障害、皮膚筋炎、多発性筋炎などの脳血管疾患の患者さんが対象となり、平成27年度の年間実績は2,354件あった。呼吸器疾患は肺炎、無気肺、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、気管支喘息、食道癌、胃癌、肝臓癌、咽・喉頭癌等の手術前後の呼吸機能訓練を要する呼吸器疾患の患者さんが対象となり、平成27年度の年間実績は1,316件あった。がん患者さんのリハビリテーションはがんやがんの治療により生じた疼痛、筋力低下、障害等に対して二次的障害を予防し、運動器の低下や生活機能の低下予防・改善することを目的とした患者さんが対象となり、平成26年度の年間実績は382件あった。

急性期の患者さんだけでなく、長期入院患者さんに対しても継続的なリハビリを行い、ADLの維持・改善を目標に実施した。

休日リハビリを継続的に実施し、休日による身体能力の低下を防止するために、早期リハビリ対象患者さんを中心にベットサイドでの早期離床を促した。

地域連携として訪問リハビリを精力的に継続し、在宅での運動指導やADLの状況確認、家屋調整などを行いながら、高いQOLの保持に努めた。退院後の生活について不安を抱いている入院患者さんに対しては退院前に自宅を訪問し、手すりなどの環境確認や整備などの退院前訪問指導を行い、退院がスムーズに行えるよう支援した。

予防領域におけるリハビリの重要性を積極的に啓蒙し、糖尿病・内分泌センターからの糖尿病患者さんに

対する運動機能の評価を行ったり、糖尿病精査入院では個々に応じたオーダーメイドの運動指導を行いながらその普及に努めた。

チーム医療においては、リハビリカンファレンスの定期的な開催や緩和ケアカンファレンスへの参加、糖尿病ふれあい教室での「運動療法について」のセッション担当、女性骨盤底センターからの骨盤底筋運動の指導を行い、他職種との連携を図りながらリハビリとしての専門性を発揮した。

リハビリの質向上においては、NST回診や糖尿病回診に同行したり、勉強会にも参加し、最新の情報収集を行いながら知識向上に努めた。

院外での講習会や研修会にも自主的に参加し、会得した技能や知識を伝達講習してスタッフ間で共有した。学術活動においては積極的に発表し情報発信を行った。

リハビリ養成校から学生を積極的に受け入れ、臨床での実習を通じて後輩の育成に努めるとともに、養成校との密な連携を図りながら、実習教育活動の体制を整備した。

新規取り組みとして、心筋梗塞や心不全に対するリハビリを実践するために、心大血管リハビリ施設基準の取得に向けて、循環器医師などと連携しながら、新規分野の開拓に向けて着手しました。

2. 施設基準

- ・運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅱ）
- ・呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・がん患者リハビリテーション料

3. 業績

学会発表

1. 麦田盛穂、廣田将史、田中 孝、安達幸恵、杉本扶美、藤岡栄悟、白川 桂、向井 葵、片岡宏一郎、角南ちえ子、松井 稔、住谷 哲、笠山宗正：当院におけるウィークエンド糖尿病精査入院の短期成績について—運動療法の立場から—、第58回日本糖尿病学会年次学術集会、5月、2015、山口。
2. 麦田盛穂、廣田将史、田中 孝、片岡宏一郎、朝倉祐紀、出口暁子、角南ちえ子、松井 稔、住谷 哲、笠山宗正：週末3日間の糖尿病精査・教育入院に対する食事・運動療法の個別指導の有効性について、第52回日本糖尿病学会近畿地方会、11月、2015、京都。

3. 麦田盛穂：週末3日間の糖尿病教育入院に対する個別運動指導の有効性について、日本糖尿病病理学療法学会 第1回症例報告学術集会, 3月, 2016, 兵庫.

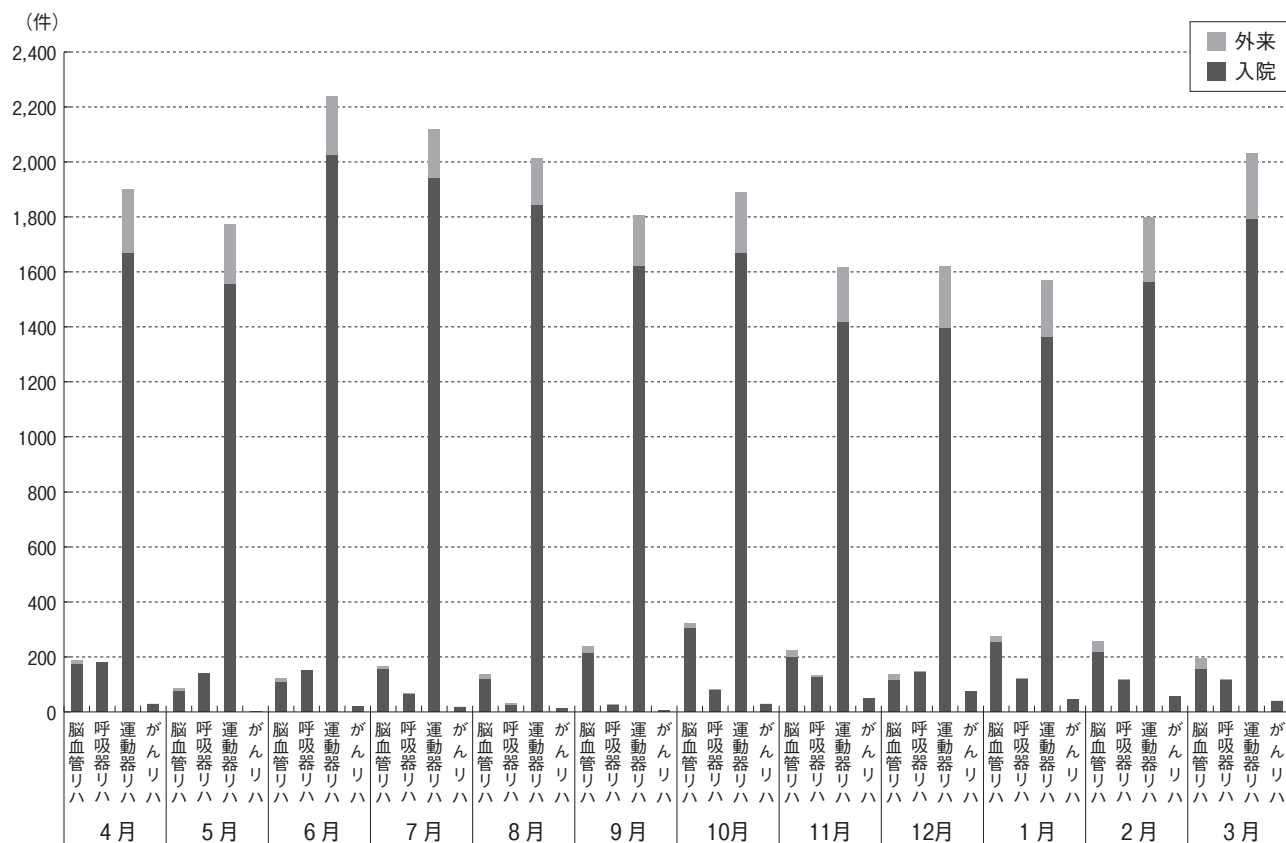
研究会発表

1. 麦田盛穂：知らないとソッとする！骨を強くする運動効果。第2回ニッセイ市民健康セミナー, 7月, 2015, 大阪.
2. 白川 桂：今日からできる！ロコモ予防に向けた身体づく

り, 第3回ニッセイ市民健康セミナー3, 9月, 2015, 大阪.

3. 廣田将史：呼吸リハビリテーションの実際 ～運動療法とADL指導中心に～, 第2回大阪市西区医師会学術講演会, 11月, 2015, 大阪.
4. 麦田盛穂：知って得する糖尿病の運動効果!! 5分でできる簡単運動エクササイズ, ニッセイ糖尿病ランチ&セミナー, 1月, 2016, 大阪.

図1 平成27年度 月別脳血管リハ・呼吸器リハ・運動器リハ・がんリハ件数



	4月				5月				6月				7月			
	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ
入院	174	180	1,669	29	75	139	1,556	3	108	152	2,023	19	154	65	1,940	18
外来	14	0	230	0	12	1	217	0	14	0	218	0	14	2	179	0

	8月				9月				10月				11月			
	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ
入院	118	25	1,842	13	214	24	1,620	7	303	78	1,666	29	200	127	1,417	49
外来	21	4	173	0	24	4	188	0	21	4	223	0	25	5	202	0

	12月				1月				2月				3月			
	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ
入院	115	142	1,396	73	254	117	1,363	47	215	115	1,562	55	155	113	1,791	40
外来	23	6	223	0	19	6	207	0	41	3	239	0	41	4	241	0

中央手術管理部

スタッフ 部 長：船渡孝郎
部 長 代 理：花田留美（麻酔・緩和医療科）、道清 勉（消化器・一般外科）
医 師：西田幸弘（乳腺外科）、松井 稔（整形外科）、東山真里（皮膚科）、
福本 亮（泌尿器科）、大塚博文（産婦人科）、島袋幹子（眼科）、
赤羽 誉（耳鼻咽喉科）
看 護 師：木下園子、下山優子
医療技能職：三木和美
事 務：高山國昭



1. 概要

平成27年4月1日より急性期病院として重要な手術についてニーズに対応した手術枠運営、安全で質が高く、かつ効率的な手術室運営等を実現する観点から診療支援部門に手術室をマネジメントする「中央手術管理部」が新設された。

2. 活動内容

＜主たる業務＞

- ①医療機器、手術材料、薬剤並びに手術枠等、手術室全般の適切な運営管理
- ②安全で質が高くかつ効率的な手術室運営の企画実施
- ③新病院に向けた手術室の方向性の検討

3. 実績

- ①毎月第2週月曜日「中央手術管理部定例会」の定期開催を開始した。
- ②中央手術管理部運営規約を制定した。
- ③システム部門との協働で「手術申込状況共有システム」を構築し、PC画面上でいつでも誰でも手術申込状況を確認する事ができ、手術枠を「見える化」した。また、手術の予約を枠単位から時間単位に変更し、当該科の医師への意識付けを行う事で全麻手術の効率化の実現。その結果、手術数の増加につながった。
- ④当手術室に平成27年7月、手術看護認定看護師が1名誕生した。平成28年1月より術前看護外来を開設し、術前からの看護介入に取り組み始めた。また、平成27年11月よりWHO安全な手術のためのガイドラインで推奨されている手術安全チェックリストを導入し、主治医や麻酔科医師との協働により安全な手術を実施するためのシステム作りを行っている。

中央臨床検査部

スタッフ 部長：小瀬戸昌博、専門部長：箭野文秀、技師長：水口洋一

(1) 検体Ⅰ部門〔責任者：吉田隆則〕：生化学・免疫、血液・凝固、輸血

吉田隆則、天野精子、内野高裕、倉本訓子、松谷憲一、玉川雄一、
若原達哉、(池田久美)

(2) 検体Ⅱ部門〔責任者：藤田育子〕：細菌、病理、外来（一般）

水口洋一、藤田育子、角田道久、大嶽雄也、小林美香、中辻果林、見瀬愛里

(3) 生理部門〔責任者：大西龍〕：循環器、超音波、肺機能、脳波、筋電図、耳鼻科

大西 龍、藤井ゆう子、古川浩司、柳川友加、森本 梓、大澤由布子、近藤直子、
福田志穂美、渡辺温子、(中尾やす子)、(相馬容子)、(吉岡 睦)

予防医学センター配属：篠田和子、上村慶子、徳山由佳、福田奈緒子（2月～）、(南谷美樹)

(4) 臨床工学部門〔責任者：加藤千尋〕

加藤千尋、三木和美、岡崎浩也

() は非常勤



1. 検査体制

中央臨床検査部は臨床検査部門と臨床工学部門を有し、下記各部門に編成し業務の共有化、効率化に取り組んでいる。

●臨床検査部門

○検体Ⅰ部門【生化学、免疫、血液、凝固、(輸血)】

○検体Ⅱ部門【細菌、病理、外来（一般）】

○生理部門【超音波、循環器、肺機能、脳波、
筋電図、耳鼻科】

臨床検査部門では、全体で宿日直、採血を担当し、また各種チーム医療にも参加している。

●臨床工学部門

○臨床工学部門【機器管理、透析、心カテ、手術室、他】

2. 特色

質の高い検査結果を得るための精度管理に力を注ぎ、日本医師会・大阪府医師会・日本臨床衛生検査技師会の精度管理調査に40年間にわたり参加し、常に優秀な

成績を収め続けている。

検査の迅速報告に対しても、検体到着後30分以内（生化学検査）での結果報告を目指し取り組んでいる。また、24時間検査体制にも対応し、時間外緊急検査の充実に取り組んでいる。

輸血検査から血液製剤管理までの輸血業務を安全かつ迅速に行う輸血管理体制にも対応している。

3. 業績

論文・著書

1. 玉川雄一、若原達也、松谷憲一、倉本訓子、内野高裕、天野精子、池田久美、吉田隆則、水口洋一、城光寺 龍、小瀬戸昌博：末梢血塗抹標本作製において引き止めウエッジ法が有用であった1症例とアルブミン添加による細胞崩壊の抑制について、日生病院医学雑誌、第43巻、第1号：11-16、2015。
2. 倉本訓子、若原達也、玉川雄一、松谷憲一、内野高裕、天野精子、池田久美、吉田隆則、水口洋一、小瀬戸昌博：汎用自動分析装置を用いた血中マトリックスメタロプロテイナーゼ-3 (MMP-3) 測定試薬の基礎的検討、日生病院医学雑誌、第43巻、第2号：87-92、2016。

平成27年度 検査件数

検査項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
外来検査	尿	3,742	2,612	2,893	2,889	2,659	2,568	2,853	2,525	2,748	2,590	2,730	2,995	33,804
	便	1,570	1,402	1,837	1,870	1,934	1,741	1,896	1,735	1,935	967	1,604	1,734	20,225
	迅速抗原	180	120	149	145	134	161	161	183	262	344	681	479	2,999
	計	5,492	4,134 (3,569)	4,879 (4,167)	4,904 (4,129)	4,727 (3,974)	4,470 (4,134)	4,910 (4,541)	4,443 (3,863)	4,945 (4,506)	3,901 (4,078)	5,015 (4,149)	5,208 (3,470)	57,028
化学・免疫・輸血検査	生化学	203,711	183,523	200,631	203,599	196,665	195,199	207,918	190,817	200,400	197,150	198,999	219,709	2,398,321
	輸血	228	227	197	180	202	227	223	207	216	127	155	191	2,380
	止血	3,523	3,064	3,277	3,433	3,521	3,060	3,250	2,980	2,962	3,239	3,526	3,520	39,355
	計	207,462	186,814 (156,790)	204,105 (175,913)	207,212 (178,818)	200,388 (181,511)	198,486 (187,570)	211,391 (204,024)	194,004 (179,615)	203,578 (202,252)	200,516 (201,011)	202,680 (191,241)	223,420 (210,874)	2,440,056
細菌検査	一般細菌	733	621	603	706	700	721	726	675	686	628	713	831	8,343
	抗酸菌	138	113	97	143	124	127	130	118	125	107	55	145	1,422
	迅速	139	165	209	62	88	95	70	97	106	53	71	100	1,255
	計	1,010	899 (801)	909 (813)	911 (829)	912 (696)	943 (732)	926 (838)	890 (752)	917 (795)	788 (876)	839 (757)	1,076 (940)	17,075
血液検査	一般検血	18,481	16,777	18,355	18,888	18,458	17,664	18,702	17,359	17,919	17,358	17,804	20,037	217,802
	その他	11	11	10	10	17	15	5	14	14	12	22	13	154
	計	18,492	16,788 (16,475)	18,365 (16,650)	18,898 (16,987)	18,475 (16,546)	17,679 (16,962)	18,707 (18,060)	17,373 (15,553)	17,933 (17,524)	17,370 (16,952)	17,826 (16,275)	20,050 (18,249)	217,956
合 計		232,456	208,635 (177,635)	228,258 (197,543)	231,925 (200,763)	224,502 (202,727)	221,578 (209,398)	235,934 (227,463)	216,710 (199,783)	227,373 (225,077)	222,575 (222,917)	226,360 (212,422)	249,754 (233,533)	2,732,115

(注) 1. () 内は前年同月

2. 前年4月は旧システム集計のため不掲載

生理検査関係件数

A. 脳波神経

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
脳波	26	13	14	20	29	17	27	26	9	29	18	29	257
筋電図・NCS	17	17	26	30	20	27	26	24	30	18	20	26	281
計	43 (31)	30 (25)	40 (26)	50 (32)	49 (32)	44 (32)	53 (42)	50 (27)	39 (35)	47 (35)	38 (41)	55 (42)	538 (400)

B. 超音波検査室

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
甲状腺+表在	34	29	45	40	36	41	50	47	47	49	49	48	515
乳腺	3	8	3	5	2	6	3	12	4	4	4	0	54
腹部	380	406	468	360	357	363	420	427	452	390	408	455	4,886
造影	1	0	3	3	2	3	1	2	0	1	1	0	17
計	418 (404)	443 (329)	519 (343)	408 (380)	397 (383)	413 (385)	474 (371)	488 (304)	503 (358)	444 (361)	462 (422)	503 (462)	5,472 (4,502)

C. 生理検査室

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
心電図	923	796	921	940	849	757	899	820	856	811	864	926	10,362
トレッドミル	12	7	7	14	6	10	11	12	9	10	8	12	118
負荷心筋シンチ	5	14	11	13	8	10	13	7	9	4	10	11	115
持続心電図	23	22	19	14	10	17	8	16	15	10	17	24	195
心エコー	210	176	233	251	197	172	238	204	219	198	234	284	2,616
末梢血管エコー	23	33	52	40	35	19	37	39	25	34	45	41	423
肺機能	191	180	193	211	175	169	218	167	153	168	186	198	2,209
ABI	69	68	103	107	113	81	111	122	124	106	142	152	1,298
計	1,456 (1,344)	1,296 (1,168)	1,539 (1,226)	1,590 (1,339)	1,393 (1,268)	1,235 (1,235)	1,535 (1,350)	1,387 (1,216)	1,410 (1,290)	1,341 (1,425)	1,506 (1,470)	1,648 (1,594)	17,336 (15,925)

D. 平衡機能検査

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
平衡機能検査	74	35	53	56	50	17	33	44	57	37	81	45	582
聴力機能検査	174	145	200	167	184	170	187	170	173	144	166	199	2,079
その他	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	4
計	248 (226)	180 (237)	253 (248)	223 (228)	234 (209)	189 (208)	220 (197)	214 (195)	230 (198)	181 (147)	249 (224)	244 (248)	2,665 (2,565)

[耳鼻咽喉科]

(注) () 内は前年同月

中 央 放 射 線 部

スタッフ 部 長：前田宗宏

副部長：牧 大介

担当部長兼技師長：在津裕明

石垣直也、村川靖弘、森本光雄、川畑孝司、長澤浩造、新谷泰正、

藤丸泰一、山田純子、中農智絵、伊泉希望、芝 瑞貴



1. 診療内容

質の高い検査・治療の提供にスタッフ全員で取り組んでいる。また、24時間検査体制にも対応し、緊急検査の充実に取り組んでいる。

2. 機器

CT 2台 (320列・16列)

MRI 1台 (1.5T)

RI 2台

リニアック 1台

一般撮影 2台

X線TV 2台

乳房撮影 1台

骨塩定量 1台

アンギオ 1台

結石破碎 1台

ポータブル 2台

外科用イメージ 2台

4. その他

第1種放射線取扱主任者 1名

健診マンモグラフィ認定技師 4名

核医学専門技師 1名

放射線管理士 2名

放射線機器管理士 2名

X線CT認定技師 1名

臨床実習指導教員 1名

診療放射線技師実習施設指導者 11名

3. 平成27年度 検査件数

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
CT	874	781	917	982	875	897	927	801	856	839	897	1,061	10,707
MRI	410	352	427	465	400	367	437	395	349	280	425	446	4,753
RI	53	46	65	65	64	50	71	57	46	46	55	59	677
単純X線	2,075	1,296	1,971	2,487	1,973	1,780	1,932	1,778	1,759	1,801	2,013	2,178	22,934
MMG	89	86	100	115	88	121	204	136	167	132	113	150	1,501
リニアック(新患)	10	11	14	10	8	10	18	6	7	12	11	11	128

血管系IVR 71例・非血管系IVR 43例

栄 養 管 理 室

スタッフ 栄養管理室長：道清 勉
副 部 長：出口暁子



非常勤スタッフ：松村寿美、大平百合子

1. 診療内容

栄養管理室では、生活習慣病をはじめとする食事療法を必要とする多くの疾患の個別食事指導を中心に、入院患者さまには栄養管理計画書の作成を行い、食事提供を通して栄養管理をすることで疾患の改善目的で栄養治療を行っている。

また、栄養サポートチームを通じて、低栄養の改善、食事内容の見直しや栄養補給法について、個々に対応したチーム医療を行っている。

外来（在宅）の患者さまでは、食事療法の継続が重要なために個別食事指導の継続的な指導も行っている。

2. 診療体制

1) 指導スケジュール（表1）

栄養指導室で入院個別指導および外来個別指導を、糖尿病センターで外来個別指導と集団栄養指導を行った。

2) 病棟体制（表2）

各病棟を担当制として、自己の受け持ち病棟の対象者を中心に食事指導を行った。

3. 診療実績

4月～6月はスタッフの入れ替わりにより、スタッフ数の減少による指導件数も減数となる。

1) 外来個別食事指導実績（表3）

糖尿病センターでの指導件数を含む。

2) 入院個別食事指導実績（表3）

3) 集団食事指導件数（表3）

4) 診療科別個別指導実績（表4）

5) 入院食事提供実績（表5）

6) NST活動実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人	40	15	19	29	4	19	27	14	11	17	10	14	219

ラウンド回数：46回

- ・NST勉強会：28年1月12日「栄養管理の基本」
講師：NST回診メンバー全員
参加者：71名

7) 患者サービスとして新しい取り組み

癌化学療法治療者限定に選択食の導入を行なった。
昼食と夕食において実施する。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人	190	97	75	128	116	159	277	249	267	80	89	251	1,978

- 8) 患者勉強会活動（糖尿病グループ及び患者会）
市民健康公開セミナー（糖尿病と骨粗しょう症）
錦会総会及び糖尿病食試食会 会員5名出席
（餅麦と秋鮭の和食弁当）
糖尿病ランチ&セミナー 患者 21名参加
（ヘルシー地中海料理弁当）

4. その他

1) 所属学会

日本病態栄養学会
日本静脈経腸栄養学会
日本褥瘡学会
日本栄養改善学会
日本栄養士会

2) 取得資格

日本糖尿病療養指導士
大阪糖尿病療養指導士
介護支援専門員
健康運動指導士
調理師

5. 業績

論文・著書

- 1. 出口暁子：「女性のからだ お悩み解決BOOK」 制作監修、ニッセイ女性向け健康手帳（第3弾）制作監修。
- 2. 出口暁子：「加工調味料を用いた減塩レシピ」 メニュー3品 考案株式会社ファンデリー・エバラ食品依頼 宅配食パンフ及びWEB掲載, 2016.

研究会発表

- 1. 出口暁子：小児から予防したい生活習慣病 病院管理栄養士の立場から、大阪市西区食育活動 特別講演会, 5月, 2015, 大阪。
- 2. 出口暁子：乾癬により食事 メタボ対策も含めて、第33回学習懇談会・大阪乾癬患者友の会（梯の会）, 6月, 2015, 大阪。
- 3. 松村寿美：第32回 糖尿病患者対象料理教室 指導、大阪糖尿病協会顧問栄養士会, 10月, 2015, 大阪。

表 1 個別食事指導スケジュール

	月	火	水	木	金
指導室	松村	出口	松村	大平	出口
診察室	大平	松村	大平	出口	大平
DMセンター	出口	大平	出口	松村	松村

表 2 担当病棟

病棟	3階	4階西	4階東	5階西	5階東	6階西	6階東
担当	松村	大平	大平	松村	出口	出口	出口

表 3 個別・集団栄養指導実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	平均	前年累計	平均
外来個別	42	44	61	43	62	65	72	69	75	71	74	86	764	64	529	44
DMセンター 外来個別	69	53	75	70	82	74	88	78	80	80	83	93	925	77	954	80
DM透析予防	21	22	22	22	20	19	15	16	21	21	19	21	239	20	151	13
入院個別	88	75	94	96	78	71	91	77	90	80	82	74	996	83	978	82
集団	9	12	11	14	10	5	11	11	10	9	14	13	129	11	108	9
合計	229	206	263	245	252	234	277	251	276	261	272	287	3,053	255	2,720	227

疾患別個別栄養指導件数（集団指導含まず）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	平均	前年累計	平均
胃腸病	3	4	1	1	2	1	1	4	10	8	5	5	45	4	95	8
肝臓病	9	5	9	5	4	7	6	3	4	8	5	5	70	6	135	11
糖尿病	147	129	170	157	167	145	166	152	164	155	152	171	1,875	156	1,678	140
腎臓病	7	3	6	5	11	9	16	11	10	9	6	9	102	9	75	6
高血・心臓・高脂	44	47	57	60	53	52	68	60	65	69	83	74	732	61	498	42
肥満症	0	0	0	0	0	3	2	1	0	0	0	1	7	0.6	20	2
術後食	3	1	3	1	1	3	5	0	3	1	0	0	21	2	14	1
膵臓食	3	4	3	0	3	6	2	7	10	3	6	5	52	4	73	6
その他	4	1	3	2	1	3	0	2	0	3	1	4	24	2	14	1
計	220	194	252	231	242	229	266	240	266	256	258	274	2,928	244.6	2,602	217

表 4 診療科別個別栄養指導実績 (DMセンター・集団含まず)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	平均
循環器内科	28	28	31	32	16	21	25	22	22	26	33	43	327	27
消化器内科	15	13	15	10	13	16	16	11	14	16	15	13	167	14
総合内科	35	32	47	40	43	39	49	42	44	44	44	41	500	42
血液内科	4	0	2	1	4	2	4	3	3	3	2	2	30	3
精神科	2	2	4	7	2	1	4	1	2	2	3	3	33	3
消化器外科	9	8	5	3	8	6	6	7	18	5	7	3	85	7
整形外科	5	1	5	1	4	2	2	3	3	1	3	0	30	3
皮膚科	7	6	4	10	9	9	12	10	12	14	15	10	118	10
泌尿器科	3	2	8	5	2	8	10	6	6	7	2	6	65	5
産婦人科	14	20	24	22	29	22	18	28	24	19	18	24	262	22
救急科	1	2	2	5	4	3	6	2	3	5	4	10	47	4
耳鼻咽喉科	1	0	2	2	1	1	2	2	3	6	3	0	23	2
神経内科	4	4	3	1	3	5	3	3	5	6	3	2	42	4
その他	2	1	1	0	2	1	6	6	6	2	4	3	34	3
合計	130	119	153	139	140	136	163	146	165	156	156	160	1,763	147

表 5 患者給食数

患者給食	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
常食	8,377	7,483	8,248	8,446	8,217	7,222	7,717	7,293	6,981	6,804	7,613	7,855	92,256	99,753
軟菜食	5,025	4,832	5,081	4,767	4,232	4,666	6,017	4,597	4,521	3,434	3,479	4,230	54,881	56,870
特食	7,866	7,397	7,763	8,300	8,593	8,274	8,652	7,936	7,945	8,440	9,751	9,480	100,397	192,928
合計	21,268	19,712	21,092	21,513	21,042	20,162	21,386	19,826	19,447	18,678	20,843	21,565	246,534	471,800
調乳本数	2,110	2,218	2,444	2,116	2,122	2,992	2,580	3,464	2,010	1,826	1,856	2,550	494,068	520,246

薬 剤 部

スタッフ 薬剤部長：野村浩英

薬剤師：池田久雄、乾 有希子、吉岡 亮、平田貴宏、宮 麻紀子、
大西秀美（～12月）、瀧川奈央、六車裕一、千原亜紀子、京 由美子、
辻 亜紀（4月～）、森岡浩子（10月～）

パート薬剤師：辻 俊美、中野静香、松元麻美

事務員：岩城淳子



1. 診療内容

当薬剤部は調剤、病棟業務を主とし、医薬品の適性使用、チーム医療への参画に取り組んできた。昨年に引き続き1病棟に1薬剤師を配置し週20時間以上の病棟業務を行った。院内の医薬品について医薬品安全管理責任者を配置し院内での医薬品安全管理の講演を行い、DIニュースを定期的に発行するなど薬剤の適性使用を図っている。糖尿病、ICT、NST、緩和ケア、褥瘡対策などチーム医療にも参加し医薬品の安全使用を図った。

経済効果の取り組みとしてジェネリック薬品の導入を推進し数量ベースで80%の使用率を目標とした。結果（H27年10月～H28年3月）ジェネリック薬品使用率は80.8%であった。引き続きジェネリック薬品使用率の向上を図る。

癌化学療法レジメンの登録と円滑な運用を行った。新規申請19レジメンの承認審査並びに登録、オーダー時内容の確認・承認、抗癌剤の混注などにより癌化学療法上の安全性の確保に努めている。

製剤は院内特殊製剤の調製、供給に取り組んでいる。申請のあった特殊製剤について倫理委員会に諮り使用についての安全性を確認している。製造物責任法に対応するため、日本病院薬剤師会より公示された指標に従って院内製剤の倫理上の検討も行った。

薬品管理上、採用薬品、削除薬品の審議を薬事管理委員会に諮り、採用品目数は増減なくほぼ前年度並になっている。薬品購入金額は分子標的薬など高額薬剤の使用もあり、対前年比103.47%、3,300万円の増額となった。

医療外業務として薬学部学生の病院実務実習を受け入れた。期間・人数は、1期3ヶ月間に4名を受け入れ、3期で合計12名であった。

2. 診療体制

1) 人員配置

人員：薬剤師15名（パート3名を含む）、事務員1名
配置：調剤・製剤業務7名、薬剤管理指導業務7名
DI（薬品情報室） 1名
治験管理室（事務局） 1名
薬品管理 事務員 1名

2) 病棟体制

薬剤師7名を配置。
薬剤管理指導（服薬指導）、保険診療に定められた病棟業務を実施している。

3. 診療実績

1) 日常業務

外来処方箋枚数	143枚/日（外来注射処方を含む）
入院処方箋枚数	181枚/日
入院注射処方箋枚数	634枚/日
服薬指導件数	623件/月（薬剤管理指導業務）
抗癌剤調製件数	230件/月

2) 院内学術活動（講演）

第4回ニッセイ市民健康セミナー「花粉症の治療薬」
医療安全講演会（医療事故の再発・類似事例、TeamSTEPPSとは）

3) 院内広報活動

医薬品情報（安全性情報）	12通
DSU（医薬品安全対策情報）	12通
新規採用薬情報	4通
薬ニュース	1通

4. 認定薬剤師など

日本医療薬学会認定薬剤師	2名
がん薬物療法認定薬剤師	2名
感染制御認定薬剤師	1名
抗菌化学療法認定薬剤師	1名
妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師	1名
日本糖尿病療養指導士	3名
認定実務実習指導薬剤師	3名

（2016年3月31日現在）

5. 業績

論文・著書

- 瀧川奈央, 住谷 哲, 乾有希子, 大西秀美, 野村浩英, 宇都佳彦, 早川友朗, 仁科周平, 三木俊治, 佐藤文三, 畑中勝義, 立花 功, 笠山宗正：インスリン治療中の高齢2型糖尿病患者におけるインスリン投与法と併用経口血糖降下剤の特徴について、日生病院医学雑誌, 第43巻・第2号：83(17)-86(20), 2016.

学会発表

- 瀧川奈央, 住谷 哲, 乾 有希子, 牧 秀美, 野村浩英, 宇都佳彦, 早川友朗, 仁科周平, 三木俊治, 佐藤文三, 畑中勝義, 立花 功, 笠山宗正, 公益財団法人日本生命済生会付属日生病院薬剤部, 同総合内科：インスリン治療中の高齢2型糖尿病患者におけるインスリン投与法と併用経口血糖降下剤の特徴について、第58回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2015, 下関.
- 乾 有希子, 池田久雄, 平田貴宏, 宮 麻紀子, 大西秀美, 六車裕一, 松元麻美, 江川 功, 尾上昌代, 佐伯典厚, 中西康詞, 赤木幹弘, 中野博明, 安田 稯, 野村浩英：母乳中パルプロ酸濃度を測定し初乳での安全性を検討した一例、第25回日

本医療薬学会年会, 11月, 2015, 横浜.

3. 京 由美子, 吉岡 亮, 乾 有希子, 池田久雄, 野村浩英: 術後せん妄予防を目的に手術時投与した抑肝散坐薬の使用状況. 第25回日本医療薬学会年会, 11月, 2015, 横浜.
4. 千原亜紀子, 池田久雄, 平田貴宏, 岡安 唯, 野村浩英: MRSAが検出された患者へ薬学的介入を行った一症例. 第25回日本医療薬学会年会, 11月, 2015, 横浜.
5. 野村浩英, 宮 麻紀子, 六車裕一, 平井三保子, 倉橋基尚, 尾上雅英, 藤田英一, 渡邊裕之, 宅和真由美, 平田敦宏: 抗がん剤の被ばく並びに, 拡散防止の現状 多施設共同アンケート報告. 第25回日本医療薬学会年会, 11月, 2015, 横浜.
6. 大西秀美, 乾 有希子, 池田久雄, 居平典久, 出口暁子, 田中敬子, 大野典子, 片岡宏一郎, 野村浩英: NST介入により全身状態および褥瘡が改善した1例. 第25回日本医療薬学会年会, 11月, 2015, 横浜.

7. 松元麻美, 池田久雄, 乾 有希子, 吉岡 亮, 居平典久, 中村秀次, 野村浩英: シメプレビルによる総ビリルビン値上昇時にパニプレビルへ変更を検討した一例. 第25回日本医療薬学会年会, 11月, 2015, 横浜.
8. 平田貴宏, 池田久雄, 吉岡 亮, 野村浩英: 抗菌薬治療について多職種と協議した1症例. 第25回日本医療薬学会年会, 11月, 2015, 横浜.
9. 池田久雄, 平田貴宏, 須磨恵子, 大隅奈奈, 矢倉裕里, 丸山 潔, 乾 有希子, 吉岡 亮, 千原亜紀子, 野村浩英: 感染防止対策病院連携合同カンファレンスにおける薬剤師分科会という運用方法の有用性. 第25回日本医療薬学会年会, 11月, 2015, 横浜.

研究助成・治験・臨床研究等

(臨床研究)

1. 母乳および血中薬物濃度測定 (乾 有希子)

薬剤関係件数

摘 要				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
処方箋	外来	枚数	枚数	2,694	2,670	2,807	3,084	3,128	2,902	2,860	2,864	2,929	2,751	2,937	3,060	34,686	32,044
			件数	3,791	3,683	3,721	4,273	4,201	3,955	4,002	3,933	4,104	3,868	4,171	4,430	48,132	44,923
		1日当り	枚数	128	157	128	140	156	145	136	151	146	145	147	139	1,719	1,572
			件数	181	217	169	194	210	198	191	207	216	204	209	201	2,395	2,202
	入院	総数	枚数	5,917	5,073	5,695	5,865	5,768	5,154	5,618	5,235	5,491	4,825	5,566	5,795	66,002	64,971
			件数	10,652	8,667	9,961	10,584	9,907	9,405	9,839	8,993	10,027	8,765	10,115	10,421	117,336	113,156
		1日当り	枚数	197	164	190	189	186	172	181	175	177	166	192	187	2,176	2,143
			件数	355	280	332	341	320	314	317	300	323	283	349	336	3,849	3,733
注射	入院	総数	枚数	21,392	19,146	18,213	20,013	19,609	19,607	18,801	17,780	18,052	18,127	19,729	21,550	232,019	226,792
		1日当り	枚数	713	618	607	646	633	654	606	593	582	585	680	695	7,611	7,450

摘 要	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
薬剤管理指導業務算定	719	568	654	709	648	521	597	547	565	566	627	758	7,479	6,267
抗がん剤混合薬剤件数 (外来化学療法)	160	144	140	153	159	158	157	145	165	185	186	194	1,946	2,065
(入院化学療法)	64	55	86	89	85	56	115	91	86	42	66	103	938	1,145
TPN調製件数	34	18	5	38	48	51	34	15	45	0	51	7	346	310

摘 要	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
麻薬処方箋	外来	内 用	0	0	0	3	1	0	0	1	2	0	7	16
		外 用	2	3	1	0	1	0	0	0	0	0	7	31
		注 射	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	内 用	78	75	67	47	22	55	52	63	36	74	652	799
		外 用	31	31	12	2	24	15	12	2	8	4	167	293
		注 射	235	212	220	245	225	223	246	249	256	205	2,830	2,354

製剤室

摘 要		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
製 剤	件数	398	343	428	367	410	365	369	412	402	247	307	343	4,391	4,720
無菌製剤	件数	215	150	326	153	175	213	215	185	270	142	210	305	2,559	2,167

[薬剤部]

治 験 管 理 室

スタッフ 室長：立花 功

CRC（臨床研究コーディネーター）：谷口真理子（看護師）

水越由佳子（看護師・兼任）

村崎由紀子（臨床検査技師）

事務局：瀧川奈央（薬剤師）、橋本由美（事務）



1. 活動内容

治験管理室では、治験審査委員会・倫理委員会の事務局として治験、臨床研究、製造販売後調査の窓口業務を行っており、各診療科へ治験受託可能な疾患を調査し治験依頼者（製薬会社）への打診を行いながら案件を受託している。日常業務では、安全で質の高い治験・臨床研究が提供できるよう被験者対応、治験依頼者対応、治験責任医師・分担医師への対応をし、院内各部署との調整を行う。また、CRC業務マニュアルや外部CRC対応マニュアルの改訂も行っている。

2. 活動実績

1. 治験審査委員会（IRB） 12回開催
倫理委員会 11回開催
2. 年間治験実施件数 18件（前年度からの継続実施14件、平成27年度新規受託 4件）
3. 製造販売後調査 新規契約 30件
4. 臨床研究 実施件数 40件

平成27年度の年間治験実施件数は18件と、前年度と比べ4件減少したが、臨床研究実施件数は前年と比べ12件増加した（図1）。臨床開発モニター（CRA）との対応時間は583.25時間と、前年度874.75時間と比べ大きく減少した（図2）。これはRBM（Risk-Based Monitoring、リスクベースドモニタリング）を導入している治験依頼者が増加してきたためである。RBMは、治験リスクの高い実施医療機関には従来通りモニター（CRA）が来院するが、リスクの低い実施医療機関にはメールや電話でのやりとりが多くなり、モニター（CRA）の来院頻度は減少する。

平成27年度は、5月1日に治験・臨床研究の情報提供を目的として、「治験管理室NEWS」の発行を開始した。また大阪大学医学部附属病院未来医療開発部未来医療センター副センター長の山本洋一准教授を講師に招き、11月27日に「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針～指针对応をどうすべきか？～」というテーマで全職員対象の研修会を企画・運営した。

3. 業績

論文・著書

1. 谷口真理子, 中林正祥, 尾芝一郎, 杉原 聡, 信谷宗平, 小林慶彦, 大橋くるみ:「実施医療機関／治験依頼者連携 治験の効率向上プロジェクト」の実施について, 臨床薬理, Vol.46, No.3, P127-132, 2015: フォーラム,

学会発表

1. 坂本朱里, 厚ヶ瀬 芳, 榎本恭子, 岡田正彦, 表正宏, 佐野敬

子, 竹澤正行, 谷口真理子, 中林正祥, 本田富得, 松岡悦子, 吉川夏未: 実施医療機関／治験依頼者連携治験の効率向上プロジェクト (ISEI-PJ), 第36回日本臨床薬理学会学術総会, 12月, 2015, 東京.

研究会発表

1. 田邊由美, 岡田正彦, 榎本恭子, 本田富得, 谷口真理子, 厚ヶ瀬 芳, 殿元順子, 信谷宗平, 山谷安奈, 大村美幸: CRCとCRAのための「実施医療機関／治験依頼者統一チェックリスト」に関する検討2015, 第15回CRCと臨床試験のあり方を考える会議, 9月, 2015, 神戸.
2. 谷口真理子: シンポジウム「つなぐ～臨床研究から創薬へ～」, 彩都産学官連携フォーラム2016, 1月, 2016, 大阪.

図1 治験・臨床研究等実施状況

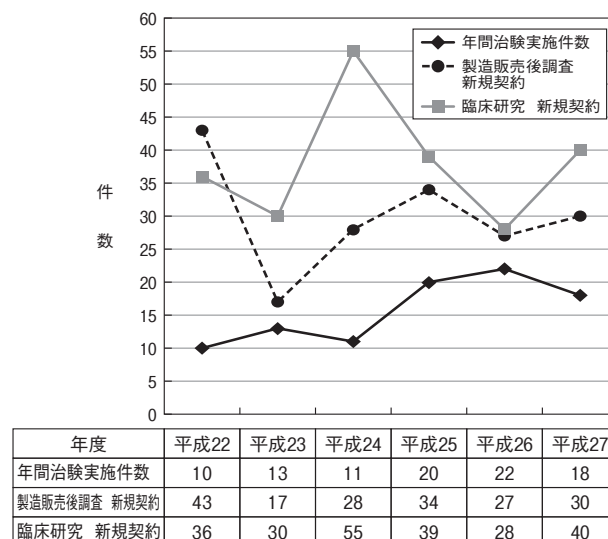
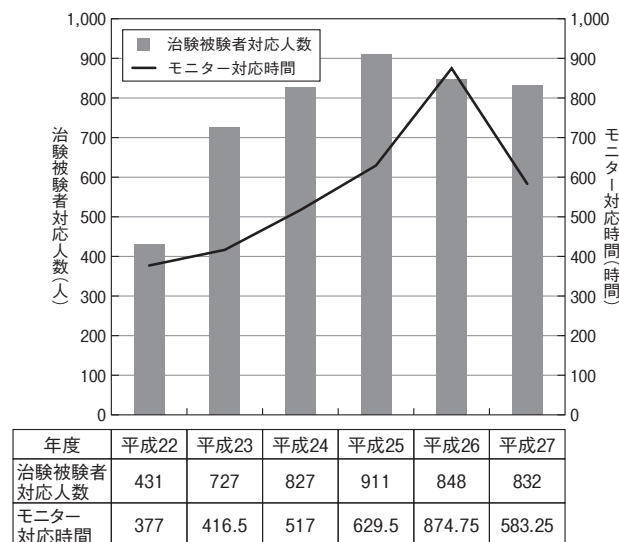


図2 治験被験者対応人数・モニター対応時間



スタッフ 室 長：藤田征巳

医療安全管理者：町田恵子（看護師）

事務局：近石克也（医事サービス部長）



1. 概要

平成18年医療法、薬事法の改正により、病院に対し医療安全対策の充実が求められた。

平成27年10月1日、医療事故の再発防止により医療の安全を確保することを目的とした医療事故調査制度が、改正医療法の「医療の安全の確保」の章に位置づけられた。

当院は、平成12年「医療安全管理委員会」が組織され、本委員会が中心となり、質の高い医療の提供を目指し、日常診療の点検、インシデント・アクシデント事例の共有と対策の立案を行ってきた。また、「医療安全管理マニュアル」を作成し、医療安全に対する意識の向上に努め、専従の医療安全管理者を配置し、組織横断的に活動することで、医療安全管理の組織風土醸成に寄与してきた。

平成28年2月機能評価受審を機に、医療安全管理マニュアルを全面改定した。さらに、電子カルテのトップページに掲載し、特に暴言・暴力マニュアルや異状死マニュアルなど時間的に余裕がない状況ですぐに閲覧し行動できるように工夫した。

2. 活動計画

- 1) 医療安全管理マニュアルの改訂
- 2) 転倒・転落防止の強化
- 3) 誤薬防止
- 4) インシデント・アクシデントレポートの提出件数を上げる

3. 活動実績

- 1) 医療安全管理マニュアルの全面改定
(作成し追加したものを列挙する)
 - (1) 暴言・暴力マニュアルの見直しとポスターの掲示
 - (2) 検査基準値変更の確認方法の見直し・パニック値の際の報告方法の見直しをマニュアル化
 - (3) 手術申し込み終了後の変更手順の改訂
 - (4) 発見者・関係者が報告すべき事項作成
 - (5) インフォームド・コンセントの基本指針・手順

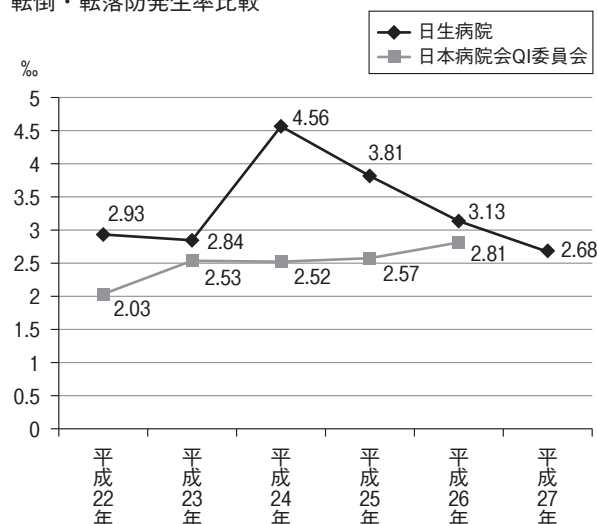
の作成

- (6) 救急カートの整備・管理基準作成
- (7) 指示出し・指示受け、口頭指示出し・指示受け、実施確認基準作成
- (8) 身体行動制限（拘束）マニュアルの改訂
- (9) ハイリスクな診療行為の定義作成

2) 転倒・転落防止の強化

- (1) 睡眠導入剤の見直しおよびケースカンファレンスでの検討
- (2) 排泄の関わりを強化

転倒・転落防発生率比較



転倒・転落件数は、平成24年日本病院会QI委員会データ比較では、全国平均の2倍近い件数であったが、転倒・転落防止の強化を図った結果、平成27年では全国平均並みの件数に留まった。超高齢化社会を迎える中、引き続きこの取り組みを継続していきたい。

3) 誤薬防止

- (1) 指示出し・指示受け、口頭指示出し・指示受け、実施確認基準
- (2) ダブルチェック方法基準の作成

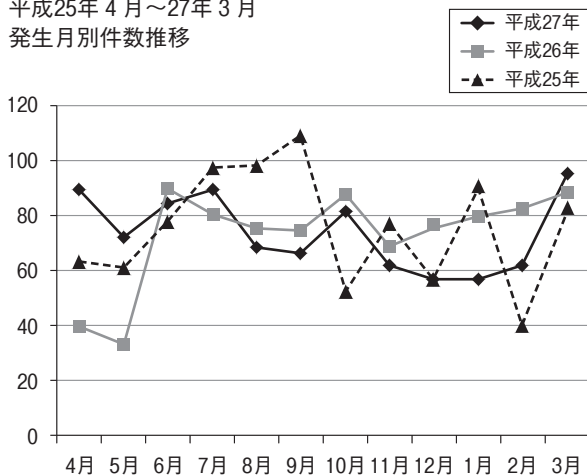
誤薬については、減少どころか大きく増加しているため、防止策が徹底されるようにラウンドを行い、周知徹底を図っていきたい。また、病棟薬剤師と協働し安全な注射、投薬を目指したい。

4) インシデント・アクシデントレポートの提出件数を上げる

- (1) インシデント・アクシデントレポートの入力方法について幹部ミーティングでレクチャー
- (2) レポート提出の奨励

平成25年4月から平成28年3月までのレポート月別提出件数の推移（インシデント・アクシデントレポートシステムは、平成26年6月に稼動）

平成25年4月～27年3月
発生月別件数推移



インシデント・アクシデントレポートの提出件数は、総件数としては大きく増加している訳ではないが、例年提出件数が少ない4月5月についても他月同様提出されるようになった。これは、インシデント・アクシデントレポートのシステム導入の大きな効果と言える。

- 5) 緊急CAG時のオンコール体制の整備と強化
- 6) 外用薬用ブルーカラーシリンジ導入
- 7) 浴室足拭きマットのレンタルの導入
- 8) 新生児検査IDの運用方法の見直し

4. 医療安全研修の実績

全職員対象の研修会は3回企画、運営した。

【第1回】

平成27年7月9日（金）17：15～18：45

テーマ：「包括的暴力防止プログラム」研修

講師：独立行政法人国立病院機構

やまと医療センター

副師長：水時宏江 先生

看護師：堤 郁香 先生

（CVPPPインストラクター）

参加者総数240名、研修に対する評価、研修の成果ともに、非常に満足、満足が60%～70%で好評であった。興奮している相手に対して、どのように対応するか実

技指導については、もう少し学びたかったとの意見が多数あった。患者・家族を犯罪者にしない知識・技術の習得は、今後も引き続き研修企画していきたいと考える。

【第2回】

平成27年11月20日（金）17：30～18：30

テーマ：「白い巨塔」と医療裁判

講師：大阪地方裁判所第17民事部

部総括判事 杉浦徳宏 先生

参加者総数189名、研修に対する評価は、非常に満足、満足が60%と好評であった。しかし、研修の成果としては、内容が難しいとの意見もあり、45%～48%に留まった。

【第3回】

平成27年12月17日（木）17：15～18：15

テーマ：「医療事故の再発・類似事項に係る注意喚起について」「Team STEPPSとは」

講師：野村浩英 薬剤部部長

テーマ：「急変時に使用する院内の人工呼吸器・除細動器（AED）について」

講師：加藤千尋 臨床工学技士主任

テーマ：「虐待マニュアルの運用について」

講師：三井田誠一 事務局次長

本家裕子 MSW 部長補佐

参加者総数232名、非常に満足が少なく、満足が大半の60%であった。不要・不急な話以外で時間を費やしたくないとの意見もあり、開催時期含め、研修内容の検討が必要と思われる。

今後の研修企画において、基本的な知識・技術の確認とトピックスを織り交ぜた内容の検討を図っていききたい。また、患者からの苦情、クレームが減らない中、コミュニケーションスキルアップ研修も引き続き必要と考える。チーム医療では、各職種がもつ複雑な技術が集約されて行われている。各々の職種の志向性の違いや、職域のすき間もしくは重なり、集団特性等によって、リスクやエラーを検出・指摘・訂正できない場合がある。

安全や質を担保するためには、コミュニケーションやリーダーシップ、意思決定、状況認識などの「ノンテクニカルスキル」の向上が重要となる。職種や経験の壁を越え、チームの一員としてこれらの能力を強化し、実践することが必要と考え企画・運営していきたい。

スタッフ 感染対策室長：小瀬戸昌博
薬 剤 師：池田久雄
検 査 技 師：藤田育子
看 護 師：大野典子（感染症看護専門看護師）



1. 活動内容

感染対策室は感染症の予防と感染が発生した場合でもその拡大防止を目標に院内の感染症発生や耐性菌検出を早期に察知し、各部門と連携し適正な治療と安全な療養環境が提供できるよう活動している。具体的にはICTカンファレンスを週1回開催し、感染症診療時の抗菌薬や検出微生物に関する情報を提供する。また、ICTラウンドを開催し（1回/週）、標準予防策や感染発生時の感染経路別予防策の実施状況の確認を行っている。感染対策加算Ⅰ認定施設として他病院とも連携し情報提供や感染発生時の支援を行っている。

2. 活動体制

感染対策室には専従者が在籍するため感染症診療や感染防止に関する相談を常時受け付けICTメンバーへの連携や、必要時は院内感染対策委員会の臨時開催などが速やかに行えるような体制をとっている。

3. 活動実績

平成27年度感染対策室への相談件数178件であった（表1）。

表1 各職種別相談件数（年間）（感染症診療支援除く）

職種	医師・研修医	看護師	コメディカル	事務	退院・その他
件数	60	75	3	28	12

1) 感染症診療の支援

ICTの介入件数は259件（平均21.5/月）平成26年度に比較し月平均5～6件の増加となった。介入内容は届け出抗菌薬の長期使用、治療における抗菌薬の選択と効果判定、感染対策に関すること等であった。

2) 感染予防と発生時の対応

【集団感染の予防と制圧】

平成27年度は6月～7月メチシリン耐性黄色ブドウ球菌によるアウトブレイク、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌の連続した発生を経験した。ともにICTによる病棟ラウンド、当該科の医師等との連携などを行い接触予防策の確認し徹底を指導した。また、例年、季節性インフルエンザ流行期間は入院患者および職員が集団で罹患する事例を経験するが、関連部署および罹患職員との連携により早期に予防内服を開始するなどした。結果院内感染および集団感染事例は発生したが拡大することなく速やかに制圧できた。

【標準予防策徹底への取り組み】

手指衛生徹底への取り組みとして、感染リンクナースと協同し各部署へ手指衛生材料の使用実績を情報提供した（図1）。

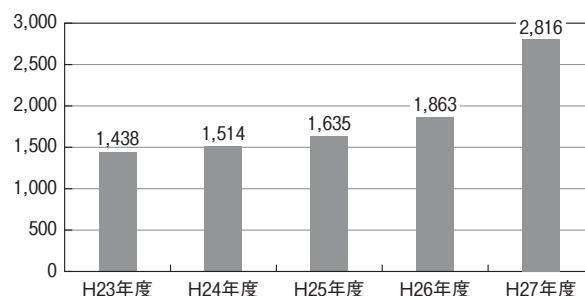


図1 擦式手指消毒剤年間購入量

【地域連携施設における取り組み】

地域連携カンファレンスを4回開催し、相互ラウンド1回を実施した。今年度より連携Ⅱの施設へのラウンドも開始した。連携施設からは院内の見直しの良い機械になった評価を受けた。

【薬剤耐性に関するグローバルアクションプランへの取り組みと職員教育】

世界保健機構において採択されたAMRに関するグローバルアクションプランを受け、より適切な抗菌薬の使用を目的に出抗菌薬使用の情報提供を届け2回/週薬剤部から発信し、それを受け細菌検査の実施状況を確認、必要時検査依頼やICT介入を開始した。カルバペネム系抗菌薬100床/1日当たりの使用料は平成26年度1.7gから0.8gに減少した（図2）。

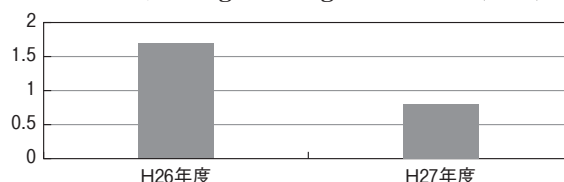


図2 100床/日あたりカルバペネム系抗菌薬使用料

第1回教育講演 7月14日（257名参加）

結核の現状と院内感染対策

講師：大阪府立呼吸器・アレルギーセンター

臨床研修部部长 橋本章司 先生

第2回教育講演 3月10日（179名参加）

韓国におけるMERS感染の報告

感染対策室長/臨床検査部長/総合内科担当
部長 小瀬戸昌博

日生病院のアンチバイオグラム

救急診療センター/総合内科 古結敦士

4. 業績

学会発表

- 池田久雄, 平田貴宏, 他：感染防止対策病院連携合同カンファレンスにおける薬剤師分科会という運用方法の有用性. 第25回日本医療薬学会年会, 横浜.
- 平田貴宏, 池田久雄, 他：抗菌薬治療について多職種と協議した1例. 第25回日本医療薬学会年会, 横浜.

あったかサポートセンター

スタッフ センター長：船渡孝郎

部長：近石克也、石坪健治（～8月）、谷口史朗 担当部長：佐々木芳紀

(1) 地域医療サービスグループ

看護師：北村一美（～6月）、瓜本恵美子、川瀬俊子（7月～）

事務員：岡部由利、谷田和美、森本洋子、西岡千幸、渡辺喜代美、岩切綾子

(2) 医療福祉相談グループ

医療ソーシャルワーカー：本家裕子（社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員）、

松栄優子（社会福祉士・介護支援専門員）、福庭加奈（社会福祉士・精神保健福祉士）、

清水美紗（社会福祉士・介護支援専門員）

※患者様サポートスタッフ：松本満康、圓田久美子、福田絵夢



1. 地域医療サービスグループの活動内容

1) 医療連携

- 地域の医療機関からの診療・検査予約
- あったかサポートセンター経由の紹介患者受付
- 紹介患者の受診結果報告
- 病診連携フォーラム・懇話会等の開催、開催協力（p.117参照）
- 登録医、緊急時入院受入医療機関、在宅患者緊急時入院希望の登録・契約手続き
- 開放型病院登録医の共同診療時の対応
- 人間ドック、健診後受診患者および企業健診後受診患者の診療・検査予約、受付

2) サービス広報

- 医療機関向け診療案内の発行
- 登録医への診療日程案内・情報提供
- 患者向け広報誌「あったかサポートセンター通信 Saisei Rimin」の発行
- 市民健康セミナー等の開催、開催協力（p.120参照）
- 地域医療機関等の情報収集・調査
- 院内イベント企画・開催、開催協力
- 図書・情報コーナーの管理
- ボランティアの受付・調整

■ H27.4～H28.3

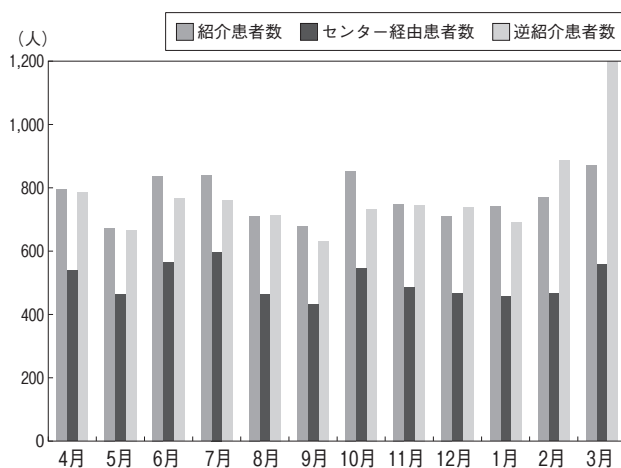
診療科別紹介数、あったかサポートセンター経由患者数

〈年間〉

科 別	紹介患者数* (救急車搬入患者含む)	センター 経由患者数	逆紹介 患者数
循環器内科	465	306	702
消化器内科	675	614	664
総合内科	995	672	1,057
血液・化学療法内科	239	157	237
神経内科	174	121	238
神経科・精神科	158	146	238
小児科	269	116	305
消化器・一般外科	125	96	178
呼吸器外科	1	4	3
乳腺外科	197	132	220
整形外科	375	177	254
皮膚科	560	443	403
泌尿器科	278	142	332
産婦人科	1,800	1,123	1,970
眼科	165	117	502
耳鼻咽喉科	747	376	683
放射線科	1,013	1,169	1,107
麻酔・緩和医療科	0	0	11
救急診療センター	990	123	215
合計	9,226	6,034	9,319

※紹介患者数は初診算定数。

〈月別〉



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
紹介患者数	795	673	837	838	711	677	853	749	711	741	770	871
センター経由患者数	540	462	565	597	463	431	544	485	466	457	465	559
逆紹介患者数	785	667	767	761	714	632	733	746	738	690	887	1,199

2. 医療福祉相談グループの活動内容

1) 相談援助

a. 相談援助総件数

平成27年度は、総数9,872件（1日平均40.5件、月平均822.7件）の相談を受けた。

b. 新規相談

平成27年度の新規相談は2694件（昨年は2,375件）であった。紹介経路別にみると、看護師（763件）、医師（276件）およびその他の職員を含め、院内スタッフからの支援依頼が41.0%（昨年は38.7%）を占め、本人（573件）と家族（551件）からの相談が41.7%（昨年は39.5%）であった。

c. 相談援助内容

相談内容は、退院への援助（在宅へ向けての療養環境整備の援助および転院・施設入所先の選

定援助）が40.6%と最も多く、次いで介護保険、身体障害者手帳、特定疾患、精神保健等の諸制度に関する説明や申請援助（18.6%）、無料・低額診療に関する相談援助（18.3%）、受診・受療に関する問題調整（9.3%）となった。

2) 地域活動

- 近隣施設（医療機関、介護老人保健施設等）への訪問等による連携の促進
- 西区地域支援調整チーム高齢者支援専門部会および西区障がい者・高齢者虐待防止専門部会へ参画による地域の高齢者施策等への貢献
- 西区在宅医療推進連絡会に参画し、地域の在宅医療の普及を推進
- 日生ケアプランセンターにて介護支援専門員（ケアマネジャー）を兼務し、在宅生活を支援

■医療福祉相談グループ

〈相談取り扱い件数〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
循環器内科	69	48	120	86	81	72	97	64	94	117	122	102	1,072	740
消化器内科	79	65	77	76	48	44	61	78	51	42	43	75	739	924
総合内科	151	146	211	191	166	163	177	139	119	104	175	184	1,926	1,741
血液・化学療法内科	53	56	57	54	77	63	48	30	36	55	46	81	656	663
神経内科	127	63	63	68	64	77	92	81	56	71	72	47	881	1,039
神経科・精神科	34	36	28	60	36	19	23	26	27	50	57	39	435	683
小児科	20	34	23	7	29	36	46	63	67	37	21	16	399	318
消化器・一般外科	15	33	34	16	21	26	27	23	15	22	13	17	262	364
呼吸器外科										0	1	0	1	
乳腺外科	3	3	10	11	19	8	23	16	15	2	3	5	118	41
整形外科	92	58	119	145	139	86	71	39	64	65	81	77	1,036	978
皮膚科	8	30	9	8	27	21	27	19	16	8	20	22	215	182
泌尿器科	20	14	27	25	19	20	37	20	33	12	33	15	275	296
産婦人科	23	13	18	4	38	15	28	26	18	23	17	41	264	213
眼科	6	5	2	2	4	7	8	10	12	11	6	16	89	58
耳鼻咽喉科	25	59	7	17	20	6	27	24	13	8	20	13	239	355
放射線科	4	0	0	0	4	0	0	0	0	0	1	1	10	10
麻酔・緩和医療科	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
救急診療センター	65	39	50	48	50	42	47	66	106	71	42	23	649	277
その他	24	46	41	32	66	53	79	77	50	57	37	43	605	557
合 計	818	749	896	850	908	758	918	801	792	755	810	817	9,872	9,442

〈新規ケース紹介経路〉

	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月		
	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他
本人	32	10	1	23	13	4	28	10	2	37	8	0	47	17	1	32	8	2	48	8	1	45	11	0
家族	17	14	0	14	19	2	20	17	0	27	6	2	43	18	0	36	11	0	33	10	1	57	19	0
医師	4	9	0	9	11	0	8	17	0	13	14	0	7	12	0	6	11	0	9	14	0	10	15	0
看護師	11	38	0	6	54	0	14	81	0	19	57	0	9	49	0	12	38	0	16	55	0	14	41	0
その他院内職員	6	1	0	3	1	0	0	2	1	2	1	0	1	2	0	2	5	0	2	5	0	4	4	0
保健福祉関係機関	2	12	0	5	8	0	2	3	1	1	6	2	3	6	0	8	3	2	3	8	2	4	4	0
医療機関	0	3	2	5	1	1	3	1	1	9	0	0	2	2	0	2	2	0	3	1	1	7	2	1
福祉施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護保険施設・事業所	12	10	0	6	12	0	14	13	0	11	4	0	7	9	1	5	9	0	8	5	1	5	2	0
その他	0	0	0	1	1	0	0	1	0	1	0	1	1	1	0	2	1	0	2	3	1	1	0	2
小計	84	97	3	72	120	7	89	145	5	120	96	5	120	116	2	105	88	4	124	109	7	147	98	3
総合計	184			199			239			221			238			197			240			248		

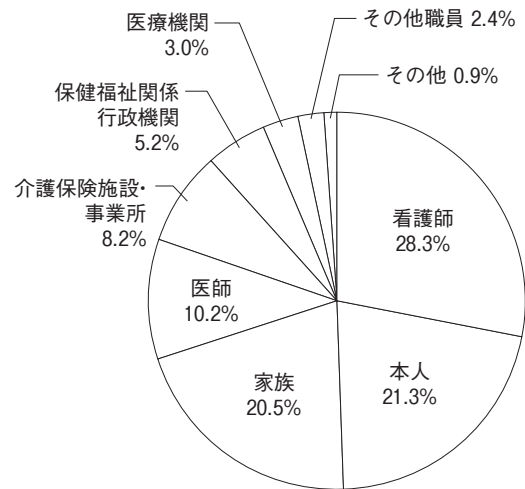
	12月			1月			2月			3月			累計			前年度累計		
	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他
本人	46	8	0	30	10	1	30	17	0	30	11	2	428	131	14	346	85	13
家族	49	21	1	21	10	1	34	8	0	22	17	1	373	170	8	316	167	10
医師	11	13	0	10	15	0	9	19	0	13	16	1	109	166	1	77	172	0
看護師	15	43	0	17	36	0	12	50	0	14	62	0	159	604	0	89	493	0
その他院内職員	5	1	0	4	4	1	1	4	0	2	1	0	32	31	2	46	37	4
保健福祉関係機関	1	5	0	4	11	1	6	6	1	7	12	1	46	84	10	67	99	11
医療機関	6	1	1	10	0	0	8	1	1	3	1	1	58	15	9	67	24	8
福祉施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	1
介護保険施設・事業所	6	13	2	10	12	1	12	10	0	11	10	0	107	109	5	108	108	8
その他	0	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0	11	8	4	6	6	2
小計	139	105	4	108	99	5	113	115	2	102	130	6	1,323	1,318	53	1,126	1,192	57
総合計	248			212			230			238			2,694			2,375		

〈相談援助総件数（延べ数）〉

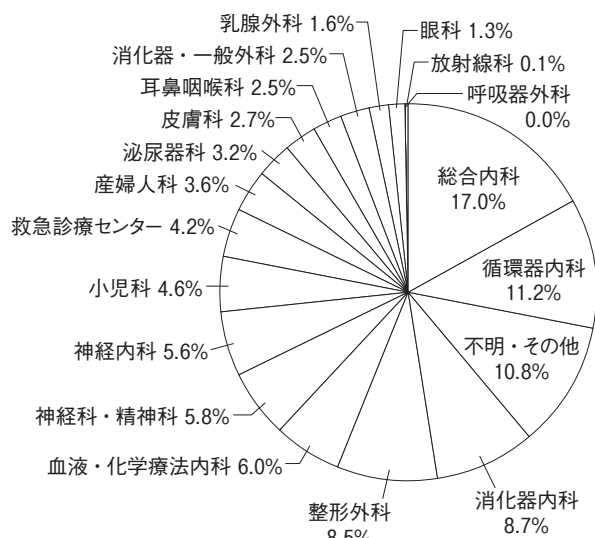
	平成27年度	平成26年度	平成25年度	平成24年度	平成23年度
循環器内科	1,072	740	917	1,526	1,545
消化器内科	739	924	715	397	262
総合内科	1,926	1,741	1,951	1,303	1,107
血液・化学療法内科	656	663	606	493	369
神経内科	881	1,039	665	※	※
神経科・精神科	435	683	666	540	409
小児科	399	318	553	221	28
消化器・一般外科	262	364	286	573	287
呼吸器外科 ※2	1				
乳腺外科	118	41	118	50	30
整形外科	1,036	978	934	1,078	993
皮膚科	215	182	229	184	134
泌尿器科	275	296	515	279	278
産婦人科	264	213	260	370	49
眼科	89	58	40	38	41
耳鼻咽喉科	239	355	299	174	239
放射線科	10	10	12	4	0
麻酔・緩和医療科	1	3	8	26	2
救急診療センター	649	277	134		
不明・その他	605	557	453	225	69
合計	9,872	9,442	9,361	7,481	5,842

※1. 平成22年度～24年度の神経内科は循環器内科に含む ※2. 平成27年1月～

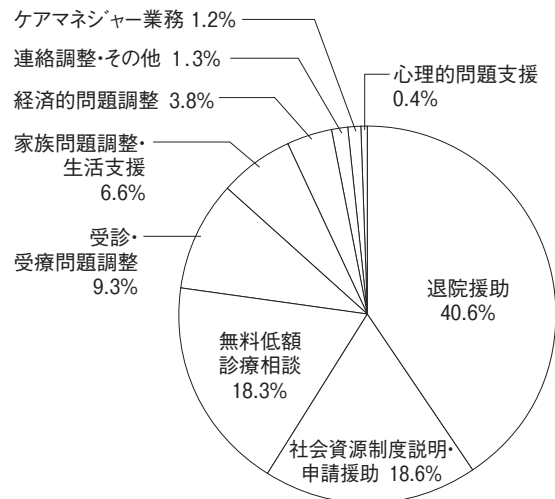
〈相談援助総件数（延べ数）〉



〈新規相談（診療科別）〉



〈相談援助内容〉



登録医一覧(409名)

[敬称略] (H28.3.31現在)

西 区	(医)天野医院	天野 良男
	(医)治生会 石村クリニック	石村 順治
	いとう消化器クリニック	伊藤 裕之
	いぬい小児科	乾 一郎
	井上外科	井上 俊明
	近江眼科クリニック	近江 源次郎
	大谷クリニック	大谷 遷
	勝瀬クリニック	勝瀬 健
	耳鼻咽喉科 岸本医院	岸本 勝
	北川医院	北川 久能
	くとか内科	久徳 均
	九間クリニック	九間 祥一
	河野外科	河野 実
	(医)佐々医院	佐々 成紀
	佐々木内科クリニック	佐々木 敏作
	下條内科クリニック	下條 信雄
	杉本眼科	杉本 英之
	坪井眼科	坪井 俊児
	ながお医院	永尾 尚子
	(医)敬詢会 永田医院	永田 昌敬
	(医)丹生医院	丹生 純一
	(医)長谷川耳鼻咽喉科	長谷川 進
	新町クリニック	濱田 和哉
	平山眼科クリニック	平山 優子
	(医)フジイ内科クリニック	藤井 繁樹
	阿波座診療所	藤井 省治
	藤田外科・胃腸科	藤田 宗行
	(医)弘清会 四ツ橋診療所	安井 潔
	(医)弘清会 四ツ橋診療所	安井 浩一
	やまもとクリニック	山本 忍
	ゆあさ眼科医院	湯浅 武之助
	うつば診療所	横松 泰夫
	京町堀整形外科	牧野 正
	さかざきこどもクリニック	坂崎 弘美
	健クリニック	三木 基子
	木下皮フ科クリニック	木下 香里
	(医)ほのぼの会さかいクリニック	坂井 貴子
	なかむら皮フ科	中村 敏明
	藤野歯科医院	藤野 明
	ほりかわ泌尿器科	堀川 直樹
	(医)三慧会 IVFなんばクリニック	森本 義晴
	奥町内科	奥町 富久丸
	かおるレディースクリニック	岡本 薫
	島野医院	島野 直人
	松浦内科クリニック	松浦 良和
	はらだこどもクリニック	原田 由利香
	渋谷内科クリニック	渋谷 孝裕
	藤本クリニック	藤本 聡
	くらち皮フ科クリニック	倉知 貴志郎
	医療法人天方会 AMA Clinic	天方 義人
	西長堀医院	則武 正三
	王内科胃腸科クリニック	王 康義
	藤本クリニック 内科	井ノ本 美子
	(医)天野医院	天野 祥子
	(医)名山会 上杉医院	上杉 雄二

西 区	(医)優昌会 本城整形外科	本城 昌
	ISクリニック	糸原 房宣
	みやざきクリニック	宮崎 裕子
	慶生会クリニック大阪	栗田 隆
	(医)佐々医院	佐々 成太郎
	(医)佐々医院	佐々 仁美
	大阪さつわ医療福祉生活協同組合医療生協ながほり通り診療所	蒲生 健
	耳鼻咽喉科 さとうクリニック	佐藤 一雄
	整形外科 おうクリニック	王 正道
	福中クリニック	福中 道男
	上嶋内科消化器科クリニック	上嶋 弾
	藤本クリニック 内科	池田 昌人
	えのもとクリニック	榎本 準
	すぎた内科クリニック	杉田 潔
	(医)丹生医院	丹生 真理子
	生野内科クリニック	生野 善康
	大沢診療所	大澤 理
	大塚医院	大塚 頴宏
	香山医院	香山 仁志
港 区	(医)誠昌会整形外科くにしげクリニック	國重 昌彦
	塩見医院	塩見 啓二
	(医)鈴木医院	鈴木 稔也
	(医)龍神堂会 龍神堂医院	谷内 幹弘
	土田クリニック	土田 茂
	(医)三愛会 中山整形外科	中山 明
	(医)天斗会 中山医院	中山 富雄
	(医)前田診療所	前田 勉
	やながクリニック	彌永 邦彦
	(医)大和医院	大和 直久
	(医)聖愛会山村耳鼻咽喉科	山村 聖眞
	古林内科	古林 芳範
	宮岡クリニック	宮岡 哲郎
	(医)西診療所	西 紀
	いはら内科	井原 義二
	笹尾医院	出雲谷 剛
	金谷内科医院	金谷 英夫
	北代診療所	北代 勇夫
	北代診療所	北代 修司
	松浦診療所	新井 孝和
	(医)緑龍会 内藤医院	内藤 龍彦
	北村医院	北村 雅哉
	坂元内科クリニック	坂元 一夫
	(医)ほのぼの会にいつクリニック	新津 建樹
	(医)頼医院	頼 明信
	義元診療所	義元 徳祥
	(医)喜馬外科	喜馬 秀樹
	野洲クリニック	野洲 武司
	(医)小嶋整形外科	小嶋 博司
	島崎診療所	島崎 久美子
	(医)大奈会 やすだ耳鼻咽喉科	安田 大作
	(医)堀井耳鼻咽喉科	堀井 睦
	谷内医院	石井 登志枝
	(医)信愛会大和診療所	大和 宗久
	西山眼科	西山 和夫
	みなと生協診療所	倉澤 高志
	金田クリニック	金田 眞一
	太田整形外科クリニック	太田 信彦

港 区	大阪医院	大阪 正視
	やぎクリニック	八木 隆
	賀来医院	賀来 清高
	喜多クリニック 弁天町クリニック	喜多 紀人
	しらはま内科クリニック	白浜 健太郎
	岸医院	岸 良治
	溝口内科	溝口 理映子
	山田医院	山田 卓
	徳寿会 金山記念クリニック	津久井 優
	しん眼科クリニック	秦 尚修
	社会福祉法人秀生会ザイオン診療所	中山 洋子
	(医)尚信会 整形外科 河村医院	河村 禎人
	医療法人社団悠久会 辻クリニック朝潮橋分院	辻 孝教
	(医)銀杏会 常松診療所	常松 静也
	(医)隆明会 やぎ眼科クリニック	八木 明恵
	大塚医院	大塚 欣敏
大 正 区	(医)光風会 江口医院	江口 隆
	石村整形外科	石村 俊信
	柿原医院	柿原 幸司
	(医)邦明会 榎原クリニック	榎原 秀一
	小正医院	小正 尚裕
	寒川医院	寒川 通洋
	(医)健人会 弘田医院	弘田 俊行
	藤吉医院	藤吉 庸雅
	(医)松原皮膚科医院	松原 爲明
	荘田診療所	荘田 静
	荘田診療所	荘田 容志
	(医)得伊会中山診療所	中山 秀雄
	横山医院	横山 正博
	にしもと耳鼻咽喉科	西幹 二郎
	西平診療所	西平 守也
	西平診療所	西平 香代
	北新会 藤原耳鼻咽喉科医院	藤原 隆行
	(医)良仁会 西村外科	西村 良彦
	船井医院	船井 俊彦
	加納レディスクリニック	加納 英男
	金城外科脳神経外科	金城 康夫
	五味クリニック	五味 正裕
	(医)明友会 安井整形外科クリニック	安井 明
	本山耳鼻咽喉科	本山 壮一
	(医)田辺耳鼻咽喉科医院	田邊 修一
	佐々木耳鼻咽喉科(休診)	佐々木 隆晴
	一ノ名医院	一ノ名 正
	(医)久志会 黒川眼科	志水 一夫
	ひらいけ内科	平池 豊
	足立医院	足立 俊之
	本山診療所	本山 忠
	(医)秀盛会 さくらクリニック	小松 重幸
	大阪製鐵恩加島診療所	辰巳 佳次
	中川耳鼻咽喉科クリニック	中川 浩伸
	山北内科クリニック	山北 哲也
	山北内科クリニック	山北 直子
	中村医院	中村 義弥
	しまもとクリニック	島本 敬三
	しまもとクリニック	島本 里絵
	(医)北村診療所	北村 彰英
	ほんしょう内科クリニック	本庄 尚謙

大 正 区	アダチ眼科医院	郡 千栄
	大正ファミリークリニック	瓦林 佳子
	マツオ整形外科	松尾 澄治
	大阪きづがわ医療福祉生活協同組合 大正民主診療所	鈴木 昇平
	よしむら整形外科	吉村 弘治
	山北整形外科	山北 真也
浪 速 区	井上医院	井上 薫
	竹中医院	竹中 秀裕
	(医)徳田クリニック	徳田 修
	(医)徳田クリニック	徳田 好勇
	橋村医院	橋村 直隆
	(医)檜山診療所	桧山 寛市
	本田クリニック	本田 秀明
	(医)薫鳳会 落合耳鼻咽喉科	落合 薫
	(医)菱川クリニック	菱川 秀夫
	(医)佐藤会 佐藤医院	工藤 俊次郎
	沢井眼科	澤井 貞子
	佐久間医院	佐久間 靖博
	かねだクリニック	金田 高次
	小池クリニック	小池 洋志
	有田医院	有田 繁広
	木田内科消化器科クリニック	木田 徹
	えびす診療所	久保田 泰弘
	耳鼻咽喉科中村クリニック	中村 泰久
	桜川よしえクリニック	金子 良恵
	(医)泰人会 森川クリニック	山口 貴也
福 島 区	おおの耳鼻咽喉科	大野 聡史
	(医)入野医院	入野 宏昭
	笹岡医院	笹岡 英明
	(医)理秀会 なんば南藤吉医院	藤吉 理夫
	川田医院	川田 信哉
	なんば山田クリニック	山田 郁子
	(医)岡藤会 岡藤クリニック	岡藤 龍正
	はやぶさ在宅クリニック	糸田川 隼也
	(医)瑠香会 あーべいんクリニック	池田 秀博
	江頭医院	江頭 明盛
	クダラ医院	百済 尊彦
	猿渡レディスクリニック	猿渡 善治
	田仲循環器科・内科医院	田仲 輝光
	林クリニック	林 為仁
	松下医院	松下 正幸
	森山眼科	森山 穂積
	ちもりメディカルクリニック	千森 弘子
	よこいクリニック	横井 秀保
	あおやま医院	青山 晃子
	福島アイクリニック	栞山 泰明
住 之 江 区	泌尿器科 やまなかクリニック	山中 幹基
	愛クリニック	上地 正雄
	(医)桜峰会本場診療所	八尾 宜明
	野田診療所	小濱 譲次
	(医)成基会 相坂クリニック	相坂 章爾
	中村クリニック	中村 幸生
	まさこレディースクリニック	霞 雅子
	くまだ内科・小児科クリニック	木野戸 えみ
	東口クリニック	東口 等
	岡村クリニック	岡村 弘光
中島	中島クリニック	中島 静一

住之江区	長谷川内科	長谷川 精一
	長谷川内科	長谷川 浩司
中央区(東)	はなのまちファミリークリニック	杉本 匡弘
	(財) 洪庵記念会産婦人科クリニック	緒方 高志
中央区(東)	かただクリニック	堅田 明浩
	ながわ中之島クリニック	中川 晶
中央区(東)	(医) 西恵会 西川婦人科内科クリニック	西川 吉伸
	岩間クリニック	岩間 令道
中央区(東)	大阪婦人子供既製服健保組合 健康管理室	間島 行春
	船場森野クリニック	森野 高晴
中央区(東)	うづら医院	卯津羅 祥子
	(財) 大阪府結核予防会 相談診療所	増田 國次
中央区(東)	大林組大阪診療所	森島 豊彦
	日本生命健康管理所	藤岡 滋典
中央区(東)	日本生命健康管理所	石神 真人
	(医) 政明会 春次医院	春次 智三郎
中央区(東)	塩野義製薬本社診療所	秋岡 壽
	大阪ニッポ健康保険組合保健医療センター	藤井 宏
中央区(東)	柴田耳鼻咽喉科	柴田 重太郎
	医療法人 清樹会 清樹会クリニック	柏木 宗憲
中央区(東)	トミタクリニック	富田 忠宏
	(医) ラ・クオール本町クリニック	瀧野 敏子
中央区(東)	(医) アクア アクアメディカルクリニック	石黒 伸
	しもむら本町レディースクリニック	下村 陽祐
中央区(東)	(医) 紀映会 レディースクリニック北浜	奥 裕嗣
	(医) 高折医院	高折 和男
中央区(東)	たがや内科	多賀谷 昌史
	藤井耳鼻咽喉科	藤井 春生
中央区(東)	本町 林クリニック	林 宏明
	こうむら女性クリニック	甲村 弘子
中央区(東)	山口あきこクリニック	山口 晶子
	大織診療所	藤原 大美
中央区(南)	(医) 今川医院	今川 得之亮
	岩佐クリニック	岩佐 厚
中央区(南)	イワサキ眼科医院	岩崎 直樹
	大島内科医院	大島 久明
中央区(南)	大須賀内科	大須賀 康文
	小島クリニック	小島 昭重
中央区(南)	川崎皮膚科医院	川崎 紀彦
	さとう皮フ科クリニック	佐藤 誠紀
中央区(南)	さとう皮フ科クリニック	瀧北 知子
	(医) 田中小児科医院	田中 祥介
中央区(南)	寺内クリニック	寺内 陽
	廣田整形外科皮膚科内科クリニック	廣田 龍二
中央区(南)	益田クリニック	益田 元子
	(医) 山田医院	山田 隆造
中央区(南)	(医) 岩佐診療所	岩佐 真人
	(医) 福丸耳鼻咽喉科	福丸 昌宏
中央区(南)	(医) 宮武内科	宮武 明彦
	松澤呼吸器クリニック	松澤 邦明
中央区(南)	みつもとレディースクリニック	光本 隆吉
	ふじたクリニック	藤田 富雄
中央区(南)	(医) 松本内科クリニック	松本 淳
	すとうレディースクリニック	周藤 雄二
中央区(南)	(医) 聖和会 早川クリニック	早川 謙一
	(医) 聖和会 早川クリニック	早川 潤
中央区(南)	(医) 大生會 さくま診療所	佐久間 航

中央区 (南)	(医)大生會 さくま診療所	佐久間 知子
	安田クリニック	安田 光隆
	春木レディースクリニック	春木 篤
	寺内クリニック	寺内 勇
	河合皮フ科医院	河合 公子
	(医)東迎会 東迎クリニック	東迎 高意
	谷口レディースクリニック	谷口 幸一
	きむ医療連携クリニック	金 永進
旭区	心斎橋いぬい皮フ科	乾 重樹
	うつのみやクリニック	宇都宮 健弘
阿倍野区	梅崎クリニック	梅崎 圭吾
	(医)湖崎会 湖崎眼科	湖崎 亮
	(医)柏蔭会 柏原医院	柏原 紀美
	レディースクリニックさわだ	澤田 益臣
生野区	れいこ眼科クリニック	杉本 麗子
	岸田内科	岸田 泰弘
北区	(医)協同診療所	稲次 征人
	鈴木クリニック	鈴木 隆男
	(医)湖崎会 湖崎眼科アクティ大阪分院	湖崎 亮
	(医)ケイズ会 茶屋町レディースクリニック	出田 和久
	南森町レディースクリニック	平井 光三
	小西統合医療内科	小西 康弘
	北中レディースクリニック	北中 孝司
	(医)裕弘会 堂山レディースクリニック	本間 裕朗
	志村ウィメンズクリニック	志村 研太郎
	(医)三慧会 HORACグランフロント大阪クリニック	森本 義晴
	(医)聖授会 フェスティバルタワークリニック	八木 美佐子
此花区	天神橋ゆかこレディースクリニック	頼 裕佳子
	(医)豊仁会 荻野レディースクリニック	荻野 瑠美
	(医)奥見診療所	奥見 敏彦
	栗栖医院	栗栖 孝臣
	(医)小山医院	小山 貴子
	(医)小山医院	小山 高澄
	(医)木本会 鈴木産婦人科	鈴木 勲
	(医)板東医院	板東 博志
	松井クリニック	松井 清明
	(医)徹生会 村上内科	村上 毅
	栗栖クリニック	栗栖 孝一
	谷本医院	谷本 尚穂
	はやしだ診療所	林田 嘉彦
	(医)森内科	森 滋喜
	大庭眼科医院	大庭 省三
	牧野レディースクリニック	牧野 滋
	柳本産婦人科医院	柳本 時廣
	(医)良純会朝日橋胃腸科内科小児科診療所	木下 隆弘
	城東区	(医)金井産婦人科
天王寺区	おおつかレディースクリニック	大塚 志郎
	夕陽丘 佐藤クリニック	佐藤 利彦
	ちかえレディースクリニック	田所 千加枝
	上本町ヒロミレディースクリニック	橋本 弘美
	おおさき内科クリニック	大崎 匡
	(医)池田クリニック	池田 光慶
	小出内科神経科	小出 泰道
	東産婦人科 眼科	東 芳賢
	宮原レディスクリニック	宮原 義良
	遠藤クリニック	遠藤 友一郎

天王寺区	(医)瑞穂会 ともの木クリニック	三浦 一浩
西成区	腎・泌尿器科安本クリニック	安本 亮二
	(医)純和会 竹本診療所	八木 純
	イワタ医院	岩田 以津子
西淀川区	高岡診療所	高岡 均
	辻診療所	辻 勝弘
	北野クリニック	北野 英基
	大和田診療所	藤原 久義
	いせき整形外科	井石 聡
	(医)福田診療所	福田 弥一郎
住吉区	桂診療所	桂 勇人
東住吉区	山口クリニック	山口 時雄
	山田医院	山田 和彦
	にしかわクリニック	西河 潤
淀川区	赤垣婦人科クリニック	赤垣 英子
	(医)医誠会 新大阪医誠会クリニック	谷 幸治
	希咲クリニック	山分ネルソン祥興
	かわばたレディースクリニック	河端 良一
	なかにしキッズクリニック	中西 康詞
東成区	古武診療所	古武 敏彦
	大谷透内科	大谷 透
	切通眼科	切通 彰
	山崎診療所	連 美知子
	(医)いなぎレディースクリニック	稲垣 実
	中山医院	津久井幾奴子
	中山医院	津久井 伸一
東淀川区	タツミ医院	巽 壽一
平野区	元林産婦人科内科	元林 和彦
	日野レディースクリニック	日野 晃治

大阪府内

池田市	やまだクリニック	山田 祥晴
	松崎産婦人科クリニック	松崎 昇
茨木市	大河内医院	大河内 寿一
	秋岡・西代医院	秋岡 壽
	(医)中尾内科クリニック	中尾 誠
	マキレディースクリニック	田中 善章
柏原市	益弘産婦人科クリニック	益弘 和雄
吹田市	たてかわ内科クリニック	立川 豊吏
豊中市	(医)榎野クリニック	榎野 淑子
	(医)上宮医院	上宮 正直
	(医)直原ウィメンズクリニック	直原 廣明
	ふなこし呼吸器内科	船越 俊幹
東大阪市	(医)由仁会 岡本眼科	岡本 仁史
	(医)近藤医院	近藤 和秀
	永井医院	山崎 章子
	田路医院	田路 秀明
	西岡ファミリークリニック	西岡 宏彰
	医療法人三慧会 IVF大阪クリニック	福田 愛作
	西岡医院	西岡 良泰
	森産婦人科	森 政雄

藤井寺市	数尾診療所	数尾 展
	(医)平成会 平松産婦人科クリニック	平松 恵三
松原市	きただ女性クリニック	北田 衣代
八尾市	きくちレディースクリニック	菊池 知之
	萩原クリニック	萩原 正久
	なかじまレディースクリニック	中嶋 康雄
堺市	小野産婦人科	小野 晃範
	典子エンジェルクリニック	船越 典子
	清水レディースクリニック	清水 千賀子
寝屋川市	森田医院	森田 真也
大東市	松下診療所	松下 和広
森田市	たかはしクリニック	高橋 徹
高槻市	なかにし産婦人科クリニック	中西 一吉

大阪府外

奈良県	(医)田中泌尿器科医院生駒診療所	田中 正己
	(医)久産婦人科・内科	久 靖男
	宇山内科クリニック	宇山 宏和
	(医)久産婦人科・内科	久 裕
兵庫県	(医)社団 ふかみレディースクリニック	深見 和之
	黒田医院	黒田 昌男

日生訪問看護ステーション

スタッフ 副看護部長：水上洋子（保健師・介護支援専門員）

常勤看護師：丸山洋子（介護支援専門員）酒井希代子（リンパ浮腫療法士）、
山内祐子、小森奈緒子、吉井好夏

非常勤看護師：永田悦子、笹内 舞、島添早苗、久間田久美、加世田香代子、
巽 陽子、青木絵里子



1. 活動内容

予防・治療・在宅までの一貫した医療サービスが提供できる急性期病院併設の訪問看護ステーションとして入院前から退院後の在宅ケアまでの一連のプロセスが安心して安全な療養生活になるよう予防的ケアを含めて実践している。小児から高齢者まで、すべての年齢層を対象とし、医療依存度の高い利用者や、がん・非がんの終末期、精神疾患など重度化・多様化・複雑化するニーズに対応するために、訪問看護師と、訪問リハビリテーションが協働してケアの提供に努めた。月平均利用者数は126名、月平均訪問件数は、926件（リハビリテーション20件）であった。

日生病院を主体としつつ、西区を中心とした「重点地域」において他の医療機関や居宅介護支援事業所と連携を取りながら、多職種と協働しながら医療・介護の拠点としての機能を発揮している。（図1・2）

主治医別割合は日生病院54名、他医療機関は72名であった。

安心して在宅療養が継続できるよう緊急時及び24時間対応体制の充実を図り、在宅療養支援診療所との連携、日生病院における後方支援病院の契約等により療養環境を整備した。24時間対応は約4割の利用者（月平均51.3人）が契約をしており、日生病院との後方支援契約は6名であった。また、在宅療養を継続する過程で利用者や家族が意思決定を迫られる場面や、指示の確認が必要な場合には必要時に受診同行を行っている。

病院から在宅への円滑な移行支援のため、病院内看護師が在宅療養場面をイメージできるよう助言するなど退院支援に活かされるよう支援し、退院前カンファレンスは平均月5件参加した。

2. 活動体制

1) 営業日及び営業時間

月曜日～金曜日：午前9時～午後4時（但し、国民の祝日、12月30日～1月4日までは除く）

また状況に応じては、主治医の指示に基づき、営業日・時間以外に対応可能。電話等により24時間常時電話連絡が可能な体制を整備し、24時間対応体制または緊急時連絡体制の契約者には、事業所の携帯電話で対応している。

2) 通常の実施地域

大阪市西区、浪速区、港区、大正区、中央区、福島区、此花区

3. 訪問看護の普及及び教育機関としての活動

地域包括ケアシステムの構築に向け、教育機能・住民啓発・多職種連携機能に尽力した。

1) 教育機能

①看護学生の在宅看護実習受け入れ：森ノ宮医療大学、大阪保健福祉専門学校、大阪医専

②日生病院看護部退院支援研修：講義及び訪問看護実習

③大阪府訪問看護ステーション連絡会市西ブロック教育ステーションの実習協力

2) 住民啓発

①西区広報誌「かぜ」で特集号に掲載

②認知症高齢者等高齢者支援地域連携事業「認知症講演会」に参加

3) 多職種連携

①西区在宅医療連絡会、西区在宅医療介護多職種研修会、西区認知症等高齢者地域連携事業への参画による地域の高齢者施策への貢献

図1 住所地別割合

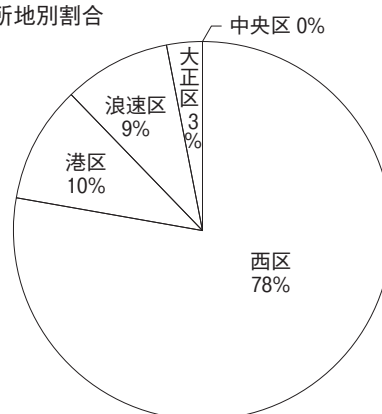
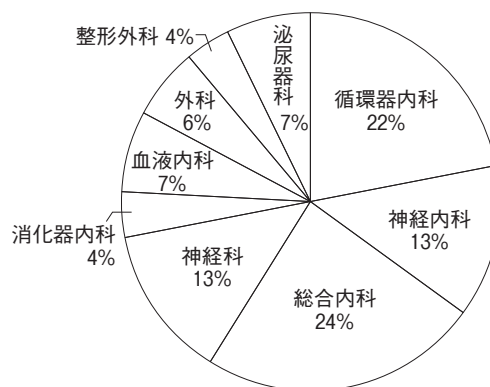


図2 日生病院診療科別割合



日生ケアプランセンター

スタッフ 副看護部長：水上洋子（保健師・介護支援専門員）

常勤スタッフ：本家裕子（社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員）

松栄優子（社会福祉士・介護支援専門員）



急性期病院併設の施設として医療ニーズの高い利用者への医療と介護と福祉の連携強化ができるよう地域の居宅介護支援事業所との連携を図り、「自立支援」と「尊厳の保持」を尊重したケアプランの立案を行っている。

1. 活動内容

①がん末期や長期入院患者の在宅復帰や医療依存度の高いケースを引き続き担当し、ケアプラン契約者は月平均2名でケアプラン立案件数は月平均2件であった。

新規の相談に対し、対応困難な場合には、医療依存度及び在宅での生活状況に応じ、公平・中立性の高い適切な居宅介護支援事業所を選択し紹介した。

②入院から在宅療養へ円滑に移行できるよう、退院指導への関与や、「生活」を見据えた援助ができるよう病院看護師への退院支援の継続的な研修会を開催した。

③2ヶ月に1回の西区の居宅介護支援事業所連絡会への参加や、地域ケア会議、認知症高齢者の多職種連絡会への出席により、地域・施設内での情報の共有を図った。

看護部

スタッフ 副院長兼看護部長：芦田亨子
副看護部長：東郷豊子、町田恵子
統括看護師長：中西三季、前川明子
3階病棟看護師長：森 エミ
4階西病棟看護師長：久留明子
5階西病棟看護師長：鈴木八枝子
6階西病棟看護師長：岩本真澄
手術室看護師長：木下園子

4階東病棟看護師長：田畑文子
5階東病棟看護師長：酒井亜紀子
6階東病棟看護師長：阿部恭子
外来看護師長：八尾みゆき



1. 看護部の理念

（公財）日本生命の基本理念『済生理民』に従い、一人ひとりの状態と立場と気持ちに沿った看護を提供します。

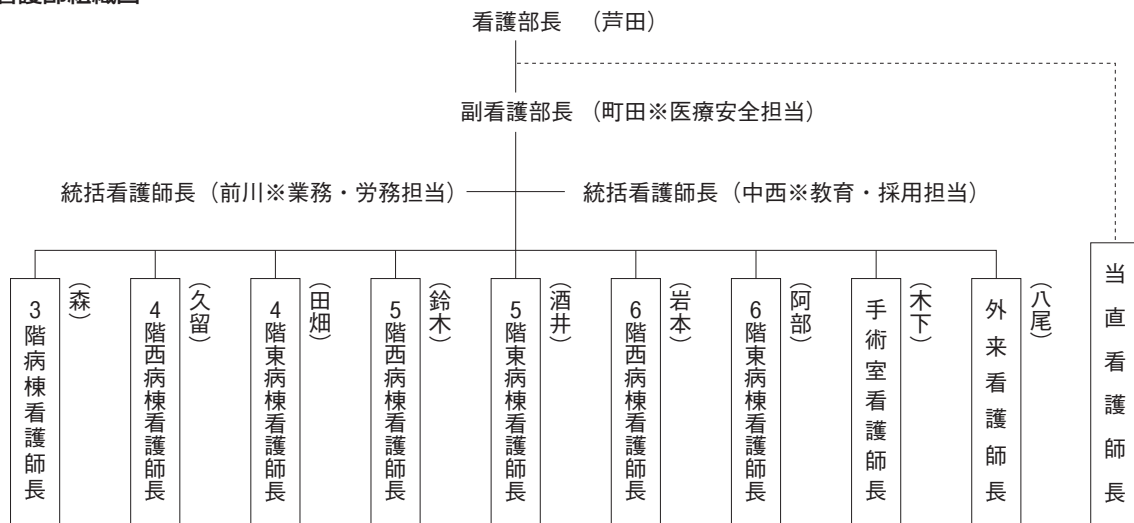
2. 看護部基本方針

- 1) 患者様の生命の尊厳と人権を尊重し、心のこもった看護を提供します。
- 2) 患者様の生活環境を整え、安全で確実な看護を提

供します。

- 3) 患者様の視点に立って業務改善や効率化をはかり、個々の職務満足度を高めるよう努めます。
- 4) 専門職としての自己研さんに努め看護職の責務を果たします。
- 5) 地域医療に貢献する急性期病院としての役割を担い、地域住民から信頼される看護サービスの向上を目指します。

3. 看護部組織図



4. 平成27年度看護部目標

スローガン：「自厳他寛」でチーム力を高めよう！

- 1) 安全で質の高い看護の提供により患者満足度を上げる
- 2) 効率的な病床運営により健全な病院運営に参画する
- 3) 相互に学び合う風土を醸成し、看護職員の定着を図る
- 4) 次期リーダー育成を目指した現任教育の推進

昨年度末に、SWOT分析の結果抽出した課題を達成することを目指して上記の目標を挙げた。

達成に向けては、委員会活動と看護師長会を軸に年間の活動計画に沿って活動した。また、平成27年度は、病院機能評価受審の年であり、具体的な評価の視点を参考に改善活動に取り組んだ。なかでも目に見える改善として“5S（整理・整頓・清潔・清掃・躰）”がある。周知にあたっては、相互ラウンドを繰り返し、スタッフの主体的な気付きを活かし

た対策を取り入れた。その結果明確な改善に至ることができた。具体的には、各看護単位独自の価値観を払拭し、全スタッフステーションで看護師長の机の配置を変えることから始め、申し送り用の机を減らすことでスタッフの作業スペースを増やした。次に、表示・掲示物の基準を作成し、同じ場所に同じ内容の掲示物を表示することで一体感が生まれ、相互に注意しやすい環境が醸成できた。病院機能評価受審に向けての取り組みは、看護師長・次席師長にとって病院のシステム全般の見直しに参画する好機であり、委員会活動と各看護単位の活動が有機的に連携できるよう情報交換に努めた。看護師長会・次席師長会で現状把握とその都度問題解決策を共有し、決定事項や指示が周知されているか確認を繰り返した。このような日々

の取り組みの継続により、結果として“患者の視点”での改善活動が進んだ。

また、看護部質評価委員会で取り組んだ「退院時アンケート」の結果を病院の各部門にフィードバックすることで、トイレや汚物処理室、浴室の環境改善につなげることができた。

ベッドコントロールについては、経営への参画の第一義的テーマとして、毎日のミーティングで効率的な運営ができるよう取り組んだ。常に指標を意識した病床運営ができるよう、スタッフステーションのホワイトボードに当日患者数とともに掲示し、看護師だけでなく病棟を訪れる職員に周知する取り組みを行った。

人材育成については院内の看護師実践能力向上プログラムを計画的に展開し、「IVナース」院内認定制度を軌道に乗せることができた。また福井大学の「PNS」研修に参加し、OJTの内容の変化も見られるようになった。今後も取り組みを継続し、看護の質向上につなげたい。

5. 看護部の概要

施設基準：入院基本料7：1

看護体制：二交代制（夜勤時間15時間）

看護方式：固定チームナーシング

継続受け持ち制（ベアナーズ制）

6. 看護職員数（平成27年4月1日現在）

看護師：257名

助産師：25名

看護助手：21名

7. 研修参加状況

1) 院内研修（別表）

2) 院外研修（別表）

- ・大阪府看護協会短期研修会 23名
- ・大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会 2名
- ・認定看護師教育課程がん化学療法分野
（公益社団法人日本看護協会神戸研修センター）1名

3) 学会発表 日本看護協会主催等 9名

8. 看護学生実習受け入れ

- ・大阪医専（4年課程） 96名
5月～3月（基礎・成人・老年看護学・統合）
- ・大阪保健福祉専門学校（3年課程） 20名
5月～9月（母性看護学）
- ・大阪府病院協会看護専門学校（3年課程） 20名
5月～3月（母性・成人看護学） 33名
- ・甲南女子大学（4年課程） 98名
5月～1月（母性看護学・成人看護学・総合実習）
- ・梅花女子大学（4年課程） 43名
8月～9月（基礎看護学）
- ・森之宮医療大学（4年課程） 22名
4月～3月（母性看護学・主題実習）
- ・関西医療大学（4年課程） 8名
11月（母性看護学）

9. 看護体験受入れ

- ・大阪府主催一日看護体験 高校生8名

10. 看護フェア

5月13日 53名参加

- ・身体測定、看護相談、アロマ・マッサージ
フットケア

11. 日生看護研究会

- ・10月24日 68名参加（院外39名）

◆病棟状況

部署		定床	平成27年度 患者数	病床 利用率	平均 在院日数	平成27年度 配置基準	勤務人員			平均 夜勤回数	備考
		深	準	日							
3階		45	45	74.6%	8.3	31	3	4	13	3.6	
	新	15									
	計	60									
4西		46	46	76.2%	13.4	31	3	4	13	3.8	
	別	14									
	計	60									
4東		51	42	83.0%	12.0	26	3	3	11	3.7	
5西		44	39	88.4%	25.5	26	3	3	11	3.6	
5東		49	43	86.9%	16.2	26	3	3	11	3.4	
6西		44	36	80.7%	11.7	26	3	3	11	4.2	
	小	8	6								
6東		27	23	76.5%	5.5	26	3	3	11	4.0	
	未	7	3								
外来						39	バ	19			
手術						18					
管理						6					
計		350	281	80.3%	11.5	255				3.7	

12. 看護部委員会活動

1. 現任教育委員会 木下園子

<平成27年度目標>

- 1) 新人指導体制の見直し・修正・実施・評価
- 2) STARナースプログラムの考え方に基づいて研修を見直し、e-ラーニングを取り入れ知識中心型から演習やシミュレーションなどを活用して実践重視の教育方法を検討・実施する
- 3) クリニカルラダー認定の方法の検討・実施と助産師実践能力習熟段階との連携を図る
- 4) IVナース認定制度の確立と新たな院内認定制度を構築する

<活動内容>

1) 院内研修

「経年別・役割別研修」として7コース（新人、2年目、3年目、4年目、5年目、臨地実習指導者、看護助手）、及び、「自己研鑽のための研修」5コース（糖尿病看護、がん看護、看護を語ろうジュネラルナース、わくわくスキルアップ、看護管理）の合計12コースを企画運営した。

2) 院外研修

看護協会や各学会等主催の専門性の高い研修や学会の紹介・諸手続き支援を通し、院外研修や関連学会への参加を促進した。

また看護部活動の充実を図る目的で、看護部のリーダー層（師長・次席・委員会メンバー等）を対象に「看護診断」「PNS」「重症度、医療・看護必要度」等の院外研修への参加を企画し諸手続き支援を行った。研修後は看護師長会、次席会、各委員会、各看護単位で伝達会をもち、知識・情報を共有した。

1) 看護部継続教育実績（院内）

研修会名	年月	内容	参加者数
新人	4月1日(水) 2日(木)	オリエンテーション	24名
	4月3日(金)	医療安全、看護記録研修	24名
	4月6日(月) 7日(火)	宿泊研修 ロッジ舞洲	24名
	4月8日(水)	感染防止 手洗い操作・清潔操作 感染経路防止策	24名
	4月9日(木) 10日(金)	看護技術 採血e-ラーニング 口腔ケア 皮下注射 e-ラーニング 安全な薬剤管理	24名
	4月13日(月)	褥瘡の基礎知識と予防法、 スキンケアの基礎 浣腸・排便 移送・移乗 抗生剤	24名
	4月14日(火)	看護基準 フィジカルアセスメント 新人年間教育計画	24名
	4月15日(水)	各部署オリエンテーション	24名

研修会名	年月	内容	参加者数
新人	4月16日(木) 17日(金)	日勤チーム作り研修	24名
	4月24日(金)	防災訓練 (阿倍野防災センター)	24名
	5月20日(水)	重症度・医療・看護必要度 酸素吸入・吸引 導尿・膀胱留置カテーテル 1か月振り返り	24名
	6月10日(水)	インスリン療法 医療安全 ① 心電図の見方 輸液・シリンジポンプ e- ラーニング	24名
	7月22日(水)	急変時の対応 BLS演習 救急薬品 3か月振り返り	24名
	7月28日(火)	医療安全 看護業務と医療安全	24名
	8月28日(金)	気管内挿管の準備と介助	24名
	9月16日(水)	業務計画立案 看護倫理 ストレスマネジメント 6か月振り返り	23名
	10月7日(水)	医療ガス 医療安全② 輸 血時の看護 看護記録・看護過程	23名
	12月2日(水)	麻薬の取り扱い がん看護 抗がん剤薬剤 人工呼吸器の管理・装着 中の看護	23名
	2月10日(水)	1年の振り返りとまとめ	22名
2年目	5月21日(水)	医療者に求められる社会 人基礎力 e-ラーニング 視聴後 グループワーク	11名
	6月24日(水)	メンバーシップ	11名
	8月5日(水)	看護倫理	10名
	10月14日(水)	ケーススタディ	8名
	12月9日(水)	コミュニケーション	10名
	1月13日(水)	1年の振り返り	10名
3年目	5月27日(水)	看護記録・看護過程	11名
	6月19日(金)	職場における自己の役割と 責任 リーダーシップ	12名
	10月21日(水)	後輩・新人指導に必要な コミュニケーション	12名
	1月15日(金)	看護過程の展開・事例検 討会 学会参加報告会	12名
	2月3日(水)	プリセプターシップについ て・新人看護師との関わり方	11名
4年目	6月3日(水)	クリティカルシンキング	17名
	7月8日(水)	e-ラーニング「中堅看護師の 力で看護師は変わる」視聴	17名
	8月12日(水)	リーダー業務を楽しもう	16名
	11月18日(水)	看護師としての倫理観 働かせていますか	17名
5年目	5月15日(水)	継続看護(講義)	6名
	6月17日(水)	看護理論を実践に活かす	6名
	8月 平日	継続看護(在宅研修)	6名
	10月21日(水)	看護倫理Ⅲ	6名
	12月16日(水)	看護論 発表	6名

研修会名	年月	内容	参加者数
プリセプター の会	4月21日(火)	プリセプター制度 オリエンテーション	16名
	6月11日(火)	第1回 交流会	21名
	10月1日(木)	プリセプター・教育担当者 との合同報告会	16名
	1月26日(火)	プリセプターを経験しての 学びと課題	22名
臨地実習 指導者	7月29日(水)	指導者って何だろう 臨地 実習の原理と実際・指導者 の役割とは?	8名
	8月19日(水)	現在の若者気質とコミュニ ケーション	8名
	12月3日(水)	指導者観 発表	7名
看護を 語ろう! ジェネラル ナース	9月17日(木)	書いて、伝えて、あなたの 看護を深めよう	16名
	10月8日(木)	書いて、伝えて、あなたの 看護を深めよう	15名
がん看護	9月30日(水)	がん看護① がん看護概論・告知を受け た患者の意思決定支援	21名
	10月21日(水)	がん看護② がんの進行に伴う症状マ ネジメント がん性疼痛・倦 怠感、適応障害・うつ	28名
	11月24日(火)	がん看護③ がん看護に関わる看護師 の倫理的な実践を学ぶ	24名
	1月20日(水)	がん看護④ がん化学療法看護	30名
糖尿病 看護	5月19日(水)	糖尿病と生きる人を支える・ セルフケア支援 症例検討	34名
	7月15日(水)	今さら聞けない糖尿病	38名
	11月11日(水)	e-ラーニング「糖尿病の合 併症」視聴後の意見交換	26名
わくわく スキル アップ	6月12日(火)	e-ラーニング「せん妄の理 解とその対応」 受講しての事例検討	34名
	9月9日(水)	e-ラーニング「認知症の 早期発見と早期治療ケア」 受講 事例検討	22名
	2月17日(水)	e-ラーニング「人工呼吸器 管理のポイント」受講 実践	14名
中途 採用者	10月15日(木)	中途採用者研修①	8名
	11月13日(金)	中途採用者研修②	6名
	12月9日(水)	中途採用者研修③	3名
	3月16日(水)	中途採用者研修④	5名
看護助手	6月17日(水)	医療制度の概要及び病院 の機能と組織の理解守秘 義務・個人情報保護	19名
	6月22日(月)	医療チームおよび看護 チームの一員としての看護 補助者の義務 感染予防 (手洗い・標準予防策)	19名
	7月6日(月)	感染予防(手洗い・標準予 防策)Q&A	17名
	8月3日(月)	医療安全(事故防止の基本 的構築、事故発生の対応)	18名

研修会名	年月	内容	参加者数
看護助手	9月7日(月)	日常生活の関わる業務 (移動の世話)	15名
	11月2日(月)	日常生活の関わる業務 (清潔の世話)	16名
	12月7日(月)	日常生活の関わる業務 (排泄の世話)	17名

2) 看護部継続教育実績 (院外)

成人看護 (大阪府看護協会)	平成27年4月	褥瘡ケア	1名
がん看護 (大阪府看護協会)	平成27年6月	がん化学療法を受ける患者 の看護①	1名
がん看護 (大阪府看護協会)	平成27年6月	がんとりんパ腫	1名
インターネット配信 (大阪府看護協会)	平成27年7月	災害医療と看護 基礎編	1名
助産 (大阪府看護協会)	平成27年7月	助産師の実力UP	2名
指導者 (大阪府看護協会)	平成27年7月	実地指導者の指導技術研修 ①	1名
地域看護 (大阪府看護協会)	平成27年8月	病棟管理者として出来る退 院支援と地域連携①	1名
共通 (大阪府看護協会)	平成27年8月	皆で考える看護倫理	1名
共通 (大阪府看護協会)	平成27年8月	救急看護2 演習	1名
成人看護 (大阪府看護協会)	平成27年9月	摂食・嚥下障害のある患者の 看護の基礎と実際を学ぶ	1名
共通 (大阪府看護協会)	平成27年9月	フィジカルアセスメントの基 礎(講義)	1名
共通 (大阪府看護協会)	平成27年9月	人工呼吸器装着中の患者の 看護②	1名
母性 (大阪府看護協会)	平成27年12月	合併症のある妊産婦の看護	4名
老年看護 (大阪府看護協会)	平成28年1月	高齢者の見取りと看護	1名
看護管理 (大阪府看護協会)	平成28年1月	“やらされ感”脱却「目標に よる管理」の本質をつかみ、 管理力の基本を身につける	1名
共通 (大阪府看護協会)	平成28年1月	放射線看護	1名
共通 (大阪府看護協会)	平成28年2月	救急看護 基礎①	1名
共通 (大阪府看護協会)	平成28年2月	救急看護 基礎②	1名

3) 看護部 長期及びその他の研修

主催	日程	研修会名	受講者
大阪府 看護協会	5月20日～ 7月17日	2015年度 第1回 大阪 府保健師助産師看護師 実習指導者研修講習会	4西 湯浅賀容子
大阪府 看護協会	5月20日～ 7月17日	2015年度 第1回 大阪 府保健師助産師看護師 実習指導者研修講習会	6西 大西まゆり
大阪府 看護協会 地域保健 福祉事業部	6月21日	認知症高齢者看護研 修I	木村由美 神谷香里 木村冬美 岩本真澄

主催	日程	研修会名	受講者
大阪府看護協会	6月25日～9月11日	2015年度認定看護管理者教育課程「セカンドレベル」	3西 森 エミ
福井大学医学部 付属病院	6月29日～7月1日	PNS研修 見学	前川明子 木村由美 鈴木八枝子 大藤弘美 三好由紀子 三好優子 依田恵美 門林聡美 山元さちえ
エルゼビアジャパン	7月2日	2015年度 ナーシングスキル日本版 学術セミナー 2025年に向けて 組織の活性化と今必要な看護管理の姿とは ～人材採用、教育、エンパワーメントから定着まで～	前川明子 田畑文子 木下園子 鈴木八枝子 久留明子
大阪府看護協会 地域保健福祉事業部	8月1日	認知症高齢者看護研修Ⅱ	神谷香里 岩本真澄
関西臨床倫理研究会	9月7日	第1回 関西臨床倫理委員会「臨床倫理入門：「日常生活場面における臨床倫理」	大野典子 中西三季 木村由美 木下園子 下山優子 谷口真理子 高崎かおり 梶谷久美子 松葉久美 西臺真子
大阪府看護協会	7月28日	新入会に対する研修	新人24名
大阪府看護協会	10月20日	大阪府立三島救命センター 災害訓練参加	鈴木あかね 森蘭祐子
大阪府看護協会 看護師職能委員会	12月12日	出前出張 認知症セミナー「病院および地域における認知症看護」	高山由美子 長瀬恵麗
大阪府看護協会 防災・災害委員会 助産師職能委員会 共催	12月18日	周産期における災害看護研修	山下智美 小野亜希子 藤本玲奈 寺川梓
大阪府看護連盟 研修会	12月26日	認知症ケア	八尾みゆき 田畑文子 久留明子 木村由美 加世田香代子 永田悦子
関西臨床倫理研究会	平成28年1月9日～10日	第9回 関西臨床研究会 年次大会	岩本真澄 神谷香里 三好由紀子 安藤圭子 松葉久美
大阪看護協会 医療安全対策委員会 研修会	1月16日	転倒・転落前後のトラブルの対処について	鈴木八枝子 久留明子 賀戸ひとみ 中村弘美 湯峰理恵 澤山 曜 濱川茂子 田中千登勢 鹿崎裕佳 松田智子

主催	日程	研修会名	受講者
大阪看護協会 助産師職能委員会主催	1月23日	助産記録の書き方&ケアリング	山下智美 池上由希子 片岡郁子
大阪看護協会 助産師職能委員会主催	2月20日	CloCMip必修研修 実践にいかせるモニタリング解説 CTG研修	池上由希子 上久保沙由梨 山内摩衣子 麦田友里 和田仁見 宮地貴己
大阪看護協会 委員会研修	2月27日	恐れずに論文投稿するために！ —論文の作成技法・業務改善を研究に—	木村由美 鈴木八枝子 神谷香里
NPO法人メディカルリレーションマネジメント協会	3月2日	主任・師長のためのクレームを未然に防ぐコミュニケーション術	岩本真澄 三好由紀子
大阪看護協会 委員会研修 教育委員会研修	3月11日	看護のための教育学入門	木下園子

13. 業績 学会発表

1. 小山佐知子：周期的に訴える激痛に対してくも膜下鎮痛を施行した1例. 第20回日本緩和医療学会学術集会, 6月, 2015, 横浜.
2. 合田全司, 松尾かさね, 鄭恩愛, 村上弘子, 石井広美, 鈴木八枝子：血液疾患患者の無菌室入室患者の食事制限に対する思い, 第46回日本看護学会 慢性期看護, 9月, 2015, 福島.
3. 市川 恵, 浅利めぐみ, 佐伯翔子, 萬代昌子, 河野千鶴, 阿部恭子：骨盤底筋体操の実施状況と尿失禁の現状 ～妊娠8ヶ月からの指導と分娩後からの指導を比較して～. 第46回日本看護学会 ヘルスプロモーション, 11月, 2015, 富山.
4. 鶴田知里, 宮田綾佳, 青地美香：入院から始める退院支援アプローチシートを使用した病棟看護師の看護介入. 第2回大阪府看護学会, 12月, 2015, 大阪.
5. 田中敬子, 岩崎由希子, 福本 亮, 福井辰成, 林 美沙：回腸導管近接部の皮膚転移自壊創にMohsペーストを用い、患者の希望により添うことができた一例. 第33回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会, 2月, 2016, 山梨.
6. 久井貴美子：骨盤臓器脱バスの導入について. 日本医療マネジメント学会 大阪支部学術集会, 2月, 2016, 大阪.
7. 山元さちえ：統計からみる系尿道の手術適応の検討 ～疾患別のバスを目指して～. 日本医療マネジメント学会 大阪支部学術集会, 2月, 2016, 大阪.
8. 小山佐知子：多職種が協働した予後予測困難ながん患者への人工呼吸管理と精神的支援. 日本医療マネジメント学会 大阪支部第9回学術集会, 2月, 2016, 大阪.

研究助成・治験・臨床研究等 (臨床研究)

1. 回腸導管近接部の皮膚転移自壊創にMohs法と行い、患者の意思に寄り添うことができた一例 (田中敬子)
2. 乳がん患者がタキサン系薬剤起因性の末梢神経障害による苦痛や困難に対しコーピングを確立していくプロセス (畠山明子)
3. 平成27年度看護研究について (中西三季)
4. アジア太平洋地域におけるがん治療後の患者に対するサバイバーシップケア (畠山明子)

2. 看護部記録委員会 鈴木八枝子

＜平成27年度目標＞

- 1) 看護記録の適正化と院内教育
- 2) 電子カルテシステムの効率的な運用
- 3) 看護基準に基づいた基準看護計画の作成

＜活動内容＞

- 1) 看護記録の適正化について、昨年に引き続き、「看護記録マニュアル（第15版）の改訂を行った。また、略語集（第9版）は院内共有化した。重症度、医療・看護必要度の記録については、「患者の状態と行ったケア」として、ケアの根拠がわかる叙述的な記載にした。記録の適切性として、記録監査を行った。記録監査率は44%であった。
- 2) 電子カルテシステムの効率的な運用について、チーム医療推進に向けて、カンファレンス記録のテンプレートを作成した。（転倒・転落、身体拘束、退院支援、産褥）また、人工呼吸器の鎮静スケールを経過表の観察項目に追加した。経過記録については、助産記録・ストーマケア・急変時記録のテンプレート化を行った。
- 3) 基準看護計画は作成にいたらず次年度の課題となった。
計画に挙げた以外の活動として、院内研修に記録委員会として研修企画・運営に参画した。内容は、新人・3年目に向けて「看護記録の基礎・看護診断・看護過程」について講義を行った。

3. 看護部経営改善委員会 酒井亜紀子

＜平成27年度目標＞

- 1) 病棟看護師が、「重症度、医療・看護必要度」を適性に評価できるよう支援する。
- 2) 診療報酬点数表のうち、看護師の実践で算定できる項目の洗い出しと算定漏れをなくすための方策を実施する。

＜活動内容＞

- 1) 「重症度、医療・看護必要度」について
 - ・評価者への研修の開催
平成27年5月23日の参加者は23名（新人）、8月13日の参加者は101名（病棟スタッフ）であった。
 - ・定期的な監査の実施
各病棟の監査1,052件中、適切な評価は554（52.7%）、不適切な評価は498件（47.3%）であった。
委員会の監査95件中、適切な評価は34件（35.8%）
不適切な評価は61件（64.2%）であった。
 - ・平成27年度の重症者の占める割合は18%～21%で推移した。
 - ・平成28年度診療報酬改定に伴い、必要度変更後のシミュレーションを3月9日から3月15日に行った。評価数1,745名のうち、重症者は424名で重症者の占める割合は24.2%となった。

2) 診療報酬の理解の促進について

看護師の実践で算定できる項目について、各病棟へ算定条件とコストの取り方を示したファイルを作成し、算定できた件数をフォローした。

4. 看護の質改善委員会 阿部恭子

＜平成27年度目標＞

- 1) 退院時アンケートを実施し、入院患者からの評価を改善に生かす。
- 2) 看護の質を表すデータを継続的に収集し、可視化する。
- 3) 看護業務の内容と量について調査を実施し、看護の質の現状を把握し改善する。

＜活動内容＞

1) 退院時アンケートについて

6月1日から退院時アンケートを開始した。毎月のアンケート結果を病棟毎に集計し、師長会及び当委員会にて共有した。回収率、感謝のお言葉とご意見の数、項目毎の得点の推移（全病棟・月別、病棟別）、ご意見の内容（看護、環境・設備、清掃、食事、その他の項目に分類して集計）について毎月集計した。1か月のアンケート回収数は294件～454件、回収率は69.7%～80.5%、感謝・おほめの言葉は95～145件（20.5%～36.0%）、ご意見は44～86件（13.9～23.0%）であった。看護に関するご意見については、各病棟でカンファレンスを開催し、看護の質の改善につなげるように働きかけた。環境・設備、清掃、食事、その他の項目については、各担当部門へ報告し、改善につなげるよう連携している。

11月から、毎月のアンケート結果を各病棟の掲示板に掲示するようにした。

2) 看護の質評価に関するデータの明確化

7月から日本看護協会主催のDiNQLへ参加した。

7月、11月に、各病棟のデータを136項目収集し、入力した。また、専門、認定看護師のデータ41項目を入力した。看護の質を表すデータの可視化及びデータに基づいた看護の質の改善については、引き続き今後の課題とする。

3) 看護業務量についての調査

10月5日から11日までの7日間、各病棟で清潔・排泄・食事に関する看護ケアの業務量調査を実施した。また、口腔ケアの看護計画及び記録に関する1DAY調査（10月5日）を実施した。当院における口腔ケアは不足しており（担送・護送患者に1日平均1.41回実施）、また、ケアの実施入力の方法が統一されていないことが明らかになった。記録委員会と連携し、ケアの実施入力の方法を統一した。

5. 看護業務基準・手順委員会 森 エミ

＜平成27年度目標＞

- 1) 看護業務基準の修正、周知
- 2) 看護業務手順の修正、周知
- 3) 看護管理マニュアルの修正
- 4) 基準・手順の利用実態の調査と評価

＜活動内容＞

1) 看護業務基準について

平成22年から25年度の病院年報をもとに、当院で取り扱いの多かった疾患を抽出し、上位83疾患と「症状別」30種類、「経過別」4種類について、実施すべき看護ケア内容が明確になっているか、という視点で検討し、看護の標準化・質の向上と新人指導の際にも活用できるよう見直した。

2) 看護手順について

「検査」27種類、「治療・処置」18種類、「基礎看護」58種類について見直した。見直しのポイントとして安全かつ安心な看護実践を目指し、侵襲的処置から順に改訂した。また「静脈注射」手順は現任教員委員会と連携してIVナース院内認定試験を行う際の基準として使用した。

3) 看護管理マニュアルについて

看護師長会メンバーを中心に検討、改訂した。

4) 基準・手順の利用実態の調査と評価

11月に使用状況のアンケート調査を行った。看護基準の利用率は2割にとどまったが、看護手順の利用率は9割以上であった。

14. 専門・認定看護師活動報告

1. 感染症看護専門看護師 大野典子

今年度は機能評価受審の年度となり感染対策の基本となる手指衛生の強化に取り組んだ。結果、外来部門に液体せっけん・ペーパータオルが導入され手指衛生に関する環境が院内全領域で整った。また、擦式手指消毒剤の納入量は平成26年度の1.5倍に増加した。

院内感染コントロールチームで行っているサーベイランスデータを日本看護協会DINQLへ情報提供を開始した。今後は多施設の状況と比較分析し当院での対策をより充実させるための参考にしたい。

2. がん性疼痛看護認定看護師 小山佐知子

今年度は、がん疼痛緩和、症状緩和マニュアルの改訂を行い、緩和ケアチームが推奨する緩和フローチャートの作成、電子カルテのトップ画面にマニュアル掲載をした。また、終末期の定義、予後予測、終末期の確認と方針の選択・決定についての手続きのフロー作成を行った。ケアを必要としているがん患者に対して、がん看護相談を行っている。周知のためホームページの更新、院内へポスター掲示し件数は97件であった。がん患者指導管理料1算定の算定は119件で

あった。緩和ケアチーム介入件数は、129名で前年度より減少している。うちがん117名（90%）非がん12名（10%）であった。

3. 糖尿病看護認定看護師 角南ちえ子

糖尿病・内分泌センター（4日/週開設）において、3日/週外来患者の指導（生活習慣指導、透析予防指導、合併症予防（フットケア）指導）を行っている。その中でも透析導入予防を目的にチームで指導すると算定出来る透析予防指導管理料は97件と昨年度よりも増え、より多くの患者の透析導入予防に関わることが出来た。

また、病棟・外来・訪問看護・予防医学センターと幅広い部門の看護師からの相談を受けることができたが、合併症の進行予防への取り組みを強化出来るよう調整して行く必要がある。

4. 皮膚・排泄ケア認定看護師 田中敬子

週2回、創傷・ストーマ・失禁の3領域で活動した。

創傷においては1回/2週の褥瘡回診に参加し、褥瘡予防・治療の検討・評価を行った。褥瘡回診対象外の患者には、個別に治癒促進のケア介入を行った。また、体圧分散寝具の選択基準を作成、体圧測定による体圧管理を行い、褥瘡発生率は0.59%と前年度より低下した。その他、医療機器関連圧迫創傷、癌性創傷、動脈性壊疽のケアに取り組んだ。

ストーマケアにおいては、当院でのストーマ造設術は15件あり、入院中にセルフケアが確立できるよう支援し、退院後もストーマ外来にて、継続して社会復帰を支援した。失禁においては、排泄物付着による接触性皮膚炎に対し適切なスキンケア指導を行った。

5. 乳がん看護認定看護師 水越 梓

平成27年7月に乳がん看護認定看護師の資格を習得した。資格習得後は、病棟看護チームの一員として勤務し、日々の受け持ち患者を通して実践を行っている。また、病棟スタッフからの相談を受け、ともに良い患者ケアを行えるように取り組んでいる。術後のリンパ郭清を行った患者に対しては入院中にリンパ浮腫予防指導を通して、退院後の生活指導を行った。

6. 手術看護認定看護師 二井千里

平成27年7月に手術看護認定看護師資格を取得した。手術室にて外回り看護、器械出し看護を実践しつつ、平成28年1月より術前看護外来を開設し、術前からの看護介入に取り組み始めた（1月から3月の術前看護外来件数は21件）。平成27年11月よりWHO安全な手術のためのガイドラインで推奨されている手術安全チェックリストを導入し、定着化することができた。

スタッフ センター長：中村秀次

副センター長：湯川雅彦

予防医療部部長代行：鈴木真優美

予防医療部担当部長：住谷 哲

常 勤 医 師：泉 由紀子、高島周志、小豆澤深雪、藤岡滋典（特任顧問）、

佐藤文三（特別顧問）、船渡孝郎（顧問）、尾上昌世（産婦人科）



1. 診療内容

人間ドック受診者総数は11,696名に達し、引き続き大きな伸びを示した（表1）。定期健診受診者も34,277名と前年度より着実に増加した。健診受診後のフォロー強化に取り組み、健診精査内科受診者数は、1,882名と約20%増加し、日生病院各診療科への紹介数も2,520名と増加した。

健診の質および快適な受診環境の維持・向上を目指して、専門医師による診察、読影、診断、およびダブルチェック体制を維持し、看護師による専門的なケア、保健師による指導、専門技師による検査を徹底するとともに、接遇の改善と受診当日の運営体制の見直し、改良を行った。また人間ドックの午前3診体制を週2日実施するとともに、協会けんぽを対象とした午後健診を週3日、婦人科健診も週5日に増枠した。当センターの特徴である女性に優しい健診施設としての特色をより充実させるため女性医師による婦人科健診の週4日体制、月2回のレディースデイ2診体制を維持し、午後の乳がん検診も引き続き実施した。メンタルヘルスサポート事業では、新たな解析ソフトを導入してサービスの向上を図るとともに、精神科医師による週1回のコンサルテーションを実施し、メンタルサポート体制を強化した。27年12月よりのストレスチェック義務化に伴い、ストレスチェック契約数も着実に増加した。受診者アンケートを毎日実施し、結果を毎週検討し、待ち時間の短縮とCSの向上に常に努めている。受診者のリピート率の向上を目指しており、27年度は67.4%であった。

社会福祉事業として、児童福祉施設を中心として26施設、入所者約2,400名を対象として無料低額健診を継続実施した。また、8月に母子家庭に対する公募方式による無料乳がん検診を引き続き実施し、24名の方が受診された。

ストレスチェックの義務化もあり、労働安全衛生分野における産業医の重要性和需要が高まっている。嘱託産業医としての近隣企業への産業医受託体制を強化し、今年新たに日生病院医師より認定産業医を養成した。

学会活動として人間ドック学会に2題発表した。更に、各医師が専門領域の学会（消化器病学会、肝臓学会、糖尿病学会、内分泌学会等）でも発表した。

27年度人間ドック受診者の解析結果を以下に示す。人間ドック受診者の要治療率、要精密検査率は総計で14.7%、52.9%となり、昨年度より増加した。年代別、

性別の要治療率、要精密検査率を表2に示す。27年度は男性より女性で高い傾向となり、40歳未満では要治療10%未満であるが、40歳以上では要治療は14%以上となり、50歳代では18%を示した。特に50歳代の女性では20%を超えた。要精密では男性では40歳以下では40%未満であったが、50歳以上では5割を超え、60歳以上で62%に達した。女性では要精密は40歳以上で5割を超え、60歳以上では61%となった。要治療（治療中を含む）、要精密検査項目の男女別の上位5項目を表3に示す。眼科疾患（眼底異常）が男性では22%で1位となり、女性では16%で2位であった。一方、潜血尿が大部分を占める腎尿路系疾患は女性では18%で1位となり、男性では10%で3位に入った。生活習慣病では、脂肪肝を含む肝機能障害が男性で11%と2位に入り、糖尿病は7.5%で4位であった。一方、女性では脂質異常症は9%で5位に入っただけであった。高血圧は男女ともに今年度は上位5項目より外れた。女性では、乳腺疾患が19%で3位に、婦人科疾患が17%で4位に入り、女性特有の疾患の異常は約36%に認められた。

精度の高い健診に努め、悪性疾患の発見は30名（0.26%）であった。この内24名（80%）が早期癌であった（表4）。あったかサポートセンターとの連携強化により、D1、D2判定者で健診精査内科および日生病院各診療科に紹介された患者は大幅に増加し、3,299名に達した（表5）。健診精査内科以外では、消化器内科、眼科、乳腺外科、婦人科、泌尿器科が上位を占めた。院外も含めた再検率は35.3%と、昨年よりわずかに低下した。精密検査の確実な実施を含めたD1、D2フォロー体制を強化するため、1か月後フォローの実施と3か月フォローの複数回勧奨を新たに始め、要治療要精密者の把握と再検率の向上を図っている。

2. 業績

学会発表

1. 中村秀次, 居平典久, 村本 理, 伊藤 翔, 田中 智: 肝硬変患者における成因別のGlycated albumin/ HbA1c ratio (GHR) およびChild-Pugh scoreとの関連性. 第51回日本肝臓学会総会, 5月, 2015, 熊本.
2. 中村秀次, 村本 理, 伊藤 翔, 稲次洋平, 田中 智, 居平典久: 当院におけるC型慢性肝炎に対するPegIFN α /Ribavirin/Protease inhibitor 3者併用療法の抗ウイルス効果. 第51回日本肝臓学会総会, 5月2015, 熊本.
3. 泉 由紀子, 小豆澤深雪, 高島周志, 鈴木真優美, 住谷 哲, 網野信行, 藤岡滋典, 笠山宗正, 佐藤文三, 中村秀次: 基準値

外TSH値を示した受診者における甲状腺疾患とTSH値の経年的推移についての検討. 第56回人間ドック学会学術大会, 7月, 2015, 横浜.

- 高島周志, 小豆澤深雪, 鈴木真優美, 泉 由紀子, 住谷 哲, 藤岡滋典, 湯川雅彦, 阪井理恵, 佐藤文三, 中村秀次: 健診における大腸癌スクリーニングとしての便Hb値の有用性. 第56回人間ドック学会学術大会, 7月, 2015, 横浜.
- 高島周志, 伊藤 翔, 村本 理, 居平典久, 湯川雅彦, 中村秀次: 健診における大腸癌スクリーニングとしての便Hb値の有用性. 第23回日本消化器病学会(日本消化器病関連学会週

間), 10月, 2015, 東京.

- 中村秀次, 居平典久, 村本 理, 伊藤 翔: 肝硬変における成因別のGlycated albumin/ HbA1c ratio(GHR). 第19回日本肝臓学会大会, 10月, 2015, 東京.

研究助成・治験・臨床研究等 (臨床研究)

- 人間ドック大腸内視鏡検査の受診者に対するアンケート (高島周志)

表1 定期健康診断・人間ドック受診者数(運営会議資料抜粋)

	H27年度	対前年	備考
	名	%	
定期健康診断	34,277	101%	
人間ドック (日帰り)	6,937	105%	標準コースの 人間ドック
人間ドック (生活習慣病)	4,624	135%	協会けんぽなどの 簡易ドック
専門ドック (脳・肺ドック)	135	62%	
人間ドック 合計	11,696	114%	

表2 日帰り人間ドック受診者の年齢別、性別の要治療項目
と要精密検査項目の頻度

	要治療項目(治療中を含む)(D1)					
	男		女		全体	
	%	人数	%	人数	%	人数
39歳以下	11.3%	43	8.1%	31	9.7%	74
40~49歳	11.9%	140	16.1%	195	14.1%	335
50~59歳	15.7%	179	20.4%	214	18.0%	393
60歳以上	13.1%	114	13.9%	95	13.5%	209
総計	13.4%	476	16.1%	535	14.7%	1,011

	要精密項目(D2)					
	男		女		全体	
	%	人数	%	人数	%	人数
39歳以下	38.7%	148	46.7%	179	42.7%	327
40~49歳	46.4%	544	52.8%	638	49.6%	1,182
50~59歳	51.2%	583	55.8%	586	53.4%	1,169
60歳以上	62.7%	546	61.3%	418	62.1%	964
総計	51.1%	1,821	54.8%	1,821	52.9%	3,642

※健診システム(タック)より日帰り人間ドックコースのみ、判定D1(要治療)、
D2(要精密検査)を抽出
%は年齢別要治療・要精密検査数/年齢別全受診者数×100
総計の%は性別総計数/全受診者数×100

表3 性別による要治療・要精密検査の上位5項目
(日帰り人間ドック受診者)

No.	男性			No.	女性		
	要治療・ 要精密検査項目	%	人数		要治療・ 要精密検査項目	%	人数
1	眼科疾患	22.3%	791	1	腎・尿路疾患	17.9%	595
2	肝機能障害	11.1%	396	2	眼科疾患	16.0%	516
3	腎・尿路疾患	10.4%	371	3	乳腺疾患	18.7%	482
4	糖尿病	7.5%	269	4	婦人科疾患	17.4%	428
5	肛門・大腸疾患	7.6%	265	5	脂質異常症	9.3%	309

※各検査項目の数値・判定より抽出(センター医師による判断)
要治療・要精密検査項目は治療中Eを含む
%は検査項目受診数/5項目総受診者数×100

表4 悪性疾患の発見率

	人数(名)	占率
癌診断者	30(早期24)	0.26%

乳癌12名、胃癌4名、大腸癌3名
食道癌2名、膵癌2名、肺癌2名
前立腺癌、膀胱癌、白血病、
リンパ腫各1名

表5 要治療・要精密検査判定者の紹介先
(運営会議資料より抜粋)

有所見者数 4,358人
検査確認数 1,540人
再検率 35.3%
日生病院への紹介人数

健診精査内科	301人
消化器内科	275人
内視鏡センター	71人
眼科	282人
乳腺外科	178人
産婦人科	153人
泌尿器科	93人
総合内科	86人
循環器内科	63人
耳鼻科	15人
皮膚科	9人
神経内科	4人
整形外科	4人
血液内科	4人
外科	2人

1. 診療科別教育

部(科)名	教育・研修項目	
循環器内科	新入院患者紹介	(週2回)
	症例検討会	(週1回)
	勉強会	(1回/1～2週)
	内科合同カンファレンス	(月1回)
	内科・地域合同症例検討会	(年1回)
	3病院合同勉強会 (大阪鉄道・南大阪・日生病院)	(年2～3回)
消化器内科	症例検討会	(週1回)
	消内・放射線科合同カンファレンス	(週1回)
	内視鏡カンファレンス	(月2回)
	抄読会	(月2回)
	内科合同カンファレンス	(月1回)
	内科・地域合同症例検討会	(年1回)
総合内科	症例検討会・抄読会	(週各1回)
	内科合同カンファレンス	(月1回)
	糖尿病療養指導チーム勉強会	(月1回)
	糖尿病ケアカンファレンス	(月1回)
	OID カンファレンス	(年2回)
	肺覧会	(年1回)
	内科・地域合同症例検討会	(年1回)
血液・ 化学療法内科	症例検討会	(週1回)
	抄読会	(月2回)
	血液標本検討会	(適宜)
	内科合同カンファレンス	(月1回)
	内科・地域合同症例検討会	(年1回)
神経内科	新入院患者紹介	(週1回)
	症例検討会・抄読会	(週1回)
	内科合同カンファレンス	(月1回)
	内科・地域合同症例検討会	(年1回)
神経科・ 精神科	薬物療法勉強会	(月2回)
	大阪中央症例検討会	(随時)
	病院精神科医・産業医メンタルケア研究会	(年2回)
	あわぎ神経精神科病診連携懇話会	(年3回)
	大阪地区精神医学研究会	(年1回)
小児科	勉強会	(週1回程度)
	入院症例検討会	(平日)
	小児科外来勉強会	(年数回)
	周産期カンファレンス	(週1回)
	新生児管理カンファレンス	(月1回)
消化器・ 一般外科	症例検討会	(週1回)
	抄読会	(月1回)
	死亡症例検討会	(随時)
	学会報告	(随時)
呼吸器外科	症例検討会	(週1回)
	抄読会	(月1回)
	死亡症例検討会	(随時)
	学会報告	(随時)
乳腺外科	症例検討会	(週1回)
	乳腺外科ケアカンファレンス	(週1回)
	抄読会	(月1回)
	手術統計	(年1回)
	死亡症例検討会	(随時)
	学会報告・CPC	(随時)
	NST勉強会・抄読会	(随時)
整形外科	手術症例検討会	(週1回)
	抄読会	(月1回)
	リハビリ検討会	(月2回)
	整形病棟勉強会	(年2～3回)
	リサーチカンファ、及び学会報告会	(年数回)

部(科)名	教育・研修項目	
皮膚科	症例検討会	(週1回)
	抄読会	(月3回)
	3病院合同症例検討会 (日生・住友・大阪厚生年金病院)	(月1回)
	大阪西、中部地区皮膚科症例検討会	(年1回)
泌尿器科	症例検討会	(週1回)
	抄読会	(週1～2回)
	海外学術集会検討会	(年数回)
産婦人科	症例検討会・抄読会	(週1回)
	ケアカンファレンス・ モーニングカンファレンス	(週1回)
	画像カンファレンス	(週1回)
	周産期カンファレンス	(週1回)
	ニッセイ内視鏡研究会	(年1回)
眼科	ニッセイ病診連携懇話会	(年1回)
	外来勉強会	(年4回)
	病棟勉強会	(年1回)
	西区病診連携の会	(年1回)
	あわぎ病診連携懇話会	(年1回)
耳鼻咽喉科	日生・住友病院合同勉強会	(年4回)
	術前カンファレンス	(週1回)
	西区病診連携の会	(年2回)
	勉強会	(年数回)
放射線科	産婦人科画像カンファレンス	(週1回)
	消化器科画像・IVRカンファレンス	(週1回)
	研修医画像勉強会	(不定期)
麻酔・ 緩和医療科	疼痛勉強会	(年2回)
	麻酔症例検討会	(週1回)
	緩和ケアカンファレンス	(週1回)
病理診断科	外科術後カンファレンス	(週1回)
	CPC	(月1回)
	大阪病理研究会	(年2回)
	日本病理学会近畿支部学術集会	(年4回)
がん治療センター	化学療法カンファレンス	(月1回)
女性骨盤底 センター	手術カンファレンス	(週1回)
	合同カンファレンス	(月1回)
	ニッセイ病診連携懇話会	(年1回)
救急診療センター	救急カンファレンス	(週1回)
臨床研修部	抄読会	(月1回)
化学療法室	化学療法カンファレンス	(月1回)
リハビリ テーション室	リハビリ検討会、勉強会	(月1回)
	糖尿病療養指導チーム勉強会	(月1回)
	医療技能職勉強会	(年1回)
中央臨床 検査部	中検勉強会	(月1回)
	医療技能職勉強会	(年1回)
	厨房内ミーティング及教育	(毎日)
	栄養士勉強会	(月1回)
	献立勉強会	(月1回)
栄養管理室	栄養管理室ミーティング	(月1回)
	糖尿病QOL向上勉強会	(年4回)
	大阪病院給食研究会	(月1回)
薬剤部	新薬説明会	(週1回)
	薬剤部研修会	(月1回)
	部内有害事象検討会	(年4回)
	患者支援カンファレンス	(週1回)
あったか サポート センター	患者支援カンファレンス	(週1回)
	緩和ケアカンファレンス	(週1回)
	医療福祉施設MSW研修会	(年5回)
	医療技能職勉強会	(年1回)
診療情報管理室	診療情報管理室勉強会	(年数回)
医事サービス部	保険診療に関する講習会	(年2回)
予防医学 センター	予防医学センター勉強会	(月2回)
	あわぎ産業医セミナー	(年1回)

2. 全体教育

日本医師会生涯教育講座カリキュラム

〈循環器内科〉

月 日(曜日)	時 間	場 所	カリキュラムの内容	担当者氏名 (部署名)	参加人数
10月22日(木)	14時00分～16時00分	生理検査室	循環器領域エコー検査 (心エコー、頸動脈エコー、 下肢静脈エコー)	岡部太一 (循環器内科)	3名

〈放射線科〉

月 日(曜日)	時 間	場 所	カリキュラムの内容	担当者氏名 (部署名)	参加人数
11月15日(木)	14時00分～15時00分	別館4階 役員会議室	胸部単純X線の読み方	前田宗宏 牧 大介 (放射線科)	10名

ニッセイ医学セミナーUpdate

開催月日	テ ー マ	講 師		参加人数
平成27年5月9日	医療制度の課題と展望	総合企画部 部長	許斐正啓	88名
平成27年6月5日	小児科の日常外来で経験する 入院を必要とする疾患	小児科 部長	赤木幹弘	75名
平成26年8月7日	心血管カテーテル治療 発展の歴史から最近の話題まで	循環器内科 担当部長	中川 厚	114名
平成27年9月4日	チーム医療と看護師の役割	副院長 看護部長	芦田亨子	116名
平成27年10月2日	膵癌－早期発見の秘策とは－	消化器内科	河田奈都子	90名
平成27年11月6日	前立腺肥大症の診断と治療 ～明日から使える治療薬～	泌尿器科 部長	福井辰成	68名
平成27年12月4日	内分泌代謝疾患の管理と合併症・併存症	名誉院長	佐藤文三	68名
平成28年1月8日	骨盤臓器脱 混沌の時代	女性骨盤底センター センター長	船渡孝郎	97名
平成28年2月5日	疼痛緩和におけるオピオイドの使用法	麻酔・緩和医療科 部長代行	花田留美	58名
平成28年3月4日	C型慢性肝炎の最新治療	消化器内科 部長	中村秀次	59名

ニッセイ・ベーシック実践医療セミナー

開催月日	テ ー マ	講 師		参加人数
平成27年10月30日	産婦人科の救急 ～他科の先生に知ってもらいたいこと～	産婦人科 副部長	橋本奈美子	62名
平成27年12月15日	医療従事者のための禁煙研修会	予防医学センター 部長代行	鈴木真優美	62名

1 年目研修医オリエンテーション

日程	依頼項目	講 師
平成27年 4 月 1 日	院長話、研修医の就業規則、その他	笠山院長、事務管理部総務人事G
	研修説明	臨床研修部 三木部長
平成27年 4 月 2 日	電子カルテ基本操作	事務管理部情報システムG
	研修説明	臨床研修部 三木部長
平成27年 4 月 3 日	医療安全管理体制と安全管理の技術	看護部 町田副看護部長
	ローテーション決定	臨床研修部 三木部長
	各ローテーション科で研修開始	各診療科
平成27年 4 月 4 日	大阪府医師会ウェルカムパーティー	大阪府医師会
平成27年 4 月 6 ～ 7 日	看護部と宿泊研修（舞洲研修）	
平成27年 4 月 8 日	感染防止	感染症看護専門看護師 大野
平成27年 4 月 9 日	採血、採尿など	看護部
	ローテーション科で研修	各診療科
	カルテ記載、病歴管理、文献検索等	診療情報管理室
平成27年 4 月10日	注射、点滴など	看護部
	保険診療について	医事サービス部医事業務G
平成27年 4 月13日	ローテーション科で研修	各診療科
	予防医学センターにて健康診断	
	薬剤処方	薬剤部
	放射線科オーダー・その他	放射線科
平成27年 4 月14日	ローテーション科での研修	各診療科
	栄養指導	栄養管理室
平成27年 4 月15日	ローテーション科での研修	各診療科
	病診連携	あったかサポートセンター 地域医療サービスG
	医療福祉相談Gの利用について	あったかサポートセンター 医療福祉相談G
平成27年 4 月16日	ローテーション科での研修	各診療科
	リハビリ依頼について	リハビリテーション室
平成27年 4 月17日	ローテーション科での研修	各診療科
	検血、生化学、輸血など	中央臨床検査部
平成27年 4 月20日	ローテーション科での研修	各診療科
	生理機能検査、心エコーの基礎	中央臨床検査部
平成27年 4 月21日	ローテーション科での研修	各診療科
	医療機器について	中央臨床検査部 ME室
	死亡診断書、剖検、CPC	病理診断科 城光寺部長代行
	腹部超音波検査など	中央臨床検査部
平成27年 4 月22日	ローテーション科での研修	各診療科
	細菌検査、病理検査	中央臨床検査部
平成27年 4 月24日	ローテーション科での研修	各診療科
	救急診療について	救急診療センター 中川部長代理

実習生等受け入れ

部門	学校名	期間	人数
総合内科	大阪大学	H27.6.1～H27.6.5	3名
		H27.6.8～H27.6.19	1名
		H27.6.22～H27.7.3	1名
H27.7.6～H27.7.17		2名	
H27.11.2～H27.11.13		2名	
神経科・精神科		H27.9.28～H27.10.2	4名
皮膚科		H27.9.7	2名
		H27.10.5	2名
泌尿器科		H27.9.24～H27.9.25	1名
血液・化学療法内科	兵庫医科大学	H27.4.20～H27.5.1	1名
		H28.2.15～H27.2.26	2名
眼科	大阪医療福祉専門学校	H28.1.18～H28.2.19	2名
リハビリテーション室	大阪リハビリテーション専門学校	H27.4.6～H27.4.24	1名
	履正社医療スポーツ専門学校	H27.7.28～H27.8.14	1名
	大阪医専	H27.10.26～H27.11.20	1名
		H28.1.25～H28.1.30	1名
	大阪医療福祉専門学校	H28.1.25～H28.2.20	1名
	大阪保健医療大学	H28.2.1～H28.2.19	1名
	関西医療学園専門学校	H28.2.22～H28.3.12	1名
	白鳳短期大学	H28.2.22～H28.2.26	1名
中央臨床検査部	大阪医療技術学園専門学校	H27.4.6～H27.9.11	2名
	大阪市立大学大学院	H27.7.29～H27.7.31	2名
	関西医療大学	H27.10.19～H27.12.18	1名
中央放射線部	大阪物療大学	H27.5.18～H27.7.3	2名
		H27.9.7～H27.9.30	2名
	大阪行岡医療専門学校	H27.6.1～H27.7.31	4名
		H27.9.1～H27.10.30	4名
栄養管理室	大手前栄養学院専門学校	H27.8.5～H28.8月7日、10日、11日	2名
		H27.8.24～H27.8.28	2名
		H28.1.28～H28.2.12	3名
	相愛大学	H27.11.9～H27.11.21	2名
	羽衣国際大学	H28.2.28～H28.3.4	2名
薬剤部	大阪薬科大学	H27.5.26（早期体験学習）	10名
		H28.1.7～H28.3.23	1名
	京都薬科大学	H27.5.11～H27.7.26	1名
		H28.1.7～H28.3.23	1名
	神戸薬科大学	H27.5.11～H27.7.26	1名
		H27.5.11～H27.7.26	1名
	摂南大学	H27.5.11～H27.7.26	1名
		H27.9.7～H27.11.22	1名
	武庫川女子大学	H27.5.11～H27.7.26	1名
		H27.9.7～H27.11.22	1名
		H28.1.7～H28.3.23	1名
		H27.9.7～H27.11.22	1名
	H27.9.7～H27.11.22	1名	
	H28.1.7～H28.3.23	1名	
あったかサポートセンター	同志社大学	H27.7.1～H27.9.30（MSW）	1名
看護部	大阪府病院協会看護専門学校	H27.5.11～H28.2.18	20名
	森ノ宮医療大学（4年課程）	H27.4.13～H27.4.17	4名
		H27.4.20～H27.4.24	4名
		H27.10.19～H28.3.11	18名
	大阪医専	H27.5.7～H28.3.10	96名
		H27.5.12～H27.5.27	5名
	大阪保健福祉専門学校	H27.6.8～H27.6.24	5名
		H27.6.29～H27.7.15	5名
		H27.8.10～H27.8.26	5名
	甲南女子大学（4年課程）	H27.5.25～H27.6.4	5名
		H27.6.8～H27.6.18	6名
		H27.6.29～H27.10.30	2名
		H27.9.1～H28.2.18	44名
		H27.9.8～H28.2.18	41名
	梅花女子大学（4年課程）	H27.8.24～H27.9.4	19名
		H27.9.7～H27.9.11	24名
H27.11.4～H27.11.11		4名	
	関西医療大学	H27.11.17～H27.11.25	4名
診療情報管理室	大阪医専	H27.6.8～H27.6.19	1名

講演会・研修会

【院内職員対象】

年月日	講演会・研修会	主催	場所
平成27年 5月12・13日	TQM研修会 人材育成研究所 立川義博		別館講堂
平成27年7月3日	保険診療に関する講習会 Ⅰ. DPC制度について Ⅱ. 看護師が知って得する診療報酬に関するコストについて Ⅲ. DPCコーディングチェックの取組みについて 医事サービス部 担当部長 村上 学	医事サービス部	別館講堂
平成27年7月9日	医療安全研修会 「暴言・暴力対策と包括的暴力防止プログラムについて －加害者にも被害者にもならないために－」 独立行政法人国立病院機構やまと精神医療センター 副看護師長 水時宏江 看護師 堤 郁香 (CVPPPインストラクター)	医療安全管理 委員会	別館講堂
平成27年7月14日	感染防止対策病院連携合同カンファレンス（第2回） 日生病院、大阪みなと中央病院、大阪掖済会病院、 大阪暁明館病院 ・「結核の現状と院内感染対策」（院内感染教育講演会に参加） 地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪府立呼吸器・ アレルギー医療センター 臨床研究部部長 橋本章司 ・合同カンファレンス ・職種別分科会	感染対策 委員会	別館講堂
平成27年11月13日	接遇研修会 「接遇マナースキルアップ研修」 野口好美	看護部 日新会 教育委員会 総務人事G	別館講堂
平成27年11月17日	第10回 クリティカルパス大会 ・ESD、EUS-FNA 消化器内科 河田奈都子 ・統計からみる経尿道的手術パスの検討 泌尿器科 ・骨盤臓器脱パスの導入について 産婦人科 6E 久井貴美子 ・循環器内科のカテーテルパスについて 循環器内科 吉川秀人	クリティカルパス 委員会	別館講堂
平成27年11月19日	人事制度研修会 「日本生命済生会の人事制度と職能等級制度」 社会保険労務士 升谷浩樹	教育委員会 総務人事G	別館講堂
平成27年11月20日	医療安全研修会 「白い巨塔」と医療裁判 大阪地方裁判所第17民事部 部総括判事 杉浦徳宏	医療安全管理 委員会	別館講堂
平成27年11月27日	治験・臨床研究講演会 「人を対象とする医学研究に関する倫理指針 ～指针对応をどうすべきか？～」 大阪大学医学部附属病院 未来医療開発部 未来医療センター副センター長 准教授 山本洋一	治験審査 委員会 倫理委員会	別館講堂
平成27年12月8日	医療ガスの安全な取り扱い研修会 「病院医療ガス設備の基礎と災害対策について」 「医療用ガスの取り扱い方」 エア・ウォーター防災株式会社 株式会社馬場酸素 岩谷産業株式会社	医療ガス安全 管理委員会	別館講堂

年月日	講演会・研修会	主催	場所
平成27年12月 17、18、25日	BLS研修 院内急変時対応研修	ACLS委員会 救急リンクナース	別館講堂
平成27年12月17日	医療安全講演会 「医療事故の再発類似例に係る注意喚起について」 「Team STEPPSとは」 医薬品安全管理者 薬剤部部長 野村浩英 「急変時に使用する院内の人工呼吸器・除細動器（AED）について」 ME室主任 加藤千尋 「虐待マニュアルの運用について」 事務局次長 三井田誠一 MSW 部長補佐 本家裕子	医療安全管理 委員会	別館講堂
平成27年12月25日	保険診療に関する講習会 2016年度の診療報酬改定について 医事サービス部 担当部長 村上 学	医事サービス部	別館講堂
平成28年1月12日	NST勉強会 「栄養管理の基本について」 NST回診メンバー 医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士	栄養・給食 委員会 NSTチーム	別館講堂
平成28年1月22日	輸血療法講演会 「日生病院・輸血療法マニュアルの改訂について ～より安全な輸血療法を目指して～」 血液・化学療法内科 担当部長 川上 学	輸血療法 委員会	別館講堂
平成28年 1月26・28日	退職金制度説明会		別館講堂
平成28年2月13日	看護研究発表会		別館講堂
平成28年2月19日	緩和ケア講演会 「骨転移の放射線治療－外照射と内用療法－」 堺市立総合医療センター 放射線治療科部長 がんセンター緩和ケアチーム担当部長 池田 恢	がん治療 センター 緩和ケアチーム	別館講堂
平成28年3月1日	TQM大会 人材育成研究所 立川義博		別館講堂
平成28年3月18日	研修医発表会 1年目研修医研修成果発表		別館講堂
平成28年3月10日	院内感染対策委員会 第30回教育講演会 「韓国におけるMERS感染の報告」 中央臨床検査部 部長 小瀬戸昌博 「日生病院のアンチバイオグラム」 救急診療センター 古結敦士	感染対策 委員会	別館講堂
平成28年3月25日	平成28年度診療報酬改定説明会 医事サービス部 担当部長 村上 学	医事サービス部	別館講堂

【医療関係者対象】

年月日	講演会・研修会	主催	場所
平成27年5月26日	感染防止対策病院連携合同カンファレンス（第1回） 日生病院、大阪みなと中央病院、大阪掖済会病院、 大阪暁明館病院 ・大阪掖済会病院のラウンド ・合同カンファレンス ・職種別分科会	感染対策委員会	大阪掖済会病院
平成27年6月20日	第4回 あわぎ産婦人科病診連携懇話会 Ⅰ 病院だより ①「女性骨盤底センターにおける治療について －チーム医療としての取組み－」 産婦人科 尾上昌世 ②「子宮頸がん検診とHPV」 産婦人科 部長 藤田征巳 Ⅱ 診療所だより 「性器ヘルペスの臨床と診断 －新しい迅速診断法を中心として－」 早川クリニック 副院長 早川 潤 Ⅲ 情報交換会	産婦人科 あったかサポートセンター	ANAクラウン プラザホテル
平成27年6月27日	第16回 あわぎフォーラム ・開放型病院運営委員会 ・開放型病院登録医総会 Ⅰ 学術講演 「最近の糖尿病治療薬について」日本イーライリリー(株) Ⅱ 開会挨拶 院長 笠山宗正 Ⅲ 日生病院における診療のご紹介 あったかサポートセンター長 船渡孝郎 Ⅳ 講演 「液状化検体細胞診について」 病理診断科部長 城光寺 龍 「子宮頸癌に関する最近の知見」 副院長兼産婦人科部長 藤田征巳 Ⅴ 特別講演「消化管ホルモン グレリンの臨床応用」 大阪大学大学院医学系研究科 消化器外科学 教授 土岐祐一郎	あったかサポートセンター	リーガロイヤル ホテル
平成27年7月19日	第18回 ICLSコース	ACLS委員会	別館講堂
平成27年8月20日	あわぎ精神・神経病診連携懇話会 Ⅰ「日生病院神経科・精神科の紹介」 神経科・精神科 部長 高橋 励 Ⅱ 特別講演「認知症の医療とケアのトピックス」 国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター 長寿医療研修センター長 遠藤英俊	神経科・精神科 あったかサポートセンター	別館4F 役員会議室
平成27年10月20日	感染防止対策病院連携合同カンファレンス（第3回） 日生病院、大阪みなと中央病院、大阪掖済会病院、 大阪暁明館病院 ・各病院の手指消毒剤の使用状況の発表・討議 ・合同カンファレンス ・職種別分科会	感染対策委員会	別館講堂

平成27年10月24日	第6回 ニッセイ看護研究会 テーマ：患者を取り巻く医療・福祉の連携 ～上手につなごう看護ケア～ I 「看護がつなぐ医療と介護 自立した生活への支援」 訪問看護ステーション・日生ケアプランセンター 副看護部長 水上洋子 II 「がん患者のシームレスな療法を支える看護の力」 がん看護専門看護師・がん化学療法看護認定看護師 畠山明子 III 「糖尿病と共に生きる人の生活を看護する」 糖尿病看護認定看護師 角南ちえ子	看護部	別館講堂
平成27年10月31日	第2回 あわぎ肝疾患病診連携懇話会 I 一般公演 「当院におけるB型肝炎治療の現況～再活性化も含めて～」 消化器内科 副部長 村本 理 II 特別講演 「C型慢性肝炎のインターフェロンフリーDAAの経口療法」 消化器内科 部長 中村秀次 III 意見交換会	消化器内科 あったかサポート センター	ホテルモンテ グラスミア大阪
平成27年11月7日	あわぎ クリニカル カンファレンス I オープニングレクチャー 「糖尿病の心血管系イベントに関するエビデンス」 循環器内科 村西寛実 II 一般演題<症例検討> 「慢性関節リウマチの治療中に発熱、異型リンパ球増多 で発症し、メソトレキセート中止及びプレドニゾロン 投与で軽快したDiffuse large B-cell lymphomaの一例」 血液・化学療法内科 田中庸弘 「右肺上葉に空洞形成を認めた20代女性」 総合内科 石井誠剛 「超高齢者の不明熱の一例」 循環器内科 不二樹五郎 「診断に苦慮した下腹部痛の一例」 消化器内科 居平典久 「めまいと右半身の違和感を訴えた一例」 神経内科 藤本 雷 III ショートレクチャー 座長：四ツ橋診療所 院長 安井 潔 「慢性咳嗽の鑑別診断」 副院長兼総合内科部長 立花 功 IV 情報交換会 挨拶：天野医院 院長 天野良夫	循環器内科 消化器内科 総合内科 血液・化学療法 内科 神経内科 あったかサポート センター	ANAクラウン プラザホテル 大阪
平成27年11月12日	第2回 あわぎ眼科病診連携懇話会 I 「当院眼科診療の紹介」 眼科部長 島袋幹子 II 「サイトメガロウイルス角膜炎におけるRTVue-100 角膜モジュールの診断的有効性についての検討」 眼科 小林礼子 III 「角膜疾患症例報告」 眼科部長 島袋幹子	眼科 あったかサポート センター	別館4F 役員会議室
平成27年11月14日	第5回 ニッセイ産婦人科内視鏡研究会 第一部 腹腔鏡ドライボックスを設置し、結紮・縫合の実習 第二部 I 「TLH助手を経験して得たもの」 産婦人科 高山敬範 II 「子宮悪性疾患に対する腹腔鏡下手術 ～子宮体癌、頸癌の阪大の取組み～」 大阪大学産婦人科 助教授 小林栄仁		別館講堂

平成27年1月31日	JMECC 日本内科学会認定 内科救急・ICLS講習会	ACLS委員会	別館講堂
平成28年2月25日	あわぎ抗血栓療法勉強会 Ⅰ「日生病院 循環器内科における地域連携の取組み」 循環器内科部長 岡部太一 Ⅱ「心房細動を有する冠動脈疾患患者に対する抗血栓療法はどうあるべきか」 桜橋渡辺病院 不整脈科長 内科部長 井上耕一 Ⅲ ディスカッション	循環器内科	別館4階 役員会議室
平成28年2月27日	特別講演会－新病院新設に向けて－ 「少子高齢社会と医学 －とくに先制医療を中心に－」 京都大学名誉教授、元総長 先端医療振興財団名誉理事長 元科学技術会議議員・総合科学技術会議議員 第29回日本医学会総会2015関西 会頭 井村裕夫	あったかサポート センター	リーガロイヤル ホテル
平成28年3月11日	第7回 専門・認定看護師実践報告会 テーマ：「私たちと一緒に看護を考えませんか」 Ⅰ「合併症と共に生きる」 ～Point of No Return をどう過ごすか～ 糖尿病看護認定看護師 角南ちえ子 Ⅱ「点滴刺入部観察記録導入後の血流感染の変化」 感染症看護専門看護師 大野典子 Ⅲ「スキンケア（皮膚裂傷）の実態調査」 皮膚・排泄ケア認定看護師 田中敬子 Ⅳ「安全チェックリストから手術看護を考える」 手術室看護認定看護師 二井千里 Ⅴ「術後のボディイメージの変容」 乳がん看護認定看護師 水越 梓 Ⅵ「骨転移の疼痛緩和と日常生活を支える」 がん性疼痛看護認定看護師 小山佐知子 Ⅶ「一緒に考えよう！」 ～がん患者さんの自由度を広げる看護～ がん看護専門看護師・がん化学療法看護認定看護師 畠山明子	看護部	別館講堂
平成28年3月15日	感染防止対策病院連携合同カンファレンス（第4回） 日生病院、大阪みなと中央病院、大阪掖済会病院、 大阪暁明館病院 ・「韓国におけるMERS感染の報告」 中央臨床検査部 小瀬戸昌博 部長 ・「日生病院のアンチバイオグラム」 救急診療センター 古結敦士 医師 ・合同カンファレンス ・職種別分科会	感染対策 委員会	別館講堂

【一般・患者対象】

平成27年5月15日	ニッセイ看護フェア ・身体測定（身長、体重、血圧、体脂肪等） ・アロマ ・フットケア ・乳幼児のミルク相談 ・認定・専門看護師イベント ポスター展示 活動報告 ・パンフレット・資料展示 ・看護協会グッズ配布	看護部	1F玄関 ホール
平成27年5月30日	平成27年度 第1回 ニッセイ市民健康セミナー テーマ：知っておきたい「がん」シリーズ Ⅰ「乳がん検診と最新の話」 乳腺外科部長 西田幸弘 Ⅱ「患者様、家族を支える『がん看護相談』」 がん看護専門看護師 畠山明子 Ⅲ「がんと診断された時からの緩和ケア」 がん性疼痛看護認定看護師 小山佐知子	あったかサポート センター	別館講堂
平成27年7月11日	平成27年度 第2回 ニッセイ市民健康セミナー テーマ：骨粗鬆症と糖尿病について 第一部 Ⅰ「知らないでソッとする！骨粗しょう症の基礎知識」 院長 糖尿病・内分泌センター長 笠山宗正 Ⅱ「知らないでソッとする！骨を強くする運動効果」 リハビリテーション室 理学療法士 麦田盛穂 Ⅲ 体操「毎日コッ（骨）コッ（骨）簡単らくらく体操」 第二部 アマチュア落語 桂文喬主宰落語研究会のみなさん	糖尿病・内分泌 センター あったかサポート センター 日生病院 糖尿病患者会 「錦会」 共催	別館講堂
平成27年7月24日、 8月7日	ニッセイ夏休みこども医療体験2015 ・見学体験：看護部、リハビリテーション室、予防医学セン ター、中央臨床検査部、中央放射線部、薬剤部、眼科 ・実習：内視鏡下手術、あかちゃん沐浴、AED等		院内各部
平成27年9月26日	平成27年度 第3回 ニッセイ市民健康セミナー テーマ：輝くシニアライフのために Ⅰ「一生自分の足で歩こう～整形外科のロコモ対策」 整形外科部長兼リハビリテーション室長 松井 稔 Ⅱ「今日からできる！ロコモ予防に向けた身体づくり」 リハビリテーション室 理学療法士 白川 桂 Ⅲ「輝くシニアライフは骨盤から作る」 産婦人科 副部長 橋本奈美子 Ⅳ「くらしに役立つ感染予防の基礎知識」 感染症看護専門看護師 大野典子	あったかサポート センター	別館講堂
平成27年10月28・ 29日（花乃井中学校） 平成27年11月12・ 13日（堀江中学校）	花乃井中学校及び堀江中学校からの職場体験学習 ・佐藤名誉院長実習 ・病院見学：栄養管理室、診療情報管理室、情報システム室 ・実習：看護部、中央放射線部、リハビリテーション室、 薬剤部、中央臨床検査部		院内各部
平成27年10月30日	西区医師会主催健康長寿セミナー開催協力 －地域の保健・医療の充実－ 「女性の健康」 女性骨盤底センター長兼地域医療総合窓口 あったかサポートセンター長 船渡孝郎	西区医師会	西区役所 4階

平成27年11月11日	ニッセイいい皮膚の日 I ミニコンサート II 「足の皮膚疾患」 皮膚科医師 西本知子 III 「フットケア」 病棟看護師 荒木育恵 「冬のスキンケア」 外来看護師 西川早紀 IV 医療相談、看護相談	皮膚科 あったかサポートセンター	1F玄関ホール
平成27年11月13日	ニッセイ糖尿病フェア テーマ：糖尿病と体脂肪の気になる関係 ・血糖値・HbA1c測定・体組成 看護師 ・服薬相談 薬剤師 ・栄養相談 管理栄養士 ・頸動脈エコー体験 検査技師 ・簡単体操 理学療法士 ・簡易医師相談 医師	糖尿病・内分泌センター あったかサポートセンター	1F玄関ホール
平成27年11月28日	市民公開講座 西部大阪肝疾患地域連携会、福島区・此花区・西区・港区医師会、関西電力病院、JCHO大阪病院、JCHO大阪みなと中央病院、日生病院 共催 テーマ：肝臓病を知る I 「肝臓と食事療法」 JCHO大阪病院 消化器内科部長 伊藤敏文 II 「C型肝炎の最新の治療」 関西電力病院 消化器・肝胆膵内科部長 染田 仁 III 「肝細胞癌の診断と治療」 日生病院 消化器内科副部長 村本 理 IV 患者さんの疑問に答えるQ & A		大阪大学中之島センター
平成27年12月5日	平成27年度 第4回 ニッセイ市民健康セミナー テーマ：これからの季節、目、鼻、喉を守る I 「喘息の診断と治療」 副院長兼総合内科部長 立花 功 II 「白内障って、どんな病気？」 眼科部長 島袋幹子 III 「花粉症の治療薬」 薬剤師 吉岡 亮	あったかサポートセンター	別館講堂
平成28年1月29日	ニッセイ糖尿病ランチ&セミナー I 昼食会 「ヘルシー地中海料理を試食してみよう」 II 講演会 「糖尿病の薬物療法における最近の話題」 糖尿病・内分泌センター部長 糖尿病患者会「錦会」顧問医 住谷 哲 「知って得する糖尿病の運動効果！毎日継続！ 5分でできる簡単エクササイズ」 糖尿病・内分泌センター部長補佐 リハビリテーション室 理学療法士 麦田盛穂 「腸内環境について－加齢・免疫力・感染予防・花粉症－」 株式会社クリニコ 藤本 管理栄養士	糖尿病・内分泌センター あったかサポートセンター	別館講堂
平成28年3月12日	第2回 ニッセイ認知症医療介護セミナー I 「認知症とはどんな病気か～認知症における情報処理能力の低下、特に自動車運転を例に～」 神経科・精神科部長 高橋 励 「認知症を支える社会の仕組み」 あったかサポートセンター部長補佐 本家裕子 「医療・介護分野で登場する新たなロボット」 ニッセイ基礎研究所 准主任研究員 青山正治 II ロボット実演	あったかサポートセンター 日生連携小委員会	別館講堂

3. 日生医学賞・日生医学奨励賞

日生医学賞

所属	氏名	受賞内容
リハビリテーション室	麦田盛穂 (理学療法士)	Effectiveness of ultrasound-guided transversus abdominis plane block and rectus sheath block in pain control and recovery after gynecological transumbilical single-incision laparoscopic surgery [産婦人科単孔式腹腔鏡下手術後の機能回復における超音波ガイド腹横筋膜面 (TAP) ブロックと腹直筋鞘 (RS) ブロックの効果についての比較検討]

日生医学奨励賞

所属	氏名	受賞内容
産婦人科	大塚博文 (医師)	骨盤臓器脱に対する腹腔鏡下手術-腹腔鏡下手術仙骨固定術の手技と実績
消化器内科	居平典久 (医師)	肝硬変患者におけるHbA1c, Glycated albuminを用いたGHRおよびCLD-HbA1cの有用性
総合内科	宇都佳彦 (医師)	Low serum level of high-sensitivity C-reactive protein in a Japanese patient with maturity-onset diabetes of the young type3 (MODY3) [日本人のMODY3型患者は血清高感度CRP濃度が低い]

4. 地域活動

事業等	出務場所	出務日	講師／出務医師	備考
急病診療所出務	西九条休日急病診療所	2月11日(木祝) 10:00～17:00	赤木幹弘	小児科担当
3か月児健康診査	西区保健福祉センター	毎月第3水曜日 13:30～	池原千衣子	※健診対象者増加のため、 健診日程が増えています
		7・9・11・1・3月 第4水曜日 13:30～	池原千衣子	
3歳児健康診査 (耳鼻咽喉科)	西区保健福祉センター	6月3日(水) 13:45～	大山寛毅	
		11月5日(水) 13:45～	大山寛毅	
大阪西地域産業保健 センター労働健康相談	西区医師会 会議室	5月20日(水) 14:00～16:00	三木俊治	産業医による小規模事業所の 労働健康相談
西区民まつり 「健康のつどい」	西区民センター	10月18日(日) 9:00～15:00	笠山宗正	医師会の健康相談コーナー等
健康長寿セミナー 「女性の健康」	西区役所	10月30日(金) 14:00～16:00	船渡孝郎	「認知症等高齢者支援地域連携 事業」の市民対象のセミナー
第2回学術講演会 一般講演「呼吸リハビリ テーションの実際～運動療 法とADL指導を中心に～」	リーガロイヤルNCB	11月14日(土) 16:00～18:00	廣田将史	西区医師会主催の学術講演会
西区健康講座講演会 「糖尿病の基礎知識 ～ならないための工夫、 なった人のための秘訣～」	西区老人福祉センター	12月18日(金) 14:00～15:30	笠山宗正	区内の60歳以上の高齢者対象 の講演会
講演会 「認知症を理解する」	西区民センター	3月5日(土) 13:30～15:30	木藤友実子	「認知症等高齢者支援地域連携 事業」の市民対象の講演会

5. ボランティアの活動

	主な内容
4月	・ボランティア保険加入(年度更新) ・新規ボランティア受け入れ(1名)
5月	・ボランティア協会活動時間集計報告(1月～4月)
6月	・「ホスピス・緩和ケアボランティア研修会」(7/23) ・ボランティア茶話会開催(6/24) ・新規ボランティア受け入れ(2名)
7月	・「災害時の病院ボランティア活動、現地での対策病院での対策」(7/10) ・「ホスピス緩和ケアボランティア研修会」(7/23)
8月	・新規ボランティア受け入れ(1名)
9月	・ボランティア協会活動時間集計報告(5月～8月)
10月	・タオル帽子講習会(10/15) ・日本病院ボランティア総会(10/22)
11月	・インフルエンザ予防接種(任意) ・健康診断(任意)
1月	・ボランティア協会活動時間集計報告(9月～12月)
3月	・2015年度定例研修会参加「輝こう 知ってもらおう 病院ボランティア」(3/15)

(概要)

- ・H13年にボランティア導入
 - ・メンバー:10名(対前年+3名)
 - ・活動内容:初診、再診手続き、車椅子患者様介助・移送、診察・検査等場所の案内、移動図書管理・手話通訳 等
 - ・新病院の新設に向け、ボランティアの活動を「素晴らしい病院」づくりの強力なパートナーとして位置づけ、地域との信頼関係を強化し、より一層地域に貢献する病院としていくために、ボランティア制度・運営について見直しを図り、新たな活動内容の検討も含めた体制整備を進めている。
- ボランティアは患者様の身近な存在であり、職員だけでは行き届かない患者様サービスのサポート、心遣い、気遣いを形にした「あったかサポート」の実現の為、これからも患者様サービスの向上の一助として努めていく。

6. 広報関係（新聞、雑誌記事 他）

(1) 新聞掲載（平成27年11月17日付 毎日新聞）



〈毎日新聞社許諾済み〉

(2) ラジオ出演（平成27年4月 ABCラジオ）

番組名：健やかライフ

出演者：高橋 励（神経科・精神科 部長）

テーマ：認知症

4月6日（月） 認知症の種類

4月7日（火） 認知症の症状と検査

4月8日（水） 認知症の治療

4月9日（木） 認知症の予防

4月10日（金） 認知症のおさらい

(3) 地元タウン誌掲載（「にっしー」第7号（平成27年2-3月号））

「まなぶ、にしく。」という特集において、

① ニッセイ夏休みこども医療体験 と

② 新病院新設 が掲載された。

② 新病院新設

地域密着の病院が移転。
日本生命済生会付属
日生病院
（18年開業予定）
「西区から離れない」と地元からの支持も厚い病院の移転先は、無事近所の江之子島に。アートと医療の融合をめざし、癒しの空間の提供や、市民健康セミナー等を行うホールを整備し、いっそう開かれた病院となりそう。



中学生の職場体験学習やクリスマスコンサートなど、現病院での活動は新病院でも継続される予定。

① ニッセイ夏休みこども医療体験

医療のお仕事も体験!

日生病院が、小学生高学年を対象に毎年実施しているのが「ニッセイ夏休みこども医療体験」。内視鏡手術や薬の調合、看護師体験で医療の現場にふれたり、検査技師の不自由さを体験したり、命と健康の大切さを学べる。

**日本生命済生会付属
日生病院**
●西区立売堀6-3-8
☎06-6543-3581

公益財団法人 日本生命済生会付属

日 生 病 院 年 報

公第4巻（通算第15巻） 平成28年11月発行

編 集 公益財団法人 日本生命済生会付属 日生病院 年報WG

発 行 公益財団法人 日本生命済生会付属 日生病院

住 所 〒550-0012 大阪市西区立売堀6丁目3番8号

T E L 06 (6543) 3581 (代表)

<http://www.nissay-hp.or.jp>